北海道博物館要覧

HOKKAIDO MUSEUM SURVEY AND GUIDE

第 8 号

VOLUME 8

第 2 期中期目標・計画　実績報告書 3

北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM

2022・2023年度

目　次

Ⅰ　北海道博物館の役割と機能　1

1　基本的運営方針 ―北海道博物館の目指す方向　2
2　第２期中期目標・計画（令和２～６年度）　4

Ⅱ　北海道博物館の活動（2022年度・2023年度）　11

組織　12
1　資料の収集・保存　15
2　展示　20
3　調査研究　30
4　北海道開拓の村の整備　40
5　教育普及事業　42
6　ミュージアムエデュケーター機能の強化　53
7　施設及び周辺環境の整備　56
8　広報　60
9　評価制度の活用と利用者ニーズの把握　68
10　道民参加の推進　82
11　博物館ネットワーク　85
12　情報発信　90
13　人材育成機能の強化と社会貢献　94
14　研究成果の発信　107
15　アイヌ民族文化研究センターの事業　112
16　４つのビジョン（重点目標）　122
予算　125
新型コロナウイルス感染症の感染拡大に係る対応の状況（2022・2023年度）　130

Ⅲ　資料　131

1　館長の紹介　132
2　学芸職員の博物館活動　132
3　利用者数　148
4　企画展開催一覧　150
5　刊行物一覧　158
6　条例、規則など　161
7　利用案内　170

凡例

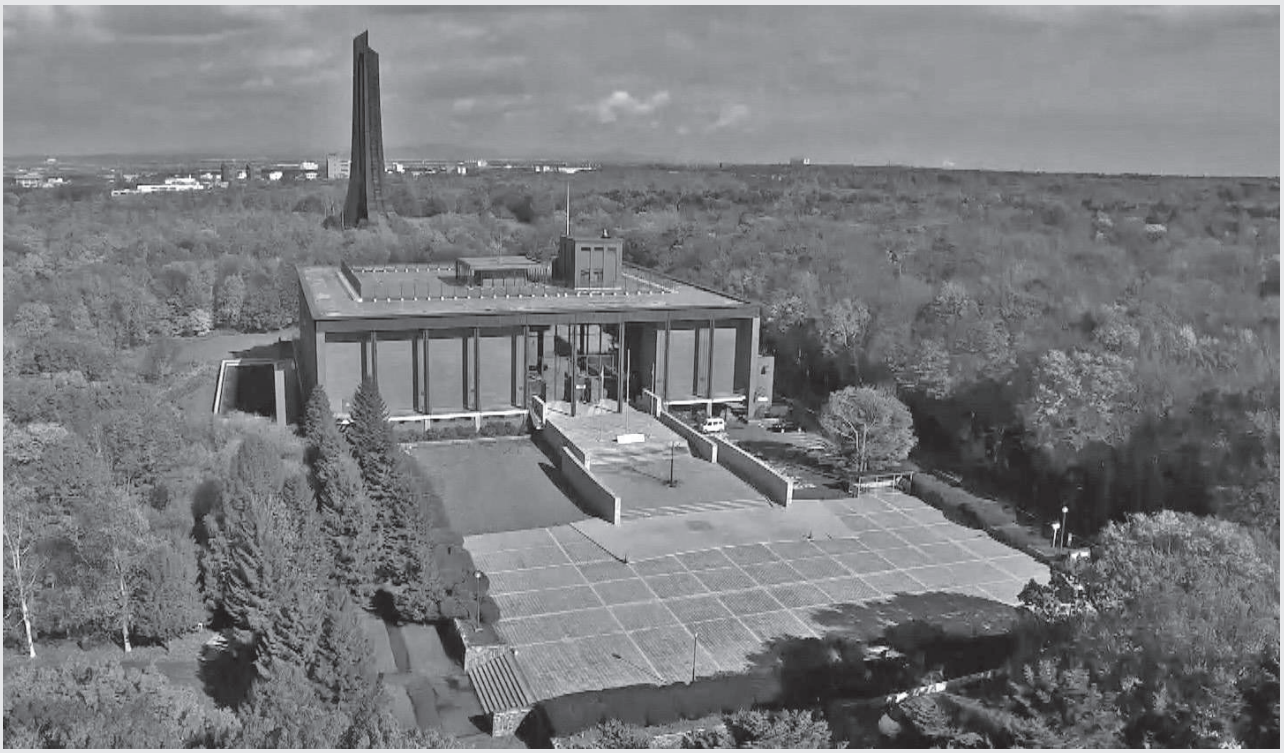
○この要覧は、北海道博物館の2022（令和４）年度・2023（令和５）年度の事業及び活動の実績報告をお伝えするために作成したものです。この２ヶ年は当館の「第２期中期目標・計画」（2020（令和２）～2024（令和６）年度）の３～４年目にあたります。本書は、この目標・計画を踏まえた報告を兼ねております。

○本書は、Ⅰ～Ⅲの全３章で構成しており、「Ⅰ　北海道博物館の役割と機能」及び「Ⅲ　資料」では博物館に関する基本情報を記し、「Ⅱ　北海道博物館の活動」では、「第２期中期目標・計画」の15の項目番号に対応する形で、2022（令和４）年度及び2023（令和５年度）の事業及び活動の実績を記載しています。

○「Ⅰ　北海道博物館の役割と機能」における沿革や施設等について、また、「Ⅱ　北海道博物館の活動」の各項における取組の概要については『北海道博物館要覧2020年度』を参照ください。

○「Ⅱ　北海道博物館の活動」における、「年度計画（2022年度）」のなかの【ア】【イ】などは、「第２期中期目標・計画」（本書４～９ページに記載）の「ア」「イ」などに対応します。
「Ⅱ　北海道博物館の活動」における職員の職名（グループ名）は、それぞれの事業実施時のものです。

Ⅰ　北海道博物館の役割と機能



1　基本的運営方針 −北海道博物館の目指す方向

2015（平成27）年3月策定

昭和46（1971）年に設置された開拓記念館は、総合的な歴史博物館として、開館から40年以上にわたり、北海道の歴史と先人の遺産を後世に伝える役割を果たしてきたが、アイヌ文化をはじめとする北海道固有の歴史や文化に対する関心が高まるとともに、道民の学習ニーズの多様化など、開拓記念館や道内の博物館を取り巻く社会情勢の大きな変化への対応が求められることとなった。

こうした状況の中、「北海道における博物館のあり方と開拓記念館の役割」に関する北海道文化審議会の答申を踏まえ、平成22（2010）年9月に「北海道博物館基本計画」を策定し、「博物館としての基本的な機能の充実」、「北海道における総合的な博物館」、「道内博物館の中核となる施設」の3つを柱とする北海道博物館の設置を目指すこととした。この中で、「アイヌ文化を保存・伝承し未来に活かす博物館」としてアイヌ文化に関する調査研究等の機能を充実することとし、そのため、アイヌ文化に関する専門的な調査研究等を行いアイヌ文化の継承と振興に寄与することを目的として平成6（1994）年に設置されたアイヌ民族文化研究センターとの統合の方向性を明記した。

こうして平成27（2015）年4月1日、開拓記念館とアイヌ民族文化研究センターとの統合により、新たに北海道の自然・歴史・文化を広く扱う総合博物館として『北海道博物館』を開設した。

本方針は、「北海道博物館基本計画」を踏まえ、北海道博物館が果たすべき社会的使命を明文化するとともに、今後の博物館活動の指針として策定した。

Ⅰ　北海道博物館の使命

○　北海道のすべての人、生き物、大地と海が生み出し、残し託してくれた、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を、わたしたちの大切な宝ものとして未来へとつなぎ、語り伝えることをとおして、道民が北海道を知り、誇りを確認する場であり続けます。

○　野幌森林公園という豊かな自然環境のなか、訪れた方々に北海道の自然・歴史・文化を総合的に体感していただくとともに、知的発見、癒やしとくつろぎ、世代を超えた語り合いや出会いを、おもてなしの心で提供し、道民に愛される博物館であり続けます。

○　北海道の中核的博物館として、道内の博物館等との連携により、北海道再発見のための知のネットワークを築き上げるとともに、北海道の自然・歴史・文化に関する身近な相談窓口として、道民の「知りたい」という気持ちに応えます。

○　北海道の自然・歴史・文化に関する総合的な研究機関として、北海道の国際化・文化力の向上や、持続可能な調和社会の構築をめざして、積極的なビジョンの立案・提言に努め、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりに貢献します。

Ⅱ　基本方針

1　北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図ります

(1) 総合博物館として、活動の基本となる収集保存、展示、教育普及、調査研究などの機能を高め、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる遺産を最大限に活かし、質の高い活動を展開する博物館づくりを推進します。

(2) 道民が、充実した博物館資源を活かして、自らのアイデンティティを確かめ、過去に学び未来を展望することができるとともに、さまざまな情報や人材などが連携するネットワークを活かして、特色ある地域文化の創造や地域活性化の拠点とすることができる博物館づくりを推進します。

2　道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供します

(1) さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、利用者の視点に立った、創意工夫に満ちた博物館づくりを推進します。

(2) 博物館のさまざまな活動に、道民が利用者としてだけではなく、協働者、ときには発信者として多面的に参画する機会を創出することによって、博物館活動をより豊かにし、道民と連携、協働する博物館づくりを推進します。

3　北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献します

(1) 北海道の中核的博物館として、地域の博物館等とのネットワークを強固なものとし、共同研究、事業連携、情報共有、資料の相

互活用、人材育成等を積極的に推進することにより、地域の活性化に貢献します。

⑵ 博物館ネットワークを活かし、情報の発信力を高めるとともに、レファレンス機能を強化し、道民の知的興味に応える博物館づくりを推進します。

４　専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献します

⑴ 北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、その研究成果を活かして北海道の豊かな未来の実現に貢献します。

⑵ アイヌの歴史や有形・無形の文化に関する専門的な研究組織を有する世界で唯一の総合博物館として、その研究成果を活かし、普及に努め、アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献します。

Ⅲ　中期目標・計画の策定及び点検・評価の実施

北海道博物館が社会的使命を果たすため、基本方針を踏まえ、資料の収集保存、展示、教育普及、調査研究などの博物館活動の実施に関する中期的な目標・計画を別に策定し、これを公表するとともに、本方針及び中期目標・計画に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、その運営状況について、点検及び評価を行います。

２　第２期中期目標・計画（令和２～６年度）

2020（令和 2）年 10 月策定

概要

●基本的な考え方

第 1 期中期目標・計画期（平成 27～令和元年度）の活動をとおして築き上げてきた魅力を背景に、さらなる道民からの信頼と愛着を確保すべく、平成 27 年に策定した北海道博物館基本的運営方針を継承し、以下の 15 項目の基礎的な事業に取り組みます。とりわけ、第 2 期（令和 2～6 年度）における北海道博物館を取り巻く状況と北海道の未来を見据え、4 つのビジョン（重点目標）の達成を目指します。

●15 の事業展開

① 資料の収集・保存
② 展示
③ 調査研究
④ 北海道開拓の村の整備
⑤ 教育普及事業
⑥ ミュージアムエデュケーター機能の強化
⑦ 施設及び周辺環境の整備
⑧ 広報
⑨ 評価制度の活用と利用者ニーズの把握
⑩ 道民参加の推進
⑪ 博物館ネットワーク
⑫ 情報発信
⑬ 人材育成機能の強化と社会貢献
⑭ 研究成果の発信
⑮ アイヌ民族文化研究センターの事業

●4 つのビジョン（重点目標）

① 北海道開拓記念館開館 50 年（令和 3 年）、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館 20 年（令和 3 年）、北海道開拓の村開村 40 年（令和 5 年）、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所 30 年（令和 6 年）を機会に、それぞれの活動と成果の蓄積を特に未来を担う若い世代、子どもたちへと継承する事業を展開します。（北海道博物館基本的運営方針II－4 に依拠）

② 道民参加型の活動の推進により、博物館に対する認知と愛着の醸成に努めます。（北海道博物館基本的運営方針II－2 に依拠）

③ ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含め、北海道内博物館の活性化に貢献します。（北海道博物館基本的運営方針II－3 に依拠）

④ 樺太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」を推進し、樺太研究の拠点化を目指します。（北海道博物館基本的運営方針II－1 に依拠）

※「樺太記憶継承事業」：一般社団法人全国樺太連盟から寄贈を受けた樺太関係資料（約6,000点）を適切に収蔵・保管するとともに、これらを活用した調査研究および展示活動を推進し、樺太の歴史や文化等を後世に継承していく事業。令和2～16年度までの15年計画で実施。

１　資料の収集・保存

(1) 資料の収集

ア　資料収集方針に基づき、自然・歴史・文化に関わる後世に残すべき遺産を適切に収集する。

イ　収集した資料については、速やかに調査し、適切に整理・分類・登録する。

ウ　一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについては、広く公表するとともに、展示や研究などでより多くの道民及び関連機関が活用できるように、資料群の全体像と個々の資料の基本情報を記した目録を刊行する。

(2) 収蔵機能の強化

ア　収蔵資料データベースの適正かつ安全な運用により、資料の受入れ、出納やコンディショニング情報を一元的に管理する体制を強化するとともに、利用者への資料情報の提供に役立てる。

イ　東日本大震災時や平成 30 年 9 月の台風 21 号ならびに北海道胆振東部地震時の教訓を活かし、災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制を整備する。

ウ　市町村合併など地域社会の急激な変動による資料の散逸などの課題に対し、北海道の中核的博物館として、北海道の自然・歴史・文化遺産を保存・継承するためのプロジェクトを推進し、その受け皿としての収蔵スペースの確保について検討を進める。

(3) 資料保存環境の維持

貴重な公共の財産を預かる立場から、温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策などを徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

(4) 収蔵資料の利用への対応

収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応し、より多くの人びとが北海道博物館の収蔵資料を利用する機会を創出する。

２　展示

(1) 総合展示室の運営

ア　最新の研究成果を反映した総合展示の定期的な入替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく、楽しめる展示空間を提供する。

イ　これまで利用者からいただいたさまざまな意見を踏まえ、より魅力的な総合展示のあり方を検討し、順次改善していく。

ウ　総合展示のメンテナンスに努める。

※総合展示室利用者数の目標値を、次のとおり定める。

総合展示室利用者数（5年間）	400,000人
うち外国人利用者数（5年間）	34,000人

(2) 企画展示の開催

ア　他の博物館や民間企業との連携・協働、全国規模の巡回展の誘致により、より魅力的な企画展示を実現する。

イ　道民の研究成果や創作活動の発表など、道民参加型の企画展示を導入し、道民との連携促進を図る。

ウ　北海道博物館独自の研究成果を積極的に反映した企画展示を開催する。

※特別展示室利用者数の目標値を、次のとおり定める。

特別展示室利用者数（5年間）	260,000人

３　調査研究

ア　北海道の自然・歴史・文化に関する有形・無形の遺産に関する調査研究を推進し、その成果を総合展示や企画展示、教育普及事

業等に反映させることにより、道民が自らを知り、誇りやアイデンティティを確認する機会の提供につなげる。
イ　道民と連携した基礎的な調査研究を実施するとともに、道民の自主的な研究活動・研究発表の場を設ける。
ウ　外部研究機関や外部研究者と連携しながら、学際的な研究プロジェクトを推進する。
エ　北東アジア諸地域をはじめ、北海道と友好関係にある地域、地理的・歴史的につながりのある地域等の博物館や研究機関との交流及び共同研究を推進する。
オ　館内での研修会、館外での長期研修への派遣などを実施し、職員の研究資質の向上を図る。

４　北海道開拓の村の整備

ア　北海道開拓の村に移築・復原されている歴史的建造物群を、北海道の貴重な財産として後世に伝える取組を進める。
イ　建造物内の展示の充実に取り組む。
ウ　博物館としての役割を基本としながら、観光拠点や古民家再生等人材の育成拠点などとしての活用について検討し、取組を進める。

５　教育普及事業

(1) 魅力あるイベントの充実

ア　総合展示室や「はっけん広場」で気軽に参加できるイベント、子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、来館者のニーズに対応した多彩で魅力のある行事を実施する。
イ　調査研究の成果を活用した、北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができる行事を実施する。
ウ　博物館活動そのものに対する理解を深めてもらうための行事を実施する。
エ　利用者ニーズに対応した解説員による展示解説活動を展開する。

※イベントの参加者数の目標値を、次のとおり定める。

イベントの参加者数（5年間）	80,000人

(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

ア　学校団体をはじめとした各種団体を対象としたレクチャーや「はっけん広場」でのプログラムなど、団体向けのプログラムを実施する。
イ　情報・通信技術を活用した機器（ICT 機器）による多言語解説、ワークブックや解説書、さわれる資料や五感を刺激する資料・装置など、あらゆる利用者に対応した総合展示・企画展示の理解を促す教材の充実を図る。

(3) はっけん広場の運営

ア　「はっけん広場」の活動を充実させ、新たな発見を利用者に促すとともに、利用者同士、利用者と解説員の交流の輪を育む。
イ　学校現場など、利用者の声も反映させながら、教材やプログラムの改良や開発、イベントの充実に努める。
ウ　博物館利用促進の一環として、学校など、館外への貸出し用教材の開発を進め、貸出しを推進する。

※はっけん広場利用者数の目標値を、次のとおり定める。

はっけん広場利用者数（5 年間）	100,000 人

６　ミュージアムエデュケーター機能の強化

ア　一般来館者や学校団体がより効果的に学び、気づき、発見できる環境を整えるため、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
イ　道内の博物館、教育委員会、学校、各種団体などと連携し、より効果的な北海道博物館の利用を促進するための取組を進める。
ウ　平成 29～31 年に改訂された学習指導要領をふまえ、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための取組を進める。

７　施設及び周辺環境の整備

(1) 館内施設の整備と活用

ア　休憩スペース、キッズ・コーナー等を含め、年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に施設を利用できるようアメニティ設備を充実させるとともに、オリジナルグッズの提案・開発により、博物館としての魅力アップにつなげる。

イ　記念ホール、講堂、グランドホールなどの一層の活用を図る。

(2) 周辺環境の整備

ア　公共交通機関でのアクセス、野幌森林公園内施設相互のアクセスの利便性向上に向けた取組を進める。

イ　野幌森林公園の景観やイメージとの調和に配慮し、トータルデザインに基づいて公園や園内各施設のサインの統一化を図る。

ウ　野幌森林公園内の散策路、北海道博物館屋上スカイビューなどにおける野外展示の実現に向けた取組を進める。

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

北海道博物館、開拓の村、自然ふれあい交流館の連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努め、利用者の利便性と満足度の向上を図る。

８　広報

(1) 広報活動の強化

ア　道民の博物館への関心を広げ、利用を促進していくため、あらゆる広報媒体を活用するとともに、職員全員が積極的な広報活動を展開する。

イ　愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に広報媒体やサインなどに活用することで、北海道博物館のブランドイメージの向上に役立てる。

(2) 他機関との連携による広報活動の強化

他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

９　評価制度の活用と利用者ニーズの把握

ア　毎年度の事業実績について、あらかじめ評価項目を定め、館としての自己点検評価を行い、その結果を公表し、改善すべき点については、速やかに対処する。

イ　オーディエンス・リサーチ（利用者調査）を実施し、その結果を分析し、公表するとともに、改善すべき点については、速やかに対処する。

ウ　自己点検評価と利用者調査をふまえ、博物館協議会による外部評価を行い、その結果を公表することを通じて、より良い博物館づくりへとつなげる。

10　道民参加の推進

ア　道民の自主的なサークル活動の支援、ボランティア活動の導入、北海道博物館を支援する組織の創設などにより、博物館活動への道民参加を促進し、道民との連携を強化する。

イ　道民とともに進める調査研究や企画展示、道民が博物館活動に深く関わる事業を企画・立案、実施する。

ウ　外部としての意見聴取・交換の機能を充実させるため、館長の諮問に応える道民組織を立ち上げ、北海道博物館における道民参加型活動のあり方を検討する。

11　博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

ア　日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、全国博物館の最新動向に関する情報を入手し、道内の加盟館へと伝える一方、北海道からの要望をとりまとめるなど、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。

イ　北海道博物館協会との連携により、地域ブロック別や館種別組織の活動を積極的に支援するなど、中核的博物館としての役割を果たし、北海道の博物館活動の活性化につなげる。

(2) 博物館交流の促進

ア　地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進させ、北海道再発見のための知のネットワークづくりへとつなげる。

イ　北海道博物館や道内各地において、道内の博物館職員を対象に、博物館学系の知識や技術を普及する研修会を実施する。

12　情報発信

(1) 情報発信機能の強化

ア　北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物等に関するデータベース化を進め、ウェブサイト等で発信する。

イ　SNS の活用など多様な媒体により、北海道博物館及び道内博物館の諸情報を道民が利用しやすい形で発信する。

※ウェブサイトのアクセス数の目標値を、次のとおり定める。

ウェブサイトのアクセス数（5 年間）	1,300,000 件

(2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

ア　北海道の自然・歴史・文化に関わる図書、博物館刊行物、視聴覚資料などを収集し、図書室の充実を図る。

イ　収蔵資料、図書、視聴覚資料などの閲覧スペースを整備し、閲覧・複写などの各種サービスを充実させる。

ウ　北海道の自然・歴史・文化に関わる道民の身近な相談窓口として、他の博物館や関係機関との連携を強め、レファレンスや学習支援の機能を強化する。

※レファレンス件数の目標値を、次のとおり定める。

レファレンス件数（5 年間）	2,800 件

13　人材育成機能の強化と社会貢献

(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

ア　博物館実習生やインターンシップを積極的に受け入れるとともに、大学などと連携し、より効果的な実習（研修）プログラムを構築する。

イ　学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などと連携し、授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

(2) 外来研究員の受入

外部研究者や大学院生などを受け入れ、当館資料を活用した北海道の自然・歴史・文化に関する研究の機会を提供する。

(3) 当館職員の資質向上

外部機関が開催する博物館学系研修会や技術研修会に当館職員を参加させ、先端の知識と技術を集積し、博物館機能の向上に結びつける。

(4) 職員の対外貢献

講演、各種委員への就任、共同研究への参画、出版物への寄稿、その他専門的知識の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力し、社会貢献に努める。

(5) 外部機関との事業連携

民間企業などを含めた外部機関と共同で行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力・後援を積極的に行う。

⑹ 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

ア　北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献する。

イ　北海道総合計画などとリンクし、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究を推進する。

ウ　多民族・多文化共生社会、人と自然との調和のとれた社会など、北海道であるからこそ率先して目指すべき社会のあり方についてのビジョンを提言する。

14　研究成果の発信

⑴ 学術刊行物などの刊行

ア　研究成果を広く伝えるため、研究紀要や研究報告書などを刊行する。

イ　北海道の自然・歴史・文化の学習や理解促進のために、研究成果をわかりやすくまとめた冊子などを刊行する。

ウ　企画展示の開催に合わせて、来館者の理解を深め、学術的意義を広く知らせるために展示図録や解説用冊子を刊行する。

⑵ 学会への発信

各種学会での発表や学術雑誌への投稿などにより、北海道博物館の研究成果を積極的に発信する。

15　アイヌ民族文化研究センターの事業

⑴ アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及

ア　北海道の総合博物館としてアイヌ文化の継承と理解促進に資するため、アイヌ民族の言語・口承文芸、芸能、民具・生活技術などの有形・無形の文化と、それらの理解に欠かせない歴史について、重点的に調査研究を進める。

イ　関係機関や研究者、伝承活動関係者などとの連携により、道内各地のアイヌ文化に関する資料の所在調査を進め、整理・保存作業を行う。

ウ　調査研究などを通じて収集した未公開の資料や研究情報については、その公開を進め、アイヌ文化の継承、学習、研究などに広く活用できるよう整備を進める。

エ　調査研究などの成果をひろく伝えるため、研究紀要の発行や講演会・講座などの開催とともに、総合展示の充実や企画展示の実施などを進め、アイヌ文化に関する理解促進の取組を一層強化する。

⑵ アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援

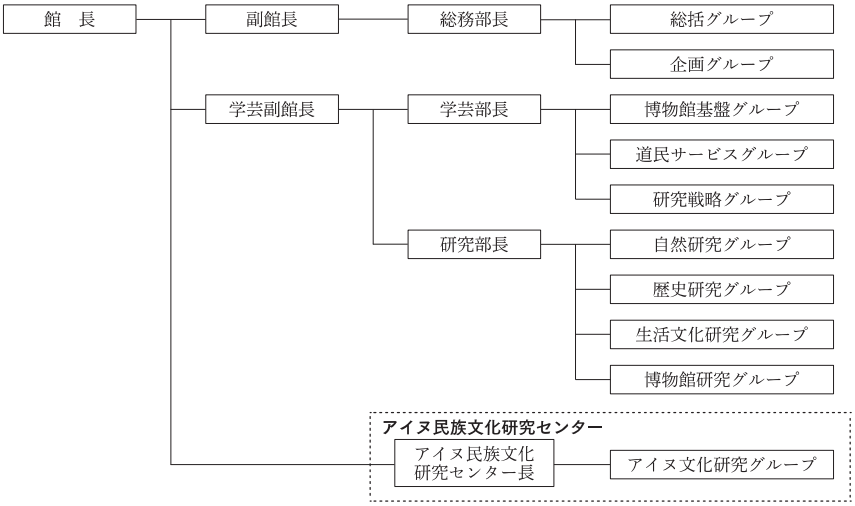
ア　アイヌ文化に関する資料及び学術情報を一元的に集約し、そのデータベース化を進める。

イ　これらの成果については、さまざまな媒体や機会を通した提供を進め、北海道博物館がアイヌ文化の継承、学習、研究にとっての情報センターとしての役割も果たすことができるよう、そのための機能の充実を図る。

II　北海道博物館の活動
（2022年度・2023年度）

組織

組織（2024 年 3 月 31 日現在）



	グループ	主な事務分担、または研究分野	第2期中期目標・計画の所管
総務部	総括グループ	館の庶務、職員の人事・服務・研修・福利厚生、職員の給与・手当、館の予算・経理・決算、庁中管理、公有財産・物品、式典、指定管理、自然公園法、道立自然公園条例など	7　施設、及び周辺環境の整備
	企画グループ	館業務の総合的企画及び連絡調整、自己点検評価、博物館協議会の運営、北海道開拓の村の整備・修繕計画、博物館交流、人材育成、及び社会貢献に係る業務の企画、調整など	4　北海道開拓の村の整備 9　評価制度の活用と利用者ニーズの把握 10　道民参加の推進 11　博物館ネットワーク 13　人材育成機能の強化と社会貢献
学芸部	博物館基盤グループ	資料、展示、及び情報発信に係る業務の企画、調整など	1　資料の収集・保存 2　展示 12　情報発信
	道民サービスグループ	教育普及事業、利用者サービス及び広報に係る業務の企画、調整など	5　教育普及事業 6　ミュージアムエデュケーター機能の強化 8　広報
	研究戦略グループ	調査研究、及び研究成果の活用に係る業務の企画、調整など	3　調査研究 14　研究成果の発信
研究部	自然研究グループ	自然史系分野（地学、生物学）	
	歴史研究グループ	歴史系分野（考古学、歴史学、美術史学）	
	生活文化研究グループ	生活文化系分野（産業学、生活学）	
	博物館研究グループ	博物館学系分野（展示学、博物館教育学、保存科学、資料管理学、図書館学）、建築学	
アイヌ民族文化研究センター			15　アイヌ民族文化研究センターの事業
	アイヌ文化研究グループ	アイヌ文化系分野（言語、歴史、芸能、民具・伝統的生活技術）	

現員（2023 年 3 月 31 日現在）

区分 / 所属	常勤		非常勤		合計
	行政職	研究職	特別職	一般職	
館長			1		1
副館長	1				1
学芸副館長		1			1
部長	1	1(1)			2(1)
アイヌ民族文化研究センター長		(1)			(1)
総括グループ	7(1)				7(1)
企画グループ		6(1)			6(1)
博物館基盤グループ	1	8			9
道民サービスグループ		9			9
研究戦略グループ		3			3
自然研究グループ		(6)			(6)
歴史研究グループ		(4)			(4)
生活文化研究グループ		(6)			(6)
博物館研究グループ	(1)	(5)			(6)
アイヌ文化研究グループ		1(5)	2		3(5)
解説員				10	10
合計	10(2)	29(29)	3	10	52(31)

※（　）内は兼務数で外数。

職員名簿（2023 年 3 月 31 日現在）

館長　石森　秀三

副館長　曽根　宏之

学芸副館長　小川　正人

総務部

総務部長　島村　哲也

総括グループ

主幹（GL）（兼）　島村　哲也

主幹（調整）　小野寺　努

主査（総務）　藤田　竜太

主査（調整・公園利用）　三井　義也

主査（調整・施設管理）　鈴木　芳彦

主任　西尾　千秋

主任　川田　宣人

主事　金子　未来

企画グループ

研究主幹（GL）（兼）　甲地　利恵

学芸主査（企画調整）　東　俊佑

学芸主査（社会貢献）　山際　秀紀

学芸主査（中核的博物館）　尾曲　香織

学芸員　圓谷　昂史

研究職員　鈴木　明世

学芸部

学芸部長　池田　貴夫

博物館基盤グループ

学芸主幹（GL）　鈴木　琢也

学芸主査（展示）　会田　理人

主査（図書・情報発信）　櫻井万里子

学芸員　鈴木あすみ

学芸員　亀丸由紀子

研究職員　吉川　佳見

学芸員　高橋　佳久

研究職員　大谷　洋一

学芸員　堀　繁久

道民サービスグループ

学芸主幹（GL）　三浦　泰之

学芸主査（利用促進）　青柳かつら

研究主査（教育利用）　遠藤　志保

学芸主査（普及事業）　表　渓太

学芸員　田中　祐未

学芸員　渋谷　美月

学芸員　久保見　幸

学芸員　成田　敦史

学芸員　右代　啓視

研究戦略グループ

学芸主幹（GL）　水島　未記

学芸主査（調査研究）　大坂　拓

学芸員　舟山　直治

研究部

研究部長（兼）　小川　正人

自然研究グループ

学芸主幹（GL）（兼）　水島　未記

学芸主査（兼）　表　渓太

学芸員（兼）　圓谷　昂史

学芸員（兼）　久保見　幸

学芸員（兼）　成田　敦史

学芸員（兼）　堀　繁久

歴史研究グループ

学芸主幹（GL）（兼）　三浦　泰之

学芸主査（兼）　東　俊佑

学芸員（兼）　田中　祐未

学芸員（兼）　右代　啓視

生活文化研究グループ

学芸主幹（GL）（兼）　池田　貴夫

学芸主査（兼）　山際　秀紀

学芸主査（兼）　会田　理人

学芸主査（兼）　青柳かつら

学芸主査（兼）　尾曲　香織

学芸員（兼）　舟山　直治

博物館研究グループ

学芸主幹（GL）（兼）　鈴木　琢也

主査（兼）　櫻井万里子

学芸員（兼）　鈴木あすみ

研究職員（兼）　鈴木　明世

学芸員（兼）　渋谷　美月

学芸員（兼）　高橋　佳久

アイヌ民族文化研究センター

アイヌ民族文化研究センター長（兼）　小川　正人

アイヌ文化研究グループ

研究主幹　甲地　利恵

研究主査（兼）　遠藤　志保

学芸主査（兼）　大坂　拓

学芸員（兼）　亀丸由紀子

研究職員（兼）　吉川　佳見

研究職員（兼）　大谷　洋一

研究職員（非常勤）　佐々木利和

研究職員（非常勤）　奥田　統己

解説員

主事（非常勤）　越田　雅子

主事（非常勤）　福島奈緒子

主事（非常勤）　堀　泰子

主事（非常勤）　山田日登美

主事（非常勤）　浅井　雅世

主事（非常勤）　工津　尋美

主事（非常勤）　折舘　里佳

主事（非常勤）　今村ゆみ子

主事（非常勤）　久保田幸恵

主事（非常勤）　川村　昌江

現員（2024 年 3 月 31 日現在）

区分 / 所属	常勤		非常勤		合計
	行政職	研究職	特別職	一般職	
館長			1		1
副館長	1				1
学芸副館長		1			1
部長	1	1(1)			2(1)
アイヌ民族文化研究センター長		(1)			(1)
総括グループ	7(1)				7(1)
企画グループ		6			6
博物館基盤グループ	1	9			10
道民サービスグループ		9			9
研究戦略グループ		3			3
自然研究グループ		(6)			(6)
歴史研究グループ		(5)			(5)
生活文化研究グループ		(5)			(5)
博物館研究グループ	(1)	(5)			(6)
アイヌ文化研究グループ		(6)	2		2(6)
解説員				10	10
合計	10(2)	29(29)	3	10	52(31)

※（　）内は兼務数で外数。

職員名簿（2024 年 3 月 31 日現在）

館長　石森　秀三
副館長　曽根　宏之
学芸副館長　小川　正人

総務部

総務部長　島村　哲也

総括グループ

主幹（GL）（兼）　島村　哲也
主幹（調整）　小野寺　努
主査（総務）　藤田　竜太
主査（調整・公園利用）　三井　義也
主査（調整・施設管理）　鈴木　芳彦
主任　西尾　千秋
主任　川田　宣人
主事　金子　未来

企画グループ

学芸主幹（GL）　会田　理人
学芸主査（企画調整）　遠藤　志保
学芸主査（社会貢献）　山際　秀紀
学芸主査（中核的博物館）　尾曲　香織
研究職員　鈴木　明世
学芸員　成田　敦史

学芸部

学芸部長　池田　貴夫

博物館基盤グループ

学芸主幹（GL）　鈴木　琢也
学芸主査（展示）　青柳かつら
学芸主査（資料管理）　大坂　拓
主査（図書・情報発信）　櫻井万里子
学芸員　亀丸由紀子
学芸員　田中　祐未
学芸員　高橋　佳久
学芸員　石子　智康
研究職員　大谷　洋一
学芸員　堀　繁久

道民サービスグループ

学芸主幹（GL）　三浦　泰之
学芸主査（利用促進）　圓谷　昂史
学芸主査（普及事業）　表　渓太
学芸員　鈴木あすみ
学芸員　渋谷　美月
学芸員　久保見　幸
研究職員　吉川　佳見
学芸員　右代　啓視
研究職員　甲地　利恵

研究戦略グループ

学芸主幹（GL）　水島　未記
学芸主査（調査研究）　東　俊佑
学芸員　舟山　直治

研究部

研究部長（兼）　小川　正人

自然研究グループ

学芸主幹（GL）（兼）　水島　未記
学芸主査（兼）　表　渓太
学芸主査（兼）　圓谷　昂史
学芸員（兼）　久保見　幸
学芸員（兼）　成田　敦史
学芸員（兼）　堀　繁久

歴史研究グループ

学芸主幹（GL）（兼）　三浦　泰之
学芸主査（兼）　東　俊佑
学芸員（兼）　田中　祐未
学芸員（兼）　石子　智康
学芸員（兼）　右代　啓視

生活文化研究グループ

学芸主幹（GL）（兼）　会田　理人
学芸主査（兼）　山際　秀紀
学芸主査（兼）　青柳かつら
学芸主査（兼）　尾曲　香織
学芸員（兼）　舟山　直治

博物館研究グループ

学芸主幹（GL）（兼）　鈴木　琢也
主査（兼）　櫻井万里子
学芸員（兼）　鈴木あすみ
研究職員（兼）　鈴木　明世
学芸員（兼）　渋谷　美月
学芸員（兼）　高橋　佳久

アイヌ民族文化研究センター

アイヌ民族文化研究センター長（兼）　小川　正人

アイヌ文化研究グループ

研究主査（兼）　遠藤　志保
学芸主査（兼）　大坂　拓
学芸員（兼）　亀丸由紀子
研究職員（兼）　吉川　佳見
研究職員（兼）　大谷　洋一
研究職員（兼）　甲地　利恵
研究職員（非常勤）　佐々木利和
研究職員（非常勤）　奥田　統己

解説員

主事（非常勤）　越田　雅子
主事（非常勤）　福島奈緒子
主事（非常勤）　堀　泰子
主事（非常勤）　山田日登美
主事（非常勤）　浅井　雅世
主事（非常勤）　工津　尋美
主事（非常勤）　折舘　里佳
主事（非常勤）　今村ゆみ子
主事（非常勤）　久保田幸恵
主事（非常勤）　川村　昌江

1　資料の収集・保存

当館の収蔵資料は、北海道ならではの自然・歴史・文化に関する遺産であり、その研究に必要不可欠な基礎資料です。当館では、資料の収集から受入・登録、保存管理から利活用までの一連の流れを、学芸部博物館基盤グループが所管し、各研究グループ、担当学芸職員との連携のもと進めています。また、資料を良好な状態で未来につなぎ伝えるため、収蔵庫の環境整備に努めています。

なお、当館は、文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）として文化庁より承認を受けています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【中期目標・計画／重点④】「樺太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国樺太連盟より受け入れた樺太関係資料（以下「樺連資料」）約6,000点の収蔵・整理・保管
一般	(1) 資料の収集
	【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施［年間資料情報件数見込60件程度、年間資料登録件数見込約25件程度］ 【イ】収集資料の調査、整理・分類・登録の推進（各研究Gへの働きかけ）
	(2) 収蔵機能の強化
	【ア】収蔵資料データベースの効率的な運用 【イ】災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討 【ウ】収蔵スペースの確保に向けた検討・取組
	(3) 資料保存環境の維持
	適切な資料保存環境の維持に向けた取組 文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の変更申請及び会議・研修などへの参加
	(4) 収蔵資料の利用への対応
	資料の貸出への対応［年間見込25件500点程度］ 資料の特別観覧への対応［年間見込70件1,000点程度］ 資料の模写品等使用への対応（北海道博物館）［年間見込120件300点程度］ 資料の模写品等使用への対応（開拓の村）［年間見込40件150点程度］

年度計画（2023 年度）

重点	【中期目標・計画／重点④】「樺太記憶継承事業」の一環として、一般社団法人全国樺太連盟より受け入れた樺太関係資料（以下「旧樺太連盟から移譲を受けた資料」）約6,000点の収蔵・整理・保管
一般	(1) 資料の収集
	【ア】北海道博物館資料収集基本方針に基づく資料登録活動を継続的に実施［年間資料情報件数見込60件程度、年間資料登録件数見込約25件程度］ 【イ】収集資料の調査、整理・分類・登録の推進（各研究Gへの働きかけ）
	(2) 収蔵機能の強化
	【ア】収蔵資料データベースの効率的な運用 【イ】災害発生時の被災資料の受入れや保存処理などに対応できる機能と体制の整備に向けた検討（企画Gとも連携して実施） 【ウ】収蔵スペースの確保に向けた検討・取組
	(3) 資料保存環境の維持
	適切な資料保存環境の維持に向けた取組 文化財保護法にもとづく公開承認施設（国宝・重要文化財等の公開に適した施設・設備・体制を備えた施設）の変更申請及び会議・研修などへの参加
	(4) 収蔵資料の利用への対応
	資料の貸出への対応［年間見込25件500点程度］ 資料の特別観覧への対応［年間見込70件1,000点程度］ 資料の模写品等使用への対応（北海道博物館）［年間見込120件300点程度］ 資料の模写品等使用への対応（開拓の村）［年間見込40件150点程度］

【重点計画】

○樺太関係資料の収蔵・整理・保管

2022 年度は、資料の整理・目録化については、実際に受け入れた資料を樺太連盟作成のリストや画像データ等と突き合わせながら点検する作業を前年度から継続して実施し、当館における収蔵資料のリスト作成を進めた。資料保管については、保管室の湿度が冬季に低くなる等の懸案があることから、収蔵環境の通年経過観察を実施するとともに、毛皮や剥製等のデリケートな温湿度管理を要する資料については、収蔵庫に別置きすることで適切な保存環境を確保した。

2023 年度には、資料の整理の成果として、『資料目録　第 3 号　全国樺太連盟資料 1』として刊行した。

【一般計画】

(1) 資料の収集

当館の資料は、旧北海道開拓記念館資料、旧北海道立アイヌ民族文化研究センター資料、2015（平成 27）年の北海道博物館設置以後収集した資料から構成されている。旧北海道開拓記念館と旧北海道立アイヌ民族文化研究センターが所蔵していた資料は、2015 年の北海道博物館設置に伴い管理換が行われ、180,418 件の資料を有する博物館として開館した。2024（令和 6）年 3 月末日現在の資料件数は 189,524 件で、そのうち約 2,000 件が総合展示に供されている。

①「資料収集基本方針」に基づく収集活動

当館の資料収集は、道民からの日常的な情報提供等による寄贈が大部分を占めている。寄せられた資料の情報は、資料収集基本方針に照らして検討したうえで、「資料審査会」（当館資料の適切な収集、保存、活用について協議するための内部組織）の審査を経てから、資料を収集している。

2022 年度の資料収集

資料情報件数	44件	調査収集件数	40件	資料審査会回数	7回

2023 年度の資料収集

資料情報件数	32件	調査収集件数	10件	資料審査会回数	8回

2022 年度分類別・受入区分別資料件数

分類	管理換	購入	寄贈	製作	採集	寄託	登録抹消	計	2021年度までの累計	累　計 総件数
0 総集	0	0	0	0	0	0	0	0	3,047	3,047
1 記録	0	0	24	0	0	0	0	24	11,273	11,297
2 地学	0	0	54	0	0	0	0	54	7,508	7,562
3 生物	0	0	0	0	37	0	0	37	8,015	8,052
4 考古	0	0	0	0	0	0	0	0	1,801	1,801
5 民族	0	0	10	0	0	0	0	10	6,191	6,201
6 生活	0	0	6	0	0	0	0	6	36,581	36,587
7 産業	0	0	1	0	0	0	0	1	21,442	21,443
8 文書	0	0	254	0	0	0	0	254	88,640	88,894
9 美術	0	0	0	0	0	0	0	0	788	788
合　計	0	0	349	0	37	0	0	386	185,286	185,672

2023 年度分類別・受入区分別資料件数

分類	管理換	購入	寄贈	製作	採集	寄託	登録抹消	計	2022年度までの累計	累　計 総件数
0 総集	0	0	0	0	0	0	0	0	3,047	3,047
1 記録	0	0	15	0	0	0	0	15	11,297	11,312
2 地学	0	0	112	0	0	0	0	112	7,562	7,674
3 生物	0	0	1	0	0	0	0	1	8,052	8,053
4 考古	0	0	0	0	0	0	0	0	1,801	1,801
5 民族	0	0	18	0	0	0	0	18	6,201	6,219
6 生活	25	0	22	0	13	0	0	60	36,587	36,647
7 産業	0	0	9	0	0	0	0	9	21,443	21,452
8 文書	0	0	3626	0	1	0	0	3627	88,894	92,521
9 美術	0	0	1	0	9	0	0	10	788	798
合　計	25	0	3804	0	23	0	0	3852	185,672	189,524

2022 年度地域別寄贈資料収集件数　386 件

地　　域	札幌市	江別市	その他道内	道　外	計
資 料 件 数	253件	9件	87件	37件	386件

2023 年度地域別寄贈資料収集件数　3, 852 件

地　　域	札幌市	江別市	その他道内	道　外	計
資 料 件 数	3, 839件	0件	10件	3件	3, 852件

②収集資料の調査、整理・分類・登録の推進

2022 年度・2023 年度ともに、「資料審査会」において、収集することが決定した資料の登録に向けた進捗状況を共有して、資料の整理及び資料管理システムへの登録作業の推進を呼びかけた。

(2) 収蔵機能の強化

①資料管理システムの運用

資料情報をデータベース上で管理するために、クラウドサービスの形態で提供されている収蔵品管理システム「I.B.MUSEUM SaaS」を用いて、新規受入資料の資料情報を随時登録するとともに、既存データの更新を進めている。

※資料情報の管理と発信、資料情報のウェブサイト公開件数については、「12　情報発信」（90 ページ～）に掲載。

②被災資料の受け入れや保存処理などの機能・体制整備

研修や他館の事例調査を実施し、体制整備に向けて検討を進めた。

③収蔵スペース確保に向けた検討

新規に収蔵する資料は、博物館内で二酸化炭素処理、低酸素処理、低温処理、市販の薬剤等を使った防虫、70%エタノールを使った殺菌などの処理をする他、必要に応じて外注で燻蒸を行っている。2022 年・2023 年度は、新規受入資料収蔵のために、館内の収蔵スペースの再検討・再配置を進めた。

(3) 資料保存環境の維持

①資料保存環境の維持

資料保存環境を維持するために、化学薬剤のみに頼らない方法として、IPM（Integrated Pest Management、総合的有害生物管理）に取り組んでいる。2022 年・2023 年度は、IPM による保存環境の維持を行った。また、資料収蔵環境管理に関する連絡会議を 12 回開催し、情報共有を行った。

2022 年度・2023 年度 IPM による作業

IPMによる作業の内容	2022年度		2023年度		担当者
	回数	実施日	回数	実施日	
① 捕虫トラップの設置・回収・調査（展示室、収蔵庫）	12回	随時	12回	随時	博物館基盤グループ
② 収蔵庫内の微生物汚染を確認するための落下菌調査	0回	随時	0回	随時	博物館研究グループ
③ 特別展示室と収蔵庫の空気質調査	2回	随時	1回	随時	博物館研究グループ
④ 定期収蔵庫清掃（資料メンテナンス、庫内・配架棚クリーニング等）	10回	1か月に1回程度	11回	1か月に1回程度	博物館基盤グループ、各研究グループ
⑤ 収蔵庫大掃除（資料メンテナンス、庫内・配架棚クリーニング等）	1回	12月14日	1回	12月13日	学芸職員全員
⑥ 総合展示室大掃除（資料メンテナンス、ケース内清掃等）	1回	12月15～16日	1回	12月14～15日	学芸職員・解説員全員
⑦ 新展示ケースなどの「からし」（接着剤等に含まれる有害物質の除去）作業	恒常的に実施		恒常的に実施		博物館基盤グループ
⑧ 収蔵庫搬入前の資料に対する、殺虫バッグによる二酸化炭素殺虫処理	10回	月1回程度	9回	月1回程度	博物館研究グループ、博物館基盤グループ
⑨ 収蔵庫内巡回（庫内点検、ロガー目視、害虫の除去）	開館日毎日		開館日毎日		博物館基盤グループ
⑩ その他、収蔵環境の環境維持作用・調査（除湿機稼働、隙間のシーリング、地震などの異常時対応）	恒常的に実施		恒常的に実施		博物館基盤グループ

②公開承認施設の変更申請及び会議・研修などへの参加

当館は、2010（平成 22）年に公開承認施設として承認を受けた（第 130 号）。2015（平成 27）年に更新し（第 130-2 号）、現在は、2020（令和 2）年 8 月 10 日から 2025（令和 7）年 8 月 9 日までの承認を受けている。

2022 年度は、変更申請を行う状況変化はなかった。また、文化庁主催の「公開承認施設担当者会議」には 2022 年度は 3 名（6 月 15 日開催、オンライン）、2023 年度は 2 名（6 月 23 日開催、オンライン）が参加した。

(4) 収蔵資料の利用への対応

当館の収蔵資料は、他の博物館への貸出のほか、調査・研究等を目的とした収蔵資料の観覧（特別観覧）等に利活用されている。また、博物館資料の撮影物や複写物（模写品等の刊行等）としても利用されている。

2022 年度・2023 年度は、前年度に引き続き、来館をともなう資料利用に際しては、事前予約の徹底、作業場所の消毒等の感染リスクの低減措置を行ったうえで、申請に対する対応を行った。

2022 年度資料利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用（北海道博物館）		模写品等使用（開拓の村）	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係	21	436	21	403	18	68	2	4
報道機関	1	8	0	0	24	74	10	23
官公庁	0	0	1	6	1	7	0	0
出版社	0	0	0	0	21	31	6	16
その他	2	21	31	585	27	150	26	75
計	24	465	53	994	91	330	44	118

2023 年度資料利用件数

	資料の貸出		特別観覧		模写品等使用（北海道博物館）		模写品等使用（開拓の村）	
	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数	利用件数	資料点数
博物館関係	13	329	12	73	12	19	1	1
報道機関	0	0	5	16	6	6	7	9
官公庁	1	16	2	660	11	16	1	1
出版社	0	0	1	1	33	95	5	17
その他	0	0	37	640	20	258	18	28
計	14	345	57	1,390	82	394	32	56

２　展示

当館の展示活動は、おもに総合展示室、特別展示室で行われています。各展示室は、それぞれの機能を果たしながらも互いに有機的に結びついており、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる博物館をめざし、北海道ならではの自然・歴史・文化に関わる資料を最大限に活かす展示を展開しています。また、総合展示は、クローズアップ展示などによる資料の定期的な入れ替えにより、来るたびに違う、飽きない展示を演出するとともに、年齢、母語、障がいの有無などを問わず、すべての方にわかりやすく楽しめる展示となるよう努めています。さらには、当館独自の研究成果を積極的に反映した特別展や企画テーマ展などの企画展示を、期間を限って年に数回開催しています。

こうした展示活動は、学芸部博物館基盤グループが運営事務を担い、展示ごとに各研究グループの担当学芸職員などから構成される実施体制をつくり、進めています。また、展示室や展示資料の保守点検・管理を日常的に実施するとともに、年に1回、2日間にわたって大掃除を行っています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【中期目標・計画／重点④】収集した樺連資料の展示に向けた検討 【中期目標・計画／重点②】【⑵イ】道民参加型展示の企画・推進 【⑴イ】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成
一般	**⑴ 総合展示室の運営**
	【ア】総合展示室における展示資料の入替え推進［年間延べ40点程度］ 【ア】クローズアップ展示コーナーの更新推進［年間7件27回程度］ 【ア】アイヌ文化Q＆A（第2テーマ）の更新推進［年間3回程度］ 【ア】総合展示2階出口付近の参加型展示の更新［年間1回程度］ 【ア】第4テーマ「今とこれからをつくる」の入替え推進［年間3件程度］ 【ア】学芸員紹介コーナーの入替え［年間1回程度］ 【イ】総合展示の小規模改訂計画の作成と本年度改訂の実施 【イ】次年度総合展示更新実施計画（各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示）の作成 【イ】総合展示資料目録の作成・更新 【ウ】総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理［随時］ 【ウ】大掃除の実施計画作成と推進［年間1回］
	⑵　企画展示の開催
	【ア】他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成 【ウ】特別展の開催推進・運営［年間1件程度］ 【ウ】企画テーマ展の開催推進・運営［年間３件程度］ 【ウ】アイヌ民族文化研究センターが主催する巡回展の開催推進・運営［年間1件程度］ 【ウ】企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行［年間４件程度］ 特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理［随時］

年度計画（2023 年度）

重点	【中期目標・計画／重点④】収集した樺連資料の展示に向けた検討 【中期目標・計画／重点②】【⑵イ】道民参加型展示の企画・推進 【⑴イ】利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成
一般	**⑴ 総合展示室の運営**
	【ア】総合展示室における展示資料の入替え推進［年間延べ40点程度］ 【ア】クローズアップ展示コーナーの更新推進［年間7件27回程度］ 【ア】アイヌ文化Q＆A（第2テーマ）の更新推進［年間3回程度］ 【ア】総合展示2階出口付近の参加型展示の更新［年間1回程度］ 【ア】第4テーマ「今とこれからをつくる」の入替え推進［年間3件程度］ 【ア】学芸員紹介コーナーの入替え［年間1回程度］ 【イ】総合展示の小規模改訂計画の作成と本年度改訂の実施 【イ】次年度総合展示更新実施計画（各テーマの個別資料入替、クローズアップ展示）の作成 【イ】総合展示資料目録の作成・更新

	【ウ】総合展示のメンテナンスと総合展示室の管理［随時］ 【ウ】大掃除の実施計画作成と推進［年間1回］
	⑵　企画展示の開催
	【ア】他機関との連携・協働、巡回展の誘致を視野に入れた次年度以降企画展実施計画の作成 【ウ】特別展の開催推進・運営［年間1件程度］ 【ウ】企画テーマ展の開催推進・運営［年間３件程度］ 【ウ】アイヌ民族文化研究センターが主催する巡回展の開催推進・運営［年間1件程度］ 【ウ】企画展示に係る図録・リーフレットの編集・作成・刊行［年間４件程度］ 特別展示のメンテナンスと特別展示室の管理［随時］

【重点計画】

○収集した樺連資料の展示に向けた検討

「樺太記憶継承事業」の参画メンバーを中心に、資料の展示に向けた検討および資料整理を進めた。

※「樺太記憶継承事業」については30～31ページに掲載。

○道民参加型展示の企画・推進

中２階休憩ラウンジにおいて、道民参加型の展示や北方領土コーナーを設置しているほか、以下の企画展、展示コーナーにおいて道民参加型展示を推進した。

○来館者参加型展示コーナー（アイヌ文化Q＆A（総合展示室第2テーマ）、総合展示2階出口付近の参加型展示）……詳細は25ページに掲載
○総合展示第4テーマ「今とこれからをつくる」……詳細は25ページに掲載
○休憩ラウンジにおける道民参加型展示（アンモナイト）……詳細は29ページに掲載

○利用者ニーズに基づいた総合展示の検証、段階的部分改修の検討・計画作成

総合展示、及び企画展示等の事業を円滑に進めるため、館内の内部組織として学芸部長を座長とする展示ワーキングチームを設置している。総合展示の担当チームから改修箇所の意見・要望を募り、展示ワーキングチームにて集約し、2021～2024年度の４か年で順次改修する中期改修計画を2020年度に作成している。2022年度・2023年度は、その計画に則り以下の部分改修を実施した。

2022年度総合展示部分改修　3件

テーマ	概　要	部　所	内　容
第3テーマ「北海等らしさの秘密」	壁画「開拓」解説コンテンツ等の充実	第3テーマ壁画「開拓」の前	展示内容の充実を図るため、高精細デジタル画像（以下「デジタル画像」という）を作成するとともに、このデジタル画像を活用した解説機能付き映像コンテンツを製作し、総合展示室内2階、第3テーマ壁画「開拓」前に設置
第3テーマ「北海道らしさの秘密」	総合展示室展示解説システム（映像コーナー）の更新	第3テーマ「北海道の地名っておもしろいかも？」	映像コンテンツ再生用PC及び関連装置の故障に伴い、新規PC、関連装置一式を設置、コンテンツデータを移行
第4テーマ「わたしたちの時代へ」		第4テーマ「北海道空襲ほか」、「札幌オリンピック」	現行モニターの劣化故障に伴い、新規液晶モニターを設置
第5テーマ「生き物たちの北海道」		第5テーマ「生き物たちのつながり（6カ所）」	映像コンテンツ再生用PC及び関連装置の故障に伴い、新規PC、関連装置一式を設置、コンテンツデータを移行
総合展示室2階回廊	デジタル映像投影機等設置に伴うライティングレール等設置	総合展示室2階　回廊	デジタル映像投影機や展示用ライト、関連パネルを多用した展示の充実を図るため、総合展示室2階の回廊部分に、ライティングレール及びピクチャーレール、LEDスポットライトを設置

2023年度総合展示部分改修　2件

テーマ	概　要	部　所	内　容
プロローグ	「クローズアップ0」の新設	プロローグ	北海道の地質・古生物等をテーマとする「クローズアップ０」を新設。
第5テーマ「生き物たちの北海道」		第5テーマ内「生き物たちのつながり」	「ヒグマ」「シャチ」をモチーフにしたほぼ等身大の布製レプリカや13種の鳥類剥製を作成し展示室に設置。
		第5テーマ内「生き物たちのつながり」	情景展示の「森」「川」「海」「ヒトの近くの自然」の４つの環境について、それぞれの環境の特徴をグラフィカルに分かりやすく紹介したパネルを製作・設置。

【一般計画】

(1) 総合展示室の運営

総合展示は、1 階と 2 階を合わせて 3,011 ㎡の広さがある総合展示室のなかで、収蔵資料の中から約 2,000 件の実物資料のほか、模型、ジオラマ、映像装置などを使った展示を展開している。1 階にはプロローグ、第 1 テーマ、第 2 テーマ、2 階には第 3 テーマ、第 4 テーマ、第 5 テーマを配し、来るたびに違う、飽きない展示を演出するため、資料の定期的な入れ替えや、クローズアップ展示の入れ替えなどを行っている。2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、感染対策（展示室における観覧者のソーシャルディスタンスの確保、「さわれる展示」の撤去、ケース・什器類の定時消毒など）を行ったうえで展示室の運営を行った。2023 年度は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和のために、「さわれる展示」の一部再開などを含めて、展示室の運営を行った。

①総合展示室利用者数

2022 年度総合展示室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	累計	達成率
利用者数	3,909	6,981	8,262	15,015	34,103	31,397	7,213	4,349	2,128	2,765	3,156	5,113	124,391	204,176	51.04%
うち外国人利用者数	26	60	76	121	132	102	124	174	414	343	668	352	2,592	3,475	10.22%

2023 年度総合展示室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	累計	達成率
利用者数	3,852	7,112	7,172	9,060	19,247	33,588	7,935	3,981	2,157	2,202	2,848	4,782	103,936	308,112	77.03%
うち外国人利用者数	459	434	445	560	579	337	469	410	461	375	630	347	5,506	8,981	26.41%

※総合展示室利用者数の目標値（2020～24 年度）：400,000 人（うち外国人利用者数 34,000 人）、「累計」「達成率」は第 2 期中期目標・計画期（2020～2024 年度）における総計。

②総合展示の資料入替

2022 年度総合展示資料入替件数（場面替を含む）

場所		4～5月	6～7月	8～9月	10～11月	12～1月	2～3月	計
プロローグ		6	0	29	0	2	0	37
第1テーマ	クローズアップ展示1	1	1	1	1	20	0	24
	クローズアップ展示2	7	3	7	3	11	39	70
	そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0
第2テーマ	クローズアップ展示3	3	0	2	0	18	0	23
	クローズアップ展示4	1	0	1	0	4	0	6
	そ　の　他	1	0	0	0	4	0	5
第3テーマ	クローズアップ展示5	14	0	25	0	20	0	59
	そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0
第4テーマ	クローズアップ展示6	7	0	3	0	6	0	16
	そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0
第5テーマ	クローズアップ展示7	2	0	1	0	一式	0	3
	そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0
計		42	4	69	4	85	39	243

2023 年度総合展示資料入替件数（場面替を含む）

場所		4～5月	6～7月	8～9月	10～11月	12～1月	2～3月	計
プロローグ	クローズアップ展示0	―	―	―	―	―	3	3
	そ　の　他	1	0	1	0	1	0	3
第1テーマ	クローズアップ展示1	1	1	3	2	6	1	14
	クローズアップ展示2	5	8	9	3	1	26	52
	そ　の　他	4	0	3	0	29	0	36
第2テーマ	クローズアップ展示3	3	0	1	0	1	0	5
	クローズアップ展示4	3	0	7	0	5	0	15
	そ　の　他	1	0	4	0	6	1	12
第3テーマ	クローズアップ展示5	14	0	10	0	22	0	46
	そ　の　他	2	1	1	1	1	1	7
第4テーマ	クローズアップ展示6	11	0	3	0	7	0	21
	そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0
第5テーマ	クローズアップ展示7	4	0	5	0	1	0	10
	そ　の　他	0	0	0	0	0	0	0
計		49	10	47	6	80	32	224

③クローズアップ展示

普段の総合展示だけでは十分に紹介しきれない話題や、北海道博物館が所蔵する資料などを、テーマを決めて定期的に入れ替えて紹介する展示コーナーで、総合展示室内に 7 か所設けている。なお、2023 年度にクローズアップ 0 を新設したため、2023 年度末現在 8 か所となった。

2022 年度のクローズアップ展示（26 テーマ、資料点数：202 点、展示替：27 回）

場所		テーマ	展示期間	担　当	資料点数	展示替回数
第1テーマ	1	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（右隻：1～6月）	4月15日（金）～6月16日（木）	東俊佑、田中祐未、佐々木利和	1	1
		《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（左隻：7～12月）	6月17日（金）～8月11日（木）		1	1
		《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（右隻：1～6月）	8月12日（金）～10月13日（木）		1	1
		《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（左隻：7～12月）	10月14日（金）～12月14日（水）		1	1
		近世蝦夷地の古文書	12月17日（土）～2023年4月13日（木）	東俊佑	20	2
		新選組永倉新八の養父　松前藩医杉村介庵	4月15日（金）～6月16日（木）	三浦泰之	7	1
		生誕200年　絵師・平沢屏山	6月17日（金）～8月11日（木）	田中祐未、東俊祐、佐々木利和	3	1
	2	北海道開拓にゆかりの歴史資料たち	8月12日（金）～10月13日（木）	三浦泰之	7	1
		木戸竹石の《鮭漁図屏風》	10月14日（金）～12月14日（水）	田中祐未	3	1
		北海道の引札あれこれ	12月17日（土）～2023年2月16日（木）	三浦泰之	11	1
		新しく仲間入りした歴史資料たち	2023年2月17日（金）～4月13日（木）	三浦泰之	39	1

第2テーマ	3	田辺尚雄によるアイヌ音楽の調査記録	4月15日（金）～8月11日（木）	甲地利恵	3	1
		受け継がれる手業　二風谷の工芸品	8月12日（金）～12月14日（水）	大坂拓	2	1
		萩中美枝さんの仕事	12月17日（土）～2023年4月13日（木）	大谷洋一、小川正人	18	1
	4	【特別展関連】アイヌ口承文芸のなかの虫たち	4月15日（金）～9月29日（木）	吉川佳見、遠藤志保	1	1
		アイヌ無形文化伝承保存会　その設立と歩み	9月30日（金）～12月14日（水）	小川正人	1	1
		新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	12月17日（土）～2023年4月13日（木）	亀丸由紀子	4	1
第3テーマ	5	岩手県から北海道へ渡った神楽	4月16日（金）～ 8月12日（木）	舟山直治	14	1
		新しく仲間入りした生活・産業資料たち	8月12日（金）～12月14日（水）	尾曲香織	25	1
		職人の道具と技術	12月17日（土）～2023年4月13日（木）	会田理人	20	1
第4テーマ	6	【特別展関連】虫と戦い、虫と親しむ	4月15日（金）～9月29日（木）	会田理人	7	1
		たくぎん（北海道拓殖銀行）	9月30日（金）～12月14日（水）	鈴木明世	3	1
		あっちこっちマッチ　～マッチのデザインをめぐる旅～	12月17日（土）～2023年4月13日（木）	池田貴夫、尾曲香織、鈴木明世	6	1
第5テーマ	7	【特別展関連】〈歩く宝石〉北海道のオサムシ	4月15日（金）～9月29日（木）	堀繁久	2	1
		リンゴはなぜ赤い？　草や木の実の不思議な世界	9月30日（金）～12月14日（水）	水島未記	1	1
		アライグマの骨、全部見せます	12月17日（土）～2023年4月13日（木）	鈴木あすみ	一式	1

2023 年度のクローズアップ展示（27 テーマ、資料点数：171 点、展示替：27 回）

場所		テーマ	展示期間	担　当	資料点数	展示替回数
プロローグ	0	北広島市で新たに発見されたクジラ化石	2024年2月16日（金）～ 4月11日（木）	圓谷昂史	3	1
第1テーマ	1	描かれたアイヌ民族のサケ漁 －小玉貞晨筆『蝦夷国魚場風俗図巻』－	4月14日（金）～6月15日（木）	東俊佑 田中祐未	1	1
		『蝦夷島奇観』をさぐる－当館所蔵の模写から－（前期）	6月16日（金）～8月10日（木）		1	1
		『蝦夷島奇観』をさぐる－当館所蔵の模写から－（後期）	8月11日（金）～10月12日（木）		3	1
		地図に描かれた幕末のカラフト島とエトロフ島	10月13日（金）～12月13日（水）		2	1
		江戸時代終わりごろのイシカリ―村山家の文書と地図から―	12月16日（土）～2024年2月15日（木）		2	1
		仙台石巻漂流民が見たロシア極東－『環海異聞』をもとに－	2月16日（金）～4月11日（木）	東俊佑	1	1
	2	新選組の元幹部隊士　永倉新八	4月14日（金）～6月15日（木）	三浦泰之	5	1
		新選組永倉新八の養父　松前藩医杉村介庵	6月16日（金）～8月10日（木）		8	1
		関東大震災から100年　災害を伝えた絵葉書	8月11日（金）～10月12日（木）		9	1
		北海道の双六あれこれ	10月13日（金）～12月13日（水）		3	1
		木戸竹石の《捕馬図屏風》	12月16日（土）～2024年2月15日（木）	田中祐未	1	1
		新しく仲間入りした歴史資料たち	2024年2月16日（金）～4月11日（木）	三浦泰之	39	1
第2テーマ	3	アイヌ語学習教材のいろいろ	4月14日（金）～8月10日（木）	遠藤志保	3	1
		小樽アイヌが経験した近代	8月11日（金）～12月13日（水）	大坂拓	1	1
		アイヌの子どもの遊び歌―年寄りカラスはどうした？―	12月16日（土）～2024年4月11日（木）	大谷洋一	1	1
	4	北海道博物館が所蔵するトンコリ（五弦琴）	4月14日（金）～8月10日（木）	甲地利恵	1	1
		北海道・東北北部のアイヌ語地名―山田秀三の地名研究から―	8月11日（金）～12月13日（水）	小川正人	7	1

		モノから見るアイヌ文化ー首飾りのいろいろ	12月16日（土）～2024年4月11日（木）	亀丸由紀子	5	1
第3テーマ	5	岩手県から北海道へ渡った神楽	4月14日（金）～ 8月10日（木）	舟山直治	14	1
		色々なわら細工	8月11日（金）～12月13日（水）	青柳かつら 池田貴夫	10	1
		職人の道具と技術ー鍛冶職人ー	12月16日（土）～2024年4月11日（木）	山際秀紀	23	1
第4テーマ	6	たくぎん（北海道拓殖銀行）	4月14日（金）～ 8月10日（木）	尾曲香織 石子智康	10	1
		高度経済成長期の発掘調査	8月11日（金）～12月13日（水）	会田理人	3	1
		レンガ　日本の近代化を支えた建築材料	12月16日（土）～2024年4月11日（木）	鈴木明世	7	1
第5テーマ	7	野幌森林公園の植物を調べる	4月14日（金）～ 8月10日（木）	水島未記	4	1
		北海道のひれあし類	8月11日（金）～12月13日（水）	鈴木あすみ	5	1
		標本はDNAのタイムカプセル	12月16日（土）～2024年4月11日（木）	表　渓太	4	1

④来館者参加型展示コーナー

さまざまな北海道の自然・歴史・文化を楽しみながら学び、ともに考えるきっかけにしていただける展示を目指して、総合展示室内に来館者が展示物に触れることのできるハンズオン展示や、第2テーマの「アイヌ文化Q&A」や総合展示2階出口付近の参加型展示など、展示に加わるなどの能動的な体験ができるスペースを設けている。

2022 年度来館者参加型展示コーナー参加件数

件　名	参加件数	期間
アイヌ文化Q&A（第2テーマ）	278	（通年）
湿地の沼ハマり度診断（総合展示2階出口付近）	906	2022年4月1日～７月22日（金）、2022年9月27日（火）～2023年3月31日（継続）
あなたの好きor嫌いな昆虫は？	3,577	2022年7月23日（土）～9月25日（日）

2023 年度来館者参加型展示コーナー参加件数

件　名	参加件数	期間
アイヌ文化Q&A（第2テーマ）	226	（通年）
湿地の沼ハマり度診断（総合展示2階出口付近）	1,668	2023年4月1日（土）～2024年4月19日（金）

⑤第 4 テーマ「いまとこれからを創る」

総合展示室2階・第4テーマでは、北海道に住む同時代を生きる人びとが各地で直面している課題に取り組み、北海道の現在と未来を創りつつある状況を伝えることを目的に、その活動を行っている人に主体的に展示に関わっていただくコーナーを設け、定期的に更新をしている。

2022 年度「いまとこれからを創る」（展示替：0 件）

番号	テーマ	執筆者	展示期間	備考
1	絶滅危惧種シマフクロウの繁殖を市民の目で見守る	早矢仕有子氏（北海学園大学工学部）	2019年8月23日～2023年6月29日	継続
2	稚内市歴史・まち研究会の活動と稚内赤れんが通信所	富田伸司氏（稚内市歴史・まち研究会）、斉藤譲一氏（稚内市教育委員会）	2020年12月19日～2023年10月6日	継続
3	ジャッカ・ドフニ ーサハリン少数民族の文化を伝える資料館	笹倉いるみ氏（北海道立北方民族博物館）	2020年12月19日～2024年2月16日	継続

2023 年度「いまとこれからを創る」（展示替：3 件）

番号	テーマ	執筆者	展示期間	備考
1	空襲の記憶を繋ぎ、平和への願いを伝える―本別町歴史民俗資料館の取り組み―	田野美妃氏（本別町歴史民俗資料館）	2023年6月30日～2024年6月29日	新規
2	天然記念物・クマゲラを通して野幌森林公園の森を見つめる	富川　徹氏（野幌森林公園を守る会）	2023年10月７日～2024年10月31日（予定）	新規

3	市立札幌藻岩高等学校「総合的な探究の時間」MSP～社会の一員として、地域の課題解決に向けたアイディアを共創する～の取り組み	千葉建二氏 （市立札幌藻岩高等学校）	2024年2月17日～2025年1月31日（予定）	新規

⑥北海道博物館スタッフ紹介

総合展示室2階交流ゾーンに、当館の館長、学芸職員、解説員を紹介するコーナーを設け、定期的に入れ替わりで学芸職員の研究等を展示している。2022年度・2023年度はそれぞれ新規採用、退職にともない、学芸職員を紹介する個別ボードを更新した。

(2) 企画展示の開催

①特別展示室利用者数

2022年度特別展示室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	累計	達成率
利用者数	4,245	5,548	0	9,450	29,064	21,040	427	3,403	1,818	1,190	684	5,516	82,385	121,208	46.62%

2023年度特別展示室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	累計	達成率
利用者数	4,329	6,011	0	3,626	13,920	24,582	1,345	0	0	0	2,253	4,516	60,582	181,790	69.92%

※特別展示室利用者数の目標値（2020～24年度）：260,000人、「累計」「達成率」は第2期中期目標・計画期（2020～2024年度）における総計。

②特別展

特別展は、総合展示で扱っている北海道の自然・歴史・文化についてさらに内容を深めた展示、あるいは総合展示の内容を補う特定の分野や主題で企画するもので、ふだんの総合展示では見ることのできない貴重な資料を、他機関などから借用し展示を構成している。多くの国宝・重要文化財を展示するものから、子どもや親子連れをメインターゲットに据えた企画まで、趣向を変えながら、基本的に毎年1回開催し、特別展示室で実施する展示会としてはもっとも規模の大きなものと位置づけている。

2022年度の特別展　1件

第8回特別展　「世界の昆虫　ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー」			
会期（開催日数）	2022年7月23日（土）～9月25日（日）　（休館日を除く56日間）		
主催	「世界の昆虫」実行委員会（北海道博物館、北海道文化放送、北海道新聞社、一般財団法人北海道歴史文化財団）		
協力	北海道大学総合博物館、九州大学総合研究博物館、兵庫県立人と自然の博物館		
後援	北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会		
協賛	つうけんグループ		
観覧者数	59,554人	展示構成	堀繁久（チーフ）、水島未記（サブチーフ）、表渓太、渋谷美月
観覧料	一般（高校生以上）1,500円（1,300円）、小・中学生700円（600円） ※（　）内は前売券と10人以上の団体　※未就学児無料（要保護者同伴） ※本展観覧者は北海道博物館の総合展示室も観覧可能		
内容	日本が世界でも最大の昆虫コレクションを有することを活かし、今回が初公開となる昆虫標本をはじめ、北海道の固有種から世界の様々な昆虫まで10万を超える昆虫標本を一同に演示した。また、昆虫を50倍に拡大した〈巨大昆虫模型〉の展示、夏休み期間の昆虫生態展示、第一線の研究者による講演会、昆虫標本コレクションを収集した“ひと”とその調査の紹介、人と昆虫の関わりに関する展示等をあわせて実施した。		
関連普及行事 （詳細は45ページ）	・特別企画「夏休み限定！生きた昆虫展示！」　期間：7/23（土）～8/21（日）　会場：北海道博物館 記念ホール ・講演会「世界の果てに昆虫を探しに」 ・特別イベント「子ども昆虫相談室」 ・夏休みワークショップ「昆虫切り絵ワークショップ」 ・子どもワークショップ「羊毛フェルトの昆虫ストラップ」、「草原の主・トノサマバッタをさがそう」		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、展示図録、リーフレット「昆虫標本のつくりかた・のこしかた」		

2023年度の特別展　1件

第9回特別展　「ユネスコ世界遺産登録記念　北の縄文世界と国宝」	
会期（開催日数）	2023年7月22日（土）～10月1日（日）　（休館日を除く62日間）
主催	北の縄文世界と国宝展実行委員会（北海道新聞社、北海道）、NHK札幌放送局
協力	函館市教育委員会、千歳市教育委員会、伊達市教育委員会、洞爺湖町教育委員会、森町教育員会、恵庭市教育委員会、八雲町教育委員会、遠軽町教育委員会、札幌市市民文化局文化部文化財課、北海道立埋蔵文化財センター、青森県教育委員会(三内丸山遺跡センター)、青森県立郷土館、青森市教育委員会、八戸市教育委員会、弘前市教育委員会、つがる市教育委員会、外ヶ浜

	町教育委員会、七戸町教育委員会、一戸町教育委員会、鹿角市教育委員会、北秋田市教育委員会、山形県立博物館、十日町市教育委員会、茅野市尖石縄文考古館、文化庁、(一財)北海道歴史文化財団、北海道中央バスほか		
後　援	北海道教育委員会、青森県、秋田県、岩手県、札幌市、札幌市教育委員会、北の縄文道民会議、(公社)北海道アイヌ協会、北海道ユネスコ連絡協議会		
観覧者数	43,473 人	展示構成	鈴木琢也・阿部千春（チーフ）、小川正人、村本周三、尾曲香織、鈴木あすみ
観覧料	一般（高校生以上）1,600円、小・中学生800円 団体（前売）料金　一般（高校生以上）1,400円、小・中学生700円 ※未就学児無料（要保護者同伴）　※本展観覧者は同館総合展示室も観覧可能		
内　容	2021 年、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に正式登録されたことをうけ、本展覧会では、この「北海道・北東北の縄文遺跡群」や世界遺産とは何かをわかりやすく紹介するとともに、「北の縄文文化」をあらわす国宝、国指定重要文化財も一堂に公開した。		
関連普及行事 （詳細は 47 ページ）	・特別イベント　世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」フォーラム ・ミュージアムカレッジ　「北の縄文世界と国宝」展ができるまで ・特別イベント　「北の縄文世界」を知る		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、展示図録		

第 8 回特別展「世界の昆虫」チラシ

第 9 回特別展「北の縄文世界と国宝」チラシ

③企画テーマ展

企画テーマ展は、当館所蔵資料を中心とする企画展示で、年に数回、開催している。共同研究プロジェクト等での研究成果や北海道の自然・歴史・文化に関わる特定のテーマを掘り下げたり広く捉えたりする展示や、当館のコレクション紹介、新着資料紹介等、数多くの当館所蔵資料を紹介する展示を実施している。

2022 年度の企画テーマ展・蔵出し展　3 件

第19回企画テーマ展・北海道化石会発足50周年記念展 「アンモナイトと生きる―50 年の歩みとこれから―」			
会期（開催日数）	2022年2月19日（土）～5月22日（日） （休館日を除く 52 日間（2021 年度を含む全会期は、休館日を除く 80 日間））		
主　催	北海道博物館、北海道化石会		
後　援	北海道恐竜・化石ネットワーク研究会（事務局：北海道総合政策部地域創生局地域政策課）		
観覧者数	9,793 人（2021 年度を含む全会期では15,354 人）	展示構成チーム	圓谷昂史（チーフ）・尾曲香織・久保見幸
展示内容	本展示会では、北海道化石会発足 50 周年を記念して、会員自慢・思い出の化石と会員から当館に寄贈された化石を特別公開する。また、会員が化石に興味をもったきっかけ、クリーニングや保管方法の秘話などをあわせて紹介した。（詳細は『要覧 2021』に記載）		
関連普及行事 （詳細は 45 ページ）	・ミュージアムカレッジ「学芸員が語る！第19回企画テーマ展の見どころ」 ・特別イベント「石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！」 ・ちゃれんがワークショップ「アンモナイト折り紙で学ぶ　生物の「かたち」の不思議」		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、パンフレット		

第3回蔵出し展「久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―」			
会期（開催日数）	2022年10月29日（土）～2023年1月15日（日）　（休館日を除く61日間）		
主催	北海道博物館		
協力	國學院大學、國學院大學北海道短期大学部		
観覧者数	6,838人	展示構成チーム	小川正人（チーフ）、甲地利恵、遠藤志保、大坂拓、亀丸由紀子、吉川佳見、大谷洋一、佐々木利和、奥田統己
展示内容	アイヌ文学研究をはじめアイヌ文化研究に大きな足跡を遺した久保寺逸彦（1902～1971）は、基礎的な資料の集積と整理に努力を傾注した研究者でもある。久保寺逸彦旧蔵資料のほとんどを収蔵する当館において、これらの資料の全貌を紹介する展示会を開催した。		
関連普及行事（詳細は46ページ）	連続講座　久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く　①～③		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、パンフレット		

第20回企画テーマ展「もっと！ あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～」			
会期（開催日数）	2023年2月25日（土）～5月28日（日）　（休館日を除く80日間）		
主催	北海道博物館		
共催	北海道ラムサールネットワーク		
協力	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園、北海道大学総合博物館、苫小牧市美術博物館、釧路市立博物館、美唄市郷土史料館、岩見沢郷土科学館、札幌市博物館活動センター、神奈川県立生命の星・地球博物館、北海道立図書館		
観覧者数	6,200人（2023年3月31日時点）	展示構成チーム	表渓太（チーフ）・水島未記・山際秀紀・尾曲香織・鈴木あすみ・渋谷美月・堀繁久、山田伸一氏（札幌学院大学）
展示内容	北海道の自然の中でも開拓という人の営みによって最も大きな変化が及んだ環境が湿地である。特に石狩川流域にはかつて日本最大の湿原が広がっていたが、過去150年間でその99%以上が失われたとされる。そこで、湿地をテーマとした展示及び関連行事を開催し、北海道の湿地とそこに生息する動植物、そして人や文化との関わりを紹介した。		
関連普及行事（詳細は46ページ）	・ミュージアムカレッジ「ウトナイ湖・勇払原野の野鳥」 ・子どもワークショップ「巨大すごろくでスリル満点！ わたり鳥の旅」		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、パンフレット、「湿地マップ」		

2023年度の企画テーマ展　1件

第21回企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱 ―スタッフ一押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?―」			
会期（開催日数）	2024年2月10日（土）～4月7日（日）　（休館日を除く50日間）		
主催	北海道博物館		
観覧者数	7,633人	展示構成チーム	池田貴夫（チーフ）、小川正人、鈴木琢也、尾曲香織、表渓太、田中祐未、鈴木明世、亀丸由紀子、高橋佳久
展示内容	北海道博物館の学芸員・研究職員が、過去に実施したクローズアップ展示の再展示、おすすめの一品展示、博物館ならではの活動などをそれぞれ紹介した。		
関連普及行事（詳細は44ページ）	ミュージアムトーク 2月11日（日・祝）、2月12日（月・振）、2月23日（金・祝）、3月20日（水・祝）		
印刷物	広報用ポスター、チラシ、パンフレット		

⑤巡回展（アイヌ文化巡回展）

2022年度には、第12回アイヌ文化巡回展を釧路町で、第13回アイヌ文化巡回展を伊達市で開催した。2023年度は、第14回～第17回アイヌ文化巡回展をそれぞれ美唄市、札幌市、奥尻町、釧路市で各市町村の協力のもと、開催した。

※詳細は「15　アイヌ民族文化研究センターの事業」の118～119ページに掲載。

(3) 休憩ラウンジにおける展示

休憩ラウンジにおいて、北海道化石会の協力による「アンモナイト」の展示（道民参加型展示）、及び北海道総務部北方領土対策本部による北方領土に関する広報コーナーの展示（パネル展示）を実施した。

団体名	北海道化石会
会期	2016年1月29日～2024年3月31日（継続中）
会場	休憩ラウンジ
展示資料	アンモナイト化石28点（北海道化石会所蔵） 2022年度：アンモナイト化石33点入替 2023年度：アンモナイト化石32点入替

(4) 道北地区巡回展「探してみよう！　地域のお宝」

士別市朝日町、名寄市智恵文・日進地区をモデル地に、高齢者参画型で開発した地域学習コンテンツ（映像アーカイブ、活動プログラム等）を紹介する目的で、巡回展を実施した。

令和4（2022）年度道北地区巡回展「探してみよう！　地域のお宝」			
会期（開催日数）	2022年5月13日（金）～6月7日（火）（22日間）		
会場	名寄市北国博物館		
主催	北海道博物館・士別市立博物館・名寄市北国博物館・美深町文化会館COM100・美瑛町郷土学館		
協力	朝日郷土資料室、知恵の蔵運営委員会、名寄市智恵文公民館、智恵文中央老人クラブ、今度会、道北地区博物館等連絡協議会		
観覧料	無料		
観覧者数	観覧者数707名、関連講座参加者数18名	企画制作	北海道博物館・博物館を拠点とする地域資源活用研究会
展示内容	士別市朝日町、名寄市智恵文・日進地区をモデル地に、高齢者参画型で開発した地域学習コンテンツを映像、パネル、実物資料で紹介した。コンテンツのテーマは「冬山造材」「緬羊の利用」「馬を使った米づくり」とした。		
関連講座	「比べる視点で　地域映像を愉しむサロン」山下俊介氏（北海道大学）、青柳かつら（北海道博物館）、黄京性氏（名寄市立大学）		

(5) キノコ展 in 北海道博物館　～キノコの多様性と自然界での役割～

2023年度には道民との協働・連携による研究プロジェクトのひとつとして進めている「野幌森林公園の生物インベントリー調査」の一環として、また、北海道キノコの会40周年記念事業として開催した。

「キノコ展 in 北海道博物館　～キノコの多様性と自然界での役割～」	
会期	2023年10月31日（火）～12月3日（日）（休館日を除く30日間）
会場	北海道博物館　2階ロビー
主催	北海道キノコの会、北海道博物館
観覧料	無料
展示内容	2022年から市民団体「北海道キノコの会」と共同で行っている野幌森林公園のキノコ調査の成果を紹介した。

3　調査研究

当館では、北海道の自然・歴史・文化を明らかにするための基礎研究として、①当館が収集し、保管し、展示する資料（開拓の村歴史的建造物を含む）に関する基礎的情報の調査と専門的な研究、②資料の保管・保存、展示及び教育普及等の業務をより効果的に進めるための博物館学的研究を行っています。また、日本列島の北辺にあって、北東アジアとの係わりが深い北海道の自然・歴史・文化の地域性や歴史的特徴を明らかにするための総合研究として、③専門研究の推進及び諸分野との共同研究を図りながら、道費による5つの研究プロジェクト及び文部科学省の科学研究費などの競争的外部資金を獲得した調査研究を実施しています。そのほか、「樺太記憶継承事業」による調査研究（樺太連盟関係資料を活用した調査研究）も進められています。その成果は館の各種刊行物（→「14 研究成果の発信」）、展示（→「2　展示」）、教育普及（→「5　教育普及」）などの諸活動に生かされ、館活動の基礎となっています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【中期目標・計画／重点④】「樺太記憶継承事業」（樺連資料を活用した調査研究）の実施推進［道費による研究］
一般	【ア】北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施推進［道費による研究：4課題］ 【ア】アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの実施推進［道費による研究：2課題］ 【イ】道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施推進［道費による研究：5課題］ 【ア】【ウ】科学研究費による研究の実施推進［競争的外部資金による研究：13課題＋α見込み］ 【ア】【ウ】科学研究費以外の競争的外部資金による研究の実施推進［競争的外部資金による研究：2課題］ 【エ】北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施推進（サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流の推進）［道費による研究：２課題］ 【オ】研究課題評価の実施［道費による研究：13課題］ 【オ】館内定例研究報告会の実施［年間12回］

年度計画（2023 年度）

重点	【中期目標・計画／重点④】「樺太記憶継承事業」（樺連資料を活用した調査研究）の実施推進［道費による研究］
一般	【ア】北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトの実施推進［道費による研究：4課題］ 【ア】アイヌ民族文化研究センターの研究プロジェクトの実施推進［道費による研究：2課題］ 【イ】道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトの実施推進［道費による研究：5課題］ 【ア】【ウ】科学研究費による研究の実施推進［競争的外部資金による研究：13課題＋α見込み］ 【ア】【ウ】科学研究費以外の競争的外部資金による研究の実施推進［競争的外部資金による研究：2課題］ 【エ】北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトの実施推進（サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館との共同研究・学術交流の推進）［道費による研究：２課題］ 【オ】研究課題評価の実施［道費による研究：13課題］ 【オ】館内定例研究報告会の実施［年間12回］

【重点計画】

○「樺太記憶継承事業」（樺太連盟関係資料を活用した調査研究）の実施推進

樺太記憶継承事業による資料整理・調査研究・資料利活用			継続
研究期間	2021年度～2034年度（14年間）	配当額	3,823,850円（2022年度）、4,004,175円（2023年度）
研究代表者	小川正人（アイヌ民族文化研究センター）	メンバー	三浦泰之（歴史研究グループ）、尾曲香織（生活文化研究グループ）、鈴木あすみ（博物館研究グループ）、石子智康（歴史研究G）、高縁訓子（会計年度任用職員）
研究概要	旧樺太連盟から寄贈を受けた資料をもとに、同連盟からの寄付金による基金により、寄贈を受けた資料の整理と関連する調査研究及び展示等のこれらの資料・調査成果の利活用を通して（樺太）の記憶の継承に取り組むもの。「資料保管」「調査研究」「資料活用」の3つの柱で進める。		
2022年度活動概要	①資料整理：前年度からの樺連作成のリストと現物の突合を含めた全体の点検作業を継続し、2023年度に資料目録をまとめる目途のもと、当館における収蔵資料のリスト作成を進めた。 ②利活用方針と利用照会への対応：資料の公開・利用は目録作成の上で情報システム上での公開を開始して以降と対応することとした。また、当館における展示（企画展示、クローズアップ展示等）においては、一定の整理を終え展示可能になった資料については、いわゆ		

2023年度 活動概要	るお披露目を兼ねた活用の意義を果たすものとして展示活用していくこととした。 ③資料保管：資料を保管する室（保管庫１､2）の収蔵環境の通年経過観察を実施し、デリケートな資料（毛皮、剥製など）は収蔵庫に保管するが、その他の資料は保管庫１，２で保存を図ることとした。
	①資料保管のうち主に保存：保管庫（2室）を中心とした保存を継続。これら2室の温湿度監視、保存資材の継続的調達、文化財害虫対策を行った。 ②資料保管のうちデジタル化：既存館蔵資料もあわせた映像のデジタル化に着手した。 ③目録作成に向けた資料整理を、特に図書・文書について集中的に進めるとともに、関連資料調査として稚内市所在資料の調査を進めた。 ④資料目録（図書・文書）を刊行し、そこに掲載した資料約3,000件は当館の資料情報データベースに登録した。

【一般計画】

A　道費による５つの研究プロジェクト

道費による研究プロジェクトは、次の５つのカテゴリーに区分されます。各カテゴリーのなかに数件の研究課題を設定し、数名の研究チームによる共同研究、または個別研究を実施しています。

(1) 道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト（5課題）

道民と協働・連携し、北海道の自然・歴史・文化に関わる基礎的な調査研究を行うプロジェクトです。

北海道における漂着生物についての基礎的情報の集積と博物館での活用			継続・終了
研究期間	2018年度～2022年度（5年間）	配当額	193,130円（2022年度）
研究代表者	水島未記（自然研究グループ）	メンバー	圓谷昂史・表渓太・堀繁久（自然研究グループ）
研究概要	海岸に漂着する生物からは、その生態や周辺の生物相がわかるだけではなく、環境変化や気候変動などの影響を知ることができる。本研究では、一般道民や他の研究者との連携により漂着生物に関する情報収集・標本採集を行い、海域ごとの傾向および経年変化等を把握する。また、採集した標本の展示や普及イベント等での効果的な活用法についても研究する。		
2022年度 活動概要	10月～11月に3回、余市市内の海岸においてアオイガイの漂着状況を調査し、採集・記録したほか、研究者のネットワークを活用して漂着鯨類の情報を集約した。その成果は、学会誌への投稿（漂着物学会誌）、学会発表（第21回漂着物学会）として公開した。また、博物館活動で集積した情報や標本を活用し、成果の活用を図った。		

北海道の海岸環境における自然物の基礎的情報の集積と博物館での活用			新規
研究期間	2023年度～2027年度（5年間）	配当額	272,600円（2023年度）
研究代表者	水島未記（自然研究G）	メンバー	表渓太・圓谷昂史・久保見幸・成田敦史・堀繁久（自然研究グループ）
研究概要	海岸を構成する地形・地質、海浜性植物・昆虫、鳥類や哺乳類を含めた生物など、多様な自然物を対象として基礎情報を集める。一般道民や他の研究機関・団体等の関係者との連携により、北海道、特に日本海側の海岸の自然環境に関する情報収集・標本採集を行い、基礎データを蓄積する。採集した標本の展示や普及イベント等での効果的な活用法も研究する。		
2023年度 活動概要	5月に泊村堀株海岸、石狩湾沿岸を中心に調査を行った。10月に石狩市望来海岸において自然漂着物、人工漂着物を中心に、海岸植物、海浜性昆虫、地形、地質などについて調査事業を行った。いずれも、道民参加型の調査として、道民への普及の役割も果たすものとなった。		

野幌森林公園の生物インベントリー調査（第二次）			継続・終了
研究期間	2019年度～2023年度（5年間）	配当額	128,060円（2022年度）、128,060円（2023年度）
研究代表者	水島未記（自然研究グループ）	メンバー	表渓太・堀繁久（自然研究グループ）、鈴木あすみ（博物館研究グループ）
研究概要	野幌森林公園の生物相および生態系の現況を明らかにし、生物インベントリーの作成を進めることで、当該地域の環境変化や希少種の動向、外来種の動向をモニタリングし、保全のための基礎資料を蓄積する。過去の調査内容・成果を踏まえつつも、同じ目的・手法で調査を継続することで、長期的な変化の把握にも貢献する。		
2022年度 活動概要	公園内の調査として、双翅目および膜翅目を主体とした昆虫相調査、春季～秋季にかけて遊歩道沿いを中心とした種子植物およびシダ植物の植物相調査、北海道キノコの会と共同での菌類相の調査、「野幌森林公園を守る会」と連携・協力して、野幌森林公園内のクマゲラ生息数の調査を行った。 過去の調査結果を踏まえ、『北海道博物館研究紀要』第8号に成果を投稿した（研究ノート2本）。また、第6回特別展「世界の昆虫」、第20回企画テーマ展「もっと！あっちこっち湿地」等の企画展や普及行事のなかで成果の活用を図った。		
2023年度 活動概要	公園内の調査として、鞘翅目と双翅目を主体とした昆虫相調査、春季～秋季にかけて遊歩道沿いを中心とした植物相調査、植物標本のデジタル化、北海道キノコの会と共同での菌類相の調査、「野幌森林公園を守る会」と連携・協力して、野幌森林公園内のクマゲラ生息数の調査を行った。		

北海道及びサハリン（樺太）の「風景」に関する基礎的研究			継続・終了
研究期間	2019年度～2022年度（4年間）	配当額	281,060円（2022年度）
研究代表者	三浦泰之（歴史研究グループ）	メンバー	東俊佑・田中祐未・右代啓視（歴史研究グループ）、鈴木琢也（博物館研究グループ）
研究概要	①北海道博物館が所蔵する関連資料の調査研究及びデータベース化、デジタル化を図り、利活用のための環境整備を行うこと、②他の機関が所蔵する関連資料について情報の集積を図ること、を主な目的とする。②については、他機関などと連携しながら、情報の集積を図ることとする。以上の作業を通じて、北海道及びサハリン（樺太）の「風景」に関する資料及びその情報を集積することで、当該地域の歴史などを視覚的に理解するための環境整備を行い、総合展示や企画展示などでの利活用を図るとともに、各種照会に対する回答に資することとする。		
2022年度活動概要	当館所蔵の文書・地図・写真・絵葉書・絵画資料について、再調査の上、データベースへの未記載情報や写真データの追加、文書資料の翻刻作業を行ったほか、函館市、堺市、浦河町などで絵画・絵馬等の調査を行った。成果は、総合展示クローズアップ展示、普及行事、『北海道博物館研究紀要』第8号などへの投稿、北海道博物館ウェブサイトの収蔵資料データベースへの新規情報追加、講座や学会等における発表などにより公開・活用を図った。		

北海道博物館所蔵の歴史資料の利活用に関する調査研究			新規
研究期間	2023年度～2027年度（5年間）	配当額	280,000円（2023年度）
研究代表者	三浦泰之（歴史研究グループ）	メンバー	東俊佑・田中祐未・石子智康・右代啓視（歴史研究G）
研究概要	北海道博物館所蔵の歴史資料（文書・記録・美術・考古資料）については、一部を除き、その所蔵情報が広く知られているとは言い難い。そこで、本研究では、それらの歴史資料について改めて調査研究を行い、その歴史的な価値を高めること、そして、デジタル化やデータベースの充実化などを通して、所蔵情報を広く発信し、利活用を促進することを目的とする。		
2023年度活動概要	○当館所蔵資料の調査研究、新規資料の収集、他機関が所蔵する関連資料の調査を行った。 当館所蔵の映像・文書・絵画資料について、デジタル化、内容分析、文書資料の翻刻作業等を行ったほか、関連資料の調査として、石狩市、京都市、夕張市、白老町などで絵画等の調査を行った。また、新規資料の収集に関連して、その内容整理・調査を行った。		

北海道における戦中･戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査			継続
研究期間	2020年度～2024年度（5年間）	配当額	409,600円（2022年度）、301,290円（2023年度）
研究代表者	山際秀紀（生活文化研究グループ）	メンバー	池田貴夫・会田理人・青柳かつら・尾曲香織・舟山直治（生活文化研究グループ）、鈴木明世（博物館研究グループ）
研究概要	戦中･戦後の生活の変遷について、地域と連携した総体的な情報集積を行うとともに、特に日常の生活についてこれまで記録されてこなかった記憶の聞き書きを重点的に進めていく。また、それらを基に、当館総合展示のさらなる充実について検討を加えていく。		
2022年度活動概要	信仰、祭祀、民俗芸能、行事等に関する聞き取り調査（積丹町、札幌市）、鉄工業、柾職、装蹄師等の職人に関する聞き取り調査（恵庭市、士別市、名寄市、札幌市）、戦中・戦後の鉄道を利用した行商などについての聞き取り調査（浦幌町、函館市）、建造物と農機具に関する聞き取り調査（七飯町、北斗市、函館市）のほか、企画テーマ展に関連した聞き取り調査（生業とアンモナイト収集の関係、泥炭ストーブなどについて）を行った。調査の成果は、企画展・巡回展、普及行事に活用したほか、『北海道博物館研究紀要』第8号への投稿（調査報告1本、博物館活動報告1本）、学会発表などにより公開した。		
2023年度	前年度までの調査・研究の中間報告を『北海道博物館研究紀要』第9号に投稿したほか、当館の展示会・普及行事等で活用した。		

モノ、コト、ヒトとをつなぐ博物館資料の活用と公開に関する調査研究			継続・終了
研究期間	2018年度～2022年度（5年間）	配当額	260,000円（2022年度）
研究代表者	櫻井万里子（博物館研究グループ）	メンバー	鈴木琢也・鈴木あすみ・鈴木明世・高橋佳久・渋谷美月（博物館研究グループ）
研究概要	地理情報システム（GIS）を活用して、博物館で保有する多様な分野の資料情報を、位置情報を付加してWeb地図上でアーカイブ化することで、分野横断的な学術研究の促進、視認性の高い一般公開の手法について模索する。		
2022年度活動概要	道内外の関連施設において、収蔵資料の保存（展示）環境の管理、標本の管理・取扱等に関する事例調査、文化財防災の取組み及び防災教育、デジタルアーカイブ等等に関する事例調査を実施した。調査の成果は企画展、普及行事、『北海道博物館研究紀要』第8号への投稿（研究ノート1本、調査報告1本）、講座などにより成果の公開・活用を図った。		

博物館におけるモノ・コト・ヒトの情報集積と公開活用に関する調査研究			新規
研究期間	2023年度～2027年度（5年間）	配当額	420,000円（2023年度）
研究代表者	櫻井万里子（博物館研究グループ）	メンバー	鈴木琢也・鈴木あすみ・鈴木明世・渋谷美月・高橋佳久（博物館研究グループ）
研究概要	博物館には、調査研究や館業務を通じた学術的蓄積がありながら、十分な共有・活用が図られていないモノ・コト・ヒトの資源が数多く存在する。本課題は、博物館の調査研究及び館業務に資するため、社会的に広く活用されうる情報資源の体系的な整理と共有・公開活用のあり方と、分野横断的な学術研究及び学術に留まらない多様な分野での活用を促進する公開の手法を研究する。		
2023年度活動概要	・開拓の村建造物に関連する道内歴史的建造物、サハリンに残る日本統治期の建造物の情報の更なる蓄積を進めた。 ・野外博物館及び歴史的建造物、建物内の展示資料に関する維持管理の手法・体制、展示手法等の調査・事例収集を行った。 ・他館における資料（動物標本・歴史民俗系資料等）の分類・管理・利活用等の状況について調査し・事例収集を行った。		

(2) 北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクト

道内の地域博物館等と連携し、北海道の自然・歴史・文化に関して、特定の事項を明らかにしたり、未解決の学問的課題を明らかにしたりなど、より深く探究するための総合的な調査研究を行うプロジェクトです。

石狩低地帯北部地域を中心とした新生代の古環境復元Ⅱ			継続
研究期間	2020年度～2024年度（5年間）	配当額	364,507円（2022年度）、391,300円（2023年度）
研究代表者	圓谷昂史（自然研究グループ）	メンバー	久保見幸・成田敦史（自然研究グループ）
研究概要	本研究では、野幌丘陵を含む石狩低地帯北部地域の新生代（約6600万年前～現在）の地質や古生物を対象に、外部機関とも連携した調査を実施し、本地域の地質や産出する化石から古環境を解明するとともに、地学のさらなる振興を図ることを目的とする。具体的には、第Ⅰ期で実施した北広島市及び月形町における野外調査を継続し、道内各地や道外との比較・検討も行う。また各地の博物館等と連携し、地学資料の収集と関連情報の集積を行うとともに、各地の地学的な研究課題を明らかにする。さらに、研究成果を活用した展示や教材の開発を行うことで、道民へのアウトリーチ活動も行う。		
2022年度活動概要	当館や北広島市教育委員会が所蔵・保管する、本丘陵から産出した化石資料を中心に、資料（情報）の再整理作業を行った。また、北広島市、月形町、夕張市、浦幌町、三笠市等で野外調査を実施した。 調査の成果は企画展、普及行事、『北海道博物館研究紀要』第8号への投稿（資料紹介1本、博物館活動報告1本）、他機関主催のワークショップなどにより公開・活用を図った。		
2023年度活動概要	当館で保管する化石資料の整理を行って、新たに紋別市と知床半島で採集された貝類化石を発見し、当館の収蔵資料として登録した。 北海道南部地域の地質・化石を対象とした研究として、本地域の野外調査を実施し、北海道最古となる古生代石炭紀後期（約３億年前）の化石を含む岩石、新生代新第三紀（約1,500万年前ほか）の地層から産出する植物・貝類化石等を採集した。 これらの成果は、『北海道博物館研究紀要』第9号ほか、学術雑誌に投稿して公開した。		

北方四島の考古・歴史学的総合研究			継続・終了
研究期間	2019年度～2022年度（4年間）	配当額	200,000円（2022年度）
研究代表者	右代啓視（歴史研究グループ）	メンバー	鈴木琢也・東俊佑（歴史研究グループ）
研究概要	本研究は、北方四島の歴史・文化を総合的に考古・歴史学からの視点で明らかにすることを目的に、四島在住の共同研究をもとに北海道と北方四島の学術交流・友好を深め、博物館交流の進展を目指すものである。		
2022年度活動概要	函館市、羅臼町、旭川市において、北海道内の博物館等に所蔵される北方四島考古資料の調査を行ったほか、元北方四島在住の方々を対象した、北方四島の遺跡情報等の聞き取り調査を行った。 調査の成果は、公開講座「未来につなぐ北方四島の歴史・文化」の開催により、公開・活用を図った。		

北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究			継続・終了
研究期間	2019年度～2023年度（5年間）	配当額	464,443円（2022年度）、478,000円（2023年度）
研究代表者	尾曲香織（生活文化研究グループ）	メンバー	表渓太・圓谷昂史（自然研究グループ）、鈴木明世・鈴木あすみ（博物館研究グループ）、亀丸由紀子（アイヌ文化研究グループ）
研究概要	人の住む離島のうち、道内で最も南に位置する奥尻島を対象とし、各分野担当により調査を実施する。その後、その他の離島でも同様の調査を行い比較し、各地域の特徴を捉える。これらの作業を通し、地域と協働することで多様な情報の収集を行う。		
2022年度活動概要	奥尻島において、昭和30年代以降の冠婚葬祭、女性の労働の変化、冬期間の保存食づくりに関する聞き取り調査、貝化石及び漂着物の調査、家屋の利用状況の変遷に関する聞き取り調査、島外（平取町、栗山町）在住の奥尻島出身者とその後の交流に関する聞き取り調査を行った。		
2023年度活動概要	令和元（2019）年以降実施した調査をとりまとめ、10月に奥尻町教育委員会との共催で、町民向けのパネル展を実施した。本展示の撤収に合わせ、奥尻町教育委員会主催の子ども向け講座も実施した。また、2023年度末に発行された『北海道博物館研究紀要』において、各自の		

	調査内容の概要をまとめ、その成果を発表した。

特別展「北の縄文世界と国宝」の開催に向けた調査研究			新規・終了
研究期間	2022年度～2022年度（1年間）	配当額	560,000円（2022年度）
研究代表者	鈴木琢也（博物館研究グループ）	メンバー	小川正人（アイヌ民族文化研究センター）、尾曲香織（生活文化研究グループ）、鈴木あすみ（博物館研究グループ）
研究概要	特別展「ユネスコ世界遺産登録記念　北の縄文世界と国宝」の展示内容策定に関わる研究の一環として、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産遺跡等から出土した縄文文化の資料群及び遺跡の現地確認調査、世界遺産を支える団体の調査・取材を実施する。		
2022年度活動概要	世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成資産（関連資産含む）および関連遺跡の出土資料調査（観察、調書作成、撮影）、遺構現地確認調査を行った。また、世界遺産を支え未来に伝える活動を展開する団体について聞取調査を実施した。		

近現代北海道における鉄道をはじめとする地域交通の整備・維持の歴史に関する調査研究			新規・終了
研究期間	2023年度～2023年度（1年間）	配当額	310,000円（2023年度）
研究代表者	小川正人 （学芸副館長）	メンバー	池田貴夫（生活文化研究G）、三浦泰之（歴史研究G）、高橋佳久（博物館研究G）、石子智康（歴史研究G）、尾曲香織（生活文化研究G）、圓谷昂史（自然研究G）、表渓太（自然研究G）、会田理人（生活文化研究G）
研究概要	北海道の地域社会の形成と営みを支えてきた鉄道を中心に、ひろく公共交通を視野に入れその歩みを振り返る。その際、鉄道の歩みは、それらを作り、動かし、守る人びとによって、そして利用する人たちによって、支えられてきたことを踏まえ、“支えてきた人びと”に焦点を合わせる。これに当館収蔵の鉄道・交通史関係資料（駅逓、定山渓鉄道）の成果をあわせ、2024年度特別展の開催を目標に据える。		
2023年度活動概要	①　北海道の鉄道・公共交通の歩みに関する基礎的事実に関する調査を道内各地で行った。 ②　鉄道・公共交通をささえた人々の営みに関する調査・情報収集（鉄道建設、保線・車輌保守、鉄道行商等に関する調査等）を行った。		

(3) 北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト

「北東アジアのなかの北海道」という視野で、道との友好協定地域との研究交流事業を含んだ国際共同研究を総合的に行うプロジェクトです。ここ最近は、ロシア・サハリン州のサハリン州郷土博物館及びカナダ・アルバータ州のロイヤル・アルバータ博物館の2館と友好協定を結んで実施しています。

北海道とサハリン（仮）			継続
研究期間	2020年度～2024年度（5年間）	配当額	0円（2022年度・2023年度実施見送り）
研究代表者	小川正人（研究部長） 【暫定：2023年度時点】	メンバー	三浦泰之・東俊佑（歴史研究グループ）、圓谷昂史・表渓太・堀繁久（自然研究グループ）、山際秀紀・会田理人・尾曲香織（生活文化研究グループ）、鈴木あすみ・鈴木明世（博物館研究グループ）、大谷洋一・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子（アイヌ文化研究グループ）【暫定：2023年度時点】
研究概要	北海道と隣接するロシア極東地域とは、自然、文化、歴史のそれぞれにおいて深いつながりがあり、互い様々な特徴を持ちつつも、多くの共通点も有している。北海道とサハリンに焦点を合わせ、サハリン州郷土博物館との交流のなかで、自然、歴史及び文化についての多面的な研究を進める。並行する「北方文化共同研究事業」とも連繋を図り、個々の調査研究の成果の蓄積とともに、博物館交流・地域間交流を通して北海道の総合博物館としての基本的機能や諸事業の充実を目指す。		
2022年度・2023年度	サハリン州郷土博物館との研究交流の再開が困難な情勢のため実施を見送った。		

寒冷地の自然と適応			継続
研究期間	2018年度～2022年度（5年間）	配当額	0円（2022年度・2023年度実施見送り）
研究代表者	表渓太（自然研究グループ）	メンバー	圓谷昂史（自然研究グループ）、池田貴夫・青柳かつら・尾曲香織（生活文化研究グループ）、鈴木明世（博物館研究グループ）、甲地利恵・亀丸由紀子（アイヌ文化研究グループ）
研究概要	互いに姉妹提携を結び、また気候としては亜寒帯に属するなど類似した地理的環境にある北海道とアルバータ州の自然・歴史・文化および博物館について、ロイヤルアルバータ博物館との交流のなかで学際的な調査研究をおこない、ともに亜寒帯地域研究のセンター的な博物館づくりを目指すとともに、両地域の相互理解・相互友好をいっそう推進する。 ※ロイヤルアルバータ博物館との共同研究に関する覚書の締結期間：2018年8月2日～2023年8月1日（5年間）		
2022年度・2023年度	ロイヤルアルバータ博物館との研究交流の再開が困難な情勢のため実施を見送った。		

(4) 北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究

(5) アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト

上記(4)、(5)の研究プロジェクトは、アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトである。

※詳細は、「15　アイヌ民族文化研究センターの事業」の 112～121 ページに掲載。

B　競争的外部資金による調査研究

(1) 科学研究費補助金による調査研究（当館職員が研究代表者であるもの）

2022 年度 17 課題（うち期間延長 4 課題）、2023 年度 15 課題（うち期間延長 4 課題）

北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究			**期間延長・終了**
研究期間	2018年度～2021年度（4年間） ※2022年度まで延長（終了）	配分額	17,160千円 (直接経費: 13,200千円、間接経費: 3,960千円)
研究種目	基盤研究(B)	研究代表者	右代啓視（歴史研究グループ）
北海道地方で特徴的かつ広域的に拡がった季節行事の生成と波及に関する研究			**期間延長・終了**
研究期間	2017年度～2021年度（5年間） ※2022年度まで延長（終了）	配分額	4,420千円 (直接経費: 3,400千円、間接経費: 1,020千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	池田貴夫（生活文化研究グループ）
少子高齢社会のウェルビーイング創成型地域学習コンテンツの開発			**終了**
研究期間	2018年度～2022年度（5年間）	配分額	4,420千円 (直接経費: 3,400千円、間接経費: 1,020千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	青柳かつら（生活文化研究グループ）
アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査			**期間延長・継続**
研究期間	2018年度～2022年度（5年間） ※2023年度まで延長（継続）	配分額	4,420千円 (直接経費: 3,400千円、間接経費: 1,020千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	甲地利恵（アイヌ文化研究グループ）
リモートセンシングおよびGISによるニヴフの植物資源採取における空間利用の解析			**期間延長・継続**
研究期間	2019年度～2022年度（4年間） ※2023年度まで延長（継続）	配分額	4,290千円 (直接経費: 3,300千円、間接経費: 990千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	水島未記（自然研究グループ）
アイヌ口承文学における話型分類の研究			**継続**
研究期間	2020年度～2023年度（4年間）	配分額	4,160千円 (直接経費: 3,200千円、間接経費: 960千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	遠藤志保（アイヌ文化研究グループ）
近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究			**継続**
研究期間	2020年度～2023年度（4年間）	配分額	3,250千円 (直接経費: 2,500千円、間接経費: 750千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	小川正人（アイヌ民族文化研究センター）
北方交易の展開にともなう擦文文化集団の拡散についての考古学的研究			**継続**
研究期間	2020年度～2023年度（4年間）	配分額	4,290千円 (直接経費: 3,300千円、間接経費: 990千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	鈴木琢也（歴史研究グループ）
戦後北海道における女性の海産物行商と地域社会ー「ガンガン部隊」の民俗史的研究ー			**新規・継続**
研究期間	2022年度～2026年度（5年間）	配分額	4,160千円 (直接経費: 3,200千円、間接経費: 960千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	尾曲香織（生活文化研究グループ）
北海道南西部の民俗芸能に関わる民俗文化財の活用と継承に向けての基礎的研究			**新規・継続**
研究期間	2022年度～2024年度（3年間）	配分額	4,030千円 (直接経費: 3,100千円、間接経費: 930千円)

研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	舟山直治（生活文化研究グループ）
博物館収蔵アイヌ民具資料の考古学的手法による分析：移入品としての漆器を対象として			新規・継続
研究期間	2022年度～2025年度（4年間）	配分額	3,900千円 (直接経費: 3,000千円、間接経費: 900千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	大坂拓（アイヌ文化研究グループ）
『蝦夷島奇観』成立史と写本構造の研究―「アイヌ文化成立」言説の探究―			新規
研究期間	2023年度～2027年度（5年間）	配分額	3,640千円 (直接経費: 2,800千円、間接経費: 840千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	東俊佑（歴史研究グループ）
考古学的手法を導入した移入品アイヌ民族資料の基礎的研究ー耳飾りと首飾りを題材に			新規
研究期間	2023年度～2026年度（4年間）	配分額	3,900千円 (直接経費: 3,100千円、間接経費: 930千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	亀丸由紀子（アイヌ文化研究グループ）
北海道への養蚕技術の流入と養蚕建築の変容過程			新規
研究期間	2023年度～2026年度（4年間）	配分額	2,080千円 (直接経費: 1,600千円、間接経費: 480千円)
研究種目	基盤研究(C)	研究代表者	鈴木明世（博物館研究グループ）
考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究			期間延長・終了
研究期間	2018年度～2021年度（4年間） ※2022年度まで延長（終了）	配分額	3,250千円 (直接経費: 2,500千円、間接経費: 750千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	大坂拓（アイヌ文化研究グループ）
貝類をモデルとした海洋環境教育プログラムの開発			期間延長・終了
研究期間	2019年度～2022年度（4年間） ※2023年度まで延長（終了）	配分額	3,510千円 (直接経費: 2,700千円、間接経費: 810千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	圓谷昂史（自然研究グループ）
明治期北海道移住者による農家建築の成立・変容にみる母村文化の影響に関する研究			期間延長・終了
研究期間	2019年度～2021年度（3年間） ※2023年度まで延長（終了）	配分額	2,600千円 (直接経費: 2,000千円、間接経費: 600千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	鈴木明世（博物館研究グループ）
DNA半減期の解明―生物標本の保存環境と分析可能性について			終了
研究期間	2020年度～2022年度（3年間）	配分額	1,820千円 (直接経費: 1,400千円、間接経費: 420千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	表渓太（自然研究グループ）
北海道の小型哺乳類標本コレクションの可視化および収集傾向の時空間解析			継続
研究期間	2020年度～2023年度（4年間） ※2024年度まで延長（継続）	配分額	3,120千円 (直接経費: 2,400千円、間接経費: 720千円)
研究種目	若手研究	研究代表者	鈴木あすみ（博物館研究グループ）
アイヌ語における存在型アスペクト形式の方言間の異同			終了
研究期間	2021年度～2022年度（2年間）	配分額	910千円 (直接経費:700千円、間接経費: 210千円)
研究種目	研究活動スタート支援		吉川佳見（アイヌ文化研究グループ）
アイヌ文献目録（2001～2022）			新規
研究期間	2023年度（1年間）	配分額	3,120千円 (直接経費: 1,600千円、間接経費: 480千円)
研究種目	研究成果公開促進費（データベース）	研究代表者	小川正人（アイヌ民族文化研究センター）

(2) 科学研究費補助金による調査研究（当館職員が研究分担者であるもの）
2022 年度 6 課題（うち期間延長 1 課題）、2023 年度 6 課題（うち期間延長 1 課題）

自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索			期間延長・終了
研究期間	2019年度～2021年度（3年間） ※2022年度まで延長（終了）	研究代表者	佐久間大輔（地方独立行政法人大阪市博物館機構）
研究種目	挑戦的研究(萌芽)	研究分担者	堀繁久（博物館研究グループ）
古代末期防御的集落の実態解明と、中世移行期日本北方世界を含む北東アジア史の再構築			**期間延長・終了**
研究期間	2019年度～2022年度（4年間） ※2023年度まで延長（終了）	研究代表者	小口雅史（法政大学）
研究種目	基盤研究(B)	研究分担者	右代啓視（歴史研究グループ）・鈴木琢也（博物館研究グループ）
自然史標本の汎用化と収蔵展示技法の体系構築			**継続**
研究期間	2019年度～2023年度（5年間）	研究代表者	三橋弘宗（兵庫県立大学）
研究種目	基盤研究(B)	研究分担者	水島未記（自然研究グループ）
モノ資料からみる近代アイヌ社会と文化			**継続**
研究期間	2021年度～2023年度（3年間）	研究代表者	浅倉有子（上越教育大学）
研究種目	基盤研究(B)	研究分担者	三浦泰之（歴史研究グループ）
人文資料形成史における博物館学的研究―根岸有山・武香旧蔵資料の研究と公開			**継続**
研究期間	2021年度～2023年度（3年間）	研究代表者	内川隆志（國學院大学）
研究種目	基盤研究(C)	研究分担者	三浦泰之（歴史研究グループ）
個体群の遺伝的多様性推移におよぼす復元手法の影響			**新規・継続**
研究期間	2022年度～2026年度（5年間）	研究代表者	我妻尚広（酪農学園大学）
研究種目	基盤研究(C)	研究分担者	水島未記（自然研究グループ）
北からの視点・考古科学分析・広域比較に基づく日本古墳築造の総合的研究			**新規**
研究期間	2023年度～2027年度（5年間）	研究代表者	菊池芳朗（福島大学）
研究種目	基盤研究(C)	研究分担者	鈴木琢也（博物館研究グループ）

(3) その他の競争的外部資金による研究（当館職員が研究代表者であるもの）　2022 年度 2 課題、2023 年度 1 課題

「アイヌ語地名資料データベース」の基盤構築―アイヌ語地名研究者・山田秀三による調査資料を軸とした、古地図・現地調査・地理情報のデータベース化			終了期間延長・終了
研究助成	国土地理協会学術研究助成	研究期間	2020年7月31日～2022年3月31日　※2023年7月31日まで延長（終了）
助成金額	960,000円		小川正人（アイヌ民族文化研究センター）
アイヌ民族の交易品服飾資料に関する基礎的研究―北海道内の博物館所蔵資料を題材に―			**期間延長・終了**
研究助成	ポーラ美術振興財団助成	研究期間	2021年4月1日～2022年9月30日　※2023年3月31日まで延長（終了）
助成金額	1,030,000円		亀丸由紀子（アイヌ文化研究グループ）
文化財害虫（シミ目）に対する簡便な物理的防除方法の開発―多くの博物館で実践可能な対策を目指して			**新規・終了**
研究助成	笹川科学研究助成（実践系）	研究期間	2023年4月1日～2024年3月31日
助成金額	380,000円	研究代表者	高橋佳久（博物館研究グループ）

C　公開講座

当館の研究プロジェクトに係る成果報告や共同調査などの場として、さまざまな形で公開講座を開催している。2022 年度は、北海道自然・歴史・文化総合研究プロジェクト「北方四島の考古・歴史学的総合研究」に関する公開講座を羅臼町で開催したが、2023 年度は実施しなかった。

2022・2023 年度公開講座開催実績　1 回

北海道博物館公開講座「未来につなぐ北方四島の歴史・文化」			
主　　催	北海道博物館、羅臼町郷土資料館（羅臼町教育委員会）	会　　場	羅臼町郷土資料館（羅臼町）
日　　時	2023年3月4日（土）13:30～15:30	参 加 者 数	45名
内　　容	北海道自然・歴史・文化総合研究プロジェクト「北方四島の考古・歴史学的総合研究」及び日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(B)「北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究」（研究代表者：右代啓視）の調査研究成果公開と、北方四島にまつわる歴史・文化遺産の次世代への継承を目的とした公開講座を開催した。 ・研究報告1「福井友三郎コレクションについて」天方博章（羅臼町郷土資料館） ・研究報告2「北方四島と東北諸藩・松前藩の蝦夷地警備」東俊佑（北海道博物館） ・研究報告3「北方四島の歴史・文化とその継承」右代啓視（北海道博物館）		

D　定例研究報告会

学芸職員の研究レベルの向上に資することを目的に、道費による研究や個人研究の成果、外部資金による研究の成果などについて発表し、知見を共有する場とする報告会を、月 1 回定例的に継続して実施している。

2022 年度定例研究報告会開催実績　11 回

回数	開催日	研究グループ等	発表者	テーマ	参加者数
第1回	5月18日			（研究プロジェクトの年間計画）	23名
第2回	5月25日	①自然研究G ②博物館研究G	①成田敦史 ②高橋佳久	①これまでの研究活動 ～北海道内の植物化石群の研究と生徒主体で楽しさ重視の地学教育～ ②文化財の科学分析 ―東京文化財研究所での実例を踏まえて―	29名
第3回	7月6日	歴史研究G	三浦泰之	北海道開拓の村にある青山家漁家住宅母屋の建築年代に関する史料紹介	19名
第4回	7月27日	アイヌ文化研究G	遠藤志保	「久保寺逸彦文庫」の整理から ―新規資料を中心に―	22名
第5回	8月31日	自然研究G	圓谷昂史	北海道余市湾沿岸におけるアオイガイの漂着	29名
第6回	10月5日	アイヌ文化研究G	亀丸由紀子	アイヌの首飾りに関する研究	24名
第7回	10月26日	歴史研究G	田中祐未	洋画家・桜井豊松の紹介	21名
第8回	11月30日	生活文化研究G	舟山直治	北海道開拓記念館からの研究課題	22名
第9回	1月18日	博物館研究G	鈴木あすみ	博物館資料の整理と公開について ～これまでの変更点とこれからの展望・可能性～	26名
第10回	1月25日	アイヌ民族文化研究センター	小川正人	「アイヌ関係文献目録」の編さん ―その意義と課題―	24名
第11回	3月1日	歴史研究G	鈴木琢也	国立歴史民俗博物館・基幹研究の概要について	17名
				計	256名

2023 年度定例研究報告会開催実績　11 回

回数	開催日	研究グループ等	発表者	テーマ	参加者数
第1回	4月26日			（研究プロジェクトの年間計画）	31名
第2回	5月31日	歴史研究G	石子智康	修士論文「植民地樺太の地方都市」について	32名
第3回	6月28日	博物館研究G	櫻井万里子	博物館におけるレファレンス記録の意義；レファレンス記録の共有化に向けた第一歩として	25名
第4回	7月26日	博物館研究G	鈴木明世	養蚕業の建築からみる北海道と本州以南のつながりとその変容	25名
第5回	8月30日	生活文化研究G	尾曲香織	北海道における鉄道を利用した行商	27名
第6回	9月27日	アイヌ文化研究G	甲地利恵	アイヌ音楽の研究史の振り返りから ―特にCOLLAER（1957?）、日本放送協会（1963?）及びW. GRAF （1967）について―	20名
第7回	10月25日	歴史研究G	右代啓視	貝と人の文化史	22名
第8回	11月29日	アイヌ文化研究G	奥田統己	神謡の韻律と人称の例外アクセント	17名

第9回	12月20日	生活文化研究G	青柳かつら	北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査：2023年度調査より	23名
第10回	1月31日	アイヌ文化研究G	大谷洋一	私が聞いたアイヌの物語	19名
第11回	3月6日	生活文化研究G	池田貴夫	小谷凱宣師と私の学生時代	27名
				計	268名

E　研究課題評価

2022 年度：研究課題評価を実施するための要領（素案）を作成し、第 1 回調査研究ワーキングで報告を行った。各研究プロジェクトを対象とした研究課題評価自体は実施できなかった。2023 年度：2022 年度に作成した要領（素案）について、第 1 回調査研究ワーキングにおいて審議を行ったが、当該要領での実施には否定的な意見が多く、再度あり方を見直すこととなった。

F　調査研究ワーキングチーム

2022 年度は、調査研究ワーキングチーム会議（座長：研究部長、座長代理：学芸部長、構成員：各研究グループ主幹、事務局：研究戦略グループ）を 2023 年 2 月 8 日に 1 回実施し、次年度からの新規研究課題の選定及び研究課題評価の実施に向けた検討を行った。2023 年度は、調査研究ワーキングチーム会議（メンバー同上）を 3 回実施した。

2023 年度調査研究ワーキングチーム会議開催実績　3 回

回数	開催日	おもな議題
第1回	4月6日	令和5年度新規道費研究プロジェクト（審議）、研究課題評価のあり方（審議）
第2回	5月17日	道費研究プロジェクトの予算配分（審議）
第3回	11月15日	令和6年度新規道費研究プロジェクト（審議）

4　北海道開拓の村の整備

1983（昭和58）年4月に開村した野外博物館・北海道開拓の村の建設は、北海道百年記念事業の一環として計画されました。建設事業は、北海道開拓記念館と、1971（昭和46）年4月に設置された北海道野幌森林公園管理事務所（野幌森林公園事務所、野幌森林公園分室を経て2010年度をもって廃止）とで推進され、特に開拓の村の歴史的建造物の移築復原・再現、および内部展示（屋内展示）の制作は開拓記念館が中心となって進められました。このことから、北海道博物館の開館後も、建造物や内部展示の維持・管理は当館の重要な業務となっています。こうした取り組みは、総務部企画グループが中心となり、総括グループ（指定管理者、施設・設備関係発注業務等）や学芸部博物館基盤グループ（内部展示関係）と連携しながら進めています。

活動実績（2022年度・2023年度）

年度計画（2022年度）

重点	【中期目標・計画／重点①】【ウ】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる北海道開拓の村のあり方の具体的取組の検討
一般	【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の補修工事実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）［年間2件程度］ 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の老朽度調査［年間2件程度］ 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物のメンテナンス［随時］ 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計52棟＋インフラ） 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理・充実（随時、基盤Gと連携して実施） 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計52棟） 【イ】スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による多言語解説サービス運用・検証・改善［6カ国語、110コンテンツ］ 【ウ】北海道開拓の村歴史的建造物の魅力発信コンテンツの制作・発信

年度計画（2023年度）

重点	【中期目標・計画／重点①】【ウ】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる北海道開拓の村のあり方の具体的取組の検討
一般	【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の補修工事実施設計（発注：建設部、指導・助言：博物館）［年間2件程度］ 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物の老朽度調査［年間2件程度］ 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物のメンテナンス［随時］ 【ア】北海道開拓の村歴史的建造物等の補修計画の検討・調整・作成（計52棟＋インフラ） 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示および展示資料の管理・充実（随時、基盤Gと連携して実施） 【イ】北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂計画の検討・調整・作成（計52棟） 【イ】スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」による多言語解説サービス運用・検証・改善［6カ国語、110コンテンツ］ 【ウ】北海道開拓の村歴史的建造物の魅力発信コンテンツの制作・発信

【重点計画】

〇北海道開拓の村のあり方の具体的取組の検討

2022年度・2023年度は、文化庁による文化観光拠点施設機能強化事業に基づく拠点計画のなかで、北海道開拓の村の展示改修等についても検討した。2022年度は、拠点計画が不採択となったが、2023年度は採択された。

【一般計画】

(1) 大規模改修工事

建造物全体の劣化・破損部分を修復するための大規模な改修工事は、2019年度より北海道建設部が主体となって事業を実施している。2021年度から2022年度にかけて、旧小樽新聞社と旧近藤染舗の大規模改修工事（設計及び施工）を実施した。2022年度は、両建物の工事開始に伴い、2022年4月に内部の公開を停止した。2023（令和5）年4月1日からの再公開にあたって、報道関係者向けの工事に関する説明会を実施した。説明会には、北海道札幌啓成高等学校新聞局の生徒も参加した。また、2022（令和4）年1月～3月にかけての大雪で被害を受けた建造物をリスト化し、修繕計画を建設部と調整した。必要に応じて、指定管理者の発注で応急処置を実施した。2023年度は、大規模改修工事は実施していないが、建設部発注による旧北海中学校や旧開拓使札幌本庁舎（ビジターセンター）、上記大雪被害を中心とする複数棟の部分改修工事実施設計業務への指導・助言を行った。

2022年度大規模改修関連業務　1件

業務名	開催日
北海道開拓の村旧小樽新聞社と旧近藤染舗の再公開にかかる報道向け現場説明会	2023年3月30日（木）

(2) 補修工事、小破修繕など

大規模改修のほかにも、建造物の日常的な管理・点検によって発見された部分的な劣化・損傷の補修を行った。また、当館による補修工事以外にも、指定管理者である北海道歴史文化財団発注による小破修繕などが適宜実施されている。

2022 年度補修工事、小破修繕　1 件（北海道博物館発注分）

工事名	工期	受注業者
開拓の村旧ソーケシュオマベツ駅逓所小屋裏応急補修	2022年9月8日～9月22日	武部建設株式会社

2023 年度補修工事、小破修繕　1 件（北海道博物館発注分）

工事名	工期	受注業者
開拓の村旧藤原車橇製作所屋根上車橇修繕工事	2023 年 9 月 13 日～11 月 30 日	セラテック

※このほか、歴史的建造物以外の設備関係・更新も建設部及び当館・指定管理者により適宜実施している。

(3) 老朽度調査

開拓の村建造物の大規模改修工事計画の策定などに向けて、毎年 2 棟、建物全体の劣化度や破損部分の調査や簡易的な耐震診断を実施している。

2022 年度老朽度調査　1 件

業務名	受注業者
開拓の村建造物旧ソーケシュオマベツ駅逓所及び旧平造材部飯場老朽度調査業務	株式会社札幌企画設計

2023 年度老朽度調査　1 件

業務名	受注業者
開拓の村建造物旧開拓使爾志通洋造家及び廊下老朽度調査業務	株式会社札幌企画設計

(4) 内部展示等改修

開拓の村歴史的建造物の内部展示や、村内の看板・サイン等は、北海道博物館が管理しており、必要に応じて改修や修繕等を行っている。旧小樽新聞社及び旧近藤染舗建物内の改修工事の終了に伴い、2023（令和５）年 4 月 1 日からの再公開に向けて展示造作を実施した。また、指定管理者からの「展示資料破損・亡失報告書」が、2022 年度が 6 件（6 点）、2023 年度が 5 件（9 点）提出され、これを受けて 2023 年度は実物資料 9 点を展示から撤去し、博物館へ引き上げた。また、2023 年度は文化庁による文化観光拠点施設機能強化事業に基づく拠点計画による展示改訂を実施し、北海道開拓の村旧小樽新聞社の展示改訂を実施した。

※詳細は、「16.　4 つのビジョン（重点目標）」に記載。

2022 年度展示造作業務　1 件

業務名	受注業者
北海道開拓の村旧小樽新聞社および旧近藤染舗内部展示造作業務	株式会社アークスタジオ

2023 年度展示造作業務　3 件

業務名	受注業者
北海道開拓の村旧小樽新聞社演示具造作業務	株式会社アークスタジオ
北海道開拓の村旧小樽新聞社展示用パネル制作業務	有限会社クライブ
北海道開拓の村旧小樽新聞社フート印刷機樹脂版制作業務	有限会社山王グラフィック

(5) その他

2023 年度は、デジタル田園都市国家構想交付金の採択事業として「北海道開拓の村の 3 次元化・オープンデータ化プロジェクト」を実施した。その中で、開拓の村建造物の 3D スキャンやそれに伴う資料搬送業務などを行った。

2023 年度展示造作業務　2 件

業務名	受注業者
北海道開拓の村3次元化・オープンデータ化プロジェクト業務	北海道地図株式会社
旧北海中学校備品の搬出	ヤマト運輸株式会社北海道美術センター

5　教育普及事業

当館の教育普及事業は、道民の学習支援事業として、利用者の視点に立って展開することを心がけています。生涯学習施設かつ社会教育施設としての博物館の役割を果たすべく、さまざまな人びとが繰り返し訪れ、親しまれる「わかりやすく、おもしろく、ためになる」博物館をめざし、調査研究の成果を活用しながら北海道の自然・歴史・文化をより深く知ることができるよう配慮した個々の事業を展開しています。

総合展示室における展示解説や各種イベントをはじめ、はっけん広場における学習活動・イベント、学校団体などへの「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」、館内外での講座・講演会・ワークショップ・自然観察会などの各種普及行事など、展示および資料の公開を除く広い範囲の活動を行っています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【中期目標・計画／重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる教育普及事業のあり方の具体的取組の検討
一般	⑴ 魅力あるイベントの充実
	【ア】【イ】【ウ】一般普及行事の実施推進［年間50回程度］ 【ア】【イ】総合展示室等で行うイベントの実施推進［随時］ 【ア】「ちゃれんがラリー」の実施と検証・改善・拡充［常時］ 【ア】【イ】【ウ】次年度普及行事実施計画の作成 【エ】「情報デスク」を活用した交流・誘導［常時］ 【エ】解説員による総合展示の展示解説［常時］ 【エ】解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討・試行
	⑵　社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実
	【ア】学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施［10メニュー］ 【ア】はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施［6メニュー］ 【イ】「ポケット学芸員」による多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】展示解説器（音声ガイド）を利用した多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】総合展示解説書「ビジュアル北海道」の検証と、ワークブック、新しい展示解説書の作成検討 【イ】総合展示室における子ども向け展示解説の検討 【イ】ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新 【イ】視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充 【イ】オンライン事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充
	⑶　はっけん広場の運営
	【ア】解説員によるはっけん広場の展示解説［常時］ 【ア】【イ】「はっけんイベント」の実施［年間7メニュー］ 【イ】「はっけんキット」の運用［41メニュー］ 【ウ】学校教育用補助教材の貸出と開発の推進

年度計画（2023 年度）

重点	【中期目標・計画／重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる教育普及事業のあり方の具体的取組の検討
一般	⑴ 魅力あるイベントの充実
	【ア】【イ】【ウ】一般普及行事の実施推進［年間50回程度］ 【ア】【イ】総合展示室等で行うイベントの実施推進［随時］ 【ア】「ちゃれんがラリー」の実施と検証・改善・拡充［常時］ 【ア】【イ】【ウ】次年度普及行事実施計画の作成 【エ】「情報デスク」を活用した交流・誘導［常時］ 【エ】解説員による総合展示の展示解説［常時］ 【エ】解説員等による展示室・はっけん広場等の展示解説活動の今後のあり方の検討・試行

	⑵　社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実
	【ア】学校団体および一般団体を対象とした「グループレクチャー」の実施［10メニュー］ 【ア】はっけん広場における学校団体等を対象とした「はっけんプログラム」の実施［6メニュー］ 【イ】「ポケット学芸員」による多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】展示解説器（音声ガイド）を利用した多言語解説サービスの運用・検証・改善・拡充 【イ】総合展示解説書「ビジュアル北海道」の検証と、ワークブック、新しい展示解説書の作成検討 【イ】総合展示室における子ども向け展示解説の検討 【イ】ウェブサイト内「はくぶつかんであそぼう！子どものページ」の内容検討・更新 【イ】視覚障がい者向け「さわれる博物館キット」の運用・検証・改善・拡充 【イ】オンライン事業「おうちミュージアム」の運用・検証・改善・拡充
	⑶　はっけん広場の運営
	【ア】解説員によるはっけん広場の展示解説［常時］ 【ア】【イ】「はっけんイベント」の実施［年間7メニュー］ 【イ】「はっけんキット」の運用［41メニュー］ 【ウ】学校教育用補助教材の貸出と開発の推進

【重点計画】

○「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に関わる教育普及事業のあり方の具体的取組の検討

2022 年度・2023 年度は、文化庁による文化観光拠点施設機能強化事業に基づく拠点計画のなかで、多言語による解説サービスの拡充等についても検討した。2022 年度は、拠点計画が不採択となったが、2023 年度は採択された。

【一般計画】

⑴ 魅力あるイベントの充実

①総合展示室における利用者への対応（案内・誘導・解説・レファレンス等）

総合展示や展示資料の詳しい内容を知りたいという来館者の質問に速やかに回答するための情報窓口として、総合展示室内の 1 階と 2 階の交流ゾーンに設置している。

2022 年度総合展示室における利用者対応件数　9,430 件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1階	案内・誘導	88	156	113	503	1,324	893	109	95	57	45	61	83	3,527
	展示解説	8	18	34	26	52	67	34	23	9	25	8	9	313
	ご意見等	7	2	9	17	11	6	2	2	1	1	0	13	71
	計	103	176	156	546	1,387	966	145	120	67	71	69	105	3,911
2階	案内・誘導	135	190	171	495	1,723	1,729	127	155	48	51	80	108	5,012
	展示解説	19	38	51	50	50	63	58	21	11	3	7	16	387
	ご意見等	0	3	6	19	10	19	2	6	3	32	3	17	120
	計	154	231	228	564	1,783	1,811	187	182	62	86	90	141	5,519
合計	案内・誘導	223	346	284	998	3,047	2,622	236	250	105	96	141	191	8,539
	展示解説	27	56	85	76	102	130	92	44	20	28	15	25	700
	ご意見等	7	5	15	36	21	25	4	8	4	33	3	30	191
	計	257	407	384	1,110	3,170	2,777	332	302	129	157	159	246	9,430

2023 年度総合展示室における利用者対応件数　6,539 件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1階	案内・誘導	96	188	161	263	507	856	148	47	45	47	41	42	2,441
	展示解説	17	23	38	9	17	31	11	4	11	3	11	19	194
	ご意見等	2	8	8	12	17	36	3	3	1	1	0	1	92
	計	115	219	207	284	541	923	162	54	57	51	52	62	2,727
2階	案内・誘導	133	183	181	351	791	1,273	192	80	49	52	44	89	3,418
	展示解説	32	23	22	44	17	44	18	24	16	10	4	38	292
	ご意見等	5	8	7	12	18	31	4	6	2	4	0	5	102
	計	170	214	210	407	826	1,348	214	110	67	66	48	132	3,812
合計	案内・誘導	229	371	342	614	1,298	2,129	340	127	94	99	85	131	5,859
	展示解説	49	46	60	53	34	75	29	28	27	13	15	57	486
	ご意見等	7	16	15	24	35	67	7	9	3	5	0	6	194
	計	285	433	417	691	1,367	2,271	376	164	124	117	100	194	6,539

②祝休日における職員の利用者対応

祝休日は利用者のニーズに応える開館日とし、学芸職員・解説員を総合展示室等に配置し、利用者サービスを行った。

③総合展示室等におけるイベント

総合展示室では、主に祝日のイベントして、当館職員と交流ができる「学芸員ハローデスク」の設置や、「ミュージアムトーク」（学芸職員が展示室内で 30 分程度解説を行うイベント）、「ハンズオン」（普段は触ることのできない資料に特別に触ることができるコーナー）、「ちゃれんがラリー」（展示室内に関する簡単な問題に答えながら、スタンプを集めるクイズラリー）など、来館者が気軽に参加できるイベントを随時行っている。

2022 年度・2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、開館日に実施を予定していたハイライツトアー（総合展示の見どころを 1 時間程度で説明する展示解説）のほか、ちゃれんがラリー、ハンズオン、ミュージアムトークなどの総合展示室内におけるイベントは休止したが、2023 年度には企画テーマ展に関連したイベントとして、特別展示室内でのミュージアムトークを再開した。

2022 年度・2023 年度総合展示室におけるイベント参加者数　0 名

2022 年度・2023 年度ハンズオン内訳　0 件、0 名

※2022 年度・2023 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため総合展示室におけるイベントは通年休止。

2022 年度・2023 年度ミュージアムトーク内訳　4 件、125 名

開催日	テーマ	開催場所	担当	参加者数
2月11日（日・祝）	「ロッペン鳥」ってどんな鳥	特別展示室	表渓太	20名
2月12日（月・振）	冬山造材を支えた技術ー馬追いの道具からー	特別展示室	青柳かつら	23名
2月23日（金・祝）	モノから見るアイヌ文化ー耳飾りのいろいろー	特別展示室	亀丸由紀子	36名
3月20日（水・祝）	「すまい」を彩るタイル	特別展示室	鈴木明世	46名

④普及行事と特別イベント

普及行事は、当館所蔵の資料、学芸員の調査研究、総合展示などの内容をより深めていただくことを目的とし、受講者の参加体験に重きをおく「ちゃれんがワークショップ」「子どもワークショップ」「自然観察会」や、学芸職員による講話を中心とする「ミュージアムカレッジ」「アイヌ語講座」「古文書講座」などを開催している。また、特別イベントとしては、「北海道ジオパークまつり」などの大型体験イベントや、文化の日に開催するミュージアムコンサート、祝日の天気の良い日に開催する「屋上スカイビュー特別開放」などを実施している。2022 年度は 50 件の普及行事・特別イベントを実施し、2023 年度は 73 件の実施となった。

2022 年度普及行事・特別イベント実施件数・参加者数　50 件、1,994 名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施件数	参加者数
普及行事	自然観察会	22	0	20	0	0	11	0	0	0	0	0	16	4	69
	ちゃれんがワークショップ	0	0	7	0	0	0	0	0	6	0	0	0	2	13
	子どもワークショップ	0	9	0	15	46	17	9	36	19	40	0	20	12	211
	講演会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ミュージアムカレッジ	33	28	0	0	0	27	0	113	61	78	32	66	12	438
	古文書講座	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	115	89	8	232
	アイヌ語講座	0	0	0	0	0	0	0	0	59	57	0	0	4	116
特別イベント		0	18	623	155	32	0	67	0	0	20	0	0	8	915
実施件数		2	3	4	3	5	3	2	4	6	7	5	6	50	
参加者数		55	55	650	170	78	55	76	149	145	223	147	191		1,994

2023 年度普及行事・特別イベント実施件数・参加者数　73 件、2,198 名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	実施件数	参加者数
普及行事	自然観察会	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	3	52
	ちゃれんがワークショップ	0	0	7	0	0	0	0	10	10	0	0	0	3	27
	子どもワークショップ	0	0	0	37	20	0	0	26	19	36	19	17	10	174
	講演会	0	62	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	2	84
	ミュージアムカレッジ	23	55	16	76	63	68	32	0	0	7	0	0	11	340
	古文書講座	0	29	14	29	15	28	15	13	26	72	97	25	20	363
	アイヌ語講座	4	3	4	3	0	0	5	6	5	6	5	5	10	46
	地学講座	0	0	0	0	0	0	0	33	32	32	28	0	4	125
特別イベント		19	117	422	0	214	127	68	0	0	20	0	0	12	987
実施件数		4	8	6	7	6	5	5	7	6	8	7	4	73	
参加者数		79	266	463	145	312	223	120	110	92	173	149	66		2,198

2022 年度普及行事・特別イベント内訳　50 件（実施 50 件、中止 1 件）

開催日	種別	行事名	担当・講師	参加者数
4月9日	自然観察会	エゾアカガエルのラブコールを聴こう	水島未記・堀繁久・表渓太、自然ふれあい交流館スタッフ	22名
4月16日	ミュージアムカレッジ	学芸員が語る！第１９回企画テーマ展の見どころ	圓谷昂史・尾曲香織・久保見幸	33名
5月5日	特別イベント	石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！	圓谷昂史・久保見幸、北海道化石会会員	18名
5月15日	子どもワークショップ	アンモナイト折り紙で学ぶ　生物の「かたち」の不思議	水島未記・圓谷昂史・久保見幸	9名
5月29日	ミュージアムカレッジ	じっくり聴こう！アイヌの音楽	甲地利恵	28名
6月12日	ちゃれんがワークショップ	北海道の林業と建築の道具ースケッチをしてみよう！ー	青柳かつら・鈴木明世	7名
6月18日	自然観察会	初夏の森で花をさがそう（北海道フラワーソン連携企画）	水島未記・堀繁久・表渓太・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	20名
6月25日	特別イベント	北海道ジオパークまつり2022（１日目）	道内ジオパーク関係者	222名
6月26日	特別イベント	北海道ジオパークまつり2022（２日目）	道内ジオパーク関係者	401名
7月10日	子どもワークショップ	小さな野球盤づくり	舟山直治・尾曲香織	15名
7月23日	特別イベント	丸山宗利氏講演会「世界の果てに昆虫を探しに」	丸山宗利氏（九州大学）	80名
7月24日	特別イベント	子ども昆虫相談室	丸山宗利氏（九州大学）、大原昌宏氏（北海道大学）、堀繁久	75名
8月7日	子どもワークショップ	アイヌ音楽　うたって・おどって・ならして	スルク＆トノト、甲地利恵	17名
8月13日	特別イベント	夏休みワークショップ「切り絵で立体昆虫をつくろう！」	佐藤隆之氏（切り絵作家）	32名
8月14日	子どもワークショップ	羊毛フェルトの昆虫ストラップ	会田理人・堀繁久	22名
8月20日	子どもワークショップ	草原の主・トノサマバッタをさがそう	水島未記・堀繁久・表渓太・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	【中止】
8月28日	子どもワークショップ	やってみよう、ステンシル！	会田理人	7名
9月18日	子どもワークショップ	糸電話・風船電話で、もしもし　コンニチハ	会田理人	17名
9月24日	自然観察会	木の実・草の実の不思議をさがそう	水島未記・表渓太、自然ふれあい交流館スタッフ	11名

9月25日	ミュージアムカレッジ	「民族音楽学」入門	甲地利恵	27名
10月16日	子どもワークショップ	親子で探検！森のコレクションをつくろう	鈴木あすみ・表渓太・久保見幸・櫻井万里子	9名
10月30日	特別イベント	アイヌ音楽ライブ　マレウレウコンサート	MAREWREW	67名
11月6日	ミュージアムカレッジ	久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く①「人と学問／久保寺逸彦回想談を聞く」	佐々木利和・大谷洋一	42名
11月20日	ミュージアムカレッジ	インターネットを使ったアイヌ語学習	吉川佳見	10名
11月26日	子どもワークショップ	稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！	舟山直治・表渓太・池田貴夫	36名
11月27日	ミュージアムカレッジ	久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く②「1935年北海道・サハリン調査とその時代」	小川正人	61名
12月4日	ミュージアムカレッジ	久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く③「久保寺逸彦『アイヌ語辞典稿』と『神謡・聖伝の研究』」	遠藤志保	39名
12月10日	子どもワークショップ	北広島でみつかった貝の化石で標本をつくろう！	圓谷昂史・久保見幸・成田敦史、畠誠氏（北広島市エコミュージアムセンター知新の駅）	19名
12月11日ほか	アイヌ語講座	アイヌ語講座（全４回） ※①12月11日、②12月25日、③1月8日、④1月22日に実施（各回参加者①29名、②30名、③29名、④28名）	遠藤志保・吉川佳見	116名
12月17日	ミュージアムカレッジ	アイヌの英雄叙事詩を聞く―うたと言葉	奥田統己	22名
12月18日	ちゃれんがワークショップ	博物館で新年祈願！？日本の画材で絵馬づくり	田中祐未・三浦泰之・水島未記	6名
1月14日	ミュージアムカレッジ	ハレの日の装い	亀丸由紀子・尾曲香織	10名
1月15日	ミュージアムカレッジ	映画上映会　あるカメラ愛好家が撮影した戦前・戦後の札幌	三浦泰之	68名
1月21日	子どもワークショップ	博物館のなかで宝さがし	舟山直治・池田貴夫	40名
1月28日ほか	古文書講座	はじめての古文書講座（全８回） ※①1月28日、②2月4日、③2月11日、④2月18日、⑤2月25日、⑥3月4日、⑦3月11日、⑧3月25日に実施（各回参加者①28名、②27名、③30名、④29名、⑤29名、⑥29名、⑦30名、⑧30名）	世話人：三浦泰之・東俊佑	232名
1月29日	特別イベント	博物館のウラ側を見てみよう	博物館研究グループ・山際秀紀	20名
2月12日	ミュージアムカレッジ	北海道のおける養蚕業とそれにまつわる建物のかたち	鈴木明世	32名
3月4日	自然観察会	動物の痕跡をさがそう	表渓太・堀繁久・水島未記・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	16名
3月5日	ミュージアムカレッジ	ウトナイ湖・勇払原野の野鳥と自然	稲葉一将氏（日本野鳥の会　ウトナイ湖サンクチュアリ）、江崎逸郎氏（苫小牧市美術博物館）	66名
3月19日	子どもワークショップ	巨大すごろくでスリル満点！わたり鳥の旅	表渓太	20名

2023年度普及行事・特別イベント内訳　73件（実施73件、中止2件）

開催日	種別	行事名	担当・講師	参加者数
4月15日	自然観察会	エゾアカガエルのラブコールを聴こう	水島未記・堀繁久・表渓太、小川由真（自然ふれあい交流館）	33名
4月16日	特別イベント	博物館のウラ側を見てみよう	鈴木琢也・櫻井万里子・高橋佳久・鈴木明世・鈴木あすみ・山際秀紀	19名
4月22日ほか	アイヌ語講座	アイヌ語ブロックでアイヌ語を学ぼう（全4回） ※①4月22日、②5月13日、③6月3日、④7月1日に実施（各回参加者①4名、②3名、③4名、④3名）	吉川佳見	14名
4月29日	ミュージアムカレッジ	馬が湿地ではいた靴	山際秀紀	23名
5月4日	特別イベント	上映会 ショートムービー「建物に描かれた想い」全5回	鈴木明世	96名
5月5日	特別イベント	石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！	圓谷昂史・久保見幸・成田敦史、北海道化石会	21名
5月6日ほか	古文書講座	ちゃれんが古文書講座(全12回） ※①4月22日、②5月27日、③6月17日、④7月8日、⑤7月29日、⑥8月12日、⑦9月9日、⑧9月30日、⑨10月21日、⑩11月11日、⑪月日、⑫12月23日に実施（各回参加者①15名、②14名、③14名、④14名、⑤15名、⑥15名、⑦14名、⑧14名、⑨15名、⑩13名、⑪12名、⑫14名）	三浦泰之・東 俊佑	169名
5月14日	ミュージアムカレッジ	札幌にもいた！？カワウソのお話	山田伸一氏（札幌学院大学）、表渓太	29名
5月21日	講演会	湿原の自然誌と変遷	冨士田裕子氏（北海道大学）	62名
5月28日	ミュージアムカレッジ	じっくり聴こう！アイヌの音楽「神謡」の旋律	甲地利恵	26名
6月4日	ちゃれんがワークショップ	北海道の林業と建築の道具－スケッチをしてみよう！－	青柳かつら・鈴木明世	7名
6月11日	ミュージアムカレッジ	北海道博物館の「建物」の魅力	鈴木明世	16名
6月24日	特別イベント	北海道ジオパークまつり2023（1日目）	道内ジオパーク関係者	229名
6月25日	特別イベント	北海道ジオパークまつり2023（2日目）	道内ジオパーク関係者	193名
7月9日	ミュージアムカレッジ	じっくり聴こう！アイヌの音楽 合唱のいろいろ	甲地利恵	22名

7月15日	ミュージアムカレッジ	「開拓」とアイヌ民族の土地	大坂拓	54名
7月23日	子どもワークショップ	小さな野球盤づくり	舟山直治・尾曲香織	19名
7月30日	子どもワークショップ	アイヌ音楽うたって・おどって・ならして	甲地利恵、スルク＆トノト	18名
8月5日	特別イベント	縄文スイーツをつくろう！	ドニワ部	102名
8月6日	子どもワークショップ	翼竜カイトを飛ばそう	表渓太・圓谷昂史・久保見幸・成田敦史	20名
8月19日	ミュージアムカレッジ	世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」フォーラム	阿部千春氏、道内世界遺産関係自治体の担当職員	63名
8月19日	子どもワークショップ	バッタ・コオロギ・キリギリスをさがそう	水島未記・堀繁久・表渓太、自然ふれあい交流館スタッフ	【中止】
8月26日	特別イベント	おしゃれメガネをつくろう！	ドニワ部	46名
8月27日	特別イベント	遠軽の黒曜石で石器づくりワークショップ	ドニワ部	66名
9月3日	ミュージアムカレッジ	「北の縄文世界と国宝」展ができるまで	鈴木琢也・鈴木あすみ・尾曲香織	68名
9月10日	特別イベント	手のひらサイズの土偶or縄文土器をつくろう！	ドニワ部	60名
9月16日	特別イベント	「北の縄文世界」を知る	藤原秀樹氏（北海道教育庁 生涯学習推進局 文化財・博物館課）、村本周三氏（北海道環境生活部文化局文化振興課 縄文世界遺産推進室）、鈴木琢也	67名
9月30日	自然観察会	木の実・草の実のヒミツをさぐろう	堀繁久・水島未記・表渓太、自然ふれあい交流館スタッフ	【中止】
10月7日	ミュージアムカレッジ	アイヌ語アーカイブを使ったアイヌ語学習	吉川佳見	6名
10月15日	ミュージアムカレッジ	カラフトナヨロ文書とアイヌ乙名の両属をめぐって	東俊佑	26名
10月28日ほか	アイヌ語講座	アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む」全6回 ※①10月28日、②11月25日、③12月23日、④1月20日、⑤2月17日、⑥3月16日に実施（各回参加者①5名、②6名、③5名、④6名、⑤5名、⑥5名）	遠藤志保・吉川佳見	32名
10月29日	特別イベント	アイヌ音楽ライブ　マレウレウコンサート	マレウレウ	68名
11月3日	講演会	アイヌの隣人たちーウイルタのことばを学ぶ	山田祥子氏（室蘭工業大学）	22名
11月5日	子どもワークショップ	親子で探検！森のコレクションをつくろう	鈴木あすみ・表渓太・久保見幸・櫻井万里子	16名
11月12日	子どもワークショップ	稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！	池田貴夫・舟山直治・尾曲香織・表渓太	10名
11月19日ほか	地学講座	ちゃれんが地学講座（全4回） ※①11月19日、②12月10日、③1月21日、④2月11日に実施（各回参加者①33名、②32名、③32名、④28名）	成田敦史・圓谷昂史・久保見幸	125名
11月26日	ちゃれんがワークショップ	恐竜やアンモナイトがいた頃の岩石を使って、地質図をつくってみよう！	久保見幸・成田敦史	10名
12月16日	子どもワークショップ	化石を研究してみよう！	成田敦史・圓谷昂史・久保見幸	19名
12月17日	ちゃれんがワークショップ	博物館で新年祈願!? 日本の画材で絵馬づくり	田中祐未・三浦泰之・水島未記、石田真理子氏（日本画指導）	10名
1月7日	ミュージアムカレッジ	ハレの日の装い	亀丸由紀子・尾曲香織	7名
1月13日ほか	古文書講座	はじめての古文書講座（全8回） ※①1月13日、②1月20日、③1月27日、④2月3日、⑤2月10日、⑥2月17日、⑦2月24日、⑧3月2日に実施（各回参加者①24名、②23名、③25名、④23名、⑤25名、⑥24名、⑦25名、⑧25名）	三浦泰之・東 俊佑	194名
1月14日	特別イベント	博物館のウラ側を見てみよう	鈴木琢也・櫻井万里子・高橋佳久・鈴木明世・鈴木あすみ	20名
1月28日	子どもワークショップ	博物館のなかで宝さがし	舟山直治・池田貴夫	36名
2月25日	子どもワークショップ	ヒツジの毛にふれてみよう①　初めての草木染め	会田理人	19名
3月2日	自然観察会	動物の足あとを探そう	堀繁久・水島未記・表渓太、自然ふれあい交流館スタッフ	19名
3月17日	子どもワークショップ	ヒツジの毛にふれてみよう②　フェルトの雪だるまストラップ	会田理人	17名

2022年度イベント参加者数（総合展示室等におけるイベント＋普及行事＋特別イベント）　1,994名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
総合展示室等イベント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
普及行事	55	37	27	15	46	55	9	149	145	203	147	191	1,079	2,358	
特別イベント	0	18	623	155	32	0	67	0	0	20	0	0	915	1,805	
合計	55	55	650	170	78	55	76	149	145	223	147	191	1,994	4,163	5.20%

2023 年度イベント参加者数（総合展示室等におけるイベント＋普及行事＋特別イベント）　2, 198 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
総合展示室等イベント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
普及行事	60	149	41	145	98	96	52	110	92	153	149	66	1,211	3,569	
特別イベント	19	117	422	0	214	127	68	0	0	20	0	0	987	2,792	
合計	79	266	463	145	312	223	120	110	92	173	149	66	2,198	6,361	7.95%

※イベント参加者数（2020～2024 年度）の目標値：80,000 人。「累計」「達成率」は第 2 期中期目標・計画期（2020～2024 年度）における総計。

(2) 社会的ニーズに合わせた教育普及事業の充実

①団体利用件数・利用者数

2022 年度団体利用件数・利用者数

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予約団体	学校団体	件数	6	16	54	17	16	117	46	10	3	3	3	6	297
		人数	537	1,303	4,555	833	1,147	7,362	2,996	419	97	354	157	134	19,894
	一般団体	件数	1	3	4	6	11	10	22	13	9	2	14	4	99
		人数	11	27	75	112	263	319	370	262	202	47	172	194	2,054
	福祉団体	件数	11	6	6	25	40	24	3	18	4	12	3	17	169
		人数	64	97	108	386	435	281	36	229	26	137	40	190	2,029
	その他団体（利用料金免除）	件数	6	0	2	8	1	2	8	2	5	3	4	4	45
		人数	19	0	20	91	1	14	66	11	27	8	31	7	295
	合計	件数	24	25	66	56	68	153	79	43	21	20	24	31	610
		人数	631	1,427	4,758	1,422	1,846	7,976	3,468	921	352	546	400	525	24,272
総合展示室		件数	24	25	66	56	68	153	79	43	21	20	24	31	610
		人数	631	1,427	4,758	1,422	1,845	7,976	3,468	921	352	546	400	525	24,271
グループレクチャー		件数	0	8	17	7	6	42	21	7	3	2	3	3	119
		人数	0	602	1,416	316	364	2,897	1,065	287	128	88	160	49	7,372
はっけんプログラム		件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講堂使用		件数	0	7	14	7	7	41	18	5	3	2	3	3	110

2023 年度団体利用件数・利用者数

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予約団体	学校団体	件数	1	22	43	25	19	97	43	15	4	2	3	4	278
		人数	15	1,815	3,317	730	1,193	6,411	2,800	733	76	64	29	469	17,652
	一般団体	件数	9	14	20	17	29	35	29	13	5	9	11	6	197
		人数	117	275	345	296	496	766	617	182	101	82	129	42	3,448
	福祉団体	件数	7	4	4	8	31	21	8	18	13	15	3	19	151
		人数	80	37	87	95	376	253	124	237	126	201	26	229	1,871
	その他団体（利用料金免除）	件数	3	3	5	4	10	5	7	5	3	1	5	1	52
		人数	7	10	26	76	43	20	54	61	13	7	17	5	339
	合計	件数	20	43	72	54	89	158	87	51	25	27	22	30	678
		人数	219	2,137	3,775	1,197	2,108	7,450	3,595	1,213	316	354	201	745	23,310
総合展示室		件数	34	55	78	76	126	172	89	53	27	28	22	33	793
		人数	261	2,170	3,785	1,294	2,206	7,643	3,597	1,231	328	355	201	754	23,825
グループレクチャー		件数	2	14	17	13	8	33	19	9	5	0	2	1	123
		人数	22	870	882	409	213	2,303	1,026	370	98	0	25	200	6,418
はっけんプログラム		件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講堂使用		件数	2	13	14	13	8	45	18	10	3	1	1	1	129

※2022 年度・2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためはっけんプログラムは通年中止

※グループレクチャー実施回数は団体ごとに 1 メニュー1 回として集計（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため 1 メニューを複数回に分けて実施した場合も 1 回とした）。

2022 年度学校団体利用件数・利用者数

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小学校	団体件数		0	1	21	6	10	90	28	4	1	1	1	2	165
	人数	引率	0	5	91	22	64	417	129	18	4	5	3	9	767
		被引率	0	51	1,010	184	873	6,110	1,702	189	75	72	10	25	10,301
		合計	0	56	1,101	206	937	6,527	1,831	207	79	77	13	34	11,068
中学校	団体件数		1	13	21	5	2	1	8	0	0	0	0	0	51
	人数	引率	0	108	153	36	11	2	31	0	0	0	0	0	341
		被引率	14	1,088	2,050	325	102	16	387	0	0	0	0	0	3,982
		合計	14	1,196	2,203	361	113	18	418	0	0	0	0	0	4,323
高等学校	団体件数		5	2	10	3	0	6	8	3	0	2	1	2	42
	人数	引率	38	4	91	38	0	37	56	13	0	24	11	7	319
		被引率	485	47	1,160	145	0	437	657	150	0	253	118	31	3,483
		合計	523	51	1,251	183	0	474	713	163	0	277	129	38	3,802
幼稚園 保育園	団体件数		0	0	0	2	3	15	0	1	1	0	1	2	25
	人数	引率	0	0	0	9	15	62	0	2	2	0	3	10	103
		被引率	0	0	0	50	58	326	0	12	13	0	12	52	523
		合計	0	0	0	59	73	388	0	14	15	0	15	62	626
特別支援 学校・学級	団体件数		0	0	0	1	0	2	2	2	0	0	0	0	7
	人数	引率	0	0	0	5	0	8	9	8	0	0	0	0	30
		被引率	0	0	0	19	0	30	25	27	0	0	0	0	101
		合計	0	0	0	24	0	38	34	35	0	0	0	0	131
合計	団体件数		6	16	52	17	15	114	46	10	2	3	3	6	290
	人数	引率	38	117	335	110	90	526	225	41	6	29	17	26	1,560
		被引率	499	1,186	4,220	723	1,033	6,919	2,771	378	88	325	140	108	18,390
		合計	537	1,303	4,555	833	1,123	7,445	2,996	419	94	354	157	134	19,950

2023 年度学校団体利用件数・利用者数

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小学校	団体件数		1	3	21	8	12	89	30	5	0	1	0	1	171
	人数	引率	4	30	99	29	66	419	133	20	0	3	0	3	806
		被引率	11	252	897	184	1,030	5,372	1,894	263	0	49	0	11	9,963
		合計	15	282	996	213	1,096	5,791	2,027	283	0	52	0	14	10,769
中学校	団体件数		0	16	16	12	2	1	5	1	1	0	0	0	54
	人数	引率	0	99	129	42	28	5	21	4	2	0	0	0	330
		被引率	0	1,065	1,760	390	5	23	194	9	36	0	0	0	3,482
		合計	0	1,164	1,889	432	33	28	215	13	38	0	0	0	3,812
高等学校	団体件数		0	3	5	3	1	5	7	5	1	0	3	3	36
	人数	引率	0	27	32	9	1	33	37	28	1	0	3	38	209
		被引率	0	342	339	44	10	516	497	330	13	0	26	417	2,534
		合計	0	369	371	53	11	549	534	358	14	0	29	455	2,743
幼稚園 保育園	団体件数		0	0	1	2	1	0	1	3	1	1	0	0	10
	人数	引率	0	0	8	6	5	0	3	9	2	2	0	0	35
		被引率	0	0	53	26	24	0	21	57	9	10	0	0	200
		合計	0	0	61	32	29	0	24	66	11	12	0	0	235
特別支援 学校・学級	団体件数		0	0	0	0	3	1	0	1	1	0	0	0	6
	人数	引率	0	0	0	0	11	15	0	4	3	0	0	0	33
		被引率	0	0	0	0	13	28	0	9	10	0	0	0	60
		合計	0	0	0	0	24	43	0	13	13	0	0	0	93
合計	団体件数		1	22	43	25	19	96	43	15	4	2	3	4	277
	人数	引率	4	156	268	86	111	472	194	65	8	5	3	41	1,413
		被引率	11	1,659	3,049	644	1,082	5,939	2,606	668	68	59	26	428	16,239
		合計	15	1,815	3,317	730	1,193	6,411	2,800	733	76	64	29	469	17,652

②団体向け教育プログラム

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、団体向けの教育プログラムのうち、体験型プログラムである「はっけんプログラム」は前年度に引き続き中止した。講話型プログラムである「グループレクチャー」は所要時間15分（＋消毒・入替時間15分）・定員80名で前年度と同様に実施した。団体向け教育プログラムの検証・運用見直しは、新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いてから改めて行うこととした。

2022年度グループレクチャー実施件数・利用者数　119件7,372名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数		0	8	17	7	6	42	21	7	3	2	3	3	119
人数		0	602	1,416	316	364	2,897	1,065	287	128	88	160	49	7,372
メニュー別実施件数	①総合展示ダイジェスト	0	4	7	3	1	14	10	1	1	1	1	49	92
	②北海道の生き物	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	1	0	5
	③北海道の化石	0	0	2	1	0	1	0	2	0	0	1	0	7
	④アイヌ文化の世界	0	1	3	2	1	18	4	1	0	0	0	0	30
	⑤北海道の歴史	0	1	2	1	3	1	3	1	1	0	0	0	13
	⑥北海道のくらし	0	0	2	0	1	4	3	3	1	1	1	0	16
	⑦北海道の産業	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	⑧博物館・学芸員の仕事	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
	⑨北海道博物館のあらまし	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	⑩その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

2023年度グループレクチャー実施件数・利用者数　123件6,418名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数		2	14	17	13	8	33	19	9	5	0	2	1	123
人数		22	870	882	409	213	2,303	1,026	370	98	0	25	200	6,418
メニュー別実施件数	①総合展示ダイジェスト	0	7	7	1	4	15	9	4	1	0	1	0	49
	②北海道の生き物	0	0	2	1	0	0	2	0	1	0	0	0	6
	③北海道の化石	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	5
	④アイヌ文化の世界	1	2	0	2	3	10	2	2	2	0	1	1	26
	⑤北海道の歴史	0	1	1	2	0	2	0	1	1	0	0	0	8
	⑥北海道のくらし	0	2	4	2	0	5	3	0	0	0	0	0	16
	⑦北海道の産業	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	⑧博物館・学芸員の仕事	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	⑨北海道博物館のあらまし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑩その他	1	1	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	8

※グループレクチャー実施回数は団体ごとに1メニュー1回として集計。（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため1メニューを複数回に分けて実施した場合も1回とした）

2022年度・2023年度はっけんプログラム実施件数・利用者数　0件、0名

※2022・2023年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためはっけんプログラムを通年中止した。

③補助教材の開発、検証・運用見直し、貸出

当館では、学校団体をはじめとする各種団体や、障害のある方、外国語を母語とする方など、博物館を訪れるすべての人びとが当館の資料や展示をより深く理解することができるよう、社会的ニーズに合わせた教材の開発に取り組んでいる。2022年度には「おうちミュージアム」提供コンテンツを2件開発し、ウェブサイトにて公開した。また、総合展示室内の解説文の一部（全部で67コンテンツ）を各国語（日本語、英語、中国語（中国）、中国語（台湾）、韓国語、ロシア語）で読み上げる機器を総合案内で貸し出している（1回300円：2024年4月現在）。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため貸出を休止していたが、2022年度2月から再開した。年度計画で予定していた、既存補助教材の検証、運用見直しは、新型コロナウイルス感染症の感染収束後の利用者サービスのあり方の検討を見据え、改めて考え直すこととした。

2022 年度・2023 年度補助教材開発件数　2 件

種別	種類	名称	公開日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	昆虫100万種クイズ（第36弾）	2022年7月19日
開発	おうちミュージアム提供コンテンツ	立体昆虫をおうちでつくってみよう！（第37弾）	2022年9月2日

※「おうちミュージアム」については 52 ページを参照。

2022 年度補助教材貸出件数・利用件数　91 件

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
音声ガイド（展示解説器）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	46	91

2023 年度補助教材貸出件数・利用件数　458 件

種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
音声ガイド（展示解説器）	51	32	38	81	55	35	31	14	33	18	43	27	458

(3) はっけん広場の運営

はっけん広場は、体験型教材「はっけんキット」を自由に手に取って遊んだり体験したりできる部屋で、期間ごとにテーマを変えて、簡単なものづくりの体験ができる「はっけんイベント」を開催している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため休止していたが、2023 年 2 月から土日のはっけんイベントに限り、事前予約制としたうえで再開した。

2022 年度はっけん広場利用者数　102 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
はっけん広場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	55	102	102	0.10%
はっけんキット	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
はっけんイベント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	44	80	80	

2023 年度はっけん広場利用者数　6, 308 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
はっけん広場	140	93	346	625	1,172	984	542	523	383	332	408	760	6,308	6,410	6.41%
はっけんキット	0	0	173	406	783	670	312	365	276	261	321	571	4,138	4,138	
はっけんイベント	129	85	73	111	109	146	116	120	63	19	99	144	1,214	1,294	

※はっけん広場利用者数（5 年間）の目標値 : 100,000 人

2022 年度はっけんイベント開催内訳　1 件　参加者数 80 名

開催日	行事名	開催日数	参加者数
2月4日（土）～3月26日（日）の土曜日・日曜日（祝日を除く）	ふわふわ羊毛ボールをつくろう	15日間	80名

2023年度はっけんイベント開催内訳　7件　参加者数1, 214名

開催日	行事名	開催日数	参加者数
4月～6月11日（日）の土曜日・日曜日（祝日を除く）	飛ぶフクロウをつくろう！	21日間	255名
6月17日（土）～7月の土曜日・日曜日・祝日	七夕カードをつくろう	19日間	143名
8月～9月の土曜日・日曜日・祝日	くるくるピクチャー大作戦！　縄文編	17日間	255名
10～11月の土曜日・日曜日・祝日	作ってならそう「ゲロゲロガエル」	16日間	236名
12月の土曜日・日曜日・祝日	わらで作るミニミニお正月リース	8日間	63名
令和6年1月6日（土）～2月4日（日）の土曜日・日曜日・祝日	羊毛ボールでボンバンヨーヨーだよー	10日間	46名
2月10日（土）～3月31日（日）の土曜日・日曜日・祝日	カラフル経木で「あじろコースター」を作ろう	15日間	216名

(4) その他ーおうちミュージアム

2020（令和2）年の新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、子どもたちが家庭で楽しみながら学ぶための素材として、インターネットでさまざまな学習コンテンツをダウンロードできるウェブサイト「おうちミュージアム」を公開しました。また、道内外の博物館等とロゴを共有し、「おうちミュージアム」の活動に参加する博物館等の情報をウェブサイトに集約しています。この取組は、継続しており、2022年度には新たに5機関が加わった（2024年3月31日現在250機関）。

当館の「おうちミュージアム」提供の追加コンテンツ（2022・2023年度）

No.	コンテンツ名	No.	コンテンツ名
第36弾	昆虫100万種クイズ	第37弾	立体昆虫をおうちでつくってみよう！

6　ミュージアムエデュケーター機能の強化

当館では、学校教育、社会教育との連携事業を重要な事業と位置づけています。そのため、博物館を学校教育や生涯学習などの場においてより効果的に活用していただくため、地域の博物館や学校などのニーズ把握に努めながら、事業を進めています。あわせて、学校団体（学校教職員）向けの教材の開発、学校団体の受入体制の整備・強化、学校教職員への研修の機会提供、個々の教育活動を担う学芸職員・解説員の専門的知識及び技能の向上などにより、博物館全体のミュージアムエデュケーター機能の強化に努めています。こうした取り組みは、学芸部道民サービスグループが中心となって進めています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【ウ】新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討
一般	(1) 魅力あるイベントの充実
	【ア】文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣の調整［都度実施］ 【ア】博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討 【ア】解説員研修の実施［都度実施］ 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員向けの研修会の実施 ・「教員のための博物館の日」への参加［年間１回、8月、対象：学校教員等］ ・「博物館教育プログラム研修会」の実施［年間1回、１月、対象：学校教員等］ 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員、及び旅行会社向け下見対応の実施［年間30件程度］ 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための「学校利用ガイド」の編集・刊行［年１回］ 【イ】学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充

年度計画（2023 年度）

重点	【ウ】新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討
一般	(1) 魅力あるイベントの充実
	【ア】文化庁や北海道博物館協会（およびそのブロック組織）等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会への職員派遣の調整［都度実施］ 【ア】博物館職員の教育普及活動向上に必要な館内研修会等の企画の検討 【ア】解説員研修の実施［都度実施］ 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員向けの研修会の実施 ・「教員のための博物館の日」への参加［年間１回、8月、対象：学校教員等］ ・「博物館教育プログラム研修会」の実施［年間1回、１月、対象：学校教員等］ 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための学校教職員、及び旅行会社向け下見対応の実施［年間30件程度］ 【イ】学校団体の博物館利用を促進するための「学校利用ガイド」の編集・刊行［年１回］ 【イ】学校団体向けワークシートの運用・検証・改善・拡充

【重点計画】

〇新学習指導要領を踏まえた小学校、中学校、高等学校、特別支援学校児童・生徒の主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休館や、来館した学校団体への感染防止への対応などにより、具体的な検討を行うことはできなかった。次年度以降、新型コロナウイルス感染症の感染状況が収束し、来館対応が落ち着いた段階で、改めて関係者へのヒアリング等を行いながら検討する。

【一般計画】

(1) 職員のミュージアムエデュケーター養成関連研修会派遣

学芸職員の教育普及に関する理解と資質の向上を目的に、文化庁や北海道博物館協会等において実施されるミュージアムエデュケーター養成関連研修会へ職員を派遣している。また、展示室で利用者と接する職員の専門知識向上を目的として、企画展示などに

関する館職員向けの研修会等を定期的に開催している。2022 年度は、令和 4 年度歴史民俗資料館等専門職員研修会（文化庁主催）に職員 1 名を派遣した。

※詳細は「13　人材育成機能の強化と社会貢献」の 97 ページに掲載。

(2) 職員研修の実施

2022 年度職員研修　実施回数 8 回、実施延べ人数 29 名

研修会名	実際回数	開催日	参加者数（延べ人数）
特別展「あっちこっち湿地」研修	3回	7月13日、14日、15日	解説員11名
企画テーマ展「アイヌのくらし」研修	2回	10月19日、20日	解説員7名
企画テーマ展「アンモナイトと生きる」研修	3回	2月23日、25日、26日	解説員11名

2023 年度職員研修　実施回数 3 回、実施延べ人数 10 名

研修会名	実際回数	開催日	参加者数（延べ人数）
特別展「北の縄文と国宝」研修	3回	7月22日、23日、25日	解説員10名

(3) 学校団体の受入体制

小学校、中学校、高等学校などの学校団体が、現地学習や社会科見学、修学旅行などで当館を利用する際に必要な手順や情報をまとめた『学校利用ガイド』を作成している。学校教職員が見学前に実施する展示室等の「下見」の対応のほか、旅行会社のクルーズコンサルタントや、通訳案内士など、団体利用を仲介する人びとへの対応も、随時行っている。

2022 年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、はっけんプログラムの利用休止、総合展示室における「さわれる展示」の利用休止、感染対策の徹底など、学校団体の利用に際し通常とは異なる対応となったため、2022 年度版『学校利用ガイド』を作成し各学校へ送付することはせず、ウェブサイトにて利用方法を掲示することで対応し、2023 年度には教育プログラム等を見直して、新たな『学校利用ガイド』を作成した。

2022 年度・2023 年度学校利用ガイド作成実績　1 回

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
北海道博物館　学校利用ガイド	2024年2月	A4判、4ページ	（PDFのみ）

2022 年度学校団体等下見対応　129 回、340 人

	札幌市内	江別市	その他道内	道外	合計
幼稚園・保育園	7	0	1	0	8
小学校	42	7	27	0	76
中学校	16	0	2	0	18
高等学校	2	0	0	6	8
特別支援学校・学級	1	0	1	0	2
その他の学校	0	1	3	1	5
学校団体以外	6	0	2	4	12
合計	74	8	36	11	129

2023 年度学校団体等下見対応　100 回、340 人

	札幌市内	江別市	その他道内	道外	合計
幼稚園・保育園	5	0	0	0	5
小学校	24	7	27	0	58
中学校	14	0	4	0	18
高等学校	1	1	1	3	6
特別支援学校・学級	5	0	0	0	5
その他の学校	0	0	0	0	0
学校団体以外	7	0	1	0	8
合計	56	8	33	3	100

(4) 学校教職員向けの博物館研修会

博物館を利用した学習活動への理解促進のため、道内の小・中学校および高等学校の教職員を対象とした研修会を開催している。

全国各地の博物館で学校教職員を対象に開催されている「教員のための博物館の日」の札幌会場として、2022 年度は北海道開拓の村を、2023 年度には北海道同博物館を会場として開催した。

2022 年度博物館研修会　1 回、参加者数 47 名

教員のための博物館の日in札幌					
日　　時	2022年8月2日（火）10:00～17:00	場　所	北海道開拓の村	参加者数	47名
対 応 者	細川健裕・扇谷真知子（一般財団法人北海道歴史文化財団）、遠藤志保・舟山直治				
研修内容	（1）博物館の調査研究ミニ報告（北海道の民俗芸能／北海道博物館のアイヌ語資料／博物館教育） （2）開拓の村ガイドツアー				
開催形式	主催　一般財団法人北海道歴史文化財団（北海道開拓の村） 共催　北海道博物館、国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会、後援　文部科学省、北海道博物館協会				

2023 年度博物館研修会　1 回、参加者数 57 名

教員のための博物館の日in札幌					
日　　時	2023年8月1日（火）10:00～16:00	場　所	北海道博物館・北海道開拓の村	参加者数	57名
対 応 者	表渓太・鈴木あすみ、細川健裕（一般財団法人北海道歴史文化財団）				
研修内容	（1）博物館の教育プログラム （2）開拓の村ガイドツアー （3）文化財の保存と活用				
開催形式	主催　北海道博物館 共催　一般財団法人北海道歴史文化財団（北海道開拓の村）、国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会 後援　文部科学省				

(5) 学校団体向け教材開発と教材貸出

学校団体などでの見学学習の際に、総合展示の学習を効果的に進めるためのワークシート「ちゃれんがワーク」を数種類開発している。また、事前学習やオリジナルワークシートなどの教材作成で利用可能な展示資料などの画像の提供も行っており、ともに、ウェブサイト上にて配信している。

既存ワークシート「ちゃれんがワーク」の検証、新規教材開発は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための対策業務の増大により、2022 年度・2023 年度は行わず、学習指導要領改訂を踏まえ、次年度改めて検討する。学校教育用補助教材（体験用教材）の貸し出しは、ウェブサイトに要領を掲載し、受付を行った。

2022 年度補助教材貸出件数　6 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学校教育用補助教材	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	6

2023 年度補助教材貸出件数　1 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学校教育用補助教材	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

7　施設及び周辺環境の整備

道民とともに歩み、愛される博物館として豊かな時間と空間を提供し続けるために、関係機関と連携を図りながら周辺環境の整備や利用者の安全確保に努めるとともに、記念ホールなどの館内施設の活用を図っています。こうした取組は、総務部総括グループが中心となって進めています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【中期目標・計画／重点①】【⑶】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる具体的取組の検討（※）
一般	⑴ 館内施設の整備と活用
	【ア】特別展の開催に合わせたグッズ販売など博物館の魅力アップの取組に向けた検討 【ア】老朽化した施設・設備の補修、および快適かつ安全な施設利用に向けた検討・取組 【ア】年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に利用できるユニバーサル・ミュージアムをめざすための総合展示室その他館内における施設・設備の整備に向けた検討・取組 【イ】屋上スカイビューの特別開放を実施［年間８回］ 【イ】記念ホールの開放［随時］
	⑵ 周辺環境の整備
	【ア】JR北海道、JR北海道バス、指定管理者等と連携し、アクセス向上に向けた検討・取組 【イ】サインの統一化に向けた検討・取組 【ウ】野外展示の具体化に向けた検討・取組 野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修
	⑶ 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進
	関係機関との連絡会議・協議会への運営・参加

年度計画（2023 年度）

重点	【中期目標・計画／重点①】【⑶】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成30年12月策定）に関わる具体的取組の検討（※）
一般	⑴ 館内施設の整備と活用
	【ア】特別展の開催に合わせたグッズ販売など博物館の魅力アップの取組に向けた検討 【ア】老朽化した施設・設備の補修、および快適かつ安全な施設利用に向けた検討・取組 【ア】年齢、母語、障がいの有無などを問わず快適に利用できるユニバーサル・ミュージアムをめざすための総合展示室その他館内における施設・設備の整備に向けた検討・取組 【イ】屋上スカイビューの特別開放を実施［年間８回］ 【イ】記念ホールの開放［随時］
	⑵ 周辺環境の整備
	【ア】JR北海道、JR北海道バス、指定管理者等と連携し、アクセス向上に向けた検討・取組 【イ】サインの統一化に向けた検討・取組 【ウ】野外展示の具体化に向けた検討・取組 野幌森林公園内の危険木の処理および老朽化した設備の改修
	⑶ 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進
	関係機関との連絡会議・協議会への運営・参加

【重点計画】

○「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（平成 30 年 12 月策定）に関わる具体的取組の実現のため、2022 年度は「野幌森林公園エリア活性化事業」の一環として、収蔵資料のデジタルアーカイブ化や壁画「開拓」のデジタル技術を活用した解説コンテンツ等を制作するなど、博物館の魅力向上に取り組んだ。

「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」
道立自然公園野幌森林公園内にある北海道博物館、北海道開拓の村等の今後のあり方について、北海道環境生活部が2018（平成30）年12月に策定。施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を対象に、歴史、文化、自然を五感で「体感」し、国内外から訪れる多くの人々と交流できる賑わいのある空間として再生をめざすとする。

※「構想」の詳細は122ページに掲載。

【一般計画】

(1) 館内施設の整備と活用

当館は1971（昭和46）年に竣工して以来数度にわたり施設改修や設備の補修を実施しており、その後も利用者の安全確保と利便性向上を目的に、館内設備の補修や周辺環境の整備・充実に取り組んでいる。また、祝休日における屋上スカイビューの特別開放や、特別展開会式などの記念式典や各種イベントに際した記念ホール・講堂・グランドホールなどの館内施設の活用にも取り組んでいる。総合展示に関連したオリジナルグッズについて、指定管理者などと連携しながら、開発に取り組んでいる。

2022年度は、2021年度に制作した建物の魅力を発信するショートムービーの更なる活用を図るためダイジェスト版を制作し、当館ホームページで公開するなど博物館の魅力向上に取り組んだ。また、周辺環境の整備として、公園案内所及び開拓の村の多目的トイレにおける自動ドアへの改修、温水洗浄便座の設置など施設のユニバーサル化を進めた。

2022年度館内施設の活用

施設	実施日または期間	内　容	主催・企画者
講堂・記念ホール	2022年6月25日～6月26日	北海道ジオパークまつり2022	道内ジオパーク関係者
記念ホール	2022年7月23日～8月21日	北海道博物館特別展の生体展示	「世界の昆虫」実行委員会
記念ホール	2022年10月30日	アイヌ音楽ライブ　マレウレウコンサート	北海道博物館
1階ロビー	2023年2月26、3月5日等	さっぽろ路線バス利用促進キャンペーン	札幌市
1階ロビー	2022年8月1日～2023年3月31日	「北海道はゴールデンカムイを応援しています。」ARスタンプラリーに伴うキャラクターカットアウトの展示	Catch Hokkaido実行委員会
グランドホール	2022年4月1日～2023年3月31日	新型コロナウイルス感染対策（利用者検温・手指消毒等）	北海道博物館
1階ロビー	2022年7月15日～10月31日	「さっぽろいきたいキャンペーン」スタンプラリーに伴うスタンプスポットの設置	札幌市国内観光プロモーション実行委員会
1階ロビー	2022年8月11日～2023年1月20日	「LOVE LOVE 北海道 ビンゴスタンプラリー」に伴うスタンプスポットの設置	北海道鉄道活性化協議会

2023年度館内施設の活用

施設	実施日または期間	内　容	主催・企画者
講堂・記念ホール	2023年6月24日～6月25日	北海道ジオパークまつり2023	道内ジオパーク関係者
記念ホール	2023年7月21日	特別展「北の縄文と国宝」開会式	北海道博物館
記念ホール	2023年10月30日	アイヌ音楽ライブ　マレウレウコンサート	北海道博物館
記念ホール	2024年3月22日	百年記念塔広場の新たなモニュメントデザイン表彰式	北海道（文化振興課）
記念ホール	2024年3月27日	北海道地域文化選奨贈呈式	北海道（文化振興課）

2022年度屋上スカイビュー特別開放利用者数 3日、延べ1,002名

開催日		利用者数	開放状況
4月29日	昭和の日	201名	開放
5月3日	憲法記念日	413名	開放
5月4日	みどりの日	―	悪天候のため中止
5月5日	こどもの日	388名	開放
7月18日	海の日	―	悪天候のため中止

2023年度屋上スカイビュー特別開放利用者数 4日、延べ1,747名

開催日		利用者数	開放状況
4月29日	昭和の日	202名	開放
5月3日	憲法記念日	471名	開放
5月4日	みどりの日	534名	開放
5月5日	こどもの日	540名	開放

2022 年度・2023 年度オリジナルグッズ開発件数　1 件

区分	グッズ名
総合展示関連（9品） （2015年度より販売中）	付箋、定規、コットンバッグ（小）、メモ帳、鉛筆2本セット、木札ストラップ、消しゴム、珪藻コースター、B5ノート
2023年度　新規開発（1件）	コットンバッグ（大）

※オリジナルグッズは、北海道博物館内のミュージアムショップ（指定管理者運営）で販売

2023 年度新規開発のグッズ

(2) 周辺環境の整備

北海道博物館は、道立自然公園野幌森林公園の中に位置し、周辺施設として北海道開拓の村、自然ふれあい交流館があるため、公園内施設との連携を強化し、公園内の一体的かつ効果的な運営に努めながら、公園の環境整備や利用者の利便性と満足度の向上に積極的に取り組んでいる。具体的には、利用者のアクセス環境の改善、公園内サインの統一化、野外展示の実現などをめざしており、関係機関との連携を図りながら、「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の実現に向けて取り組みを進めている。

2022 年度設備及び周辺環境の整備（10 件）

実施日または期間	内容
2022年4月26日～10月28日	野幌森林公園周辺倒木等処理（6件）
2022年6月17日～9月13日	瑞穂の池木柵・木階段修繕（2件）
2022年9月2日～9月30日	大地の手補修、笹苅等
2022年11月9日～11月16日	瑞穂の池堤体観測測量業務

2023 年度設備及び周辺環境の整備（2 件）

実施日または期間	内容
2023年8月22日	百年橋付近道路陥没修繕工事（1件）
2023年9月8日	野幌森林公園周辺倒木等処理（1件）

(3) 野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館及び道立自然公園野幌森林公園の一体的かつ効果的な管理・運営に努めていくため、関係機関との一層の連携を進めています。

指定管理者業務

北海道博物館では、2006（平成 18）年（当時は北海道開拓記念館）から指定管理者制度を導入しています。現在、指定管理者は施設や設備の維持管理などの業務を行っている。

2022 年度・2023 年度ともに、関係機関との連絡会議・協議会に参加し、施設管理上の問題点の把握や対応方針の協議などを行った。

(1) 北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議

北海道立総合博物館の管理運営に関する連絡体制の強化及び利用者サービスの向上を図ることを目的に、月1回のペースで定期的に開催。

構成：北海道博物館、指定管理者

(2) 道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会

道立自然公園野幌森林公園の関係機関相互の情報交換や連絡調整を図り地域内の合意形成を行うとともに、道立自然公園における保護と利用促進に必要な施策を実施することで、実情に応じた保護・利用形態を創出することを目的として、2001（平成13）年4年6日に設置。

構成（2022年4月時点）

石狩森林管理署、空知総合振興局森林室、札幌市、江別市、北広島市、一般財団法人北海道歴史文化財団、北海道博物館（事務局）

(3) 野幌森林公園林野火災予消防対策会議

野幌森林公園における林野火災の予防及び消火に万全を期すため、関係機関との連絡調整をはじめ、公園区域内のパトロールや林野火災予防のための普及啓発活動を実施することを目的に設置。

会議に参加している機関（2022年4月時点）

江別市消防本部、厚別消防署、北広島市消防署、野幌森林愛護組合、一般財団法人北海道歴史文化財団、公益財団法人北海道埋蔵文化財センター、石狩森林管理署、空知総合振興局（森林室）、石狩振興局林務課、札幌市、江別市、北広島市、北海道博物館（事務局）など

2022 年度関係機関との連絡会議・協議会の実施参加　14 回

連絡会議・協議会名	実施回数	開催日・備考
北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議	12回	4月15日、5月11日、6月1日、7月1日、8月2日、9月1日、10月4日、11月2日、12月1日、1月6日、2月1日、3月1日
道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会	1回	7月2日（書面開催）
野幌森林公園林野火災予消防対策会議	1回	3月24日（書面開催）

2023 年度関係機関との連絡会議・協議会の実施参加　13 回

連絡会議・協議会名	実施回数	開催日・備考
北海道立総合博物館管理運営等連絡調整会議	12回	4月12日、5月10日、6月7日、7月4日、8月1日、9月1日、10月3日、11月1日、12月1日、1月10日、2月1日、3月1日
道立自然公園野幌森林公園管理運営協議会	—	
野幌森林公園林野火災予消防対策会議	1回	3月28日（書面開催）

8　広報

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などを知っていただくため、さまざまな広報活動を行っています。そのような広報活動には、当館を利用するすべての人が自らの興味や関心によって楽しみながら学べるための支援や、道民や一般企業などによる各種事業への参画や協働を促進し、地域に支えられる博物館づくりの裾野を広げていくという側面があります。

当館では、その役割や事業（おもに展示会や普及行事・イベント）などを知っていただくため、北海道民や社会に対し、自らが積極的・戦略的に働きかける活動を広報（利用促進、狭義の広報）と呼び、資料情報や調査研究の成果など、博物館の基盤に係る情報をアーカイブスとして整備し、利用者の学習支援に応えるような受動的な広報活動を情報発信（情報サービス）と呼んでいます。広報は学芸部道民サービスグループ、情報発信は学芸部博物館基盤グループが中心に業務を担っています。

※情報発信は「12　情報発信」（90～93 ページ）に掲載。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【(1)ア】各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組
一般	**(1) 広報活動の強化**
	【ア】報道機関等への対応（新聞、雑誌、テレビ、ラジオほか）［掲載・報道見込：年間延べ400件程度］ 【ア】報道機関等へ戦略的に働きかけていく広報活動の実施 【ア】各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供（協力、寄稿、出演等）の推進［年間延べ100件程度］ 【ア】招待講演（講座・講演会）等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進 【ア】ICTを活用した広報（ウェブサイト、Twitter等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信）の実施（年間200回程度） 【ア】広報誌『森のちゃれんがニュース』の編集・発行・配布（年間4回（季刊）刊行） 【ア】『行事あんない』の編集・発行・配布（年間2回（前期・後期）刊行） 【ア】特別展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間1回） 【ア】企画テーマ展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間3回） 【ア】特別イベント等のポスター、チラシの編集・作成・配布（年間1回程度） 【ア】各種印刷・刊行物の発送・配布（年間７回程度） 【ア】修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組 【ア】海外に向けた情報発信の強化に向けた検討 【イ】愛称やロゴマークの積極的活用 【イ】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討
	(2) 他機関との連携による広報活動の強化
	北海道生涯学習協会と連携した一般普及行事の「道民カレッジ連携講座」への登録申請（年間２回） 他機関との連携による広報活動の実施（年間５件程度）

年度計画（2023 年度）

重点	【(1)ア】各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組
一般	**(1) 広報活動の強化**
	【ア】報道機関等への対応（新聞、雑誌、テレビ、ラジオほか）［掲載・報道見込：年間延べ400件程度］ 【ア】報道機関等へ戦略的に働きかけていく広報活動の実施 【ア】各種広報媒体への学術的な情報や知見の提供（協力、寄稿、出演等）の推進［年間延べ100件程度］ 【ア】招待講演（講座・講演会）等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進 【ア】ICTを活用した広報（ウェブサイト、Twitter等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信）の実施（年間200回程度） 【ア】広報誌『森のちゃれんがニュース』の編集・発行・配布（年間4回（季刊）刊行） 【ア】『行事あんない』の編集・発行・配布（年間2回（前期・後期）刊行） 【ア】特別展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間1回） 【ア】企画テーマ展ポスター、チラシの編集・作成・配布（年間3回） 【ア】特別イベント等のポスター、チラシの編集・作成・配布（年間1回程度） 【ア】各種印刷・刊行物の発送・配布（年間７回程度） 【ア】修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組

【ア】海外に向けた情報発信の強化に向けた検討
【イ】愛称やロゴマークの積極的活用
【イ】愛称およびロゴマークの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討

(2) 他機関との連携による広報活動の強化

北海道生涯学習協会と連携した一般普及行事の「道民カレッジ連携講座」への登録申請（年間２回）
他機関との連携による広報活動の実施（年間５件程度）

【重点計画】

○各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各種イベントの中止やさまざまな入館対策などを考慮しつつ、特に札幌市及びその近郊からの身近な利用者層の誘客促進に向けた取組を実施した。

【一般計画】

(1) 広報活動の強化

各新聞社や放送局、地域の情報誌などに対し、事業の内容についての積極的な情報提供を行っている。また、当館からマスメディア側へ働きかけていく広報として、企画展の開催などに合わせた報道機関向け展示説明会を企画し、実施している。

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための入館対策や各種事業の中止などを考慮し、限られた範囲内で広報活動を実施した。また 2023 年度は、建物の「長寿命化工事」に伴う企画展事業の縮小等を考慮し、限られた範囲内で広報活動を実施した。

2022 年度報道機関等への対応（掲載・報道実績）　189 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新聞	11	5	8	13	8	6	9	5	6	3	5	10	89
雑誌	4	2	4	2	2	2	3	3	3	0	4	4	33
単行本	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
テレビ	0	0	0	5	3	2	1	1	0	0	2	1	15
ラジオ	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	2	1	7
その他	5	0	3	6	4	2	9	0	1	0	6	7	43
合計	20	8	15	27	20	12	22	9	11	3	19	23	189

2023 年度報道機関等への対応（掲載・報道実績）　102 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新聞	8	1	1	0	10	8	0	1	1	1	3	3	37
雑誌	7	1	3	4	1	1	2	2	1	1	2	2	27
単行本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
テレビ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ラジオ	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
その他	6	3	3	3	4	0	2	0	2	2	4	3	32
合計	23	5	8	7	15	9	5	3	4	6	9	8	102

2022 年度報道機関向け説明会　4 件

展示説明（概要）	日時	報道機関からの参加者
第8回特別展「世界の昆虫 ―昆虫を通して生き物の多様性を知る―」報道機関向け展示説明会	2022年7月22日 13:30～15:00	9名
第3回蔵出し展「久保寺逸彦文庫 ―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―」報道機関向け展示説明会	2022年10月28日 ①10:30～ ②13:30～	7名
第20回企画テーマ展「もっと! あっちこっち湿地 ～自然と歴史をめぐる旅～」報道機関向け展示説明会	2023年2月24日 ①10:30～ ②13:30～	8名
「北海道開拓の村旧小樽新聞社と旧近藤染舗の再公開」にかかる報道機関向け展示説明会	2023年3月30日 11:00～12:00	18名

2023 年度報道機関向け説明会　4 件

展示説明（概要）	日時	報道機関からの参加者
第9回特別展ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」報道機関向け展示説明会	2023年7月21日 13:30～15:00	13名
第9回特別展ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」国宝土偶の実物展示　報道機関向け展示説明会	2023年8月31日　9:00～9:25	3名
第9回特別展ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」国宝土偶の実物展示　報道機関向け展示説明会	2023年9月15日　9:00～9:25	3名
第21回企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱－スタッフ一押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?－」報道機関向け展示説明会	2024年2月9日 ①10:00～ ②13:30～	9名

2022 年度記念セレモニー等　3 件

展示説明（概要）	日時	報道機関からの参加者
第8回特別展「世界の昆虫 ―昆虫を通して生き物の多様性を知る―」入場2万人達成セレモニー	2022年8月10日 12:00～	2名
第8回特別展「世界の昆虫 ―昆虫を通して生き物の多様性を知る―」入場4万人達成セレモニー	2022年9月7日 9:45～	2名
「北海道博物館展示案内」　刊行と同書贈呈式	2023年3月13日 13:30～13:45	1名

2023 年度記念セレモニー等　2 件

展示説明（概要）	日時	報道機関からの参加者
第9回特別展ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」入場1万人達成セレモニー	2023年8月16日 11:00～	2名
第9回特別展ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」入場3万人達成セレモニー	2023年9月15日 11:00～	2名

2022 年度職員の報道機関等への学術的な情報・知見の提供　18 件

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	掲載日等	社名等	種別
三浦泰之	日本史アップデート　「北海道」の名付け親　松浦武四郎は提案せず「エゾ」の語源は不明	読売新聞	2022.7.19.（火）夕刊	読売新聞社	協力
東俊佑 右代啓視	択捉島に松前藩士の墓　ビザなし交流写真確認	読売新聞	2023.3.9.(木)朝刊	読売新聞社	協力
右代啓視	北方四島の歴史・文化　　学芸員の報告会	ＮＨＫ NEWS　WEB	2023.3.4.(土)	ＮＨＫ	協力
右代啓視	報告会　北方本島の歴史・文化　ビザなし専門家交流で調査・研究	ＮＨＫ　ニュース （19時～、20:55～）	2023.3.4.(土)	ＮＨＫ	協力
青柳かつら	冬山造材などテーマに　北国博物館で道北巡回展　「探してみよう！地域のお宝」	名寄新聞	2022.5.18.（水）	名寄新聞社	協力
青柳かつら	視点を比べながら　「地域映像を愉しむサロン」　過去と現在で語り合う	名寄新聞	2022.5.31.（火）	名寄新聞社	協力
青柳かつら	動画から当時を学ぶ　北海道博物館・市北国博物館　名寄で巡回展関連講座	北都新聞	2022.6.6.（月）朝刊	北都新聞社	協力
青柳かつら	4日にちえぶん学講座	名寄新聞	2022.7.17.（日）	名寄新聞社	協力
青柳かつら	ちえぶん学講座　市街地の歴史など紹介「地域資源いかした学習会」	名寄新聞	2022.8.9.（火）	名寄新聞社	協力
青柳かつら	市街地・商工業テーマに講座　名寄でちえぶん学	北都新聞	2022.8.14.（日）	北都新聞社	協力
青柳かつら	市街地・商工業テーマに　名寄でちえぶん学講座	北都新聞	2022.10.30.（日）	北都新聞社	協力
池田貴夫	節分についてのインタビュー	北川久仁子のBrilliant days	2023.2.3.(金)	ＡＩＲ-G'（ＦＭラジオ）	協力
石森秀三 鈴木琢也	世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」のこれから　縄文人の世界観を伝える	月刊ＩＳＭ（イズム） 2022年7月号	2022.7.1.（金）	(株)情報企画	協力
鈴木明世	「開拓の村」改修　光る職人技　旧近藤染舗…屋根の板ゆがみ微調整 旧小樽新聞社…軟石の外壁ひびに樹脂	北海道新聞	2022.7.18.（月）朝刊	北海道新聞社	協力
鈴木明世	発見!地域のお宝 学芸員とっておき 秘話⑦　北海道博物館 鈴木明世さん 「集大成」のレンガ建築　佐藤武夫 北海道の理想体現	毎日新聞	2022.9.29（木）	毎日新聞北海道報道部	協力
鈴木明世	「レトロの美」　愛される「森のちゃれんが」	毎日新聞（日曜くらぶ）	2022.11.20.（日）	毎日新聞社	協力
渋谷美月	（株）Z会小冊子への「バーチャル北海道博物館」「おうちミュージアム」紹介記事掲載	「[Z会が選ぶ]好奇心が広がる理科・社会バーチャル体験ガイド」	2022.4.1.（金）	（株）Z会　幼小事業本部マーケティング課　情報継続担当	協力
甲地利恵	ウポポイラジオ「アイヌ民族の音楽」①②	ＦＭ　AIR'G 「ウポポイラジオ」	2023.5.7、2023.5.14	アイヌ民族文化財団	協力

2023 年度職員の報道機関等への学術的な情報・知見の提供　7 件

対応者	タイトル/内容	出典/番組名	掲載日等	社名等	種別
青柳かつら	「高齢者と協働する地域学習プログラム」紹介記事	AFCプレミアムプレス	2023年5月16日（火）	朝日新聞北海道支社	協力
青柳かつら	「高齢者と協働する地域学習プログラム」紹介記事	AFCプレミアムプレス・ウェブ版	2023年5月16日（火）	朝日新聞北海道支社	協力
小川正人 遠藤志保	「アイヌ文学研究者　久保寺逸彦」に関する記事掲載	ガスエネルギー新聞	2023年5月22日（月）	（株）ガスエネルギー新聞	協力
会田理人	木製戦闘機の主翼の一部（戦争資料）	北海道新聞	2023年8月15日（火）	北海道新聞社	協力
鈴木あすみ	コレ！と決めたら一直線 interview with 学芸員　鈴木あすみさん	フリーペーパー「アルキタ」	2023年11月13日（月）	（株）北海道アルバイト情報社	協力
圓谷昂史	海洋ごみは身近な問題	北海道新聞	2023年11月23日（木）	北海道新聞社	協力
池田貴夫	新五感紀行　道内独自の百人一首　老若男女楽しみ地域活性化	北海道新聞	2024年3月3日（日）	北海道新聞社	協力

※報道機関等への学術的な情報・知見の提供のうち、職員個人が依頼を受けて対応したものは、「外部刊行物等への執筆協力」として整理し、「13　人材育成機能の強化と社会貢献」へ掲載した。詳細は 103～105 ページに掲載。

②招待講演（講座・講演会）等への職員派遣に伴う道民と直に接する広報活動の推進

当館や当館行事のアナウンス、チラシ等の参加者への配布などにより、職員一人一人が広報活動に努めた。

③広報用印刷物の作成

当館のリーフレットや企画展・行事のポスター・チラシなどの印刷物を作成し、道内外の博物館、公共施設や観光案内所を中心に配布し、掲示や配置を依頼している。このほか、博物館活動全般を定期的に発信している広報誌『森のちゃれんがニュース』（年間 4 回刊行）や、展示会や普及行事・イベント等のスケジュールを紹介する「行事あんない」（年間 2 回刊行）を作成し、道内外の博物館・公共施設等に配布をしているほか、館内に配置して、来館者が自由に持ち帰ることができるようにしている。

2022 年度・2023 年度はそれぞれの企画展について、ポスター・チラシを作成した。なお、第 8 回特別展「世界の昆虫 ―昆虫を通して生き物の多様性を知る―」及び第 9 回特別展「北の縄文世界と国宝」は、展示会の実行委員会がポスター・チラシを作成した。『行事あんない』は、例年どおりに年 2 回発行し、広報誌『森のちゃれんがニュース』は、例年どおり年 4 回発行した。

2022 年度広報用印刷物　作成 8 件

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
「北海道ジオパークまつり2022」ポスター	2022年6月	A2判	200部
「北海道ジオパークまつり2022および子どもワークショップ広報用」チラシ	2022年6月	A4判	5,000部
第3回蔵出し展「久保寺逸彦文庫 ―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―」ポスター	2022年9月	A2判	120部
第3回蔵出し展「久保寺逸彦文庫 ―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―」チラシ	2022年9月	A4判	3,600部
第20回企画テーマ展「もっと! あっちこっち湿地 ～自然と歴史をめぐる旅～」ポスター	2023年1月	A2判	150部
第20回企画テーマ展「もっと! あっちこっち湿地 ～自然と歴史をめぐる旅～」チラシ	2023年1月	A4判	3,000部
行事あんない（2022年10～2023年3月）	2022年9月	A4判、4頁	20,000部
行事あんない（2023年4月～9月）	2023年3月	A4判、4頁	20,000部

2023 年度広報用印刷物　作成 8 件

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
「北海道ジオパークまつり2023」ポスター	2023年6月	B2判	120部
「北海道ジオパークまつり2023および子どもワークショップ広報用」チラシ	2023年6月	A4判	120部
第21回企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱」ポスター	2024年1月	A2判	150部
第21回企画テーマ展「森のちゃれんが宝箱 」チラシ	2024年1月	A4判	3,000部
行事あんない（2023年10～2024年3月）	2023年9月	A4判、4頁	20,000部
行事あんない（2024年4月～9月）	2024年3月	A4判、4頁	20,000部
第22回企画テーマ展「北海道樹木万華鏡」ポスター	2024年3月	A2判	150部
第22回企画テーマ展「北海道樹木万華鏡」チラシ	2024年3月	A4判	3,000部

2022 年度森のちゃれんがニュース　4 回発行

第28号　2022夏　　2022年6月28日

森のちゃれんが50周年フォトコンテストを開催しました	渋谷美月
博物館活動紹介　資料情報の公開を進めています！	鈴木あすみ
総合展示紹介・第5テーマ 動物たちの「落とし物」	表　渓太
研究活動紹介　自ら学校をつくる－近代日本を生きたアイヌ民族の歩みをたどる	小川正人
北海道博物館第８回特別展 「世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－」	堀　繁久
アイヌ民族文化研究センターだより 「見て 聞いて アイヌ文化の世界」操作方法が変わりました！	甲地利恵 亀丸由紀子 吉川佳見
北海道博物館の「建物」の魅力発信「森のちゃれんが50周年」記念事業	鈴木明世
活躍ダイアリー／人事異動／来館者数	—

第29号　2022秋　　2022年9月30日

第８回特別展 「世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－」　開催	久保見　幸
収蔵資料紹介　窓鋸：目立ての動画記録とスケッチ体験	青柳かつら
総合展示室の資料紹介・1テーマ　オムシャのジオラマ	東　俊佑
研究活動紹介　昭和期のホームムービー　－菱昌七関係記録資料より－	三浦泰之
総合展示室　活動報告　楽しい『昆虫クイズラリー』に挑戦！	折舘里佳
第３回蔵出し展　開催予告 久保寺逸彦文庫 −アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる−	小川正人
アイヌ民族文化研究センターだより　アイヌ文化巡回展 釧路町で開催しました（9月）／伊達市で開催中です（9月～11月）	遠藤志保
活躍ダイアリー／来館者数	—

第30号　2022冬　　2023年1月5日

第３回蔵出し展　「久保寺逸彦文庫 −アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる−」開催	田中祐未
収蔵資料紹介　久保寺逸彦　最初の調査の記録	遠藤志保
総合展示の資料紹介・第2テーマ　アイヌの物語を聴く	奥田統己
研究活動紹介　北海道の白亜紀の地質調査と年代測定	久保見　幸
解説員　冬の活動報告　新しい稲わらが届きました！	越田雅子
トピック　めざせ！学芸員　[コロナ禍３年目]の博物館実習	山際秀紀
アイヌ民族文化研究センターだより　録音・録画・筆録資料の公開に向けて	小川正人
活動ダイアリー／来館者数	—

第31号　2023春　　2023年3月28日

グランドホールに約2億5千万年以上前のフズリナ化石！	成田敦史
博物館活動紹介　「あなたの好きor嫌いな昆虫は？」結果発表！	表　渓太
総合展示資料紹介・第3テーマ　うまい米No.1への歴史「舟形網」の秘密	山際秀紀
研究活動紹介　これまでの調査研究活動について	舟山直治

「はっけん広場」冬の活動報告　体験学習室「はっけん広場」の試験的再開！	川村昌江
第20回企画テーマ展　「あっちこっち湿地」リメイク展示開催！	表　渓太
アイヌ民族文化研究センターだより アイヌ文化紹介小冊子『ポン　カンピソシ』のご案内	小川正人
活動ダイアリー／来館者数	―

2023 年度森のちゃれんがニュース　4 回発行

第32号　2023夏　　2023月6月30日

第20回企画テーマ展「もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～」開催	吉川佳見
収蔵資料紹介　貝製平玉 ―貝取澗２洞窟遺跡出土―	右代啓視
総合展示資料紹介・第4テーマ　かつてのくらしを伝える写真たち	尾曲香織
研究活動紹介　養蚕業の建築からみる本州以南とのつながりと北海道らしさ	鈴木明世
北海道博物館９回特別展　ユネスコ世界遺産登録記念　北の縄文世界と国宝	鈴木琢也
アイヌ民族文化研究センターだより　アイヌ文化巡回展　美唄市で開催します	遠藤志保
活躍ダイアリー／人事異動／来館者数	―

第33号　2023秋　　2023年9月30日

第９回特別展 ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」　開催	圓谷昂史
博物館活動紹介　博物館における温湿度管理	高橋佳久
総合展示資料紹介・第5テーマ　死体と糞が主役!?　「生き物たちの北海道」	堀　繁久
研究活動紹介　わたくしの研究活動は？	佐々木利和
はっけん広場　はっけんイベント再開	福島奈緒子
総合展示室　「触れる展示」を再開しています！	石子智康・ 亀丸由紀子
アイヌ民族文化研究センターだより　奥尻町で同時開催！「第16回アイヌ文化巡回展 in 奥尻町」 「北海道博物館総合研究プロジェクト」成果報告展	亀丸由紀子
活躍ダイアリー／来館者数	―

第34号　2023冬　　2024年1月10日

博物館は、展示を見るだけじゃない！ はっけん広場であそぼう！	渋谷美月
収蔵資料紹介　ある日、豊平川河川敷に舞い降りた落下傘（らっかさん）	池田貴夫
総合展示の資料紹介・第1テーマ　第四紀の北海道のようすを表す「古地理図」	久保見　幸
研究活動紹介　身近な歴史から大きな歴史に	石子智康
はっけん広場　はっけんイベント「くるくるピクチャー大作戦！　縄文編」	今村ゆみ子
トピックス　めざせ、学芸員！コロナ禍明けの博物館実習	成田敦史
アイヌ民族文化研究センターだより　北海道博物館第17回アイヌ文化巡回展・釧路市立博物館企画展 「久保寺逸彦～釧路が育んだアイヌ文学研究の泰斗～」の開催	城石梨奈氏 （釧路市立博物館学芸員）

	活動ダイアリー／来館者数	—
第35号　2024春　　2024年3月29日		
	第21回企画テーマ展　「森のちゃれんが宝箱 ースタッフ一押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?ー」の開催	吉川佳見
	収蔵資料紹介　宝箱から飛び出した小さなお宝 ―「ボラドーレス」の笛と太鼓？―	甲地利恵
	総合展示紹介・第2テーマ　「ある家族の物語」のものがたり	小川正人
	研究活動紹介　植物化石や地学の楽しさを伝えていきます！	成田敦史
	「はっけん広場」活動報告　わらで作るミニミニお正月リース	山田日登美
	第21回企画テーマ展　「森のちゃれんが宝箱」を開催しました	池田貴夫
	アイヌ民族文化研究センターだより Zoomを使った講座を開催しました ～アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む」（全6回）～	吉川佳見
	活動ダイアリー／来館者数	—

④広報用印刷物・刊行物の配布による広報

特別展展示図録、企画テーマ展リーフレット、研究紀要、資料目録、要覧など、当館の資料・調査研究・展示・教育活動に係る各種刊行物を道内外の博物館、図書館などの公共施設、研究機関に送付し、博物館活動の情報配信に努めている。

⑤ICT を活用した広報（ウェブサイト、X（旧 Twitter）等による展示、教育普及、その他博物館活動に関する情報の発信）の実施

当館の事業や活動などさまざまな情報をリアルタイムで発信することを目的に、インターネットを活用した広報活動を行っている。

2022 年度 ICT を活用した広報実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度合計
ウェブサイト	アクセス件数	26,050	32,851	39,016	57,078	74,208	58,134	27,680	25,927	16,712	21,907	20,275	28,021	427,859	279,677
ツイッター	投稿件数	13	8	13	17	16	29	8	11	10	7	4	11	147	172
	インプレッション	33,797	18,913	64,536	70,741	69,561	68,388	16,016	25,883	17,885	16,875	11,101	23,418	437,114	831,514
	フォロワー数	4,356	4,378	4,430	4,513	4,590	4,662	4,688	4,716	4,750	4,772	4,785	4,795		

2023 年度 ICT を活用した広報実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度合計
ウェブサイト	アクセス件数	29,385	33,770	35,401	49,032	60,558	63,308	30,819	24,732	18,094	19,359	21,655	26,992	413,105	427,859
ツイッター	投稿件数	10	9	9	17	16	9	6	6	4	4	8	11	109	147
	インプレッション	23,248	21,452	25,390	65,812	154,407	48,202	16,735	7,961	8,680	6,270	14,802	20,797	413,756	437,114
	フォロワー数	—	—	—	—	5,027	5,093	5,102	5,117	5,116	5,118	5,130	5,134		

※ウェブサイトのアクセス数の目標値（2020～2024 年度）：1,300,000 件。累計数：1,453,917 件（目標達成度：111.8%）

※「累計」「達成率」は第 2 期中期目標・計画期（2020～2024 年度）における総計。

※インプレッション：利用者のタイムラインまたは検索結果にツイートが表示された回数

※Twitter の仕様変更の影響で、2023 年 4 月～7 月期間中のフォロワー数は取得不可能であった。

動画共有サービス「YouTube」による広報

当館の活動に関するさまざまな情報をわかりやすく発信するため、2021（令和 3）年 3 月 23 日、動画共有サービス「YouTube」上に公式チャンネル「北海道博物館チャンネル」を開設した。2022 年度は、北海道博物館ショートムービー「建物に描かれた想い」を当館ウェブサイト（7 月 22 日～11 月 3 日）、カルチャーナイト（7 月 22 日～8 月 5 日）で期間限定公開した。2023 年度は、北海道博物館ショートムービー「建物に描かれた想い」【ダイジェスト版】（6 月 29 日～）、「10分でめぐる！北海道・北東北の縄文遺跡群」（11月22日～）を公式チャンネルで公開した。

⑥海外に向けた情報発信の強化に向けた検討

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が収束せず、海外からの観光客入国・誘致を積極的に行えない状況が続いたため、検討を見送った。

⑦愛称やロゴの積極的活用

当館の印刷物・刊行物に愛称、ロゴを積極的に使用するなど、愛称・ロゴの普及を行った。

⑧愛称およびロゴの浸透に向けた取組に連動し、北海道博物館の建物そのものが「森のちゃれんが」として見て美しい建物として認知され、ブランド化されていくための検討

2021 年度に北海道博物館の建物の魅力を紹介するために制作したショートムービーを、2022 年度には当館ウェブサイトや外部イベントへの出展の機会に公開・活用した。2023 年度には【ダイジェスト版】を当館ウェブサイトで公開した。

※「野幌森林公園エリア活性化事業」の詳細は122～124ページに掲載。

⑵ 他機関との連携による広報活動の強化

①普及行事の「道民カレッジ連携講座」への登録申請

「道民カレッジ」は北海道教育委員会（北海道生涯学習推進センター）が主催する、道内各市町村で行われている様々な学習機会を体系化することを目的とした、生涯学習の講座をポータルサイトです。当館も「講座情報実施機関（団体）」として登録しており、当館で実施する普及行事・イベントの情報を半年ごとに、道民カレッジ事務局に登録しています。

②イベント等を活用した広報

各種団体が主催する事業への出展・参画や、当館が周辺施設や関係機関と構築したネットワーク事業のなかで実施するイベントへの出展・参画により、当館の活動や事業の PR 活動を行っている。

2022 年度・2023 年度外部イベントへの出展・参画　4 件

・サイエンスパーク

「サイエンスパーク」は、子どもたちが科学技術を身近に体験・学習する機会を提供し、豊かな北海道の未来を創る科学技術の振興を図ることを目的に、北海道と地方独立行政法人北海道立総合研究機構の共催（2023年度より国立大学法人北海道大学も共同主催）で開催され、民間企業等も参加しているイベント。当館は、このイベントに毎年出展し、体験活動を通じた北海道の自然・歴史・文化に関する知識の普及や事業のPR活動を行っている。

2022年度	
概　　要	①会場展示（チカホ・アカプラ）　7月24日（日）　【1日間】 ②体験教室（エルプラザ）8月2日（火）～8月4日（木）　【3日間】 ③オンラインプログラム 7月19日（火）～8月31日（水）　【44日間】
U　R　L	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssg/sp/2022online_0.html
当館の出展	第8回特別展 「世界の昆虫 ―昆虫を通して、生き物の多様性を知る―」関連、おうちミュージアム第36弾「昆虫100万種クイズ」としてオンライン形式で出展した。
2023年度	
概　　要	①体験教室（北海道大学FMI国際拠点）令和５年（2023年）８月５日（土）　【1日間】 ※北海道大学体育館にて、JAL×北海道大学の「JAL折り紙ヒコーキ教室」を同時開催 ②オンラインプログラム 令和５年（2023年）7月24日（月）～令和６年（2024年）1月31日（水）　【192日間】
U　R　L	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssg/sp/2023top.html
当館の出展	「砂の中から化石や宝石を探して標本を作ろう！」というタイトルで、北広島市で採集した砂の中から本物の貝化石や鉱物を探して、化石や地質についても学びながら、オリジナルの標本を作成するという内容で出展した。

・カルチャーナイト

札幌市内の文化施設が夜間開放し、市民が地域の文化を楽しむイベント。オンラインでも開催されるようになった 2021 年度からはオンライン参加として、主に YouTube 内の「北海道博物館チャンネル」で公開している動画の中から、カルチャーナイトにあわせておすすめの動画をピックアップして紹介した。

2022・2023年度	
主　　催	認定NPO法人カルチャーナイト北海道（カルチャーナイト実行委員会）
日　　時	2022年度：7月22日～8月5日、2023年度：7月21日～8月4日
概　　要	『「建物」も楽しめる博物館-北海道博物館「建物」の魅力-』としてオンライン形式で出展し、動画コンテンツを紹介した。

9　評価制度の活用と利用者ニーズの把握

利用者と共に歩み、親しまれ、よりよい博物館となるためには、自らの行いを自己点検し、評価を行い、問題点を認識し、改めるべき点の改善を図っていくことが必要です。当館では、前年度の事業実績を年度当初にまとめ、その実績報告書としての『要覧』を編集・刊行し、自己点検評価及び博物館協議会による外部評価（協議会評価）を行い、その結果を次年度計画、あるいは中期目標・計画に反映させることで、PDCA サイクルの実現を図っています。また、アンケート調査や来館者調査などのオーディエンス・リサーチにより、利用者からの意見聴取にも積極的に取り組んでいます。こうした業務は総務部企画グループが中心となり進めています。

第 4 期北海道立総合博物館協議会委員　7 名
任期 2021 年 9 月 6 日～2023 年 9 月 5 日

氏　名	所　属
大原昌宏（会長）	北海道大学総合博物館　副館長（教授）
佐々木史郎	国立アイヌ民族博物館　館長
住吉徳文	和弘食品株式会社　管理本部　本部長
中川充子	北海道新聞社　経営管理局　局総務
中村吉雄（副会長）	公益社団法人北海道アイヌ協会　副理事長 千歳アイヌ協会　会長
村木美幸	公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部　副本部長
湯浅万紀子	北海道大学総合博物館　副館長（教授）

第 4 期アイヌ民族文化研究センター専門部会委員　6 名
任期 2022 年 5 月 12 日～2023 年 9 月 5 日

氏　名	所　属
小川悠治	公益社団法人北海道アイヌ協会　理事 標津アイヌ協会　会長、標津町議会　副議長
酒井奈々子	帯広カムイトゥウポポ保存会　会長
白石英才	札幌学院大学経済経営学部　教授
関根真紀	平取アイヌ文化保存会　理事
中村吉雄 （部会長・兼任）	公益社団法人北海道アイヌ協会　副会長 千歳アイヌ協会　会長
村木美幸（兼任）	公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部　副本部長

第 5 期北海道立総合博物館協議会委員　7 名
任期 2023 年 12 月 6 日～2025 年 12 月 5 日

氏　名	所　属
岡田真弓	北海道大学アイヌ共生推進本部 本部長補佐・准教授
小川哲也（副会長）	公益社団法人北海道アイヌ協会　常務理事、本別アイヌ協会　会長
佐々木史郎（会長）	国立アイヌ民族博物館　館長
小林快次	北海道大学総合博物館　副館長（教授）
住吉徳文	和弘食品株式会社　管理本部　本部長
村木美幸	公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部　本部長
矢野ひろ	株式会社ノーザンクロス　シニアマネージャー

第 5 期アイヌ民族文化研究センター専門部会委員　6 名
任期 2024 年 3 月 4 日～2025 年 12 月 5 日

氏　名	所　属
小川哲也 （部会長・兼任）	公益社団法人北海道アイヌ協会　常務理事、 本別アイヌ協会　会長
白石英才	札幌学院大学経済経営学部　教授
関根真紀	平取アイヌ文化保存会　理事
藤岡千代美	札幌ウポポ保存会　事務局長
村木美幸（兼任）	公益財団法人アイヌ民族文化財団 民族共生象徴空間運営本部　本部長
結城幸司	公益社団法人北海道アイヌ協会　理事

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【イ】オーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施検討
一般	⑴ 評価制度の活用
	【ア】前年度の事業実績の取りまとめの推進 【ア】「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営［事前評価1回、事後評価1回］ 【ア】『要覧』の編集・刊行［年１回］ 【イ】「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、外部評価、自己評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年度計画の作成 【ウ】「北海道立総合博物館協議会」の開催（年間2回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営 【ウ】「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催（年間1回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営
	⑵ 利用者ニーズの把握
	【イ】特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析 【イ】利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施） 【イ】解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】アイヌ文化Q＆A（総合展示室第2テーマ）による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握（開館日毎日）

年度計画（2023 年度）

重点	【イ】オーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施検討
一般	⑴ 評価制度の活用
	【ア】前年度の事業実績の取りまとめの推進 【ア】「博物館総合評価」における自己評価の実施推進・運営［事前評価1回、事後評価1回］ 【ア】『要覧』の編集・刊行［年１回］ 【イ】「北海道立総合博物館協議会」による調査審議、外部評価、自己評価、オーディエンス・リサーチに基づいた事業改善ならびに次年度年度計画の作成 【ウ】「北海道立総合博物館協議会」の開催（年間2回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営 【ウ】「北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会」の開催（年間1回）による調査審議と外部評価の実施推進・運営
	⑵ 利用者ニーズの把握
	【イ】特別展、企画テーマ展、アイヌ文化巡回展期間の来館者アンケート調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析 【イ】利用者満足度調査による利用者ニーズの把握および利用者満足度の測定・分析（秋期の一定期間実施） 【イ】解説員活動日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】図書室業務日誌による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】アイヌ文化Q＆A（総合展示室第2テーマ）による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】指定管理者日報による利用者ニーズ・意見の把握・分析（開館日毎日） 【イ】口頭・電話・メール・手紙等の受理による利用者ニーズ・意見の把握（開館日毎日）

【重点計画】

○出口調査・追跡調査によるオーディエンス・リサーチ（利用者調査）の実施

利用者からの意見・要望を幅広く集め、今後の展示の企画や教育普及事業、広報活動といった博物館活動や運営の改善に活かすため、さまざまな方法で利用者ニーズの把握を行っている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための臨時休館や感染対策を踏まえ、2022 年度は利用者調査を実施しなかった。2023 年度は博物館実習の中で実施した。出口調査・追跡調査による利用者調査（オーディエンス・リサーチ）、アンケート調査・各種日誌からの利用者ニーズや意見の把握、利用者満足度調査を含め、総合的・俯瞰的な見地から利用者ニーズの把握方法を見直し、北海道博物館の新たな「オーディエンス・リサーチ」を構築・確立する必要がある。旧北海道開拓記念館で実施していた「ミュージアム・メイト」の取り組み（道民によるモニター制度）も組み込んで検討する。

【一般計画】

(1)評価制度の活用

①前年度事業実績取りまとめの推進と『要覧』の編集・刊行

前年度事業の実績を取りまとめ、『北海道博物館要覧』第7号（要覧2021）として刊行した。

2022年度の要覧作成実績

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
『北海道博物館要覧』第7号（要覧2021）	2022年7月29日	A4判・176頁	500部

2023年度の要覧作成実績　なし

②博物館評価（自己点検評価）の実施

第2期中期目標・計画期　博物館総合評価実施方針

2021（令和3）年4月、「第2期中期目標・計画期　博物館総合評価実施方針」を新たに定め、第1期中期目標・計画期における「内部評価」を博物館が行う「博物館評価」（自己点検評価）、「外部評価」を博物館協議会が行う「協議会評価」とし、「博物館総合評価」を実施している。

第2期中期目標・計画期の「北海道博物館総合評価実施方針」に則って、2020年度運営に係る「博物館評価調書」（16シート）を作成し、博物館評価（自己点検評価・事後評価）を実施した。なお今回は、新しい評価制度に改めてから最初の運用となるため、2020年度運営に係る事前評価は未実施とし、事後評価のみを行った。各「博物館評価調書」の「取り組みの状況と実績」（とくに評価すべき項目、達成・実現できなかった項目、当初計画になかった項目）、「今後の対応策」、事後評価の評価担当者と「総括評価」及び評価担当者による説明・意見は次のとおりである。各項目の「総括評価」及び評価担当者による説明・意見は次のとおりである。なお、評点はそれぞれ、A＝計画どおり又は計画以上に達成、B＝概ね計画どおり達成、C＝計画どおり達成されていない、を意味する。

2022年度博物館評価実施概要　　2021年度事業に対する総括と事後評価（令和3年度博物館評価調書からの抜粋）

1　資料の収集・保存		博物館基盤グループ
第一次自己評価	総括評価 B	樺太連盟資料の整理が進み、保存環境が安定したことは評価できる。恒常的な活動も含め、概ね年度計画どおりに事業が遂行されたものと判断できる。
第二次自己評価	総括評価 B	グループ内に一名の欠員があり、館としての資料保存科学担当職員が不在となる年度であったため、資料の新規受け入れ等が例年より少なく、資料審査会の開催回数も少ない年度となった。やむを得ない事情もあるとはいえ、次年度における再開を課題としたい。そのような中でも、資料の新規受け入れと保存措置を進めたこと、収蔵庫等の温湿度計測・記録装置についてより効率的な管理が可能な機器への更新を図ったことは評価できる。 樺太連盟資料については担当チームのもと資料整理に着手できたと評価できる。次年度は目録作成に向けた作業に進むことと、保管室の収蔵環境の計測及び対策の検討が課題である。
2　展示		**博物館基盤グループ**
第一次自己評価	総括評価 B	新型コロナ感染対策として、非接触の映像音声機器を考案・製作して総合展示改訂を行ったことは評価できる。一方、新型コロナ感染拡大にともない、特別展を1週間ほどしか公開できなかったこと、総合展示入替の一部を実施できなかったことなど、当初計画を達成できなかった部分もあるが、これは不可抗力によるものと判断できる。
第二次自己評価	総括評価 B	特に年度前半は新型コロナ感染拡大の影響が予想以上に大きく、長期の休館を余儀なくされ、特別展の短期間での中止等の事態が続いた。その中で感染防止対策を工夫した展示内容を準備したことや、年度後半の企画テーマ展を無事開催させ、それぞれに高い評価を得て多くの来場者があったことや総合展示の改訂を進めてきたことは評価できる。一方で展示計画の策定や「さわれる展示」の回復に向けた検討、「今とこれからをつくる」の運用等の積み残された課題も見られることから、総括評価は「B」とすることが適切である。なお遺された案件の着手と実施を次年度の課題とする必要がある。
3　調査研究		**研究戦略グループ**
第一次自己評価	総括評価 B	コロナ禍で計画どおり進まないのは想定内なので「事前評価に対する対応の適切性」はb、「年度計画の達成度」は海外交流など実際に達成できていない事項も多いことから「c」、「状況変化への対応の適切性」はその中でもできる範囲の研究活動を行ったことを評価してaとした。総括評価は「B」と判断した。
第二次自己評価	総括評価 B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ計画に沿った調査研究活動が行えない期間が長く続き、その意味での達成度は不振であったが、各研究プロジェクトともに、柔軟な対応策をとり、少なからず調査研究を進展させたことは評価に値する。海外学術交流の再開などを含め、対応策を要する課題は多いが、着実に取り組んでいく必要がある。

4　北海道開拓の村の整備		企画グループ
第一次自己評価	総括評価 A	「ポケット学芸員」の運用検証が実施できなかったのは新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による不可抗力であり、それ以外は年度計画を適正に実施していること、開拓の村の魅力を伝える『北海道のニシン漁と青山家』の刊行を実施し好評を得たことを特に評価し、総括評価を「A」とした。
第二次自己評価	総括評価 B	青山家に係る冊子刊行は好評を得たものの、重点項目として設定した「開拓の村の今後のあり方に係る具体的取組みの検討」については当初予定どおりに進まなかったことから「B」とする。
5　教育普及事業		**道民サービスグループ**
第一次自己評価	総括評価 B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって休止せざるを得なかった事業もあるなど、年度計画どおりには進まなかったが、感染症対策を徹底した上での事業運営や、「おうちミュージアム」の取組の発展的な継続など、その時々の状況に応じて、最低限の事業展開は果たせたのではないかと考える。
第二次自己評価	総括評価 B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため幾つかの事業の休止・延期など年度計画の一部が未実施であるが、当初の想定を超える長期休館等によるやむを得ないものと理解できる。全体としては感染症対策を徹底した事業運営や、「おうちミュージアム」の取組を継続し新たな展開も行うなど、状況に応じた事業展開を行っていることから、総合評価は十分に「B」を満たすものと判断する。さらに今後に向けて休止している事業の段階的回復を検討している点はプラスの評価要素である。
6　ミュージアムエデュケーター機能の強化		**道民サービスグループ**
第一次自己評価	総括評価 B	学校教育における主体的・対話的で深い学びをサポートするための具体的取組の検討に欠かせない要素である、「学校団体向けワークシートの検証・改善・拡充」は着手できなかったが、学校側の下見には十分に対応し例年よりも学校側のニーズを把握できた、など、計画はおおむね達成することができたと考える。
第二次自己評価	総括評価 B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえて年度計画の一部を未実施としているが、妥当な選択と判断であると認められる。学校団体の下見の積極的な受け入れや、教員研修の冬期実施など、状況に応じた事業展開を行っていることも評価でき、総合評価は十分に「B」を満たすと判断する。研修成果の共有を図る取組などについては、全館的な課題としても位置づけておくべきと考える
7　施設及び周辺環境の整備		**総括グループ**
第一次自己評価	総括評価 C	休館措置によりやむを得ず休止となった事業もあるが、この影響が少ない空間構想や周辺環境の整備に係る検討についても目立った進展が見られない。
第二次自己評価	総括評価 C	同上。
8　広報		**道民サービスグループ**
第一次自己評価	総括評価 B	新型コロナの感染拡大の中、重点項目として掲げていた「修学旅行その他団体旅行の誘致に向けた検討・取組」は行わなかったが、通常の広報業務に加え、重点予算事業による愛称・ロゴマークの普及、ウェブコンテンツの充実など、新たに展開した事業も多く、計画はおおむね達成することができたと考える。
第二次自己評価	総括評価 B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ計画の一部を未実施としているが、妥当な選択と判断と認められる。当年度内の館の周年事業等についての情報発信などに積極的に取り組むなど、状況に応じた事業展開を行っていることは評価できる。総合評価は「B」とすることが妥当と判断する。
9　評価制度の活用と利用者ニーズの把握		**企画グループ**
第一次自己評価	総括評価 A	達成実施できなかった項目の原因には新型コロナウイルス感染症拡大の影響という不可抗力もあるので「c」とはせず、また、実績のとりまとめ（要覧作成）・評価・協議会開催・次年度計画の作成までの一連の流れを整理・改善し、実施運用にこぎ着けたことは大いに評価できることから、総括評価としては「A」とした。
第二次自己評価	総括評価 B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により専門部会及び利用者ニーズの把握については未実施であるが、他の項目についてはおおむね計画どおり実施したため「B」とする。
10　道民参加の推進		**企画グループ**
第一次自己評価	総括評価 B	達成実現できなかった項目もあり「年度計画の達成度」は「c」。ただし約5ヶ月臨時休館が続く中で具体プランを実施しにくかったことは不可抗力といえる。その中で「古文書クラブ」「図書室支援員」の活動を再開・推進できており「事前評価への対応」「状況変化への対応」は概ね適正と考えられ、総括評価は「B」とした。
第二次自己評価	総括評価 B	臨時休館の影響で、具体化や実施出来なかった項目もあるが、そのほかはおおむね計画どおり実施できたため、「B」とする。
11　博物館ネットワーク		**企画グループ**
第一次	総括評価	実施できなかった項目もあるが新型コロナウイルス感染症拡大の影響という不可抗力であったこと、重点項目の「全国博物館大

自己評価	A	会の事務局館としての庶務」については、主催者（日博協）及び道博協役員会や文化振興課ほかとの連絡調整を綿密に行い達成できたことは特に評価できることから、総括評価としては「A」とした。
第二次自己評価	総括評価 B	全国博物館大会の開催協力は評価できるが、年度計画の一環として事前に分かっていたことであること、新型コロナウイルスの影響で実施できなかったこともあることから、おおむね適正で「B」とする。

12　情報発信　　博物館基盤グループ

第一次自己評価	総括評価 B	資料情報の公開を進める方針等が策定され、他機関との連携による資料情報の公開及びウェブサイト公開の道筋をつけたことは評価できる。レファレンスは業務の館内フローを確立する必要がある。取り組み中の項目はあるが、概ね計画どおり事業が遂行されたと判断できる。
第二次自己評価	総括評価 B	当館の資料情報システムならびにデータベースの管理と運用及びレファレンス等の運用は全体的に計画に沿って着実に進められており、協議会の指摘事項であるICT利用の促進についても意識的に取り組まれつつある。レファレンス体制・業務フローの検討や資料デジタル化の推進、資料情報公開の促進等の課題があることは一次評価記載のとおりであるが、令和3年度の評価としては「B」が適切であり、指摘された課題は館として受け止め次年度以降の事業計画に反映させていくことが望ましい。

13　人材育成機能の強化と社会貢献　　企画グループ

第一次自己評価	総括評価 B	外来研究員の受入れに関する検討の未実施は何年も持越されているものであり個別評価は「c」とせざるを得ない。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大下でも対策を講じて博物館実習の機会提供、またオンラインツールなども活用して当館職員の講師派遣をできるだけ実施したことなどから、総括評価は「B」とする。
第二次自己評価	総括評価 C	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響の中、博物館実習を無事終了できたことは評価できるが、一方で、外来研究員の受入れに関する検討や、職員の外部研修受講計画に関する策定など、課題として挙がっている項目が進捗していないことから「C」とする。

14　研究成果の発信　　研究戦略グループ

第一次自己評価	総括評価 B	コロナ禍の中、例年並みの『研究紀要』を刊行したので「事前評価に対する対応の適切性」は「a」とした。オンライン開催が多くむしろ発表しやすかったにもかかわらず学会発表等は少なかったため「年度計画の達成度」「状況変化への対応の適切性」いずれも「b」とした。総括評価は「B」と判断した。
第二次自己評価	総括評価 B	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により調査研究活動が制限されるなかでも、『北海道博物館研究紀要』および『アイヌ民族文化研究センター研究紀要』を充実した内容で刊行できたことは、評価すべきである。一方、学会への発信については不振であったことは、その要因を明らかにし、回復傾向へと導いていく必要がある。今後の対応策で記載した事項については、着実に実行へと導いていく必要がある。

15　アイヌ民族文化研究センターの事業　　アイヌ民族文化研究センター

第一次自己評価	総括評価 A	国立アイヌ民族博物館との連携を進め令和3年度の重点項目を達成できたこと、年度計画として挙げた企画テーマ展がコロナ禍下にも係わらず無事に達成され好評を得たことを特に評価すべきと考え、総括評価は「A」とした。
第二次自己評価	総括評価 B	多くの業務をほぼ計画どおり実施していることから「B」評価に該当し、一部については「特に評価すべき」に期した成果を挙げていることからより高い評価も十分考えられるが、なお達成していない課題があること、「今後の対応策」に記載のとおり研究計画のより円滑な実施を図る課題も意識すべきことから、これらの課題を明確化する意味で総括評価を「B」とする。

16　4つのビジョン（重点目標）　　企画グループ

第一次自己評価	総括評価 A	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で重点②などはあまり進捗させられなかったものの、重点①にかかる「森のちゃれんが50周年記念事業」は当館や村の建造物それ自体の魅力を伝えるものとして実現できており、好評も得ていることから、総括評価としては「A」とした。
第二次自己評価	総括評価 A	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できなかった事項もあるものの、とくに重点①については館内外からの評判も高く、道民の「知りたい」気持に応える事業となったことから「A」とする。

2023 年度博物館評価実施概要　　2022 年度事業に対する総括と事後評価（令和 4 年度博物館評価調書からの抜粋）

1　資料の収集・保存　　博物館基盤グループ

第一次自己評価	総括評価 A	必要なデータ収集と対策にもとづき、樺連資料の保存環境を安定させたこと、樺太資料の整理を進めたことは評価できる。恒常的な活動も含め、概ね年度計画どおりに事業が遂行されたものと判断できる。また、来年度実施される長寿命化工事の資料収蔵環境への影響についての検討を行ったことも評価できる。
第二次自己評価	総括評価 A	数値データについて、年度計画で定めた各健康値を逸脱しない範囲内で推移している。諸会議や作業も概ね計画どおりに遂行されているとともに、適切な資料収集・受入体制、資料保存環境が概ね維持されている。

2　展示　　博物館基盤グループ

第一次	総括評価	総合展示の小規模改訂計画を策定し、展示の魅力増進や新型コロナ感染対策等をふまえた部分改修を行ったことは高く評価でき

自己評価	A	る。また、第4テーマ「今とこれからをつくる」の更新、関連資料の公開は実現できなかったが、来年度の実現に向けた適切な運用方針を策定したことは評価できる。
第二次自己評価	総括評価 A	特に、道民ニーズに応えるための総合展示の部分改修は、着実に遂行された。数値データについても、概ね年度計画で定めた各検討値を逸脱しない範囲内で推移している。ただし、第4テーマ「いまとこれからを創る」の入替え回数など、検討値を大きく逸脱した事業もあったので、検討値や事業の進め方の検証を行いたい。
3　調査研究		**研究戦略グループ**
第一次自己評価	総括評価 B	サハリンとの交流が再開できないのは予測どおりであり、それ以外のプロジェクトはコロナ禍の影響を考慮するとおおむね計画どおりに進んでいると評価できる。今後の対応策に関しては背伸びせず、できることから着実に実施していくべき。
第二次自己評価	総括評価 B	調査研究は当館の使命を果していく上での根幹たる事業であり、道民ニーズに基づいた当館ならではの質の高い調査研究がなされるべきである。しかしながら、当館の調査研究のあり方・進め方そのものについての館内議論が活発的に行われてきたとは言い難いと認識している。
4　北海道開拓の村の整備		**企画グループ**
第一次自己評価	総括評価 B	年度計画を概ね適正に実施しているが、文化観光推進法に基づく拠点計画が不採択となり計画変更を余儀なくされた項目もあることから、総括評価としては「B」とした。
第二次自己評価	総括評価 B	文化観光推進法に基づく拠点計画の不採択や「北海道開拓の村利活用方針」の策定時期の影響により、実施できなかった項目を除き概ね計画通り達成できた。取組が遅れている事項については、今後の対応策に示したとおり、計画性を持って対応していくべきである。
5　教育普及事業		**道民サービスグループ**
第一次自己評価	総括評価 A	コロナ禍からの回復傾向をふまえながら、おおむね年度計画を達成することができたと考える。令和5年度は、アフターコロナを見据えて、運用の再開などを本格的に進めていく必要がある。
第二次自己評価	総括評価 A	コロナ禍からウイズコロナ、アフターコロナへと移ろっていく年度にあたり、後期においては、極めて的確な手続き・判断をもって、取りやめていた教育普及事業の再開や収容人数の緩和を、段階的に行っていくことができた。また、一般普及行事については、年間計画の検討値のとおり、50件実施することができた。ただし、依然、再開に至っていない事業やサービスが残っているため、引き続き社会の動向を注視するとともに、今回の新型コロナウイルス感染症拡大に類似する、あるいはそれを超える事態に対し、的確に対応できる体制づくりを検討したい。
6　ミュージアムエデュケーター機能の強化		**道民サービスグループ**
第一次自己評価	総括評価 A	コロナ禍で休止せざるを得なかったものを除いて、おおむね年度計画を達成できたと考える。令和5年度以降は、アフターコロナを見据えて、活動の再開や展開をより一層進めていく必要がある。
第二次自己評価	総括評価 A	コロナ禍の影響を多大に受けてきた分野であり、依然、再開に踏み切っていない事業も多々残されているが、社会の動向を見極めつつ、正常化に向けた取組を行っていきたい。また、教員及び旅行会社向けの下見件数が教育旅行の回復とともに大幅に伸び年間計画と乖離しているが、これについても、社会の動向や学校のニーズを総合的に検討し、適切な検討値の設定に努めたい。
7　施設及び周辺環境の整備		**総括グループ**
第一次自己評価	総括評価 A	令和4年度は文化観光推進法の計画策定時にアクセス向上や野外展示、施設のバリアフリー化に係る方策について検討しており、具体的な取組については令和5年度以降に実施予定であることから、中期目標計画の達成に向けて前進したと評価できる。
第二次自己評価	総括評価 A	同上
8　広報		**道民サービスグループ**
第一次自己評価	総括評価 A	重点項目に挙げた「各種イベント、特に特別展への誘客促進に向けた取組」については、年度計画を達成することができたと考える。今後は、「今後の対応策」にもあるように、アフターコロナを見据えた、さらなる広報活動の展開に注力する必要がある。
第二次自己評価	総括評価 A	北海道博物館開館以来最大の誘客となった第8回特別展「世界の昆虫」の広報戦略は、今後の広報の進め方を考える上で重要である。その他の数値データについても、概ね年度計画で定めた各検討値を逸脱しない範囲内で推移している。ただし、報道機関等への対応（掲載・報道見込）数など、健康値との大きな乖離が見られた項目もあったので、検討値や広報活動の進め方の検証を行いたい。
9　評価制度の活用と利用者ニーズの把握		**企画グループ**
第一次自己評価	総括評価 A	年度計画通り実施したことから「A」評価とする。

第二次自己評価	総括評価 B	同上

10　道民参加の推進　　企画グループ

第一次自己評価	総括評価 B	新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、「古文書クラブ」や「図書室支援員」の活動などを展開することができた点は評価できる一方で、新たな組織整備に向けた検討や、ウェブサイトでのページ新設の検討を進めることができなかった点を勘案して、「B」評価とした。
第二次自己評価	総括評価 B	道民参加型学習サークル活動や「図書室支援員」活動は通年で取り組むことができ計画どおり達成。取組が遅れている事項については、今後の対応策に示したとおり、計画性を持って対応していくべきである。

11　博物館ネットワーク　　企画グループ

第一次自己評価	総括評価 A	北海道博物館協会の運営に関わるものとして、あり方検討委員会による提言をとりまとめたこと、これを踏まえて北海道教育庁との連携を進めたこと、博物館ネットワーク構築の観点から特に評価できることから、総括評価としては「A」とした。
第二次自己評価	総括評価 A	博物館協会の事務局としての役割や他施設との連携事業の取組などにより、ネットワーク構築に務めることができた。

12　情報発信　　博物館基盤グループ

第一次自己評価	総括評価 A	収蔵資料データベースの新規登録及び追加情報の登録や過去の刊行物のPDF化を進めたことは評価できる。また、ウェブ上での収蔵資料の情報の公開を積極的に進め更なる利活用を推進したことも高く評価できる。取り組み中の項目はあるものの、概ね計画どおり事業が遂行されたと判断できる。
第二次自己評価	総括評価 A	数値データについて、概ね年度計画で定めた各健康値を逸脱しない範囲内で推移している。ただし、収蔵図書数については年度計画と大きく乖離した数値となっているので、検証したい。また、博物館法の改正なども含め、より一層の資料情報の電磁化や公開が求められていくことから、今後、収蔵資料のデータベース化についても健康値ないしは目標値を設定すべきか否か、設定すべき場合はどのような数字が適切か、検討していきたい。

13　人材育成機能の強化と社会貢献　　企画グループ

第一次自己評価	総括評価 B	博物館実習生等の受入や職員の研修会派遣は概ね計画通り実施し、職員による対外貢献については計画以上の成果となった点は評価できるが、課題である外来研究員の受入について、当該年度においても具体的な方向性を打ち出すことができなかったことから「B」評価とする。
第二次自己評価	総括評価 B	重点項目である、職員の研修派遣をはじめ、博物館実習生の受入や職員の講師派遣など対外貢献の取組については、計画以上の成果であったが、外部研究員受入の検討については進展が見られなかった。

14　研究成果の発信　　研究戦略グループ

第一次自己評価	総括評価 A	計画どおりボリューム・質とも例年並みの研究紀要2種を刊行し、冊子『北東アジアの十字路』も刊行したのは評価できる。外部への投稿・発表等についても、コロナ禍で調査活動が滞りがちな中で一定数を実施できたのは評価していい。
第二次自己評価	総括評価 A	第一次評価者の評価は妥当と判断する。ただし、『北海道博物館研究紀要』において、「論文」として掲載された原稿がこれまで少なかったことについての検証は継続課題である。また、オンライン発表も可能となった「学会への発信」に係る実績値の推移をたどるとともに、場合によってはより適切な健康値の設定も検討する必要がある（令和5年度第1回協議会での質問に基づく）。

15　アイヌ民族文化研究センターの事業　　アイヌ民族文化研究センター

第一次自己評価	総括評価 A	特筆すべき成果は見られないが、年度計画や課題は概ね達成できていると評価し、「事前評価に対する対応」「年度計画の達成度」は「b」とした。状況変化への対応や来年度への対応策については状況に応じた方策を検討していることから「a」とし、総括評価をAとした。
第二次自己評価	総括評価 A	計画と課題に対して、達成したことと、できなかったことの整理は適切である。蔵出し展等の展示事業や、巡回展等の地域支援への取り組みが多く見られるようになったことは、道立の専門機関として重要な成果と考える。対外支援は、意欲のあまり業務過多になる可能性もあるので、それらに留意しつつ、次年度は、資料の整理と公開等の本務についても着実に進めるようにしたい。

16　4つのビジョン（重点目標）　　企画グループ

第一次自己評価	総括評価 A	重点①にかかるものとして、総合展示室２階壁画「開拓」の解説機能付き映像コンテンツを製作・設置し、展示資料の魅力増進を図ったほか、『北東アジアの十字路　北海道博物館展示案内』を刊行し好評を得たことから、総括評価としては「A」とした。
第二次自己評価	総括評価 A	同上

③北海道立総合博物館協議会・アイヌ民族文化研究センター専門部会の開催

北海道立総合博物館条例に基づき、北海道立総合博物館の事業を円滑かつ適正に行うため、知事の附属機関として、「北海道立総合博物館協議会」を設置しています。7名に委員を委嘱しているほか、特別委員を6名委嘱し（うち2名は協議会委員と兼任）、「アイヌ民族文化研究センター専門部会」を設置しています。

2022年度の北海道立総合博物館協議会は9月と3月に開催した。アイヌ民族文化研究センター専門部会は、第4期の専門部会委員（協議会特別委員）の委嘱に係る手続きを行い、12月に開催した。

2022年度北海道立総合博物館協議会・アイヌ民族文化研究センター専門部会の開催実績　3件

令和4年度第1回北海道立総合博物館協議会			
日　時	2022年9月14日（水）　14:30～16:10	場　所	北海道博物館　講堂
出席委員	大原昌宏会長、中村吉雄部会長、佐々木史郎委員、住吉徳文委員、中川充子委員、村木美幸委員、湯浅万紀子委員		
議　題	⑴ アイヌ民族文化研究センター専門部会委員について ⑵ 令和3年度北海道博物館運営に係る協議会評価について ⑶ 令和4年度事業経過報告 ⑷ その他		

令和4年度アイヌ民族文化研究センター専門部会			
日　時	2022年12月21日（水）　15:00～16:20	場　所	北海道博物館　講堂
出席委員	中村吉雄部会長、小川悠治委員、白石英才委員		
議　題	⑴ 令和4年度第1回北海道立総合博物館協議会実施報告 ⑵ 令和3年度アイヌ民族文化研究センター事業実施報告 ⑵ 令和4年度アイヌ民族文化研究センター事業経過報告 ⑷ 令和5年度アイヌ民族文化研究センター年度計画（案） ⑸ その他		

令和4年度第2回北海道立総合博物館協議会			
日　時	2023年3月16日（木）　10:00～12:05	場　所	北海道博物館　講堂
出席委員	大原昌宏会長、中村吉雄副会長、佐々木史郎委員、住吉徳文委員、中川充子委員、村木美幸委員、湯浅万紀子委員		
議　題	⑴ アイヌ民族文化研究センター専門部会について（報告） ⑵ 令和３年度 協議会評価調書（案）について ⑶ 令和４年度事業経過（10～3月）について（報告） ⑷ 令和５年度北海道博物館年度計画について（報告） ⑸ 野幌森林公園エリアの活用及び北海道開拓の村利活用方針について（報告） ⑹ その他		

2023年度北海道立総合博物館協議会・アイヌ民族文化研究センター専門部会の開催実績　3件

令和5年度第1回北海道立総合博物館協議会			
日　時	2023年12月8日（木）　10:00～12:05	場　所	北海道博物館　講堂
出席委員	佐々木史郎会長、小川哲也副会長、岡田真弓委員、小林快次委員、矢野ひろ委員		
議　題	⑴ 会長及び副会長の選出 ⑵ アイヌ民族文化研究センター専門部会の設置について ⑶ 今期協議会への諮問事項について ⑷ 令和４年度北海道博物館運営に係る評価報告（年度評価） ⑸ 令和５年度年度計画および事業経過報告（４～１１月）		

令和5年度アイヌ民族文化研究センター専門部会			
日　時	2024年3月12日（火）　13:30～15:30	場　所	北海道博物館　講堂
出席委員	小川哲也部会長、白石英才委員、藤岡千代美委員、村木美幸委員、結城幸司委員		
議　題	⑴ 令和５年度第１回北海道立総合博物館協議会実施報告 ⑵ 令和４年度アイヌ民族文化研究センター事業実施報告 ⑶ 令和５年度アイヌ民族文化研究センター事業経過報告		

	⑷ 令和６年度アイヌ民族文化研究センター年度計画（案） ⑸ その他		
令和5年度第2回北海道立総合博物館協議会			
日　　時	2024年3月28日（木）　14:00～16:00	場　　所	北海道博物館　講堂
出席委員	佐々木史郎会長、小川哲也副会長、岡田真弓委員、小林快次委員、矢野ひろ委員		
議　　題	⑴ 令和５年度アイヌ民族文化研究センター専門部会実施報告 ⑵ 令和４年度協議会評価調書（案）について ⑶ 新たな時代に対応する北海道立総合博物館のあり方 について　（諮問） ⑷ その他		

④協議会評価（外部評価）の実施

北海道立総合博物館協議会では、博物館の自己点検評価が適切に行われているかを主たる対象として、「博物館評価」（内部評価）に対する「協議会評価」（外部評価）を実施している。

令和 3 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会」において、2020 年度の北海道博物館運営に係る協議会評価が行われ、「令和 2 年度協議会評価調書（案）」がまとめられた。この「調書」をもとに、「令和 3 年度アイヌ民族文化研究センター専門部会」において、アイヌ文化関連項目に関する調査審議を行い、その審議内容を勘案したうえで、「令和 3 年度第 2 回北海道立総合博物館協議会」において「調書」が決定される予定であったが、専門部会が中止となったため、2021 年度は、博物館協議会委員による調査審議をもって 2020 年度の「調書」を決定することとなった。「令和 2 年度協議会評価調書」の内容は次のとおりである。

令和3年度　協議会評価調書

協議会評価	総合評価	個別評価項目	個別評価	個別評価項目	個別評価
	B	協議会評価に対する対応の適切性	a	ガバナンスの発揮度	b
		博物館の自己点検評価の適切性	b	事業運営費の適切性	b

協議会評価意見

【評価の方法について】※

◎評価できる点

・とても体系的な評価になり、わかりやすい自己点検評価調書になっている。「当初計画になかった項目」を設けたのは良いと思う。

・（協議会の指摘に対応して）変更後、初年度なので、苦労されたと思う。なお、評価時期が繁忙期に当たると思うが、評価を次年度に反映させるためには、無理をして今の時期に行うなど、積極性と向上の報告が明らかに見え評価できる。

・全体的にそれぞれしっかり記載しているとの印象を受ける。

◎改善・検討を要する点

・第二次自己評価でCとなった項目については、次年度の課題として継続するのか、あるいはやり方を変えるのかという疑問が残る。

・コロナ禍を、プラスに利用した活動はあるか。例えば、危機管理システムの見直しなどの良い機会ではなかったか。

・コロナ禍によるマイナス面は、予測可能、予測不可能のケースがあると思われるが、その予測と実施をどう評価したかを記載していただきたい。

・自己評価を惜しみなく進め、職員も気を引き締めてやるのが事業だと思っている。評価もやりすぎぐらいでも良いと思っている。

・自己意識を高く持って、自己評価の質を良くしていただきたい。

【ガバナンスの発揮度について】

・（個別評価項目「ガバナンスの発揮度」について）博物館内のガバナンスは、自己点検評価書の整理と活用により、見える化が進み高く評価できる。しかし博物館外（例えば道庁との関係）などは、読み取りにくく、課題があると思われる。

・記入者、担当者の名前が明示されているのでわかりやすい。

【事業運営費の適切性について】

・「執行」を除き、年度比較予算書を提示していただいたのは、相当な努力があったと思われ、高く評価できる。

・（個別評価項目「事業運営費の適切性」について）提示された資料には実績額（決算額）が示されていないので、事業運営費の適切性は評価できない。評価をしなければならない項目として残すのであれば、評価のための素材が必要である。

・予算執行されなかった残額は、どのように処理されるのか。実績額とその成果の関係が見えない。事業の達成度と予算の関係がわからない。

・予算については、評価のための見易さの工夫が必要である。運営費に対する執行の適切性なのか、予算組み（配分）の適切性なのかを明確にしていただきたい。

【改善や検討を要する事業】

・（中期目標・計画番号３、15）海外交流については、オンラインでの研究交流の道を探った方が良い。

・（中期目標・計画番号５）障がい者対策について、博物館としての指針（ポリシー）は作られているのか。視聴障害者への対応は十分な配慮が必要であり、新しい動きも多い。

・（中期目標・計画番号７）理由が読み取れないものとして、施設のハード面の改修などが実施されなかった点が挙げられる。本庁の事案になるなど、理由が読み取れる書き振りが必要か。

・（中期目標・計画番号７）周辺施設に百年記念塔の解体問題は入るのか。担当部署ではないが、大きく影響を受けること、注目のことなので、経緯や現況がわかる書き方が望ましい。

・（中期目標・計画番号７）新札幌駅のバスターミナルがわかりづらい。北海道博物館への公共交通機関によるアクセス向上について検討が必要である。

・（中期目標・計画番号７）崩れたエントランスのタイルを整備するなど、利用者の安全性の観点で、周辺整備・改修に取り組むことが必要である。

・（中期目標・計画番号13）外来研究員の受け入れに関しては、何年も検討が持ち越されている。課題を設定し直すなど、何らかの検討が必要である。

・（中期目標・計画番号14）学会参加への不振とあるが、リモートでより活性化したことはないのか。学会発表以外の口頭発表や講演会、セミナー発表などの業績も、数値化し、アウトリーチの成果を正しく評価した方が良い。

以上の意見が協議会委員より出され、それらの意見を反映し、個別評価項目に照らし、評点をつけた。結果、総合的にはB評価が妥当であるとされ、総合評価はBとした。

※「評価書の記載方法」についての意見は割愛した。

令和４年度協議会評価調書

令和4年度　協議会評価調書

	総合評価
協議会評価	B

協議会評価意見

全体を通して、博物館が様々な事業に取り組み成果を挙げていることは資料からうかがえるが、地域住民との継続的な関係の強化や、道内地域との連携の強化、事業の企画立案にあたっては道民・来館者からのアンケートに基づく外部からの意見を取り入れることなど、北海道の中核的博物館として、また、道民参加型の博物館としての取組に一層努めることを期待する。

博物館の事業成果、特にアイヌ民族文化研究センター所管である、アイヌ民族が語ったり製作したりした無形・有形の資料・文化財や、その調査研究の成果については、館内や研究者だけがアクセスできるのではなく、アイヌの側に、特にこれからの担い手となる世代などに届けることや、所蔵しているアイヌの歴史・文化についての資料をアイヌの側が利用しやすい取組（収蔵庫内資料の熟覧など）に一層努めることを期待する。

総合的には、博物館が様々な事業に取り組んでいることはうかがえるが、年度計画に対して突出した成果をあげているという意見は見られないことから、総体的には「概ね計画どおり達成」していると見なし、総合評価はBとした。

⑤年度計画の作成

博物館評価（自己点検評価）、協議会評価、協議会委員からの指摘・提案などを総合的に勘案し、各業務グループにおいて所管する項目に係る「令和４年度博物館評価調書」（16 シート）を作成し、2022（令和４）年３月８日までに博物館評価（事前評価）を実施した。「評価調書」をもとに作成した「令和４年度　北海道博物館年度計画（素案）」について、「令和３年度第２回北海道立総合博物館協議会」で報告を行い、協議会委員の意見を踏まえたうえで、2022（令和４）年３月に「年度計画」を決定した。

⑵ 利用者ニーズの把握

①来館者アンケート調査

アンケート調査は、展示（総合展示と企画展）の内容について実施している。主に２階ロビー（特別展示室出口付近）にアンケート用紙を設置し、利用者の年代・居住地・同伴者・情報源・満足度などを調査している。

2022 年度は、第８回特別展「世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－」、第 19 回企画テーマ展「アンモナイトと生きる－50 年の歩みとこれから－」（前年度からの継続開催）、第３回蔵出し展「久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―」及び第 13 回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」の開催時にアンケート調査を行った。

2023 年度は、第９回特別展「北の縄文世界と国宝」、第 20 回企画テーマ展「もっと！　あっちこっち湿地」及び第 14 回アイヌ文化巡回展、第 17 回アイヌ文化巡回展の開催時にアンケート調査を行った。

それぞれの結果は以下のとおり。

2022 年度利用者調査結果

		期間	観覧者数	アンケート回答数					
				回答率	総数	男性	女性	その他	無回答
No.1	第19回企画テーマ展 アンモナイトと生きる－50年の歩みとこれから－	2022年02月19日～5月22日	15,354	1.9%	296	163	107	6	20
	総合展示（上記の1項目として実施）	2022年02月19日～5月22日	13,229	2.2%	296	163	107	6	20
No.2	第8回特別展 世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－	2022年7月23日～9月25日	59,554	1.0%	622	322	275	1	24
	総合展示（上記の1項目として実施）	2022年7月23日～9月25日	74,009	0.8%	622	322	275	1	24
No.3	第3回蔵出し展 久保寺逸彦文庫－アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－	2022年10月29日～2023年1月15日	6,483	2.1%	135	68	63	1	3
	総合展示（上記の1項目として実施）	2022年10月29日～2023年1月15日	8,426	1.6%	135	68	63	1	3
No.4	第13回アイヌ文化巡回展 （だて歴史文化ミュージアム）	2022年9月17日～11月27日	1,473	11.1%	163	73	88	0	2

■年代

		10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70代	80代以上	無回答	その他	計
No.1	第19回企画テーマ展 アンモナイトと生きる－50年の歩みとこれから－	53	58	30	25	48	29	17	15	21	5	5	0	306
No.2	第8回特別展 世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－	138	117	67	74	97	70	16	16	17	5	5	0	622
No.3	第3回蔵出し展　久保寺逸彦文庫－アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－	16	12	22	15	18	17	6	9	17	1	1	1	135
No.4	第13回アイヌ文化巡回展 （だて歴史文化ミュージアム）	3	8	5	13	21	31	23	20	34	2	1	0	161

■居住地

		札幌市内	江別市	その他道内	道外	国外	無回答	計
No.1	第19回企画テーマ展 アンモナイトと生きる－50年の歩みとこれから－	175	33	49	28	0	11	296
No.2	第8回特別展 世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－	399	36	151	29	1	6	622
No.3	第3回蔵出し展 久保寺逸彦文庫－アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－	57	10	32	34	1	1	135

		伊達市	胆振管内	その他道内	道外	国外	無回答	計
No.4	第13回アイヌ文化巡回展 （だて歴史文化ミュージアム）	41	35	58	26	0	1	161

■同伴者

		ひとりで	友人・仲間	カップル	家族		学校	その他	無回答	計
					パートナー	子連れ				
No.1	第19回企画テーマ展 アンモナイトと生きる－50年の歩みとこれから－	66	32	23	138	19	7	11	7	303
No.2	第8回特別展 世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－	127	49	9	350	71	1	11	4	622
No.3	第3回蔵出し展 久保寺逸彦文庫－アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－	59	14	4	43	4	4	5	2	135

		ひとりで	友人	カップル	夫婦	家族	学校で	その他	無回答	計
No.4	第13回アイヌ文化巡回展（だて歴史文化ミュージアム）	73	16	1	42	30	0	1	1	164

■情報源

		新聞	雑誌	テレビ	ラジオ	ロコミ	当館の広報								来館して	その他
								SNS	当館Twitter	当館ウェブサイト	当館イベント	屋外看板	ポスター	チラシ		
No.1	第19回企画テーマ展　アンモナイトと生きる－50年の歩みとこれから－	54	10	21	4	15	166	15	6	38	7	4	56	40	37	26
No.2	第8回特別展　世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－	134	15	147	13	37	437	64	14	27	5	11	162	154	12	47
No.3	第3回蔵出し展　久保寺逸彦文庫－アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－	15	3	6	2	6	95	7	2	21	2	4	27	32	25	13

		伊達市の広報				ロコミ	当館の広報								来館して	その他	無回答
No.4	第13回アイヌ文化巡回展 （だて歴史文化ミュージアム）	59				8	10								61	33	3

2023 年度利用者調査結果

		期間	観覧者数	アンケート回答数					
				回答率	総数	男性	女性	その他	無回答
No.1	第9回特別展 北の縄文世界と国宝	令和5年7月22日～10月1日	43,473	1.2%	541	177	265	0	99
	総合展示（上記の1項目として実施）	令和5年7月22日～10月1日	58,803	0.9%	541	177	265	0	99
No.2	第20回企画テーマ展 もっと！あっちこっち湿地	令和5年2月25日～5月28日	16,540	1.8%	305	158	128	5	14
	総合展示（上記の1項目として実施）	令和5年2月25日～5月28日	16,275	1.9%	305	158	128	5	14
No.3	第14回アイヌ文化巡回展（美唄市郷土史料館）	令和5年7月7日～9月3日	481	12.1%	58	27	26	0	5
No.4	第17回アイヌ文化巡回展（釧路市立博物館）	令和5年11月18日～令和6年2月4日	3,338	1.3%	43	15	26	0	2

■年代

		10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65～69歳	70代	80代以上	無回答	その他	計
No.1	第9回特別展 北の縄文世界と国宝	32	59	43	46	95	106	44	39	55	11	11	0	541
No.2	第20回企画テーマ展 もっと！あっちこっち湿地	44	54	49	31	34	37	14	14	19	7	1	1	305
No.3	第14回アイヌ文化巡回展 （美唄市郷土史料館）	7	8	4	4	5	14	3	3	3	4	0	0	55
No.4	第17回アイヌ文化巡回展 （釧路市立博物館）	4	5	2	5	4	11	1	1	4	4	1	0	42

■居住地

		札幌市内	江別市	その他道内	道外	国外	無回答	計
No.1	第9回特別展　北の縄文世界と国宝	291	21	141	69	0	19	541
No.2	第20回企画テーマ展　もっと！あっちこっち湿地	166	20	72	35	6	6	305

		美唄市	岩見沢市	三笠市	芦別市	空知管内	道内	道外	国外	無回答	計
No.3	第14回アイヌ文化巡回展（美唄市郷土史料館）	21	3	1	0	6	15	10	1	0	57
		釧路市				釧路管内	道内	道外	国外	無回答	計
No.4	第17回アイヌ文化巡回展（釧路市立博物館）	18				6	11	8	0	0	43

■同伴者

		ひとりで	友人・仲間	カップル	家族	学校	その他	無回答	計
No.1	第9回特別展　北の縄文世界と国宝	185	47	61	229	1	3	15	541
No.2	第20回企画テーマ展　もっと！あっちこっち湿地	78	33	14	147	17	10	6	305

		ひとりで	友人・仲間	カップル	夫婦	家族・親子	学校	その他	無回答	計
No.3	第14回アイヌ文化巡回展（美唄市郷土史料館）	29	10	1	4	11	0	0	0	55
No.4	第17回アイヌ文化巡回展（釧路市立博物館）	21	4	3	2	11	0	1	0	42

■情報源

		新聞	雑誌	テレビ	ラジオ	口コミ	当館の広報	SNS	当館Twitter	当館ウェブサイト	当館イベント	屋外看板	ポスター	チラシ	来館して	その他
No.1	第9回特別展 北の縄文世界と国宝	104	7	28	1	15	178	28	1	14	0	6	89	40	2	14
No.2	第20回企画テーマ展 もっと！あっちこっち湿地	15	11	17	0	27	187	34	10	54	7	6	42	34	53	38

		開催地の広報				友人・知人から	当館の広報								来館して	その他
No.3	第14回アイヌ文化巡回展 （美唄市郷土史料館）	19				6	11								16	8
No.4	第17回アイヌ文化巡回展 （釧路市立博物館）	16				9	5								13	7

②利用者満足度調査

上記来館者アンケート調査により満足度を調査した。展示に対する満足度の結果は以下のとおり。

2022 年度利用者満足度調査

		満足度	大変満足	満足	不満	大変不満	見ていない	無回答	その他	計
No.1	第19回企画テーマ展 アンモナイトと生きる－50年の歩みとこれから－	97.1%	167	101	3	2	0	20	3	296
	総合展示（2022年2月19日～5月22日）	98.0%	121	72	0	4	65	34	0	296
No.2	第8回特別展 世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－	95.1%	434	145	19	10	0	12	1	621
	総合展示（2022年7月23日～9月25日）	96.9%	210	258	9	5	109	29	1	621
No.3	第3回蔵出し展 久保寺逸彦文庫－アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－	99.2%	63	66	1	0	0	5	0	135
	総合展示（2022年10月29日～2023年1月15日）	98.0%	56	44	2	0	19	14	0	135
No.4	第13回アイヌ文化巡回展 （だて歴史文化ミュージアム）	96.3%	49	80	5	0	0	0	0	134

2023 年度利用者満足度調査

		満足度	大変満足	満足	不満	大変不満	見ていない	無回答	その他	計
No.1	第9回特別展 北の縄文世界と国宝	83.6%	262	172	59	25	0	22	1	541
	総合展示（上記の1項目として実施）	95.6%	146	199	6	10	104	76	0	541
No.2	第20回企画テーマ展 もっと！あっちこっち湿地	98.3%	185	104	3	2	0	11	0	305
	総合展示（上記の1項目として実施）	98.4%	104	86	1	2	88	24	0	305
No.3	第14回アイヌ文化巡回展（美唄市郷土史料館）	100.0%	26	17	0	0	0	12	0	55
No.4	第17回アイヌ文化巡回展（釧路市立博物館）	100.0%	21	12	0	0	0	9	0	42

※満足度：回答者のうち、「見ていない」と「無回答」を除き、「たいへん満足」＋「満足」と答えた方

③利用者ニーズ・意見の把握・分析

展示室・図書室・総合案内などで、解説員や指定管理者などに対し利用者から直接寄せられた意見・要望は、日々の日報（解説員活動日誌、図書室業務日誌、指定管理者日報）に記録し、これを館内で供覧し、対応を協議している。2022 年度・2023 年度は来館者アンケート、利用者満足度調査のほか、以下の手段・方法により、利用者ニーズ・意見の把握を行った。

2022・2023 年度利用者ニーズ・意見の把握

手　段	所管・対応	方　法	備　考
解説員活動日誌	道民サービスグループ	総合展示室及びはっけん広場における利用者からの質問・意見等、利用者への解説・案内・誘導等の内容を日誌に記録。	開館日毎日
図書室業務日誌	博物館基盤グループ	図書室における利用者からの質問・意見等の内容を日誌に記録。	開館日毎日
指定管理者日報	総括グループ	総合案内（チケット売り場）等において指定管理者が受けた利用者からの質問・意見等の内容を日誌に記録。	開館日毎日
口頭受理票	対応職員	電話、FAX、メール、その他利用者から直接受けた質問・意見等の内容を口頭受理票	都度

利用者からの意見等は館内職員で共有し、対応の可否を管理職員または担当部署等で判断し、即時対応できるものについては都度実施した。一方、対応に予算を伴うもの、あるいは中長期的な検討が必要なものについては、意見等を集約し、次年度計画や次期中期計画に反映させるよう情報共有を図った。

10　道民参加の推進

道民や市民団体等が学びの場、または学びの発表の場として博物館を活用する取組や、さまざまな博物館事業に参画しながら、主体的に活動する事業などを展開しています。こうした取り組みは、総務部企画グループが中心となって進めています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【中期目標・計画／重点②】【ア】【イ】道民参加型学習サークル活動の推進（各研究Gへのサークル立ち上げへの働きかけ） 【中期目標・計画／重点②】【ア】第3期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討（道民サービスGと連携し、検討ワーキンググループを立ち上げ） 【中期目標・計画／重点②】【ウ】北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー：旧開拓記念館のミュージアム・メイト）の整備に向けた検討
一般	【ア】【イ】道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービスGと連携） 【ア】博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤Gと連携） 【イ】道民参加型調査研究の推進（研究戦略Gと連携） 【イ】道民参加型展示の推進（博物館基盤Gと連携） 【ア】ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新 【イ】博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期1回実施）

年度計画（2023 年度）

重点	【中期目標・計画／重点②】【ア】【イ】道民参加型学習サークル活動の推進（各研究Gへのサークル立ち上げへの働きかけ） 【中期目標・計画／重点②】【ア】第3期中期目標・計画期におけるボランティア活動の導入を含めた総合展示室、はっけん広場、図書室等での利用者対応組織の検討（道民サービスGと連携し、検討ワーキンググループを立ち上げ） 【中期目標・計画／重点②】【ウ】北海道博物館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー：旧開拓記念館のミュージアム・メイト）の整備に向けた検討
一般	【ア】【イ】道民参加型学習サークル活動の推進（道民サービスGと連携） 【ア】博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進（博物館基盤Gと連携） 【イ】道民参加型調査研究の推進（研究戦略Gと連携） 【イ】道民参加型展示の推進（博物館基盤Gと連携） 【ア】ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新 【イ】博物館実習生が企画・作成する展示コーナーの運営（年間夏期1回実施）

【重点計画】

試行的な取組として、2018 年度から当館の図書室における「図書室支援員制度」、2020 年度から学習サークル活動として「ちゃれんが古文書クラブ」を実施している。今後、学習サークル活動、ボランティア、モニター制度について、第 2 期中期目標・計画の期間中に、活動の一部を実験的にスタートさせ、当館の各種活動に協働参画しかつ館長の諮問に応える支援組織（ミュージアム・パートナー制度）の整備に向けて検討していく。

2022 年度・2023 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、新たな道民参加型学習活動を推進することはできなかった。学習サークル活動やボランティア活動などを含めた道民参加型活動のあり方全般については、次年度の検討課題とする。

【一般計画】

(1) 道民参加型学習サークル活動の推進

2020 年度より、当館所蔵の古文書を参加者とともに講読する学習サークル活動として「ちゃれんが古文書クラブ」が活動をスタートさせた。一般普及行事のように、博物館が活動回数・活動日を決め、毎年登録者を募集する形態での活動推進である。

2022 年度・2023 年度は 5～12 月に 12 回の活動が行われた。

ちゃれんが古文書クラブ

当館所蔵の古文書をテキストとして、参加者の輪読により読み進めていく参加型の古文書学習サークルです。できあがった古文書の翻刻文は、研究紀要などに「資料紹介」として掲載し、調査研究活動の普及・公開を図る予定です。

2022 年度・2023 年度道民参加型学習サークル　1 件

ちゃれんが古文書クラブ					
開始時期	2020年	登録者数	16人（2022年度） 17人（2023年度）	世話人	三浦泰之・東俊佑（研究部歴史研究グループ）
活動内容	・定期的に集まり、北海道博物館所蔵の古文書をテキストとして、参加者の輪読により古文書を読み進め、内容について意見を述べ合う。2022年度・2023年度は林梅家資料（『北海道開拓記念館一括資料目録第38集　林家資料目録』記載の資料番号B71～B78（2022年度）及びB79～88（2023年度））を用いた。 ・読み進めた古文書を翻刻し、活動成果を資料紹介の形で公表する。				
活動実績	・「ちゃれんが古文書クラブ」の講読会（学習会）を各年度12回実施した。 ・『北海道博物館研究紀要』8号（2023年3月刊行）及び9号（2024年3月刊行）に資料紹介を投稿した： 東俊佑・三浦泰之・ちゃれんが古文書クラブ「北海道博物館所蔵の林梅家資料（二）―ヨイチ場所の書上」（2023年） 「北海道博物館所蔵の林梅家資料（三）―ヨイチ場所の書上　その２－」（2024年）				

2022 年度ちゃれんが古文書クラブ参加者数

回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
開催日	5月7日	5月28日	6月18日	7月9日	7月30日	8月20日	9月10日	10月1日	10月22日	11月12日	12月3日	12月24日
参加者	15名	15名	13名	14名	14名	15名	13名	12名	14名	13名	13名	14名

2023 年度ちゃれんが古文書クラブ参加者数

回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
開催日	5月6日	5月27日	6月17日	7月8日	7月29日	8月12日	9月9日	9月30日	10月21日	11月11日	12月2日	12月23日
参加者	15名	15名	14名	14名	15名	15名	14名	14名	15名	13名	12名	14名

(2) 博物館基盤整備に係るボランティア活動の推進

北海道博物館の図書室運営の補助として「図書室支援員」が蔵書整理などの活動に従事した。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2019 年度に引き続き活動及び内容を縮小した形で実施（1 人につき 3 時間程度。2 人同日の場合は午前・午後に分散し、密を回避）。

図書室支援員制度

2018（平成30）年6月から開始した、当館の図書室で蔵書の整理等を行うボランティア制度です。数名の方を「支援員」とし、週1回程度の活動を行っています。

2022 年度図書室支援員　3 名　延べ活動日数　79 日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書室支援員活動日数	0	7	10	7	8	12	15	9	0	3	8	0	79
おもな活動	・蔵書の整理 ・季節に応じた配架の工夫 ・図書展示コーナー設営の補助												

2023 年度図書室支援員　3 名　延べ活動日数　65 日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書室支援員活動日数	3	10	12	9	14	8	5	1	2	1	0	0	65
おもな活動	・新着図書の受入 ・開架スペース及びバックヤードの環境整備（清掃、図書の配架等） ・収蔵資料画像データの整理												

(3) 道民参加型調査研究の推進

当館の調査研究や展示の一部を道民や各種団体などと協働で作成する取り組みを進めている。

2022 年度は、道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクト「野幌森林公園の生物インベントリー調査（第二次）」への市民参加を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、共同作業等の実施を自粛し、具体的な活動は実施されなかった。その他の研究プロジェクトにおける新規の道民参加型調査研究の推進については、新型コロナウイルス感染症の感

染拡大防止のため、新たに推進しなかった。

※研究プロジェクトの詳細は「3　調査研究」（30〜39 ページ）に掲載。

(4) 道民参加型展示の推進

以下の企画展、展示コーナーについて道民参加型展示を推進した。

○来館者参加型展示コーナー（アイヌ文化Q＆A（総合展示室第2テーマ、総合展示2階出口付近の参加型展示）（再掲）
○総合展示第4テーマ「いまとこれからを創る」（再掲）
○休憩ラウンジにおける道民参加型展示（アンモナイト）（再掲）
○2階ロビーにおけるキノコ展 in 北海道博物館　〜キノコの多様性と自然界での役割〜（再掲）

※詳細は「2　展示」の 25〜26、29ページに掲載。

(5) ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、道民参加型活動の積極的な PR 活動自粛の観点から、ウェブサイト内「博物館の活動に参加しよう」の内容検討・更新は実施しなかった。

(6) 博物館実習生が企画・作成した展示コーナーの運営

博物館実習生が実習期間で企画・作成した展示を、総合展示室 1 階交流ゾーンで展示した。

2022 年度博物館実習生による展示の運営

テーマ「昆虫」（展示期間：2022 年 8 月 26 日〜9 月 25 日）

班	内容
A班	はちみつ物語
B班	植物をつかったむかしの虫対策
C班	栗山町のシンボル　オオムラサキ
D班	あなたの知らないハッカの世界

※2022・2023 年度博物館実習の詳細は 95〜96 ページに掲載。

2023 年度博物館実習生による展示の運営

テーマ「焼き物」（展示期間：2023 年 8 月 25 日〜9 月 15 日）

班	内容
A班	焼き物からみる北海道らしさ
B班	私たちと炭
C班	ビールの瓶を開けてみれば、文明開化の音がする。
D班	ウキウキ!?　浮き物語

11　博物館ネットワーク

当館は、道内の博物館や資料館などとの連携をとおして、北海道の自然・歴史・文化の活用を実践し、道内博物館全体の水準の向上や活力強化のためのネットワークづくりをすすめています。北海道内の中核的な博物館としての役割を果たすべく、北海道博物館協会、日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などの各種博物館団体の事務局・幹事館業務を担うことで、道内博物館と全国の博物館をつなぎ、地域の活性化に貢献することを目的とした事業や活動を展開しています。また、当館周辺の関係施設との連携・協力を密にすることにより、札幌市・江別市周辺地域の文化事業の活性化にも取り組んでいます。こうした取り組みは、総務部企画グループが中心となって進めています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【中期目標・計画／重点③】【⑵ア】国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討（道内博物館への誘客促進、今後の連携・協働・役割分担についての協議）（アイヌ民族文化研究センターと連携）
一般	⑴ 評価制度の活用
	【ア】日本博物館協会との連携・協力、北海道支部の運営 【ア】全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力 【イ】北海道博物館協会との連携・協力 【イ】北海道博物館協会の運営（担当職員が事務局を兼務して執行） 【イ】北海道博物館協会学芸職員部会等への職員の積極的参画の促進
	⑵ 博物館交流の促進
	【ア】周辺施設とのネットワーク事業の実施［年間3件程度］ 【ア】外部主催イベントへの参画［年間3件程度］ 【イ】道内学芸職員対象の研修会等の開催検討（学芸職員部会との連携）

年度計画（2023 年度）

重点	【中期目標・計画／重点③】【⑵ア】国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討（道内博物館への誘客促進、今後の連携・協働・役割分担についての協議）（アイヌ民族文化研究センターと連携）
一般	⑴ 評価制度の活用
	【ア】日本博物館協会との連携・協力、北海道支部の運営 【ア】全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力 【イ】北海道博物館協会との連携・協力 【イ】北海道博物館協会の運営（担当職員が事務局を兼務して執行） 【イ】北海道博物館協会学芸職員部会等への職員の積極的参画の促進
	⑵ 博物館交流の促進
	【ア】周辺施設とのネットワーク事業の実施［年間3件程度］ 【ア】外部主催イベントへの参画［年間3件程度］ 【イ】道内学芸職員対象の研修会等の開催検討（学芸職員部会との連携）

【重点計画】

〇国立アイヌ民族博物館との連携による北海道内博物館の活性化に向けた検討

「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」（愛称プンカラ）は、アイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進やさまざまな事業の活性化を図るための、国立アイヌ民族博物館並びに国内外の博物館によるネットワーク組織である（主催：国立アイヌ民族博物館）。当館は、2021（令和3）年1月からネットワークに参加し、アイヌ民族文化研究センターを中心に、国立アイヌ民族博物館との連携を強め、北海道内博物館との意見交換や各種事業への協力・協働などを行った。

【一般計画】

(1) 各種博物館団体との連携

①日本博物館協会との連携・協力、北海道支部の運営

当館は、博物館の全国組織である公益財団法人日本博物館協会に加盟している。また、当館の館長は、同協会北海道支部長及び参与を委嘱されている。当館は、支部長館として、全国規模の組織と道内の博物館をつなぐ役割を果たし、協会および支部会員館との連絡・協力体制の維持に努めている。

【北海道支部加盟館】39館（2024年3月31日現在）
【おもな業務】協会および支部会員館との連絡調整

2022 年度日本博物館協会との連携・協力（概要）

項　目	摘　要
全国博物館長会議・参与会・支部長会への出席	・全国博物館長会議（第29回）（オンライン開催）　日時：2022年7月6日（水）10:30～16:30 ・参与会（オンライン開催）　日時：2022年7月5日（火）15:00～16:30 ・支部長会（オンライン開催）　2022年7月5日（火）13:00～14:30
その他	大規模災害に係る被災博物館等の復興支援募金・寄附金募集への協力（募金箱設置期間：2022年6月28日～2023年3月21日、18,970円）

2023 年度日本博物館協会との連携・協力（概要）

項　目	摘　要
全国博物館長会議・参与会・支部長会への出席	・全国博物館長会議（第30回）　日時：2023年7月5日（水）13:00～17:25 ・参与会　日時：2023年7月4日（火）15:00～16:30 ・支部長会　2023年7月4日（火）13:00～14:30
その他	大規模災害に係る被災博物館等の復興支援募金・寄附金募集への協力（募金箱設置期間：2023年6月2日～2024年3月22日、23,267円）

②全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力

当館は歴史・民俗系博物館の全国ネットワーク組織である全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、北海道ブロックの幹事館として、全国と道内博物館をつなぐ中継館としての役割を担っている。

【北海道ブロック加盟館】56館（2024年3月31日現在）
【おもな業務】協議会およびブロック館との連絡調整

2022・2023 年度全国歴史民俗系博物館協議会との連携・協力（概要）

項　目	摘　要
総会・年次集会への出席	・2022年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のために総会は書面開催となったため、議案に係る回答を送付した。また、年次集会のうち研究集会は、中止となった。 ・2023年度は、令和５年度年次集会（第9回）が那覇市で開催され、総会、幹事館会、研究集会（テーマ「文化の継承と創造へ　沖縄における事例報告」に当館から職員1名が参加した。

③北海道博物館協会との連携・協力

2022・2023 年度北海道博物館協会との連絡調整（北海道博物館への照会に対する協力等）

項　目	摘　要
照会事項への協力	・『道博協ニュース』第131～134号掲載の展示会・行事予定調査への回答 ・協会表彰頭彰者の推薦（2022年度、2023年度該当者なしで回答）

④北海道博物館協会の運営

北海道博物館協会は、1961（昭和36）年に発足した道内博物館のネットワークである。当館は、協会の事務局館として、各種活動に係る連絡調整などの役割を担っている。

【会員】団体会員130、個人会員27、賛助会員10、計167（2024年3月31日現在）
【おもな業務】役員会理事、各地区ブロック、加盟館園との連絡調整

2022 年度北海道博物館協会の主な活動（概要）

項　目	摘　要
役員会	年間3回開催（5月19日、7月13日、12月1日）
第60回北海道博物館大会	【主催】北海道博物館協会、日本博物館協会北海道支部、士別市、士別市教育委員会 【共催】道北地区博物館等連絡協議会、【後援】北海道教育委員会、公益財団法人日本博物館協会 【内容】 ○7月14日（会場：士別市民文化センター） 総会、ポスターセッション、特別報告、研究大会（テーマ「博物館がつなぐ、博物館がつながる」） ○7月15日：エクスカーション Aコース（駅前レンガ倉庫群～旧丸武西條～大野士屋主屋～屯田兵家族上陸の地～士別市立博物館・屯田兵屋）、 Bコース（士別市立博物館・屯田兵屋～朝日郷土資料館まなべーる～瑞穂獅子舞伝承館）
研修会・部会等	・ミュージアム・マネージメント研修会（10月20日～21日、小樽市） テーマ「地域に根差したミュージアムが『街』を再生、創生する」 ・道央地区博物館等連絡協議会 役員会（年間2回開催）、研修会（テーマ「動画コンテンツ虎の巻」）

2023 年度北海道博物館協会の主な活動（概要）

項　目	摘　要
役員会	年間3回開催（5月24日、7月12日、12月21日）
第61回北海道博物館大会	【主催】北海道博物館協会、日本博物館協会北海道支部、恵庭市、恵庭市教育委員会 【共催】道央地区博物館等連絡協議会、【後援】北海道教育委員会、公益財団法人日本博物館協会 【内容】 ○7月13日（会場：恵庭市民会館） 総会、ポスターセッション、特別報告、研究大会（テーマ「地方博物館から『文化観光』を考える」） ○7月14日：エクスカーション Aコース（キウス周堤墓群～千歳市埋蔵文化財センター～カリンバ遺跡～恵庭市郷土資料館）、 Bコース（カリンバ遺跡～恵庭市郷土博物館～オープンガーデン及びはなふる散策）
研修会・部会等	・ミュージアム・マネージメント研修会（10月26日～27日、釧路市） テーマ「地域の価値を高めるミュージアム」 ・道央地区博物館等連絡協議会 役員会（年間2回開催）、研修会（テーマ「博物館資料のデジタル化と活用」）

⑤北海道博物館協会学芸職員部会等への職員の積極的参画の促進

学芸職員としての能力向上を目的に、北海道博物館協会において実施される研修への積極的な参加を促進している。

※詳細は「13　人材育成機能の強化と社会貢献」の 96～97 ページに掲載。

(2) 博物館交流の促進

①かるちゃる net

2010（平成 22）年 2 月、野幌森林公園周辺の札幌市厚別区と江別市の文化施設が集まり、相互の協力・連携を密にするための協議会として「かるちゃる net」（文化施設連絡協議会）が発足した。参加施設は現在 10 施設で当館が事務局を担当し、各施設の広報・PR 活動や体験イベントなどを共同で開催している。

【参加施設】10施設
札幌市青少年科学館、新さっぽろサンピアザ水族館、江別市セラミックアートセンター、江別市郷土資料館、北海道立図書館、
北海道立文書館、北海道立埋蔵文化財センター、野幌森林公園自然ふれあい交流館、北海道開拓の村、北海道博物館
【おもな事業】
スタンプラリー、サンピアザ光の広場等を活用したワークショップやパネル展、共通行事チラシの発行・配布など

2022・2023 年度活動概要

項　目	摘　要
スタンプラリー	前年度まで春休み、夏休み期間を中心に2回実施していた「てくてく、ぺったん！かるちゃるスタンプラリー」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため春・夏とも中止した。
共同イベント	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ワークショップ・イベントは実施せず、施設紹介パネル展を実施した。実施日には加盟館職員（サンピアザ水族館及び札幌市青少年科学館）による巡回のみとし、入場者数のカウントやアンケートは実施しなかった。 〇かるちゃるnetパネル展 ・日時：2022年10月9日（日）　10:00～21:00 ・会場：サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央2条5丁目） ・実施内容：パネル展示（かるちゃるnet活動紹介パネル、各館の紹介パネル、各館出題のかるちゃるクイズボード）、各館のリーフレットやチラシ等の配置 〇「発見・体験　文化の夏　～遊ぼう！学ぼう！あつべつ・えべつ～」 ・日時：2023年8月13日（日）　10:00～21:00 ・会場：サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央2条5丁目） ・実施内容：パネル展示（かるちゃるnet活動紹介パネル、各館の紹介パネル、ワークショップ、各館のリーフレットやチラシ等の配置 〇かるちゃるnetパネル展 ・9月30日～10月29日に北海道立図書館で実施された「図書館まつり月間」に実施 ・11月10日～11月26日に北海道立埋蔵文化財センターで実施
共通行事予定チラシ『かるちゃる通信』の作成・発行	各年4回（3か月ごと）発行している『かるちゃる通信』は、予定どおり発行するとともに、ウェブサイト版をアップロードした。 ・『かるちゃる通信』2022年7～9月号、（2022年6月刊行） ・『かるちゃる通信』2022年10～12月号、（2022年9月刊行） ・『かるちゃる通信』2023年1～3月号、（2022年12月刊行） ・『かるちゃる通信』2023年4～6月号、（2023年3月刊行） ・『かるちゃる通信』2023年7～9月号、（2023年6月刊行） ・『かるちゃる通信』2023年10～12月号、（2023年9月刊行） ・『かるちゃる通信』2024年1～3月号、（2023年12月刊行） ・『かるちゃる通信』2024年4～6月号、（2024年3月刊行）
商業施設における広報活動	商業施設に設置しているラックに、各施設のリーフレットやチラシ等を配置した。 ・サンピアザ光の広場（札幌市厚別区厚別中央2条5丁目） ・イオンモール札幌平岡（札幌市清田区平岡3条5丁目3-1）
ウェブサイトの運営	当館ウェブサイト内の「かるちゃるnet」のページから情報発信を行った。

②CISE ネットワーク

北海道大学総合博物館を中心に、札幌周辺地域の博物館・科学館・動物園・図書館等の教育施設が連携し、実物科学教育を推進することを目的としてつくられたネットワークである。教育プログラム、教材の開発・活用、イベントの主催、他組織主催イベントへの出展等の活動を行っている。当館は 2015 年度から正式メンバーとして加わった。

2022 年度活動概要

項　目	摘　要
	○第9回CISEサイエンスフェスティバル　in チ・カ・ホ ・日時：2023年1月28日（土）　12:00～18:00、1月29日（日）　10:00～15:00 ・会場：札幌駅前地下歩行空間（チカホ）「北3条交差点広場（西）」 ・実施内容：CISEネットワーク参画機関が各テーマのブースを設置し、体験学習を提供。当館は「あっちこっち湿地～タンチョウ編～」として、タンチョウの食べ物や子育て、絶滅寸前まで減った歴史を紹介するとともに、生息地である湿地の環境について解説した。

2023 年度活動概要

項　目	摘　要
	オンライン学習教材の配布による取り組みで、当館からのブース出展等はなし

③生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク

札幌市が、市内にある動物園・水族館などの環境関連施設を生物多様性に関する活動拠点として位置づけ、各施設間での情報共有や連携を進めることを目的として設立したネットワークである。事務局は札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課。当館は2015年度から参加した。

2022年度活動概要

項　目	摘　要
クイズラリー	前年度に引き続き、クイズラリーはオンライン形式の「いきものつながりオンライン クイズラリー2022」として実施した。当館は、特別展「世界の昆虫」からクイズを出題した。 実施期間：2022年7月26日～8月21日

2023年度活動概要

項　目	摘　要
クイズラリー	前年度に引き続き、クイズラリーはオンライン形式の「いきものつながりオンライン クイズラリー2023」として実施した。当館は、総合展示第5テーマからクイズを出題した。 実施期間：2023年7月26日～8月20日

(3) 周辺地域とのネットワーク会議への参加

当館は、以下の地域ネットワーク会議に参加し、会議への参加のほか、事業の協力、専門的知見からの助言等を行っている。

①あつべつ区民協議会

厚別区の住民が自分たちの住んでいる厚別区に興味を持ち、住みよい街にするための取り組みについて、区民一人一人が地域の中で共に考え、共に行動し、創意と工夫でより良い街に作り上げていくことを目的とした会議（事務局：厚別区市民部地域振興課）。

②三笠ジオパーク推進協議会

地域経済の活性化及び文化の発展に寄与することを目的として、ジオパークに関する各種事業を行う団体（事務局：三笠市役所）。

③北海道ジオパークネットワーク連絡会議

北海道内のジオパーク関係者が一堂に会し、様々な情報交換や情報共有を図ることでジオパーク地域全体の活性化をめざすため開催されています（事務局：北海道総合政策部地域創生局地域政策課）。

④北海道恐竜・化石ネットワーク研究会

恐竜・化石資源を活用した地域づくりに向け、道内各地における取組の現状や課題、他県の事例などを共有・蓄積しながら、地域間の連携や産学官の協働による取組の検討、及び推進を図ることを目的に設置されている（庶務：北海道総合政策部地域振興局地域政策課）。

2022・2023年度ネットワーク会議参加

項　目	摘　要
あつべつ区民協議会	・第10期（2022～23年度）　2022年度はとくに目立った活動はなかった。 ・2023年度は，厚別区をより良くする「にぎわいづくり」勉強会・ワークショップに参加
三笠ジオパーク推進協議会	・2022年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、書面開催となり、書面表決書を送付した。 ・2023年度の定期総会は対面開催となり、代理出席者及び随行者（計４名）が出席した。

12　情報発信

当館の役割や事業、調査研究の成果や資料情報などをより多くの人に知っていただくためには、さまざまな広報活動が欠かせません。当館では、その役割や事業（おもに展示会や普及行事・イベント）などを知っていただくため、北海道民や社会に対し、当館自らが積極的・戦略的に働きかける活動を広報（利用促進、狭義の広報）と呼び、当館の資料情報や調査研究の成果など、博物館の基盤に係る情報をアーカイブスとして整備し、利用者の学習支援に応えるような受動的な広報活動を情報発信（情報サービス）と呼んでいます。広報は学芸部道民サービスグループ、情報発信は学芸部博物館基盤グループを中心に業務を担っています。

※広報・利用促進は「8　広報」（60～67ページ）に掲載。

活動実績（2022年度・2023年度）

年度計画（2022年度）

重点	【(1)ア】収蔵資料データベースに登録する情報（デジタルカメラによる写真撮影、ネガフィルムのスキャニング、資料情報内容の調査等）の拡充推進（各研究Gへの働きかけ） 【(1)ア】収蔵図書（道内外の博物館展示会図録等を含む）の整理とデータベース登録 【(1)ア】北海道博物館（旧開拓記念館、旧センター含む）刊行物（特別展図録、研究紀要、ニュースレター等）のスキャニングによるアーカイブス化の検討 【(1)イ】収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブスの公開のあり方検討
一般	**(1)情報発信機能の強化**
	【ア】情報システム（収蔵資料データベース）の保守・管理・機能拡充 【イ】情報システムを活用した関係機関（道内外博物館、文書館、図書館等）とのネットワーク構築に向けての検討（道民サービスGと連携） 【イ】デジタル技術を用いた総合展示の情報発信 【イ】『北海道博物館資料目録』刊行実施計画の作成
	(2)道民の「知りたい」気持ちへの支援
	【ア】収蔵図書の充実［年度末時蔵書数見込153,000冊程度］ 【ア】図書ボランティア制度の運用 【イ】図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備［年間利用者見込3,500人程度（うち図書室のみの利用者35人程度）］ 【イ】企画展示および総合展示の理解を深めるための図書展示コーナーの更新・運営（年間6回程度） 【ウ】各機関、個人からの問い合わせなどのレファレンス対応と推進［年間見込560件程度］ 【ウ】レファレンスの窓口一元化（ICTを活用したレファレンスなど）と効率化（よくある問い合わせQ&Aの開設など）による機能強化に向けた検討 【ウ】関係機関（道内外博物館、文書館、図書館など）との連携によるレファレンスの検討

年度計画（2023年度）

重点	【(1)ア】収蔵資料データベースに登録する情報（デジタルカメラによる写真撮影、ネガフィルムのスキャニング、資料情報内容の調査等）の拡充推進（各研究Gへの働きかけ） 【(1)ア】収蔵図書（道内外の博物館展示会図録等を含む）の整理とデータベース登録 【(1)ア】北海道博物館（旧開拓記念館、旧センター含む）刊行物（特別展図録、研究紀要、ニュースレター等）のスキャニングによるアーカイブス化の検討 【(1)イ】収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブスの公開のあり方検討
一般	**(1)情報発信機能の強化**
	【ア】情報システム（収蔵資料データベース）の保守・管理・機能拡充 【イ】情報システムを活用した関係機関（道内外博物館、文書館、図書館等）とのネットワーク構築に向けての検討（道民サービスGと連携） 【イ】デジタル技術を用いた総合展示の情報発信 【イ】『北海道博物館資料目録』刊行実施計画の作成
	(2)道民の「知りたい」気持ちへの支援
	【ア】収蔵図書の充実［年度末時蔵書数見込153,000冊程度］ 【ア】図書ボランティア制度の運用 【イ】図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備［年間利用者見込3,500人程度（うち図書室のみの利用者35人程度）］ 【イ】企画展示および総合展示の理解を深めるための図書展示コーナーの更新・運営（年間6回程度） 【ウ】各機関、個人からの問い合わせなどのレファレンス対応と推進［年間見込560件程度］

	【ウ】レファレンスの窓口一元化（ICTを活用したレファレンスなど）と効率化（よくある問い合わせQ&Aの開設など）による機能強化に向けた検討 【ウ】関係機関（道内外博物館、文書館、図書館など）との連携によるレファレンスの検討

【重点計画】

○収蔵資料データベースに登録する情報の拡充推進

資料の調査研究、写真撮影、目録整備を推進し、資料情報や画像データの資料管理システムへの入力などによる資料情報の基盤整備に努めている。また、旧北海道開拓記念館・旧北海道立アイヌ民族文化研究センターを含め、過去の各種刊行物・広報物のデジタル化を進め、記録保存と情報発信機能の強化に努めている。

当館が保有する文化資源の魅力を当館及び北海道開拓の村の展示やデジタルアーカイブで発信する素材として活用するため、令和５年度北海道立総合博物館文化観光拠点施設機能強化事業による補助金を活用し、記録資料（16 ㎜フィルム）６点及び文書資料（写真フィルム）8, 721 点のデジタル化、生活資料 78 点の高精細デジタル撮影を実施した。また、収蔵品管理システムへ高精細画像 3, 900 点の登録を行った。

2022 年度・2023 年度の資料情報の登録・更新

	2023年度	2022年度	前年度（2021年度）
資料管理システム累計登録件数	206,982件	206,493件	206,067件
うち新規登録件数	489件	426件	1,137件
ウェブサイト公開件数	11,904件	11,042件	10,786件
うち新規公開件数	862件	258件	―

※ウェブサイトの新規公開は 2022 年より開始した。

○収蔵図書の整理とデータベース登録

新規図書の受入作業とデータベース登録を随時実施した。

※詳細は 92 ページの「2022 年度新規受入図書数」および「2023 年度新規受入図書数」に掲載。

○北海道博物館刊行物のスキャニングによるアーカイブス化の検討

旧開拓記念館の刊行年の古い刊行物、旧アイヌ民族文化研究センターの刊行物の一部は、発行当時に PDF ファイルが作成されていないため、スキャニングによる PDF 化を行い、デジタルによる保存管理＝アーカイブス化が必要である。2022 年度は、旧開拓記念館が刊行した「北海道開拓記念館一括資料目録」、旧アイヌ民族文化研究センターが刊行した「北海道立アイヌ民族文化研究センター資料目録」等 44 冊の PDF 化を実施した。

○収蔵資料データベース、収蔵図書データベース、刊行物アーカイブスの公開のあり方検討

当館は、当館資料管理システムと他機関が構築・公開するシステムとの連携を積極的に進めている。現在は北海道立図書館の「北方資料デジタルライブラリー」に横断検索参加館として参加しているほか、資料管理システム「I.B.MUSEUM SaaS」を利用する全国の博物館の資料情報が横断検索できるシステム「MAPPS Gateway」に参加し、資料情報の効果的な発信と利活用の促進に取り組んでいる。さらに、北海道環境生活部が運営する道内の博物館や美術館の情報を包括的に発信するポータルサイト「北海道デジタルミュージアム」へ資料情報の提供を行っている。

・北海道デジタルミュージアム　https://hokkaido-digital-museum.jp/

2022 年度及び 2023 年度は、2021 年度に策定した「収蔵資料のデータ整備・収蔵資料情報の公開に向けた方針」及び「収蔵資料データベースのインターネットを通じた公開に関する方針」ならびに「収蔵資料データベース上の資料情報を新規公開するための手順」に基づき、資料管理システムで管理する資料情報の精査と更なる蓄積を進めた。さらに、資料管理システムに登録はあるが、ウェブサイト上で情報が未だ公開されていない資料の公開を進め、2022 年度は 258 件、2023 年度は 862 件を新たに公開することができた。

他機関との連携については、日本全国の自然史系博物館や研究機関が参加して作る自然史標本データ共有ネットワーク「サイエンスミュージアムネット（S-Net）」（運営：国立科学博物館）に対し、2022 年度は植物コレクション 740 点と無脊椎動物コレクション 37 点、2023 年度は古生物コレクション 409 点、植物コレクション 59 点の標本データを提供した。提供した標本データは S-Net を通じて地球規模生物多様性情報機構（GBIF）にも提供され、当館の生物資料の情報が国内だけでなく海外からも利用できるようになっている。

・S-Net　https://science-net.kahaku.go.jp/

・GBIF　https://www.gbif.org/

刊行物アーカイブスの公開については、2022 年度は上述のとおり一部の刊行物の PDF 化を進めることができたが、公開までは至らなかった。

【一般計画】

(1) 情報発信機能の強化

当館の情報システムは、資料情報を管理する資料管理システムのほか、インターネットで広報・情報発信を行うためのウェブサイト、アイヌ語音声資料をインターネット上で検索・視聴できる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」、図書室の蔵書管理のための図書管理システムなどによって構成されている。

①北海道博物館情報システムの保守・管理

情報システムのハード面について、ウイルス対策ソフトによる常時監視を行い、機器の動作不良には業者と都度連絡を取り対応した。また当館がクラウド上で運用するサーバーは、保守を通年で業者に委託し、セキュリティ上の脅威が生じないよう各種対策を講じている。

②資料情報を活用した関係機関とのネットワーク構築に向けての検討　※前掲

③資料目録の刊行　1 件

2023 年度に『資料目録　第 3 号　全国樺太連盟資料 1』を刊行した。北海道博物館ウェブサイトで PDF をダウンロードできるほか、北海道庁「行政情報センター」で有償頒布（販売）を行った。

(2) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

①図書室の運営

総合展示室 1 階から入室できる図書室には、北海道の自然・歴史・文化に関する図書や各地の博物館の機関誌、図録などを配架するとともに、映像資料や音声資料を視聴できるスペースや、企画展やクローズアップ展示開催にあわせて関連する図書を配架するコーナーを設けている。また、図書カウンターでは、総合展示、博物館の資料を含め、北海道の自然・歴史・文化に関する利用者からの質問に対応する「レファレンス」の窓口としての機能も有している。

2022 年度図書室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書室利用者数	232	418	369	377	531	537	371	239	98	188	241	258	3,859
うち図書室のみ	6	9	2	4	1	1	0	4	1	4	2	6	40

2023 年度図書室利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
図書室利用者数	193	364	375	376	478	440	382	322	143	171	151	187	3,582
うち図書室のみ	1	5	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	10

2022 年度新規受入図書数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規受入図書数	単行本図書	159	46	167	22	16	39	26	30	35	15	35	220	810
	雑誌	16	15	6	11	13	12	6	10	8	14	10	12	133
	博物館関係出版物	158	145	23	88	64	65	58	39	41	73	26	193	973
	除籍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	333	206	196	121	93	116	90	79	84	102	71	425	1,916
図書資料数累計		159,484	159,690	159,886	160,007	160,100	160,216	160,306	160,385	160,469	160,571	160,642	161,067	161,067

2023 年度新規受入図書数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規受入図書数	単行本図書	21	21	20	19	8	2	0	7	16	8	12	273	407
	雑誌	17	8	12	2	9	15	6	15	7	10	5	19	125
	博物館関係出版物	103	108	79	77	95	84	73	80	46	56	30	148	979
	除籍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	141	137	111	98	112	101	79	102	69	74	47	440	1,511
図書資料数累計		161,208	161,345	161,456	161,554	161,666	161,767	161,846	161,948	162,017	162,091	162,138	162,578	162,578

②図書紹介コーナーの展示

総合展示クローズアップ展示の入れ替えに合わせて、関係図書等の紹介コーナーを設けた（入替回数 2022 年度、2023 年度各 6 回）。また、特別展及び企画テーマ展の開催に合わせて、関係図書（図鑑、絵本、研究書等）の紹介コーナーを設けた。

③レファレンス対応

利用者からの展示や資料に関する質問は、総合展示室 1 階・2 階の情報デスクなどで解説員が対応し、より深く「知りたい」利用者には、図書室へ案内したり、専門分野の学芸職員に連絡をしたりして、個別に対応している。また、北海道の自然・歴史・文化に関する電話などでの問い合わせにも対応している。

※当館では、図書室または学芸職員が対応するものをレファレンスとして集計し、展示室での解説員等による対応は「5　教育普及事業」の「利用者対応」で集計している。

2022 年度レファレンス対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
レファレンス対応総件数	20	18	17	16	23	26	23	15	16	13	16	12	215	593	21.2%

2023 年度レファレンス対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計	目標達成度
レファレンス対応総件数	23	19	31	44	34	32	28	15	18	22	20	28	314	1,108	39.6%

※レファレンスの目標値（2020～2024 年度）：2,800 件、「累計」「達成率」は第 2 期中期目標・計画期（2020～2024 年度）における総計。

13　人材育成機能の強化と社会貢献

職員の専門的知識及び教育普及活動等の技能の向上を図るために、館外で実施される研修会などへの当館職員の派遣・参加を行っています。また、北海道とそれを取り巻く地域の自然・歴史・文化を学際的に調査研究する総合博物館として、研究成果を活かして広く社会に貢献するとともに、北海道の豊かな未来の実現にも貢献していくため、博物館実習生の受け入れや外部団体などの研修への協力、各種委員等への就任や講師の派遣などを行っています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【(3)】当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつける。また、そのために必要な支援の拡充に努めるための検討。
一般	**(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ**
	【ア】博物館実習生やインターンシップの受入れ［年間20人程度］ 【ア】職場体験・見学実習の受入れ［年間10件、延べ100人程度］ 【イ】高校・大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣
	(2) 外来研究員の受入
	外来研究員（外部研究者や大学院生等）の受入に関する検討・取組・制度整備
	(3) 当館職員の資質向上
	博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加［年間見込10件、延べ20人程度］
	(4) 職員の対外貢献
	招待講演（講座・講演会）等への職員派遣、各種委員・非常勤講師への就任、学術的な協力（指導助言等）、執筆依頼等［年間70件程度］
	(5) 外部機関との事業連携
	他機関等との連携・協力［年間20件程度］
	(6) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献
	【ア】【ウ】アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総括的に捉え持続可能な共生社会を模索する政策の推進 【イ】「北海道総合計画」（平成28年度～令和7年度）などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・博物館活動を推進

年度計画（2023 年度）

重点	【(3)】当館職員、とりわけ若手学芸職員の博物館に関する知識と技術力、及び研究力を高め、将来の博物館機能の向上に結びつける。また、そのために必要な支援の拡充に努めるための検討。
一般	**(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ**
	【ア】博物館実習生やインターンシップの受入れ［年間20人程度］ 【ア】職場体験・見学実習の受入れ［年間10件、延べ100人程度］ 【イ】高校・大学等のニーズに応じた当館職員の講師としての派遣
	(2) 外来研究員の受入
	外来研究員（外部研究者や大学院生等）の受入に関する検討・取組・制度整備
	(3) 当館職員の資質向上
	博物館学系研修会や技術研修会への当館職員の参加［年間見込10件、延べ20人程度］
	(4) 職員の対外貢献
	招待講演（講座・講演会）等への職員派遣、各種委員・非常勤講師への就任、学術的な協力（指導助言等）、執筆依頼等［年間70件程度］
	(5) 外部機関との事業連携
	他機関等との連携・協力［年間20件程度］

	⑹ 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献
	【ア】【ウ】アイヌ民族の歴史や文化、和人の歴史や文化、北海道における自然と人との関わり、そしてそれらを総括的に捉え持続可能な共生社会を模索する政策の推進 【イ】「北海道総合計画」（平成28年度～令和7年度）などとリンクし、北海道が抱える諸問題の解決、道民の豊かな暮らしづくりと北海道の未来づくりへと結びつく研究・博物館活動を推進

【重点計画】

〇当館職員の人材育成機能の強化と博物館機能の向上、そのための支援体制の検討

当館に寄せられる各種研修情報を迅速に周知し、当初から計画していた研修や、必要と認めた研修について学芸職員を参加させた。

※参加した研修の詳細は96～97ページの「(3)当館職員の資質向上」に掲載。

【一般計画】

（1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

当館の館務の体験による博物館活動への深い理解と必要な技術習得の普及を目的に、学芸員資格取得をめざす大学生を博物館実習生として積極的に受け入れ、将来の博物館経営を担う人材の育成に取り組んでいる。また、短期・中期に人材を受け入れ、当館学芸職員が研修を行うインターンシップや、中学校、高校、大学のカリキュラムの一環として行われる職場体験、見学実習等についても積極的に受け入れている。

8月に10日間の日程で博物館実習を実施し、2022年度は16名（上限16名）を、2023年度は20名（上限20名）を受け入れた。

2022年度博物館実習（館務実習）の受入　16名

日　　程	2022年8月16日（火）～26日（金）　10日間			
実習生内訳	学年別内訳：大学3年生5名、大学4年生8名、大学院修士2年生3名　　地域別内訳：道内10名、道外6名			
プログラム	実施日		実習内容	対応
	第1日目	8月16日	施設設備の見学と総合展示に関する課題等の検討	企画グループ
	第2日目	8月17日	資料保存・情報・建築・図書、収蔵環境や情報の問題	博物館研究グループ
	第3日目	8月18日	自然観察会のプログラム作成、模擬観察会	自然研究グループ
	第4日目	8月19日	文書資料の受入整理、古文書解読	歴史研究グループ
	第5日目	8月20日	野外博物館「開拓の村」の運営とボランティア活動、展示制作（企画づくり）	開拓の村、企画グループ
	第6日目	8月21日	アイヌ民族の伝統的衣装の取扱い、写真撮影、アイヌ語地名の解説パネル作成	アイヌ文化研究グループ
	第7日目	8月23日	新着資料「鉄工所の型板」の整理作業	生活文化研究グループ
	第8日目	8月24日	展示制作実習	企画グループほか
	第9日目	8月25日	展示制作実習	企画グループほか
	第10日目	8月26日	展示講評、総括・意見交換など	企画グループほか

2023年度博物館実習（館務実習）の受入　20名

日　　程	2023年8月15日（火）～25日（金）　10日間			
実習生内訳	学年別内訳：大学3年生7名、大学4年生8名、編入2年次1名、大学院修士2年生4名　　地域別内訳：道内13名、道外5名、通信制2名			
プログラム	実施日		実習内容	対応
	第1日目	8月15日	ガイダンス、施設設備の見学、北海道開拓の村の見学	企画グループ、開拓の村
	第2日目	8月16日	資料保存・情報・建築・図書、収蔵環境や情報の問題	博物館研究グループ
	第3日目	8月17日	文書資料の整理	歴史研究グループ
	第4日目	8月18日	化石資料の整理 オーディエンス・リサーチ	自然研究グループ 企画グループ
	第5日目	8月19日	新着資料の受入整理作業	生活文化研究グループ
	第6日目	8月20日	アイヌ文化・アイヌ史に関する記録資料整理	アイヌ文化研究グループ

	第 7日目	8月22日	展示制作（企画づくり）	企画グループ
	第 8日目	8月23日	展示制作実習	企画グループほか
	第 9日目	8月24日	展示制作実習	企画グループほか
	第 10日目	8月25日	展示講評、総括・意見交換など	企画グループほか

2022 年度インターンシップの受入　2 名

期間	所属・氏名	内容
10月25日	星槎国際高等学校2年生	・博物館の役割、展示場・収蔵庫見学 ・資料の保存と管理 ・教育普及と歴史研究

2023 年度インターンシップの受入　3 件 7 名

期間	所属・氏名	内容
8月21日～8月25日、27日	環境生活部（函館工業高等専門学校、名桜大学、札幌大谷大学、計3名）	・博物館の役割、展示場・収蔵庫見学 ・展示室の運営体験 ・博物館資料の整理作業体験
10月12日	札幌手稲高等学校（3名）	・博物館の役割、展示場・収蔵庫見学 ・データ整理作業体験 ・資料の保存と管理
11月29日～30日	北海道登別明日中等教育学校（1名）	・博物館の役割、展示場・収蔵庫見学 ・博物館資料の整理作業体験 ・資料の保存と管理

2022 年度・2023 年度職場体験の受入　　0 件

2022 年度見学実習の受入　4 件、74 名

実施日・期間	団体名	人数	内容
10月23日	東京農業大学「博物館実習」履修学生	42名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
11月13日	北翔大学「博物館教育論」履修学生	13名	レクチャー「博物館の教育プログラム」、総合展示室観覧
12月2日	北海道大学「博物館実習」履修学生	7名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
2月3日	藤女子大学「地域資源活用法」履修学生	12名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

2023 年度見学実習の受入　3 件、68 名

実施日・期間	団体名	人数	内容
6月15日	藤女子大学「地域資源活用法」履修学生	10名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室・開拓の村観覧
6月16日	北海道大学「博物館実習」（前期）履修学生	53名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧
11月24日	北海道大学「博物館実習」（後期）履修学生	5名	概要説明、バックヤード見学、総合展示室観覧

（2）外来研究員の受入

将来的に博物館学や北海道の自然・歴史・文化に関する研究に精通した研究者（大学卒業程度以上）を外来研究員として受け入れ、当館の資料整理、調査研究、展示、教育普及などの活動を学芸職員とともに担う制度の構築に向け、検討を行っている。

2022 年度・2023 年度は、外来研究員制度を創設する際の当館組織上の位置づけ、外来研究員の役割、外部研究者や大学院生などを外来研究員として受け入れるに際しての問題点などについて検討を行った。

（3）当館職員の資質向上

博物館職員としての知識・技術の向上に資する研修会等へ学芸職員を参加させ、当館職員の人材育成に努めている。

2022 年度職員の外部研修への参加　4 件　7 名

研修名	主催	研修内容	期間	研修場所	受講職員
国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会	文化庁	重要文化財等の効果的な防災・防犯対策文化財保護法上必要な手続き等についての研修	6月25日	北海道博物館（オンラインでの受講）	4名
第39回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会	国立科学博物館	自然史標本等のデータ管理の効率化やデータ精度の向上のため、システムやツールの利用方法についての研修	6月25日	北海道博物館（オンラインでの受講）	1名
令和4年度歴史民俗資料館等専門職員研修会	文化庁	文化財の調査、収集、保存及び公開等に関する専門的知識と技能についての研修	11月7日～11月11日	国立歴史民俗博物館	1名
令和4年度　IPMセミナー	九州国立博物館	九州国立博物館の取り組むIPM（総合的有害生物管理）の最新情報、X線CTを用いた文化財外注の診断、DNA塩基配列情報に基づく文化財外注検出等についての研修	11月15日	九州国立博物館	1名

2023 年度職員の外部研修への参加　11 件　28名

研修名	主催	研修内容	期間	研修場所	受講職員
令和5年度　古文書保存基礎講座	九州国立博物館、福岡県教育委員会、筑紫野市歴史博物館	古文書保存に関する基礎的な研修	5月25日～26日	九州国立博物館	1名
令和5年度第１回研修会	道央地区博物館等連絡協会	博物館・美術館職員が備えるべき法的要素に関する研修	6月6日	北海道立近代美術館	5名
国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会	文化庁	国宝・重要文化財（美術工芸品）等の効果的な防災・防犯対策及び国庫補助事業等についての説明	6月22日	北海道博物館（オンラインでの受講）	2名
北海道博物館協会学芸職員部会 第47回研修会	北海道博物館協会学芸職員部会	博物館におけるコレクション管理に関する研修	10月5日～6日	余市町中央公民館	4名
第71回全国博物館大会	日本博物館協会	「博物館法改正元年－つながり、交差する－」をテーマにした講話やシンポジウム	11月15日～17日	千葉市文化センター	1名
令和５年度「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク(プンカラ)」研修会	国立アイヌ民族博物館	<アイヌ文化>に取り組むためのQ&A、国立アイヌ民族博物館が備える各種の分析機器の説明、ネットワーク事業の説明等	11月11日～12日	国立アイヌ民族博物館	6名
令和5年度（令和4年～5年）度歴史民俗資料館等専門職員研修会	文化庁、国立歴史民俗博物館	令和4～5年度の2ヶ年にわたり受講する、歴史・民俗系博物館等職員を対象とした研修会の2年目	11月13日～17日	国立歴史民俗博物館	1名
学芸員のための文化財写真研修会	北海道立北方民族博物館	文化財の記録作成手法等についての講義と撮影実習	11月10日	北海道博物館（オンラインでの受講）	2名
第18回無形民俗文化財研究協議会	東京文化財研究所	「民具を継承する－安易な廃棄を防ぐために」をテーマにした講話やシンポジウム	12月8日	東京文化財研究所	1名
令和5年度 文化をつなぐミュージアム研修	文化庁	これからのミュージアムに求められる役割に関する基本的な知識に関する研修	12月20日～21日	北海道博物館（オンラインでの受講）	4名
第32回北海道美術館学芸員研究協議会	北海道美術館学芸員研究協議会	「地域美術史のアーカイブ」をテーマにした講話やシンポジウム	3月7日～8日	北海道立近代美術館	1名

（4）職員の対外貢献

学芸職員の知識・技術、研究成果などを広く社会に還元するため、外部団体などが主催する研修会・講演会などへの講師派遣、各種委員等への就任、学術的な専門的知見や情報の提供（指導助言・監修など）、執筆依頼などに対して、対応・協力を行っている。

①職員の各種委員・非常勤講師等への就任

2022 年度各種委員への就任　49件

氏名	委嘱名	委嘱内容等	依頼先	期間
水島未記	委員	フラワーソン2022実行委員	公益財団法人北海道新聞野生生物基金	2022年1月4日～2023年3月31日
水島未記	幹事役員	ＣＩＳＥネットワーク	ＣＩＳＥネットワーク	2022年4月25日～2023年3月31日
水島未記	評議員	公益財団法人北海道新聞野生生物基金	公益財団法人北海道新聞野生生物基金	2022年6月10日～2023年3月31日
水島未記	監事	NPO法人ストランディングネットワーク北海道監事	特定非営利活動法人ストランディングネットワーク北海道	2023年1月1日～2025年3月31日
表　溪太	委員	北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会	北海道教育委員会	2020年5月1日～ 2025年3月31日
圓谷昂史	委員	北広島市旧島松駅逓所整備検討委員会	北広島市教育委員会	2022年8月1日～2023年3月31日
堀　繁久	アドバイザー	北海道新幹線(新青森・札幌間)環境影響評価　事後調査(国土交通大臣意見対応)　アドバイザー	独立行政法人・鉄道建設･運輸施設整備支援機構	2022年4月25日～2023年3月31日
三浦泰之	委員	旧歌棄佐藤家漁場保存活用計画策定委員	寿都町教育委員会	2021年7月29日～2023年3月31日
三浦泰之	委員	石狩市文化財保護審議会	石狩市教育委員会	2022年5月20日～2024年4月30日
右代啓視	委員	人間文化研究機構プロジェクト評価委員会評価部会委員	大学共同利用機関法人人間文化機構	2021年12月14日～2023年3月31日
右代啓視	委員	江別市文化財保護委員	江別市教育委員会	2022年11月9日～2024年7月31日
右代啓視	委員	「北方領土対策に関わる専門家会議」に関わる委員	根室市	2022年10月20日～2023年3月31日
右代啓視	委員	北海道古代集落遺跡群専門家委員会委員	北海道古代集落遺跡群保存活用協議会	2022年12月1日～2023年11月30日
右代啓視	外部有識者	令和5年度国立民族学博物館文化資源プロジェクトにかかる審査意見書作成	大学共同利用機関法人人間文化機構	2023年1月20日～2023年3月31日
池田貴夫	委員	「世界の昆虫」実行委員会	「世界の昆虫」実行委員会	2022年4月25日～2023年3月31日
会田理人	委員	「別海町史跡旧奥行臼駅逓所整備検討委員会」委員	別海町教育委員会	2021年6月1日～2023年3月31日
青柳かつら	委員	宮古市文化財保存活用地域計画協議会	宮古市教育委員会	2021年7月1日～2024年3月31日
尾曲香織	委員	北海道博物館協会あり方検討委員	北海道博物館協会	2020年8月26日～ 2022年7月31日
舟山直治	委員	小樽市文化財審議委員	小樽市教育委員会	2021年11月1日～2023年10月31日
舟山直治	監事	一般財団法人北海道文化財保護協会監事	一般財団法人北海道文化財保護協会	2021年6月3日～2024年3月31日

鈴木琢也	委員	北海道遺産第4回選定ワーキングメンバー	NPO法人北海道遺産協議会	2021年10月4日～2022年10月31日
鈴木琢也	共同研究員	令和4年度人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究員及び客員教員	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	2022年4月1日～2023年3月31日
鈴木明世	委員	小樽の歴史と自然を生かしたまちづくり景観審議会（歴史的建造物専門部会）	小樽市	2022年8月1日～2024年7月31日
小川正人	委員	国立歴史民俗博物館総合展示第5室・第6室リニューアル委員会	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	2022年4月1日～2023年3月31日
小川正人	委員	「世界の昆虫」実行委員会	「世界の昆虫」実行委員会	2022年4月25日～2023年3月31日
小川正人	委員	【審査委員のため内容等非公開】		
小川正人	委員	幕別町アイヌ文化拠点空間整備事業基本計画策定事業者選考委員会	幕別町	2022年5月18日～2022年8月31日
小川正人	専門委員	北海道史編さん委員会	北海道総務部	2022年6月25日～2024年6月24日
小川正人	研究協力員	北海道立北方民族博物館 研究協力員	北海道立北方民族博物館	2022年7月27日～2026年3月31日
小川正人	審査員	【審査委員のため内容等非公開】		
小川正人	委員	国立アイヌ民族博物館ネットワーク運営委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2022年9月2日～2023年3月31日
小川正人	構成員	国立アイヌ民族博物館運営会議のワーキング会議	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2022年9月2日～2023年5月31日
小川正人	構成員	【審査委員のため内容等非公開】		
小川正人	アドバイザー	幕別町アイヌ文化拠点空間整備	幕別町	2022年10月17日～2023年3月31日
小川正人	構成員	国立アイヌ民族博物館運営会議	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2023年3月14日～2024年3月31日
甲地利恵	委員	札幌市文化財保護審議会	札幌市市民文化局	2021年4月1日～2023年3月31日
甲地利恵	研究協力員	北海道立北方民族博物館 研究協力員	北海道立北方民族博物館	2022年7月27日～2026年3月31日
甲地利恵	委員	北海道立北方民族博物館資料収集評価委員会	北海道立北方民族博物館	2021年5月1日～2023年3月31日
甲地利恵	構成員	【審査委員のため内容等非公開】		
甲地利恵	委員	令和2年度　あつべつ区民協議会	あつべつ区民協議会	2021年7月～2023年3月
大坂　拓	編集委員	上ノ国町町史編さんに係る委員の委嘱	上ノ国町教育委員会	2019年12月28日～2021年3月31日
大坂　拓	委員	国立歴史民俗博物館総合展示第5室・第6室リニューアル委員会	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	2022年4月1日～2023年3月31日
大坂　拓	特別客員教員	国立民族学博物館　学術資源研究開発センター特別客員准教授	国立民族学博物館	2022年4月1日～2023年3月31日
大坂　拓	共同研究員	国立民族学博物館共同研究員	国立民族学博物館	2022年4月1日～2023年3月31日
大坂　拓	構成員	国立アイヌ民族博物館運営会議のワーキング会議	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2022年7月4日～2023年5月31日
大坂　拓	委員	令和4年度アイヌ工芸品展中長期計画策定委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2022年11月24日～2023年3月31日
大坂　拓	委員	第56回北海道アイヌ伝統工芸展審査委員	公益社団法人北海道アイヌ協会	2023年2月9日～2023年2月14日
亀丸由紀子	共同研究員	令和4年度人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究員	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	2022年4月1日～2023年3月31日
吉川佳見	共同研究員	国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」	人間文化研究機構　国立国語研究所	2022年4月4日～2023年3月31日

2023 年度各種委員への就任　35 件

氏名	委嘱名	委嘱内容等	依頼先	期間
水島未記	構成員	オホーツク流氷科学センターの展示施設の活用等に係るプロジェクトチーム	環境生活部文化局	2023年8月23日～2024年3月31日
水島未記	委員	札幌市環境影響評価審議会	札幌市	2023年4月1日～2025年3月31日
圓谷昂史	委員	北広島市旧島松駅逓所整備検討委員会委員	北広島市教育委員会	2023年7月28日～2024年3月31日
堀　繁久	アドバイザー	北海道新幹線(新青森・札幌間)環境影響評価　事後調査(国土交通大臣意見対応)　アドバイザー	独立行政法人・鉄道建設･運輸施設整備支援機構	2023年4月1日～2024年3月31日
三浦泰之	委員	旧歌棄佐藤家漁場整備基本計画準備委員	寿都町教育委員会	2023年7月12日～2024年3月31日
三浦泰之	委員	史跡旧下ヨイチ運上家保存活用計画策定委員会委員	余市町教育委員会	2023年8月4日～2024年3月31日
三浦泰之	委員	国立アイヌ民族博物館令和6年度ニュースレター編集デザインに係る業務請負候補者選定委員会委員	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年3月14日～2024年3月16日
三浦泰之	委員	石狩市文化財保護審議会	石狩市教育委員会	2022年5月20日～2024年4月30日
右代啓視	委員	「北方領土対策に関する専門家会議」に係る委員	根室市	2023年5月1日～2024年3月31日
右代啓視	委員	令和5年度「北方領土ストーリーテリング･アーカイブ構築のための調査」有識者会議委員	凸版印刷株式会社　情報コミュニケーション事業本部　ソーシャルイノベーションセンター	2023年7月27日～2024年3月29日
会田理人	委員	別海町史跡旧奥行臼駅逓所整備検討委員会	別海町教育委員会	2023年6月1日～2025年3月31日
舟山直治	委員	小樽市歴史的風致維持向上協議会委員	小樽市	2023年8月1日～2024年3月31日
舟山直治	委員	小樽市文化財審議会委員	小樽市教育委員会	2023年11月1日～2025年10月31日
鈴木琢也	共同研究員	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究員	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構	2023年4月1日～2024年3月31日
小川正人	構成員	令和5年度国立アイヌ民族博物館運営会議の学術交流等ワーキング会議	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2023年5月30日～2024年3月31日
小川正人	委員	アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク運営委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2023年5月30日～2024年3月31日
小川正人	研究協力員	北海道立北方民族博物館 研究協力員	北海道立北方民族博物館	2022年7月27日～2026年3月31日
小川正人	委員	国立歴史民俗博物館総合展示第５室・第６室リニューアル委員会	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構	2023年4月1日～2024年3月31日

遠藤志保	委員	【審査委員のため内容等非公開】		
遠藤志保	委員	【審査委員のため内容等非公開】		
大坂　拓	構成員	令和5年度国立アイヌ民族博物館運営会議の展示検討ワーキング会議	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2023年5月30日～2024年3月31日
大坂　拓	委員	国立アイヌ民族博物館「買取評価員」	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2023年8月29日～2024年3月31日
大坂　拓	評価員	国立アイヌ民族博物館「買取評価員」及び「寄贈評価員」	公益財団法人アイヌ民族文化財団 国立アイヌ民族博物館	2024年1月29日
大坂　拓	審査委員	第５７回「北海道アイヌ伝統工芸展」審査員	公益社団法人北海道アイヌ協会	2024年2月8日～2月13日
大坂　拓	委員	令和5年度アイヌ工芸品展中長期計画策定委員会	公益財団法人アイヌ民族文化財団	2024年3月4日～3月31日
大坂　拓	委員	国立歴史民俗博物館総合展示第５室・第６室リニューアル委員会	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構	2023年4月1日～2024年3月31日
大坂　拓	共同研究員	共同研究会「環太平洋地域の先住民社会の変化、現状、未来に関する学際的比較研究：人類史的視点から」	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構	2023年4月1日～2024年3月31日
亀丸由紀子	共同研究員	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究員	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構	2023年4月1日～2024年3月31日
吉川佳見	共同研究員	国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」	人間文化研究機構　国立国語研究所	2023年4月1日～2024年3月31日
甲地利恵	委員	札幌市文化財保護審議会	札幌市	2023年4月1日～2025年3月31日
甲地利恵	委員	北海道立北方民族博物館資料収集評価委員	北海道立北方民族博物館	2023年5月1日～2025年3月31日
甲地利恵	研究協力員	北海道立北方民族博物館 研究協力員	北海道立北方民族博物館	2022年7月27日～2026年3月31日

2022 年度非常勤講師への就任　23 件

氏名	講義科目	大学名	委嘱期間	授業実施日	コマ数
表　渓太	ヒグマ学入門「ヒグマとインタープリテーション」	北海道大学理学部	2022年10月4日～2023年2月28日	後期、5時限目	1コマ
三浦泰之	日本史特講B-c	藤女子大学	2022年4月12日～2022年9月13日	前期、月曜日・4時限目	15コマ
三浦泰之	歴史資料論B	藤女子大学	2022年9月24日～2023年3月31日	後期、月曜日・3時限目	15コマ
三浦泰之	博物館展示論	札幌大学	2022年4月1日～2022年9月13日	前期、月曜日・2時限目	15コマ
東　俊佑	日本史特殊講義Ⅲ（大学院文学研究科）	北海学園大学	2022年4月1日～2023年3月31日	通年、月曜日・4時限目	30コマ
東　俊佑	古文書購読（人文学部１部）	北海学園大学	2022年4月1日～2022年9月30日	前期、月曜日・3時限目	15コマ
東　俊佑	古文書購読（人文学部２部）	北海学園大学	2022年4月1日～2022年9月30日	前期、月曜日・1時限目	15コマ
東　俊佑	博物館教育論（学芸員課程）	北海学園大学	2022年10月1日～2023年3月31日	後期、月曜日・5時限目	15コマ
右代啓視	博物館展示論	札幌学院大学	2022年4月1日～2022年9月30日	前期、水曜日・6時限目	15コマ
右代啓視	博物館展示論	東海大学	2022年4月1日～2022年9月30日	前期、月曜日・2時限目	15コマ
右代啓視	博物館実習1	東海大学	2022年10月1日～2023年3月31日	後期、3日間・集中講義	15コマ
右代啓視	考古学	北海道教育大学	2022年4月1日～2022年9月30日	前期、月曜日・4時限目	15コマ
右代啓視	考古学	北海道教育大学	2022年10月1日～2023年3月31日	後期、月曜日・4時限目	15コマ
池田貴夫	寒冷地生活支援看護学特論	札幌市立大学	2022年4月1日～2023年3月31日		3コマ
舟山直治	民俗学A	札幌学院大学	2022年4月1日～2022年9月30日	前期、月曜日・4時限目	15コマ
舟山直治	民俗学B	札幌学院大学	2022年9月20日～2023年3月31日	後期、月曜日・4時限目	15コマ
舟山直治	北海道の文化	北翔大学	2022年9月22日～2023年3月31日	後期、月曜日・1時限目	15コマ
鈴木琢也	史学演習Ａ	國學院大學北海道短期大学部	2022年4月11日～2022年8月9日	前期、月曜日・2時限目	15コマ
鈴木琢也	史学演習Ｂ	國學院大學北海道短期大学部	2022年9月26日～2023年2月1日	後期、月曜日・2時限目	15コマ
小川正人	教育史特講	北海道教育大学	2022年4月7日～2022年9月30日	前期、月曜日・5限目	15コマ
吉川佳見	アイヌ語初級Ⅰ（オープンアカデミー講座）	東京外国語大学	2022年4月4日～2022年7月25日	前期、月19：30～21：00	15コマ
吉川佳見	アジアの言語１	東京外国語大学	2022年4月1日～2022年9月30日	前期、月曜日・2時限目	15コマ
吉川佳見	アジアの言語２	東京外国語大学	2022年10月1日～2023年3月31日	後期、月曜日・2時限目	15コマ

2023 年度非常勤講師への就任　16 件

氏名	講義科目	大学名	委嘱期間	授業実施日	コマ数
三浦泰之	博物館展示論	札幌大学	2023年4月7日～2023年9月15日		15コマ
東　俊佑	博物館教育論	北海学園大学（学芸員課程）	2023年4月1日～2024年3月31日	後期、月曜日・5時限目	15コマ
東　俊佑	博物館展示論	北海学園大学（学芸員課程）	2023年4月1日～2024年3月31日	前期、月曜日・5時限目	15コマ
東　俊佑	古文書講読	北海学園大学（人文学部1部）	2023年4月1日～2024年3月31日	後期、月曜日・3時限目	15コマ
東　俊佑	古文書講読	北海学園大学（人文学部2部）	2023年4月1日～2024年3月31日	前期、月曜日・6時限目	15コマ
東　俊佑	日本史特殊講義Ⅲ	北海学園大学（大学院文学研究科）	2023年4月1日～2024年3月31日	通年、月曜日・4時限目	30コマ

右代啓視	考古学	北海道教育大学	2023年4月10日～2024年3月31日	通年、月曜日・4時限目	30コマ
右代啓視	博物館展示論(学)	札幌学院大学	2023年4月1日～2023年9月30日		30コマ
右代啓視	博物館展示論（春期）、博物館実習１（秋期）	東海大学	2023年4月1日～2024年3月31日		60時間
池田貴夫	「寒冷地生活支援看護学特論」	札幌市立大学	2023年4月1日～2024年3月31日		3コマ
舟山直治	民俗学A、民俗学B	札幌学院大学	2023年4月1日～2024年3月31日		60時間
舟山直治	北海道の文化	北翔大学	2023年9月21日～2024年3月31日	月 1	30コマ
鈴木琢也	「史学演習A（前期）」「史学演習B（後期）」	國學院大學北海道短期大学部	2023年4月1日～2024年3月31日	週1コマ	30コマ
高橋佳久	「博物館資料保存論」	北海道大学	2023年4月7日～2023年9月24日	16:30～18::	
吉川佳見	2023年度春期間　TUFSオープンアカデミー（社会人向けオンライン講座）「アイヌ語初級 I」	国立大学法人東京外国語大学	2023年4月1日～2023年7月24日	前期、月曜日・19:30～21:00	15コマ
吉川佳見	「アジアの言語１」「アジアの言語２」	国立大学法人東京外国語大学	2023年4月1日～2024年3月31日	通年、月曜日・2時限目	各30コマ

②職員の派遣

2022 年度職員派遣（館外への派遣）　62 件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
水島未記	講師	野幌森林公園と博物館の役割	日本環境学会第48回研究発表会シンポジウム「生物多様性保全の最前線」	北海学園大学（オンライン開催）	日本環境学会第48回研究発表会	7月2日
表　渓太	講師	各生徒の課題研究に関する指導・助言等	令和4年度「HOKKAIDOｻｲｴﾝｽﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ」兼北海道ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｻｲｴﾝｽﾌｪｱ(HISF)	北海道札幌啓成高等学校体育館	北海道札幌啓成高等学校	3月9日
園谷昂史	講師	ビーチコーミングから見る環境問題について	第２学年の宿泊学習における現地学習	札幌市立厚別中学校	札幌市立厚別中学校	5月23日
園谷昂史	講師	海洋プラスチック問題	令和4年度定時総会の基調講演	ANAクラウンプラザホテル（札幌市）	公益財団法人北海道産業資源循環協会	6月21日
園谷昂史	講師	親子で貝の化石で標本をつくろう！	令和4年度中央公民館事業	江別市中央公民館	江別市中央公民館	7月28日
園谷昂史	講師	北海道海岸の漂着物をしらべてみよう！	親子で環境満喫バスツアー	石狩市古潭海岸等	西区環境まちづくり協議会	7月29日、8月10日
園谷昂史	講師	博物館学概論	令和4年度「まちを好きになる市民大学」	北広島市広葉交流センター	北広島市教育委員会	8月6日
園谷昂史	ワークショップ	アンモナイトってどんな生き物？触って、比べて、 調べよう！	科学へジャンプ・イン・北海道2022	北海道札幌視覚支援学校	科学へジャンプ・イン・北海道	10月1日
園谷昂史	講師	北海道の海岸漂着物の現状と対策	2022年度 JICA研修「環境管理（海洋ゴミ対策）」コース	北海道博物館	酪農学園大学	9月9日
園谷昂史	講師	化石レプリカをつくってみよう！	令和4年度中央公民館事業	江別市中央公民館	江別市中央公民館	1月6日
園谷昂史	講師	ワークショップ「砂の中から化石と宝石を取り出してみよう」	サイエンス･フェス北海道～青少年のための科学の祭典in北海道	北海道立道民活動センターかでる2・7（札幌市）	科学の祭典in北海道	2月4日～5日
園谷昂史	ワークショップ	ワークショップ「砂の中から化石と宝石を取り出してみよう」	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2022	北海道立道民活動センターかでる2・7（札幌市）	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	2月23日
久保見幸	ワークショップ	アンモナイトってどんな生き物？触って、比べて、 調べよう！	科学へジャンプ・イン・北海道2022	北海道札幌視覚支援学校	科学へジャンプ・イン・北海道	10月1日
久保見幸	講師	化石レプリカをつくってみよう！	令和4年度中央公民館事業	江別市中央公民館　3階工芸室	江別市中央公民館	1月6日
久保見幸	講師	ワークショップ「砂の中から化石と宝石を取り出してみよう」	サイエンス･フェス北海道～青少年のための科学の祭典in北海道	北海道立道民活動センターかでる2・7（札幌市）	科学の祭典in北海道	2月4日～5日
久保見幸	ワークショップ	ワークショップ「砂の中から化石と宝石を取り出してみよう」	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2022	札幌市生涯学習センターちえりあ 講堂	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	2月23日
成田敦史	講師	糠平周辺の植物化石	自然館講座2022	上士幌町 ひがし大雪自然館および糠平湖畔(三の沢)	ひがし大雪自然館運営協議会	6月4日
成田敦史	講師	炭都夕張の地質と三笠ジオパーク	教科「SSH」の学校設定科目「地学野外観察」	夕張市・三笠市	市立札幌開成中等教育学校	7月19 日
成田敦史	講師	オープンエンドクエスチョンで生徒の思考を深化させる～「地学基礎」の例～	令和４年度(2022年度)全国理科教育大会・第65回北海道高等学校理科研究大会	市立札幌開成中等教育学校・夕張市石炭博物館及び周辺・三笠市立博物館	北海道高等学校理科研究会	8月3日～5日
成田敦史	講師	【講座】地学基礎及び地学における古生物分野に関する観察・実験	科学的に探究する力を育む実践力向上研修【高等学校】	北海道博物館　会議室	北海道立教育研究所	9月2日
成田敦史	講師	植物化石についての解説や観察指導	士別市立博物館講座	士別市立博物館および温根別湖南地区	士別市立博物館	9月18日
成田敦史	ワークショップ	アンモナイトってどんな生き物？触って、比べて、 調べよう！	科学へジャンプ・イン・北海道2022	北海道札幌視覚支援学校	科学へジャンプ・イン・北海道	10月1日
成田敦史	講師	化石レプリカをつくってみよう！	令和4年度中央公民館事業	江別市中央公民館　3階工芸室	江別市中央公民館	1月6日
成田敦史	講師	ワークショップ「砂の中から化石と宝石を取り出してみよう」	サイエンス･フェス北海道～青少年のための科学の祭典in北海道	北海道立道民活動センターかでる2・7（札幌市）	科学の祭典in北海道	2月4日～5日
成田敦史	ワークショップ	ワークショップ「砂の中から化石と宝石を取り出してみよう」	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2022	札幌市生涯学習センターちえりあ 講堂	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	2月23日
成田敦史	講師	各生徒の課題研究に関する指導・助言等	令和4年度「HOKKAIDOｻｲｴﾝｽﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ」兼北海道ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｻｲｴﾝｽﾌｪｱ(HISF)	北海道札幌啓成高等学校体育館	北海道札幌啓成高等学校	3月9日
堀　繁久	出演協力	夏休みに親子で学ぼう！北海道と世界の昆虫	zoomウェビナー	北海道新聞社（札幌市）、北海道博物館	北海道新聞社デジタル推進本部	7月28日
三浦泰之	講師		地域づくり（北海道学②）	北海道立北の森づくり専門学院（旭川市）	北海道立北の森づくり専門学院	4月13日
三浦泰之	講師	憂北の志士・松浦武四郎と島義勇	佐賀県立佐賀城本丸歴史館特別展記念講演会 第214回歴史館ゼミナール	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	11月19日
三浦泰之	講師	「北海道の歴史」	大麻東小学校4年生　特別講座	江別市立大麻東小学校	江別市立大麻東小学校	2月1日
三浦泰之	講師	松浦武四郎研究の今 ―武四郎の蝦夷地踏査を中心に	松浦武四郎記念館 武四郎講座	松浦武四郎記念館（三重県松阪市）	松浦武四郎記念館	3月12日
右代啓視	講師	上映作品「北千島」	利用講座「映像によみがえる北海道」	北海道立図書館　研修室	北海道立図書館	12月3日
会田理人	講師	北海道を中心とする北方圏水産業の歴史と現状	海洋水産学特別講義	東京農業大学生物産業学部（オホーツクキャンパス、網走市）	東京農業大学生物産業学部海洋水産学科	11月10日
尾曲香織	コーディネーター	伝統行事等の保存会と技術提携会社とのコーディネート	文化庁委託業務「地域の伝統行事等のための伝承事業」	小樽市高島地区	公益社団法人　全日本郷土芸能協会	8月1日～31日
尾曲香織	運営補助		2022年度ミュージアムマネージメント研修会	運河プラザ　三番庫（小樽市）	北海道博物館協会	10月20日～21日
尾曲香織	講師	北海道の結婚式	札幌市豊平館講座	豊平館（札幌市）	一般財団法人北海道歴史文化財団	1月20日
尾曲香織	専門的知識の提供	情報交換会における事例の報告	地域とともにあるミュージアムのあり方を考える情報交換会	北海道大学人文・社会科学総合研究棟	北海道大学プラス・ミュージアム・プログラム	2月12日
舟山直治	コーディネーター	研究大会	第60回北海道博物館大会	士別市市民文化センター	北海道博物館協会	7月14日
舟山直治	コーディネーター	伝統行事等の保存会と技術提携会社とのコーディネート	文化庁委託業務「地域の伝統行事等のための伝承事業」	小樽市高島地区	公益社団法人　全日本郷土芸能協会	8月1日～31日
舟山直治	講師	北海道に伝承されている民俗芸能の特徴	令和4年度北海道開拓の村特別展関連講座	開拓の村ビジターセンター地下講堂	一般財団法人北海道歴史文化財団	8月20日
鈴木琢也	講師		地域づくり（北海道学①）	北海道立北の森づくり専門学院（旭川市）	北海道立北の森づくり専門学院	4月12日
鈴木琢也	講師	現地視察、公開講座講師及び遺跡調査研究指導	令和4年度後三年合戦沼柵公開講座	雄物川コミュニティセンター（横手市）	横手市教育委員会	8月6日～7日

鈴木琢也	講師	古代の北方交流と擦文文化	２０２２年度「地域の文化遺産普及啓発フォーラム」	釧路市生涯学習センター多目的ホール、北海道大学学術交流会館講堂（札幌市）	北海道文化遺産活用活性化実行委員会	12月17日、1月29日
鈴木あすみ	専門的知識の提供	情報交換会における事例の報告	地域とともにあるミュージアムのあり方を考える情報交換会	北海道大学人文・社会科学総合研究棟	北海道大学プラス・ミュージアム・プログラム	2月12日
鈴木明世	講師	講義「北海道開拓の村の建造物修理保存を通して見える北海道の歴史的建造物の今後」及び工事件学の案内	2022年度第1回フォローアップ講習会	北海道開拓の村	北海道文化遺産活用活性化実行委員会	7月30日
鈴木明世	講師	歴史を活かしたまちづくり事業事例２	ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座	札幌市立大学サテライトキャンパス	北海道文化遺産活用活性化実行委員	8月20日
鈴木明世	講師	実測調査及び写真記録等への協力	三笠市の炭鉱遺産群の現状調査、及び建築史的研究	三笠市内	日本建築学会北海道支部歴史意匠委員会	9月17日～19日
鈴木明世	講師	北海道林木育種場旧庁舎の魅力と歴史的建造物の保存活用	見学会「建築文化週間　登録有形文化財の保存・活用を体感するー江別市 北海道林木育種場旧庁舎」・講演会	北海道林木育種場旧庁舎（江別市）	日本建築学会北海道支部歴史意匠委員会	10月13日
鈴木明世	講師	開拓使による洋風建築技術の受容と発展	札幌市豊平館『文化財・歴史資産に関する講座』	豊平館（札幌市）	一般財団法人北海道歴史文化財団	2月17日
小川正人	講師	アイヌ民族の歴史と文化～北海道博物館の展示と取組の紹介を通して～	江別市教職員夏期セミナー	北海道博物館	江別市教育研究所	7月28日
小川正人	講師	アイヌ文化の現在	第24回日環協・経営セミナー全国大会in北の大地 特別講演	ホテルモントレエーデルホフ札幌（札幌市）	（一社）日本環境測定分析協会	9月2日
小川正人	講師	アイヌの立場から見た北海道史	縄文遺跡群ボランティアガイド養成講座	北海道自治労会館（札幌市）	北海道世界文化遺産活用推進実行委員会	11月12日
小川正人	会議・打合せ		「熊崎直平氏資料の整理及び資料目録作成事業」検討会議	北海道立道民活動センターかでる2・7（札幌市）	様似町教育委員会	3月10日
甲地利恵	講師	アイヌ民族の芸能と音楽について	アイヌ民族文化祭２０２２	釧路町公民館ホール	公益社団法人 北海道アイヌ協会	9月3日
甲地利恵	運営補助		第60回北海道博物館大会	士別市市民文化センター	北海道博物館協会	7月13日～15日
甲地利恵	専門的知識の提供	座長	第36回北方民族文化シンポジウム　網走	オホーツク・文化交流センター（エコーセンター2000）（網走市）	一般財団法人 北方文化振興協会	10月14日～16日
遠藤志保	講師	アイヌ民族の歴史と文化についてー北海道博物館における展示のポイントからー	2022年度 JICA研修「環境管理（海洋ゴミ対策）」コース	北海道博物館	酪農学園大学	9月9日
大坂　拓	講師	アイヌ民族の刀帯　その変化と復興のあゆみ	令和4年度企画展関連講演会	苫小牧市美術博物館	苫小牧市美術博物館	5月28日
大坂　拓	講師	博物館展示を通して考える『アイヌ文化』	博物館講座	帯広百年記念館	帯広百年記念館	7月16日
大谷洋一	講師	OKIが話す！OKIが聞く！	アイヌベース・トークイベント	札幌文化芸術交流センター	AYNU BASE&HAUS	2月4日
大谷洋一	講師	私が聞いたアイヌの物語	講演会	苫小牧市美術博物館	苫小牧市美術博物館	3月18日
佐々木利和	講師	山田秀三の伊達市におけるアイヌ語地名研究から	だて歴史文化ミュージアム講演会	だて歴史文化ミュージアム（伊達市）	伊達市教育委員会	10月22日

2023 年度職員派遣（館外への派遣）　56 件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
池田貴夫	講師	「積雪寒冷地の生活と諸問題」	リハビリテーション科学部第3学年	北海道医療大学(当別町)	北海道医療大学	5月25日
池田貴夫	講師	「北海道の基礎知識、歴史、アイヌ文化、食文化等」	修学旅行事前学習	七沢希望の丘初等学校（神奈川県厚木市）	一般社団法人北海道体験観光推進協議会	10月24日
園谷昂史	講師	「化石レプリカをつくってみよう！」	令和5年度中央公民館事業	江別市中央公民館	江別市中央公民館	8月8日
園谷昂史	講師	「海岸でビーチコーミングとごみ拾い！」	親子で環境満喫バスツアー	石狩市古潭海岸	西区環境まちづくり協議会	7月28日、8月9日
園谷昂史	講師	「ビーチコーミング　～自然からのお宝を探そう～」	石狩管内教育研究会理科小学校部会 フィールドワーク	石狩市古潭海岸	石狩教育研究会理科（小）部会	8月1日
園谷昂史	講師	「海でビーチコーミングをしよう！」	こどもエコクラブ「さっぽろあそエコ団」	朝里海水浴場（小樽市）	札幌市環境プラザ	9月16日
園谷昂史	協力	ワークショップ出展等	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2023	札幌市生涯学習センターちえりあ	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	10月7日
園谷昂史	講師	ビーチコーミングを通して環境を考えるー北海道の事例ー	(1)講話　ビーチコーミングの魅力【座学】 (2)ビーチコーミング実習の解説【海岸実習】	(1)気仙沼市鹿折公民館、(2)大島・十八鳴浜または田中浜	気仙沼海の子プロジェクト	10月21日～22日
園谷昂史	共催・協力	学芸員の派遣等の協力	海岸漂着物調査事業の協力・共催	【研修会場】望来コミュニティセンターみなくる 【調査会場】望来浜海水浴場（石狩市）	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	10月12日
園谷昂史	講師	「ごみだけではなく様々な漂着物をとおして環境について学ぶ」	令和5年度（2023年度）守ろう美しい北海道！海ごみ・ポイ捨て防止大会	さっぽろテレビ塔	北海道 環境生活部 循環型社会推進課	1月12日
園谷昂史	講師	海岸漂着物から環境を考える～自然物にも着目した取り組みを例に～	「海濱美化講演会2024」	札幌エルプラザ	特定非営利活動法人　北海道海濱美化をすすめる會	2月10日
成田敦史	講師	植物化石や現代の植物の葉を用いて、植生の分布と現代の気候について学習する	2023年度植生観察学習(森林研修)	北海道札幌啓成高等学校	北海道札幌啓成高等学校	5月19日
成田敦史	講師	「糠平と北海道の植物化石」	①ミニ講演会、②自然観察会	①糠平温泉文化ホール、②糠平湖三の沢駐車場	ひがし大雪自然館運営協議会	6月3日～4日
成田敦史	講師	「化石レプリカをつくってみよう！」	令和5年度中央公民館事業	江別市中央公民館	江別市中央公民館	8月8日
成田敦史	講師	「炭都夕張の地質と三笠ジオパーク」	学校設定科目「地学野外観察」	夕張市内石炭の大露頭と本町付近露頭、三笠市内野外博物館周辺など	市立札幌開成中等教育学校	8月26日
成田敦史	講師	三笠市内の地層や化石の観察のために巡検	SSH国内（北海道）派遣研修	三笠市立博物館・野外博物館、桂沢覆道	東京都立日比谷高等学校	9月30日
成田敦史	講師	北海道の自然史について、北海道博物館の展示を通して学び、地学基礎で学習した内容の深化を図る。	2023 年度北海道の自然史学習	北海道博物館	北海道札幌啓成高等学校	10月4日、17日
成田敦史	協力	ワークショップ出展等	ジオ・フェスティバル in Sapporo 2023	札幌市生涯学習センターちえりあ	ジオ・フェスティバル in Sapporo 実行委員会	10月7日
成田敦史	講師	「植物化石を使用した古環境推定について」	令和5年度（2023年度）北海道立教育研究所研修講座「科学的に探究するために必要な資質・能力を育む実践力向上研修（中学校）」	北海道札幌啓成高等学校	北海道立教育研究所	11月9日
久保見幸	講師	「化石レプリカをつくってみよう！」	令和5年度中央公民館事業	江別市中央公民館	江別市中央公民館	8月8日
三浦泰之	講師	近世～近代の歴史・文化	地域と森林・林業（北海道学②）	北海道立北の森づくり専門学院（旭川市）	北海道立北の森づくり専門学院	4月11日
三浦泰之	講師	「北海道の歴史」	令和5年度（2023年度）北海道職員研修	北海道自治労会館	北海道	4月27日
三浦泰之	講師	3つのキーワードで読み解く、〈憂北の志士〉松浦武四郎の生	令和5年度アイヌ文化普及啓発セミナー	①札幌会場（かでる2．7）②東京会場（アイヌ文化交流センター）	公益財団法人アイヌ民族文化財団	①8月2日、②8月22日
三浦泰之	講師	「近世・近代のニシン漁」	連続講座「後志を考える」	小樽芸術村　旧三井銀行小樽支店	公益財団法人似鳥文化財団	11月18日
三浦泰之	講師	私たちが暮らす地域（厚別）の成り立ちと変遷について	厚別中学校40周年記念事業	札幌市立厚別中学校	札幌市立厚別中学校	8月28日
三浦泰之	講師	北海道の歴史や文化・風俗を学ぶ	「ほっかいどう学」	とわの森三愛高等学校	酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校	2月1日
三浦泰之	講師	「なつかし映像でふりかえる1930年代から60年代の札幌」	札幌市豊平館『文化財・歴史資産に関する講座』	札幌市豊平館	一般財団法人北海道歴史文化財団	2月9日
田中祐未	講師	日本各地の絵馬と角田神社奉納額	町民講座「文化財講座」	総合福祉センター「しゃるる」（栗山町）	栗山町教育委員会	6月8日
右代啓視	講師	リレートーク	シンポジウム「陸揚庫を語ろう」	北海道立北方四島交流センター（根室市）	根室市	4月21日～23日
右代啓視	講師	「北方の人類活動史」	高齢者市民講座	札幌市社会福祉総合センター	札幌市社会教育協会	7月13日、8月10日、9月12日
右代啓視	講師	「北方の歴史文化と人類活動史ーもう一つの日本史ー」	札幌市高齢者市民講講座	札幌市社会福祉総合センター	札幌市社会教育協会	2月13日
会田理人	講師		海洋水産学講義	東京農業大学北海道オホーツクキャンパス	東京農業大学生物産業学部	12月4日
山際秀紀	講師	「北海道のリンゴの歴史」	札幌市豊平館『文化財・歴史資産に関する講座』	札幌市豊平館	一般財団法人北海道歴史文化財団	9月8日

山際秀紀	運営補助		2023年度ミュージアムマネージメント研修会	釧路市立博物館	北海道博物館協会	10月26日～27日
青柳かつら	講師	「高齢者と協働する地域学習プログラムについて」	県議会議員による研修講座	北海道博物館	岐阜県加茂郡富加町議会	11月9日
尾曲香織	講師	語られる感情も記録する－民俗調査の現場から－	博物館講座「歴史と民俗を記録する3話」	浦幌町立博物館	浦幌町立博物館	8月19日
尾曲香織	講師	2023年度クロージングシンポジウム「Insight on Site　地域社会とともにあるミュージアムの現場に学ぶ」のパネリスト	北海道大学「プラス・ミュージアム・プログラム」	北海道大学学術交流会館	北海道大学大学院文学研究院長	1月28日
尾曲香織	会議・打合せ		第62回北海道博物館大会に係る打合せ	市立函館博物館　他	北海道博物館協会	2月9日
鈴木琢也	講師	先史文化～古代・中世(擦文文化期)	地域と森林・林業（北海道学①）	北海道立北の森づくり専門学院（旭川市）	北海道立北の森づくり専門学院	4月7日
鈴木琢也	協力	北海道博物館所有の埋蔵文化財の展示及び展示解説	「北の縄文展2023 in北斗市」	北斗市郷土資料館	北海道環境生活部	11月29日～12月1日
鈴木琢也	講師	北海道博物館特別展来場者の特徴について	「北海道・北東北の縄文遺跡群」ガイド研修	洞爺湖町役場	北海道環境生活部	12月9日
櫻井万里子	講師	第3分科会「博物館の情報資源と博物館図書室の活動」	第63回（令和5年度）北海道図書館大会	北海道立道民活動センター かでる2・7	専門図書館協議会 北海道地区連絡会	9月8日
鈴木あすみ	講師	不登校の子供を対象とした標本づくりなどのプログラムの提供	あれとむミュージアム	北海道博物館	NPO法人　みなば　不登校の子のための居場所「あれとぼ」	4月14日
鈴木明世	運営補助		第61回北海道博物館大会	恵庭市民会館	北海道博物館協会	7月12日～14日
鈴木明世	講師	「歴史を活かしたまちづくり事業事例2」	北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座	札幌市立大学サテライトキャンパス	北海道文化遺産活用活性化実行委員会	8月19日
鈴木明世	講師	「みて・さわって感じる建物のちがい」	令和5年度おくしりチャレンジスクール	奥尻町海洋研修センター	奥尻町教育委員会	10月21日
小川正人	オブザーバー	オブザーバー参加	赤れんが庁舎展示等整備有識者懇談会	北海道庁（本庁舎）	北海道総務部	承認日～3月31日
小川正人	講師	「アイヌの歴史・文化・人権問題等」	修学旅行事前学習	兵庫県立龍野高等学校	一般社団法人北海道体験観光推進協議会	10月19日
小川正人	講師	「アイヌ民族の近代史を考える－教育をめぐる歴史を中心に」	第54回部落解放・人権夏期講座	高野山大学（和歌山県高野町）	部落解放・人権夏期講座実行委員会	8月24日
遠藤志保	運営補助		第61回北海道博物館大会	恵庭市民会館	北海道博物館協会	7月12日～14日
大坂　拓	講師	「明治前半期の石狩川中・下流域におけるアイヌのくらし」	令和5年度美唄市郷土史料館企画展記念講演会	美唄市郷土史料館	美唄市郷土史料館	8月19日
大坂　拓	講師	「アイヌの歴史と文化」	縄文遺跡群ボランティアガイド養成講座	北海道自治労会館（札幌市）	北海道世界文化遺産活用推進実行委員会	11月26日
大坂　拓	講師	〈アイヌ文化〉に取り組むための Q&A PART2―基礎からはじめる/基本からはじまる ―	令和5年度「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」研修会	国立アイヌ民族博物館	公益財団法人アイヌ民族文化財団　国立アイヌ民族博物館	11月11日、12日
亀丸由紀子	講師	『アイヌの耳飾り・アイヌの首飾り』	令和5年度「美術博物館大学講座第7講」	苫小牧市美術博物館	苫小牧市美術博物館	12月16日
甲地利恵	講師	「アイヌの伝統音楽について」	令和5年度アイヌ文化フェスティバル沖縄会場	那覇文化芸術劇場なはーと	公益財団法人アイヌ民族文化財団	1月13日
甲地利恵	講師	「芸能講座　トンコリの演奏技術を学ぶ」	令和5年度アイヌ民俗文化財伝承・活用講座	春採生活館（釧路市）	釧路アイヌ協会	6月20日
甲地利恵	座長	シンポジウム「北方諸民族文化とジェンダー2」座長	第37回北方民族文化シンポジウム 網走	オホーツク・文化交流センター（網走市）	北海道立北方民族博物館	10月20日～22日

2022 年度職員派遣（館内からのオンライン参加）　7 件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
圓谷昂史	講師	海の問題・課題を学ぶ	オンライン・エコカレッジ	北海道博物館（オンライン）	NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト	10月19日
成田敦史	講師	学芸員の仕事について	3年生「総合的な探究の時間」	北海道博物館（オンライン）	市立札幌藻岩高等学校	7月21日
三浦泰之	出演協力	オンラインミュージアムプラットフォーム「MU（ミュウ）」とのタイアップ企画	美術博物館が取り組むデジタルアーカイヴ・ラーニングをテーマにしたオンライントークコンテンツ出演	北海道博物館（オンライン）	カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社　CCCアートラボ メディア事業部	8～9月(収録)
三浦泰之	講師	北海道の歴史について　北海道と広島県との関係について等	広島LEARNプロジェクト「オンライン学びプログラム」	北海道博物館（オンライン）	広島県教育委員会事務局　学びの変革推進部	10月4日
池田貴夫	講師	積雪寒冷地の生活と諸問題	リハビリテーション科学部第3学年	北海道博物館（オンライン）	北海道医療大学	5月26日
鈴木琢也	講師	古代の北方世界における交易と交流	国際シンポジウム Attractiveness of Northern Japanese regions - From ancient times & middle ages	北海道博物館（オンライン）	法政大学国際日本学研究所	3月17日
小川正人	講師	北海道立アイヌ民族文化研究センター・北海道博物館における採録音声資料公開の経緯と課題	令和4年度アイヌ語アーカイブ研究会	北海道博物館（オンライン）	国立アイヌ民族博物館	9月25日～26日

2023 年度職員派遣（館内からのオンライン参加）　3 件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
圓谷昂史	講師	北海道の漂着物と環境問題に関する講話	「海洋教育」（地域の自然に関わる学習）	北海道博物館（オンライン）	古平町立古平中学校	10月5日
成田敦史	講師	北海道の化石について	令和5年度3年次地学オンライン特別授業	北海道博物館（オンライン）	北海道伊達開来高等学校	9月15日、22日
遠藤志保	協力	「アイヌ語の現況報告」	令和５年度「危機的な状況にある言語・方言サミット」（与那国島大会）	北海道博物館（オンライン）	文化庁国語課長	1月23日

③職員の外部執筆協力（広報記事等をのぞく）

2022 年度職員の外部刊行物等への執筆協力　48 件

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	発行月日	ページ
水島未記	5章　自然史資料を見せる	自然史博物館の資料と保存（仮）	株式会社　朝倉書店	2024年3月	
表　渓太	第３章「哺乳類の分布」の「生物地理 日本」	哺乳類学の百科事典	丸善出版（株）	2024年7月	
堀　繁久	ナナホシテントウ（北の虫から46）	北海道新聞　4月23日　夕刊	北海道新聞社	4月23日	
堀　繁久	モジツノゼミ（北の虫から47）	北海道新聞　5月27日　夕刊	北海道新聞社	5月27日	
堀　繁久	ドクガの幼虫（北の虫から48）	北海道新聞　6月25日　夕刊	北海道新聞社	6月25日	
堀　繁久	ベニシタバ（北の虫から49）	北海道新聞　7月23日　夕刊	北海道新聞社	7月23日	
堀　繁久	特別編 世界の昆虫標本１０万匹	北海道新聞　8月27日　夕刊	北海道新聞社	8月27日	
堀　繁久	オオシオカラトンボ（北の虫から50）	北海道新聞　9月24日　夕刊	北海道新聞社	9月24日	

堀　繁久	オオカマキリ（北の虫から51）	北海道新聞　10月22日　夕刊	北海道新聞社	10月22日
堀　繁久	ヨツモンカメムシ（北の虫から52）	北海道新聞　11月26日　夕刊	北海道新聞社	11月26日
堀　繁久	クロテンフユシャク（北の虫から53）	北海道新聞　12月24日　夕刊	北海道新聞社	12月24日
堀　繁久	キンヘリタマムシ（北の虫から54）	北海道新聞　1月28日　夕刊	北海道新聞社	1月28日
堀　繁久	アブラゼミ（北の虫から55）	北海道新聞　2月25日　夕刊	北海道新聞社	2月25日
堀　繁久	シベチャキリガ（北の虫から56）	北海道新聞　3月25日　夕刊	北海道新聞社	3月25日
堀　繁久	ゴミムシ類	「学研の図鑑LIVE新版昆虫」	株式会社　学研プラス小中学生事業部　図鑑・科学編集室	6月23日
東　俊佑	「ヤエンクルアイノ」ほか全18項目	『アイヌ文化史辞典』	吉川弘文館	6月29日
鈴木琢也	擦文～アイヌ文化期の物流	『蝦夷ヶ島の中世』	有限会社高志書院	2023年以降刊行予定
鈴木琢也	「江別古墳群」,「柏木東遺跡」	『アイヌ文化史辞典』	吉川弘文館	6月29日
舟山直治	北海道南西部の門祓い	『文部科学教育通信』第546号	株式会社ジアース教育新社	12月26日
小川正人	北の旅日記　「アイヌ学校」の歴史をたどる	北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌『アークテッィク・サークル』123号	一般財団法人北方文化振興協会	6月17日
大坂　拓	アイヌ民族の塩利用	『季刊考古学』別冊38　日本列島の人類史と製塩		8月1日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　儀礼具一式　新品同様に違和感　和人の備品か？	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」4月6日	朝日新聞社	4月6日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　漆塗りのイクパスイ　和人による品　作りに微妙な違い	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」4月13日	朝日新聞社	4月13日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　帆布製の衣服　網元に伝わる風変わりな一着	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」4月20日	朝日新聞社	4月20日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　文様を足した衣服　針運び・構成の違いで地域を分析	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」4月27日	朝日新聞社	4月27日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　山下三五郎の山刀　文様と実用性に名工のプライド	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」6月1日	朝日新聞社	6月1日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　新ひだか町東静内の樹皮衣「由来不明」一転　調査記録が存在	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」6月8日	朝日新聞社	6月8日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　新ひだか町東静内の木綿衣　着物の呼び名　方言から微妙な差	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」6月15日	朝日新聞社	6月15日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　オホーツク海沿岸の樹皮衣　丹念な作りがなす　強度と着心地	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」6月22日	朝日新聞社	6月22日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　音吉が送ったヒグマの頭骨　89頭の熊を撃ち、祀った漁師	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」6月29日	朝日新聞社	6月29日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　旭川地方の花ゴザ　訪問時の礼儀と来客への習わし	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」7月6日	朝日新聞社	7月6日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　旭川市の花ゴザ　スゲはスゲでも　種類特定の難しさ	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」7月13日	朝日新聞社	7月13日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　浦河町の花ゴザ　「伝統」を支える　探求と強い意思	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」7月20日	朝日新聞社	7月20日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　白老町の花ゴザ　神聖な儀礼具作り　敷物も厳かに	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」7月27日	朝日新聞社	7月27日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　研究者が集めた物入れ　旧蔵品の由来　故人のみぞ知る	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」10月5日	朝日新聞社	10月5日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　浦河町の物入れ　生活用具から土産物へと変貌	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」10月12日	朝日新聞社	10月12日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　ゴザのタテ糸　２種使い分ける　作り手の知恵	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」10月19日	朝日新聞社	10月19日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　小さなゴザ　本来の用途は？　敷かずに縫い留める	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」10月26日	朝日新聞社	10月26日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　熊の木彫りを付けた冠　伝統×新たな木彫りのハイブリッド	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」12月7日	朝日新聞社	12月7日
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　樺太アイヌの樹皮衣　「モノ」の背景に　民族分断の悲劇	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」12月14日	朝日新聞社	12月14日

大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　陣羽織　和人からの品 リーダーの正装に	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」12月21日	朝日新聞社	12月21日	
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　せたな町の捧酒箸　和人入植後、山あいで懸命に生きた証し	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」3月8日	朝日新聞社	3月8日	
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　今金町の前掛け　後志利別川流域の歴史と共に	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」3月15日	朝日新聞社	3月15日	
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　長万部の物入れ　細糸の刺繍 地域内で流行？	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」3月22日	朝日新聞社	3月22日	
大坂　拓	アンカン　ル　ピリカ　アイヌの美　千島列島北部のゴザ　「由来不明」一転胸高鳴るゴザ	朝日新聞夕刊北海道版「えるむ通り」3月29日	朝日新聞社	3月29日	
亀丸由紀子	アイヌの装身具	開発こうほう (707)		7月1日	16–19
	アイヌ語沙流方言のアスペクト	『語学研究所論集』第27号　特集補遺コーナー	東京外国語大学　語学研究所	3月31日	655–656
Yoshimi Yoshikawa	Existential aspectual forms in the Saru and Chitose dialects of Ainu	Handbook of the Ainu language (Handbooks of Japanese Language and Linguistics 12).	De Gruyter Mouton	11月1日	629–656

2023 年度職員の外部刊行物等への執筆協力　12 件

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	発行月日	ページ
池田貴夫	「家の歴史をどう語り継ぐか」	『池上商店　夢の商家館』	北海道新聞社	2024年3月	
表　渓太	第 20 回企画テーマ展「もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～」の趣旨等	『展示批評を書く II』（北海道大学 大学院文学研究院 博物館学研究室　成果報告冊子）	北海道大学 大学院文学研究院 博物館学研究室	2023年8月	
成田敦史	「博物館・ジオパークで地球を学ぼう！（25）　北海道博物館」	「日本地質学会News」Vol.27 No.1	一般社団法人　日本地質学会　社会貢献部会　生涯教育委員会	2024年1月	10–11
堀　繁久	『ほっかいどう はじめての虫さがし』		北海道新聞社　事業局出版センター	2024年3月	
舟山直治	コロナ禍明けの祭礼と民俗芸能２０２２（令和４）年からの調査	「文化情報」395号	一般財団法人北海道文化財保護協会	2023年11月	2
舟山直治	街中の祠　女夫龍神	「文化情報」397号	一般財団法人北海道文化財保護協会	2024年1月	1
鈴木琢也	本州との交流	『季刊考古学』別冊42 北海道考古学の最前線	株式会社雄山閣	2023年6月	109–112
鈴木琢也	交流から探るオホーツク文化･擦文文化とアイヌの文化	『REKIHAKU』（011）	大学共同利用機関法人　人間文化研究機構	2024年2月	80–84
甲地利恵	１　アイヌの音楽に関する概説　２　座り歌と踊り歌に関して　３　北の少数民族の音楽文化について	『小学館の図鑑NEO 音楽 DVDつき』 図鑑NEO シリーズ	小学館	2023年11月	
甲地利恵	第1章第20節（アイヌ音楽の項目）	『音楽史事典』	日本音楽学会　事典編集委員会		
	アイヌ語沙流方言における他動性	『語学研究所論集』第２８号	東京外国語大学　語学研究所	2024年3月	31
大坂　拓	アイヌに対する「認知」の空白と博物館・美術館展示	『北太平洋の先住民文化－歴史・言語・社会－』	株式会社　臨川書店	2024年3月	238–256

④その他の対外貢献

2022 年度その他の対外貢献　4 件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
水島未記	協力	①北海道博物館におけるレファレンス業務の手法、受け付け方について　②レファレンス業務の記録・集約方法について　③レファレンス業務を実施している中で得られた新しい地域の自然史的知見の有無やそれらが掲載された文献・メディア情報について　等	レファレンス業務に関係するヒアリング調査	北海道博物館	滋賀県立琵琶湖博物館	1月22日
右代啓視	協力	①北方四島展示室の考古資料の展示　②北方四島学術調査に係る展示　③その他	北方四島展示室開設に伴う展示指導者	羅臼町郷土資料館	羅臼町教育委員会	9月30日～10月2日
右代啓視	協力	①北方四島展示室の考古資料の評価　②北方四島学術調査について	北方四島展示室開設にともなう講座	羅臼町郷土資料館	羅臼町教育委員会	10月15日
櫻井万里子	協力	①北海道博物館におけるレファレンス業務の手法、受け付け方について　②レファレンス業務の記録・集約方法について　③レファレンス業務を実施している中で得られた新しい地域の自然史的知見の有無やそれらが掲載された文献・メディア情報について　等	レファレンス業務に関係するヒアリング調査	北海道博物館	滋賀県立琵琶湖博物館	1月22日

2023 年度その他の対外貢献　4 件

氏名	種別	内容・タイトルなど	行事名など	場所	主催または依頼先	期日
三浦泰之	協力	町指定文化財指定にかかる専門的知見の提供	岩内神社狛犬及び手水鉢に係る所見	北海道博物館ほか	岩内町教育委員会	2024年3月まで
田中祐未	専門的知識の提供	町内に現存する、近世から明治頃の美術資料（屏風・絵馬等）の調査	上ノ国町史編さん事業に係る資料調査	上之国館調査整備センター、町内社寺等	上ノ国町教育委員会	3月31日までの間に2回程度
右代啓視	協力	展示分野（特別展など）／社会連携分野にかかる審査意見書作成	令和６年度国立民族学博物館文化資源プロジェクト	指定なし（書面）	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	1月19日～3月31日
尾曲香織	協力	文書および写真資料の内容調査	科学研究費助成事業 基盤研究（C）「『民俗資料』の収集保存基準と検索名称の開発：工場部品から日記まで」	天塩川歴史資料館（天塩町）	東京農業大学生物産業学部	10月16日～17日
鈴木明世	協力	実測調査及び写真記録等	三笠市炭鉱遺構調査	三笠市内（旧幌内炭鉱跡）	日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会	9月18日～20日
佐々木利和	協力	町指定文化財指定にかかる専門的知見の提供	岩内神社狛犬及び手水鉢に係る所見	北海道博物館ほか	岩内町教育委員会	2024年3月まで

（5）外部機関との事業連携

当館の利用促進、及び北海道の自然・歴史・文化や博物館活動の普及啓発に寄与する他機関・他団体主催の諸事業へのさまざまな協力を行っている。

2022 年度他機関との連携・協力　11 件

種別	事業名	主査・団体等	開催日・期間	会場・内容等
参画	いきものつながりオンラインクイズラリー2022	生物多様性さっぽろ拠点ネットワーク	2022年7月26日～8月21日	オンライン
事業協力	「北海道カレンダーを創って、1億4,000万年を時間旅行！！恐竜やアンモナイトたちが教えてくれる北海道のものがたり」	北海道恐竜・化石ネットワーク研究会（所管：総合政策部地域振興局地域政策課）		オンライン(キャンペーンサイトへの画像等の提供)
事業協力	「アイヌカルチャー」ARスタンプラリー	Catch Hokkaido実行委員会	2022年8月1日～2023年3月31日	当館でのARスタンプラリーの位置情報の提供
事業協力	「北海道はゴールデンカムイを応援しています。」ARスタンプラリー	Catch Hokkaido実行委員会	2022年8月1日～2023年3月31日	館内でのチラシの配布と大型バナーの展示協力
事業協力	LOVE　LOVE　北海道　ビンゴスタンプラリー	北海道鉄道活性化協議会	2022年8月11日～2023年1月20日	当館でのARスタンプラリーの位置情報の提供
事業協力	＃さっぽろきちゃったスタンプラリー(さっぽろいきたいキャンペーン」事業の一環)	札幌市国内観光プロモーション実行委員会	2022年7月15日～10月31日	当館でのARスタンプラリーの位置情報の提供
出展	かるちゃるnetパネル展	かるちゃるnet（文化施設連絡協議会）	2022年10月9日	サンピアザ光の広場
出展	CISEサイエンスフェスティバル in チ・カ・ホ	一般社団法人ちせ	2023年１月28日～1月29日	札幌駅前通地下歩行空間（チカホ）
出展	カルチャーナイト2022(オンライン開催)	カルチャーナイト実行委員会		「建物」も楽しめる博物館-北海道博物館「建物」の魅力-』としてオンライン形式で出展し、動画コンテンツを紹介した。
出展	2022サイエンスパーク	北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構	2022年7月19日～8月31日	オンライン参加(おうちミュージアムのコンテンツから出展)
名義後援・展示協力	アイヌ民族文化祭2022	公益社団法人北海道アイヌ協会	2022年9月3日	釧路町公民館

2023 年度他機関との連携・協力　1 件

種別	事業名	主査・団体等	開催日・期間	会場・内容等
名義後援・展示協力	アイヌ民族文化祭2023	公益社団法人北海道アイヌ協会	2023年8月26日	かでる2・7

※出展関係（かるちゃる net、カルチャーナイト、サイエンスパーク）は「8　広報」に掲載。

※出展関係（三笠ジオパーク協議会、あつべつ区民協議会、いきものつながりクイズラリー）は「11　博物館ネットワーク」に掲載。

（6）道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

①研究・公表の推進

「北海道総合計画」（2016～2025 年度）の政策の方向性「北海道独自の歴史・文化の発信と継承」の実現に向け、調査研究活動とそれに伴う展示活動、教育普及活動、研究成果発信活動等を実施した。

※詳細は「2　展示」、「3　調査研究」、「5　教育普及」、「14　研究成果の発信」等に掲載。

②アイヌ文化の保存・伝承と振興の推進

※詳細は「15　アイヌ民族文化研究センターの事業」（112～121 ページ）に掲載。

③樺太記憶継承事業の展開計画の作成

※詳細は「3　調査研究」の 30～31 ページの「樺太記憶継承事業」に掲載。

④野幌森林公園エリア活性化事業の実施計画の作成

※詳細は「16　4つのビジョン」の122〜124ページに掲載。

14　研究成果の発信

学芸職員（学芸員・研究職員）の個別研究課題、道費による研究プロジェクト、科学研究費補助金などによる調査研究の成果を広く社会に公開するため、当館では研究紀要や報告書を作成し、北海道の自然・歴史・文化および博物館学に関する論文、研究ノート、資料紹介を掲載することで、研究成果の発信と公開に努めています。また、専門書や学術雑誌への論文等の寄稿や、他機関主催の講座・講演会などへの職員の講師派遣、研究会や学会での発表も行っています。当館刊行物による成果公表に関するものは学芸部研究戦略グループが中心となり、編集・刊行作業を進めています。

活動実績（2022 年度・2023 年度）

年度計画（2022 年度）

重点	【(1)】各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討。
一般	(1) 学術刊行物などの刊行
	【ア】『北海道博物館研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間１回） 【ア】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間１回） 【イ】職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討
	(2) 学会への発信
	学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆推進［年間35件程度］ 学会、研究会等での発表推進［年間20件程度］

年度計画（2023 年度）

重点	【(1)】各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討。
一般	(1) 学術刊行物などの刊行
	【ア】『北海道博物館研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間１回） 【ア】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』投稿原稿の執筆推進と編集・刊行（年間１回） 【イ】職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等（叢書、新書、ブックレット、総合展示専門解説書等）の刊行の検討
	(2) 学会への発信
	学会誌等、館出版物以外の出版物への執筆推進［年間35件程度］ 学会、研究会等での発表推進［年間20件程度］

【重点計画】

〇各種研究成果を『研究紀要』その他刊行物等を通じて効果的に発信していくための実施検討

『研究紀要』掲載の論文等について、PDF ファイルを当館ウェブサイト上に配置し、研究成果を普及した。また、各学芸職員の研究業績を researchmap に掲載し、研究情報の発信・普及を行った。

【一般計画】

(1) 学術刊行物などの刊行

当館では、研究成果の定期刊行物として、『北海道博物館研究紀要』、および『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』を毎年 1 回発行している。

定期刊行物 ・『北海道博物館研究紀要』3月刊行、900部 ・『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』3月刊行、900部

①研究紀要の編集・刊行

『北海道博物館研究紀要』第 8 号及び『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 8 号の 2 冊について、編集と刊行を行った。

『北海道博物館研究紀要』第 8 号（2023 年 3 月発行）

種別	執筆者	タイトル	ページ
研究ノート	堀繁久	野幌森林公園のカミキリムシ相	1–26
研究ノート	水島未記・佐藤利幸・山崎真実・野幌森林公園植物調査の会・扇谷真知子・神真琴・堀繁久・表渓太	野幌森林公園地域のシダ植物相	27–52
研究ノート	高橋佳久	北海道博物館の外的要因による災害リスク	53–56
資料紹介	久保見幸・唐沢與希・相場大佑・圓谷昂史	北海道博物館所蔵の地学資料 ―白亜紀アンモナイト化石―	57–77
調査報告	舟山直治・尾曲香織・鈴木明世・高橋佳久	女夫龍神の祭祀 ―家族による信仰の伝承と祭祀に関わる社殿の現況調査について―	79–104
博物館活動報告	圓谷昂史・久保見幸・尾曲香織	北海道博物館第19回企画テーマ展・北海道化石会発足50周年記念展「アンモナイトと生きる ―50年の歩みとこれから―」の報告	105–158
資料紹介	東俊佑・三浦泰之・ちゃれんが古文書クラブ	北海道博物館所蔵の林梅家資料（二）―ヨイチ場所書上―	159–230

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 8 号（2023 年 3 月発行）

種別	執筆者	タイトル	ページ
論文	吉川佳見	アイヌ語静内方言の存在型アスペクト ―沙流・千歳方言との比較から―	1–19
研究ノート	大坂拓	千島アイヌのゴザに関する基礎的検討 ―市立函館博物館所蔵資料の位置づけについて―	21–34
研究ノート	大坂拓・大矢京右	市立函館博物館が所蔵する噴火湾アイヌの木幣について ―資料情報を復元・再検討する試み―	35–58
研究ノート	甲地利恵	アイヌの歌の伝統的な技巧の、ジャンルによる使い分けについてのノート	59–89
資料紹介	大坂拓・亀丸由紀子	2022年度新収蔵資料の紹介 ―標茶町虹別で実施された熊送り儀礼の写真ほか―	91–102
資料紹介	遠藤志保	久保寺逸彦によるアイヌ語語彙カード	103–112
資料紹介	小川正人・西田秀子	中村一枝書誌	113–133

『北海道博物館研究紀要』第 9 号（2024 年 3 月発行）

種別	執筆者	タイトル	ページ
論文	高橋佳久・島田潤	ニュウハクシミに対する簡便な物理的防除方法の開発	1–17
研究ノート	成田敦史	北海道の新第三系から産出した植物化石リストおよび各分類群の層位的分布	19–35
研究ノート	高瀬克範・西田義憲・右代啓視	キタオットセイ遺存体のDNA分析および炭素・窒素・酸素安定同位体分析―北海道博物館所蔵の北見市常呂栄浦第一・稚内市大岬1遺跡出土資料―	37–52
調査報告	久保見幸・長田充弘	北海道大夕張地域に分布する蝦夷層群函淵層の凝灰岩の産状記載	53–61
調査報告	圓谷昂史・吉田尊智・鈴木明彦	海岸漂着物の教材化にむけた実践　札幌市立の中学校第2学年の宿泊学習を例に	63–72
調査報告	東俊佑	『蝦夷島奇観』写本の研究（一）	73–92
調査報告	山際秀紀・池田貴夫・会田理人・青柳かつら・尾曲香織・舟山直治・鈴木明世	「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告	93–106
調査報告	尾曲香織・圓谷昂史・表渓太　・亀丸由紀子・鈴木明世・鈴木あすみ	「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告	107–116
資料紹介	圓谷昂史・久保見幸・成田敦史・鈴木明彦	北海道博物館所蔵の地学資料　ー新第三紀の貝類化石ー	117–125
博物館活動報告	加藤ゆき恵・首藤光太郎・城坂（平林）結実・水島未記・持田誠・山崎真実	北海道内博物館合同展示「推し花の押し花~牧野富太郎と植物標本」の報告	123–136
博物館活動報告	成田敦史・山際秀紀・会田理人・鈴木明世	北海道博物館の総合展示における来場者調査から得られた観覧動向と諸課題	137–154
資料紹介	東俊佑・三浦泰之・ちゃれんが古文書クラブ	北海道博物館所蔵の林梅家資料（三）　ヨイチ場所の書上 その2	156–226
研究ノート	東俊佑	北海道立図書館所蔵の『アイヌ画譜』について	227–262

『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 9 号（2024 年 3 月発行）

種別	執筆者	タイトル	ページ
調査報告	甲地利恵（編）	アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで）	1–30
資料紹介	亀丸由紀子・小川正人・大坂　拓	2023年度新収蔵資料の紹介　1　加藤シヅエ氏寄贈資料ほか	31–54
資料紹介	小川正人	2023年度新収蔵資料の紹介　2　大川原徳右衛門の選挙ポスターと三浦政治の書簡	55–72

②学術刊行物の刊行検討

2022 年度は、日本生命財団出版助成により『北東アジアの十字路 ―北海道博物館展示案内―』を刊行した。2023 年度は刊行物また、職員の研究成果をわかりやすくまとめた刊行物等の刊行については、科学研究費の「研究成果公開促進費」の獲得などを視野に入れながら、次年度以降も継続的に検討することとした。

2022・2023 年度学術刊行物　作成 1 件

刊行物名称	発行日	判型等	発行部数
北東アジアの十字路 ―北海道博物館総合案内―	2023 年 3 月 1 日	B5 判、64 頁	4,980 部

(2) 学会への発信

①学会・研究会等での発表（研究成果の自主的な発表）

2022 年度学会・研究会での発表　9 件

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場	備考
水島未記	野幌森林公園と博物館の役割	日本環境学会第48回研究発表会 公開シンポジウム「生物多様性保全の最前線」	2022年7月2日	オンライン	
圓谷昂史, 鈴木明彦, 吉田尊智	中学校の宿泊学習における打ち上げ貝類の調査実践に関する一考察	第21 回漂着物学会 鹿児島・徳之島大会	2022年11月19日	徳之島交流ひろば	科研費成果発表
吹本樹, 近藤康生, 池原実, 圓谷昂史, 鈴木明彦	更新統馬追層産絶滅種二枚貝*Mizuhopecten tokyoensis(Tokunaga)* の季節的殻成長と生息環境	令和 4 年度 高知大学海洋コアセンター総合研究センター 共同利用・共同研究成果発表会	2023年2月27日	高知大学海洋コアセンター総合研究センター	科研費成果発表
田中祐未	洋画家・櫻井豊松の足跡―大正・昭和期における北海道出身画家の活動事例―	北海道芸術学会　第40回例会	2023年3月19日	北海道立近代美術館	
尾曲香織	物の処分における「捨てるのにしのびない」という感情に関する考察 ―博物館への寄贈から―	歴史人類学会第43回大会	2022年11月26日	筑波大学	
鈴木琢也	擦文文化に搬入された本州産製品からみた交流の様相	国立歴史民俗博物館基幹研究「交流•環境からみたオホーツク文化•擦文文化、アイヌ文化―その成立•展開過程―」第1回研究会	2022年7月3日	国立歴史民俗博物館	科研費成果発表
鈴木琢也	北海道へ渡った須恵器と秋田	第11回•令和4年度沼柵公開講座	2022年8月7日	雄物川コミュニティセンター（秋田県横手市）	科研費成果発表
鈴木琢也	古代の北方世界における交易と交流	フランス・アルザス欧州日本学研究所主催 国際シンポジウム「古代・中世日本の北の地方は輝いていた！」	2023年3月16日～18日	フランス	科研費成果発表
高橋佳久, 紀芝連, 犬塚将英	秋田蘭画に関連する画材資料の分析調査	文化財保存修復学会第44回大会	2022年6月19日	熊本県立劇場	ポスター発表
武田 明純, 小野寺 一彦, 金子 晋也, 駒木 定正, 鈴木 明世, 西澤 岳夫	三笠市炭鉱遺構群の調査研究 旧北炭幌内炭鉱の選炭機の現況と復原的考察	第95回日本建築学会北海道支部研究発表会	2022年6月25日	オンライン	
大坂拓	千島アイヌの編組製品とその技術的系譜	第22回北アジア調査研究報告会	2023年2月		

2023 年度学会・研究会での発表　6 件

発表者	タイトル	研究会・学会名	期日	会場	備考
石子智康	樺太庁警察部の成立と展開	サハリン・樺太史研究会 例会	2024年3月23日	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター	口頭発表
鈴木あすみ	道内の博物館等施設における学芸員配置数について ―道博協加盟館園における最近の動向	北海道博物館協会学芸職員部会第47回研修会	2023年10月5日～2023年10月6日		ポスター発表
鈴木 あすみ, 佐々木 基樹, 小薮 大輔, 川田 伸一郎, 押田 龍夫	トガリネズミ類の左右非対称胸椎の窩状構造内を走行する静脈に関する研究	日本哺乳類学会 2023 年度大会	2023年9月7日		ポスター発表
鈴木あすみ, 櫻井万里子	収蔵資料情報の登録から公開フローの整理を行ってみた ―総合博物館での一例として	第61回北海道博物館大会	2023年7月13日	恵庭市民会館	ポスター発表
Atsufumi Narita, Yasuyuki Oppata, Takafumi Enya, Koh Kubomi	Paleovegetation and chronological significance of Early Pleistocene flora from Honbetsu Town, eastern Hokkaido, Japan	2nd Asian Palaeontological Congress, Tokyo	2023年8月4日	東京大学本郷キャンパス	口頭発表
Akihiko Suzuki, Takafumi Enya, Koh Kubomi	Bored volcanic cobbles produced by the rock-boring clam Penitella kamakurensis in Hokkaido - Focusing on rhyolite cobbles washed ashore on the Hamanaka Beach of Yoichi Town -	2rd Asian Palaeontological Congress, Tokyo	2023年8月7日	東京大学本郷キャンパス	ポスター発表

※外部機関等からの依頼による発表等は、「13　人材育成機能の強化と社会貢献」の「職員の派遣」（100～102 ページ）に掲載。

②学術雑誌等への投稿（研究成果の自主的な発表）

2022 年度学術雑誌などへの投稿　18件

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	発行日	ページ	備考
圓谷昂史, 鈴木明彦	2021年秋季の北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着	漂着物学会誌（20）	漂着物学会	2022年12月25日	21–22	科研費成果発表
鈴木明彦, 圓谷昂史, 久保見幸	北海道余市町浜中海岸の流紋岩礫へ穿孔したカモメガイとその穿孔痕	漂着物学会誌（20）	漂着物学会	2022年12月25日	13–18	
成田敦史	高校地学におけるハンズオン標本教材の開発と活用～地質標本を生徒の手元に！の授業実践～	北海道の理科（65）	北海道高等学校理科研究会	2022年8月	63–66	
三浦泰之	松浦武四郎記念館所蔵「蝦夷屏風」に貼り交ぜの領収証類について(9) —補遺とまとめ—	松浦武四郎研究会会誌（80）	松浦武四郎研究会	2022年6月	1–11	
京都府立大学文学部歴史学科, 山田洋一, 東昇 佐治宣幸, 水本邦彦, 飯塚一幸, 三浦泰之, 新谷勝行, 岡田つかさ	京丹後市久美浜町太刀宮文書（久美浜代官所郡中代等文書）・佐治家資料調査と御用留横断研究 京都府立大学文化遺産叢書第26集		京都府立大学文学部歴史学科	2022年11月		
三浦泰之	史料紹介 小林房太郎「松浦武四郎翁遺著」(上)・(下)	松浦武四郎研究会会誌（81）	松浦武四郎研究会	2022年12月	1–18	
田中祐未	<資料紹介>吉田初三郎と印刷折本『旭川』「旭川市を中心とせる名所交通鳥瞰図」	日本研究（66）	国際日本文化研究センター	2023年3月	179–213	戸部眞紀財団研究助成成果発表
山際秀紀	北海道の博物館等施設に保存されている上田式播種器について	北の技術文化（30）	北海道産業考古学会	2022年6月30日	79–88	
青柳かつら, 山下俊介, 黄京性	JSPS科研費18K01108報告書1 探してみよう！ 地域のお宝 高齢者と協働する地域学習プログラム集			2023年3月		科研費成果発表
青柳かつら, 山下俊介, 黄京性	JSPS科研費18K01108報告書2 高齢者のウェルビーイングを創成する地域学習コンテンツの開発：北海道北部地域における回想法サロンと聞き取り調査・地域映像活用・認知症予防活動の記録			2023年3月		科研費成果発表
尾曲香織	食生活の変化を捉える動き—特集 日本民俗学の研究動向(2)	日本民俗学（312）	日本民俗学会	2022年11月	94–104	
武田 明純, 小野寺 一彦, 金子 晋也, 駒木定正, 鈴木 明世, 西澤岳夫	三笠市炭鉱遺構群の調査研究 旧北炭幌内炭鉱の選炭機の現況と復原的考察	日本建築学会北海道支部研究報告集（95）		2022年6月	319–322	
犬塚将英, 高橋佳久, 紀芝蓮, 中山俊介, 中村舞, 建石徹, 鈴木美和, 斉藤進, 天野武弘	高輪築堤から採取された目地資料の分析調査	保存科学 （62）	東京文化財研究所保存科学研究センター	2023年3月17日	73–83	
紀芝蓮, 犬塚将英, 米沢玲, 安永拓世, 江村知子, 高橋佳久	光明寺所蔵羅漢図に使用された彩色材料	保存科学 （62）	東京文化財研究所保存科学研究センター	2023年3月17日	85–98	
大坂拓	琴似又一郎の写真について —北海道大学附属図書館所蔵資料の再検討—	札幌博物場研究会誌 (2022)	北海道大学	2022年10月	1–7	科研費成果発表
大坂拓	札幌博物場所蔵アイヌ民具資料（死体包装用縄・背負縄）の資料情報の復元	札幌博物場研究会誌（2022）	北海道大学	2022年12月	9–21	科研費成果発表
大坂拓	千島アイヌの編組製品とその技術的系譜	第22回北アジア調査研究報告会予稿集	北アジア調査研究報告会実行委員会	2023年2月	57–60	科研費成果発表
大坂拓	北海道地券発行条例によるアイヌ民族「住居ノ地所」の 官有地第三種編入について —札幌県作成「官有地調」の検討を中心として—	北方人文研究 （16）	北海道大学大学院文学研究院北方研究教育センター	2023年3月	19–35	

2023 年度学術雑誌などへの投稿　12 件

執筆者	タイトル	出典	出版社・発行者	発行日	ページ	備考
三浦泰之, 山本命	史料紹介 聖護院門跡所蔵 松浦武四郎筆「大峰山之図」（上）	松浦武四郎研究会会誌 （82）	松浦武四郎研究会	2023年8月30日	5–12	
三浦泰之	【史料紹介】宮城学院女子大学所蔵の林家文書について	余市水産博物館研究報告（18）	余市水産博物館	2024年3月31日	5–12	
久保見 幸, 圓谷昂史, 成田敦史, 持田誠, 澤村寛	北海道十勝郡浦幌町に分布する根室層群の白亜紀/古第三紀（K/Pg）境界の剥ぎ取り標本の作製記録	浦幌町立博物館研究紀要 （24）	浦幌町立博物館	2024年3月	11–16	
Koh Kubomi, Mitsuhiro Nagata, Hiroto Ota, Kazunori Miyata, Shigeru Otoh	Discovery of Early Paleocene (Danian) tuff from the Yezo Group in the Yubari area, Hokkaido, Northeast Japan	地質学雑誌 129（1）	日本地質学会	2023年9月12日	453–460	
成田敦史, 乙幡康之	北海道中央東部糠平湖周辺の後期新生代の古植生と古環境：後期中新世十勝 幌加植物群と前期更新世タウシュベツ植物群	地質学雑誌 129（1）	日本地質学会	2023年4月6日	289–305	
成田敦史, 乙幡康之, 久保見 幸	北海道中央東部糠平湖周辺地域の貫入岩体のK–Ar年代	ひがし大雪自然館研究報告	ひがし大雪自然館	2024年3月	17–24	
小口雅史, 會澤 純雄, 平原 英俊, 鈴木 琢也	ポータブル複合X線分析による須恵器の胎土分析 ―北海道および秋田県出土資料の比較検討―	法政史学 （101）	法政大学史学会	2024年3月	27–46	
田中祐未	洋画家・櫻井豊松の足跡	北海道芸術論評（16）	北海道芸術学会	2024年3月	37–52	
尾曲香織	企画テーマ展「アンモナイトと生きる―50年の歩みとこれから―」を開催して	民具マンスリー 56（10）	神奈川大学日本常民文化研究所	2024年1月10日	19–23	
武田 明純, 小野寺 一彦, 金子 晋也, 駒木 定正, 鈴木 明世, 西澤 岳夫	三笠市炭鉱遺構群の調査研究（2） 旧北炭幌内炭鉱の選炭機の現況と復原的考察	日本建築学会北海道支部研究報告集 （96）	日本建築学会北海道支部	2023年6月	343–350	
大坂拓	近代北海道における〈アイヌ〉の境界 ― 松前地西在相沼内村に生まれたサモテの事例を中心として ―	境界研究（14）		2024年3月31日	1–21	
東俊佑	ヨイチ運上家の年中行事と仕事暦―文政13年（1830）の暦を例として―	余市水産博物館研究報告（18）	余市水産博物館	2024年3月31日	13–22	

※外部機関等からの依頼によるものは、「13　人材育成機能の強化と社会貢献」の「職員の外部執筆協力」（102～104 ページ）に一括。

15　アイヌ民族文化研究センターの事業

1994（平成6）年6月、北海道は、貴重な財産であるアイヌ文化について、伝承者の高齢化等が進むなか、道の責務として総合的・体系的な研究を行い、その成果の普及等を図りアイヌ民族文化の振興に寄与することを目的に、北海道立アイヌ民族文化研究センターを設立しました。開設後は、アイヌ民族の言語、芸能、伝統的生活技術、歴史などの分野について、「調査研究やその成果の普及事業」「情報収集及び提供事業」「研究支援事業」の3つの柱により事業を展開してきました。また、北海道開拓記念館でも、アイヌ民族の民具等の資料の収集と調査研究、展示を進めてきました。

2015（平成27）年4月の北海道立アイヌ民族文化研究センターと北海道開拓記念館との統合による北海道博物館の開設後は、北海道博物館の内部組織としてアイヌ民族文化研究センターを置き、アイヌ民族の歴史や有形・無形の文化に関するさまざまな事業の中心を担うことを主な業務としています。

活動実績（2022年度・2023年度）

年度計画（2022年度）

重点	【中期目標・計画／重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み
一般	⑴ アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及
	〈調査研究〉
	【ア】【イ】アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進［道費による研究：2課題］ 【ア】【イ】北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進 【ア】【イ】日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進 【中期目標・計画／重点④】樺太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進
	〈資料の収集と整理・公開〉
	【イ】アイヌ文化に関する資料の収集と整理の推進 【ウ】採録等による資料についての公開計画の策定とこれに基づく公開の実施（諸手続含む） 【イ】【エ】アイヌ文化関係資料のデジタル化・情報発信の促進
	〈研究成果の発信と普及〉
	【エ】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集計画の策定と投稿の奨励・推進 【エ】館内外における教育普及事業（講座、ワークショップ等）を通した研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み 【エ】当館における企画展示の立案・実施（第3回蔵出し展（「久保寺逸彦文庫」展）を予定） 【エ】当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新 【エ】道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催（道内の2～３箇所で開催予定） 【エ】アイヌ文化紹介小冊子『ポン　カンピソシ』（全1～9巻）の増刷・配布［都度実施］ 【エ】広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信
	⑵ アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援
	【ア】アイヌ文化に関する学術情報（収蔵資料データ、調査データ、文献情報等）の集約 【ア】「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信
	〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉
	【イ】市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地から助言・支援・協力等。 【ア】国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業への参画

年度計画（2023 年度）

重点	【中期目標・計画／重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み
一般	**(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及**
	〈調査研究〉
	【ア】【イ】アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進［道費による研究：2課題］ 【ア】【イ】北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進 【ア】【イ】日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進 【中期目標・計画／重点④】樺太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進
	〈資料の収集と整理・公開〉
	【イ】アイヌ文化に関する資料の収集と整理の推進 【ウ】採録等による資料についての公開計画の策定とこれに基づく公開の実施（諸手続含む） 【イ】【エ】アイヌ文化関係資料のデジタル化・情報発信の促進
	〈研究成果の発信と普及〉
	【エ】『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』の編集計画の策定と投稿の奨励・推進 【エ】館内外における教育普及事業（講座、ワークショップ等）を通した研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み 【エ】当館における企画展示の立案・実施（※館全体での計画策定の中で検討を進める。） 【エ】当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新 【エ】道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催（美唄市、釧路市、奥尻町での開催を検討） 【エ】アイヌ文化紹介小冊子『ポン　カンピソシ』（全1～9巻）の増刷・配布［都度実施］ 【エ】広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信
	(2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援
	【ア】アイヌ文化に関する学術情報（収蔵資料データ、調査データ、文献情報等）の集約 【ア】「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信
	〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉
	【イ】市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地から助言・支援・協力等。 【ア】国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業への参画

【重点計画】

○ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含めた北海道内博物館の活性化貢献に向けた検討・取り組み

・国立アイヌ民族博物館ネットワークへの加盟（運営委員）
・国立アイヌ民族博物館運営委員会及び同展示ワーキング会議及び学術交流ワーキング会議の委員への就任・派遣
・国立アイヌ民族博物館による展示事業への協力（資料貸出等）

【一般計画】

(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及

〈調査研究〉

○アイヌ民族文化研究センターが主体となって立案し実施する研究プロジェクトの推進

①北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究

研究期間	2020年度～2024年度（5年間）	配当額	382,450円（2022年度）233,400円（2023年度） ※プロジェクト①と②を合わせた額
研究代表者	小川正人（アイヌ民族文化研究センター長）	メンバー	甲地利恵・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子・吉川佳見・大谷洋一・佐々木利和・奥田統己（アイヌ文化研究グループ）
研究概要	博物館事業の基礎として、収蔵資料の整理を着実に進め、それらの分析や背景・関連情報の調査・収集を通して資料情報の発信と資料の利活用の促進を図る。さらに、これらの成果をもとに新たな研究テーマの検討や策定などに繋げる。		
2022年度	・音声資料、文書資料の公開計画の策定に基づく公開準備を進めた（デジタル化、内容整理等）。		

活動概要	・民具資料の写真撮影を進めた（蝦夷錦の撮影及び莫蓙類の撮影）。 ・前年度までに新たに受け入れた資料のクローズアップ展示での紹介及び当年度に新たに受け入れた資料の研究紀要における紹介を継続して実施した。
2023年度活動概要	①当館収蔵資料の整理と関連する情報の収集： 文書資料のデジタル化、民具資料の写真撮影を進めたほか、新たに受け入れた資料を中心に資料の背景情報、関連情報の収集を行った。 ②未公開資料の公開に向けた関連情報の収集と関係者等との協議： 音声資料、映像資料、文書資料における関係者情報の収集・整理・更新を行った。録音資料の公開については新たな資料の公開には至らなかったが、未公開資料の公開に向けた準備・協議（15点）を進め、採録資料の関係者（2名）との協議を進め、承諾を得た。

②アイヌ文化に関する基礎的・総合的・学際プロジェクト

研究期間	2020年度～2024年度（5年間）	配当額	382,450円（2022年度）167,000 円（2023年度） ※プロジェクト①と②を合わせた額
研究代表者	甲地利恵（アイヌ民族文化研究センター）	メンバー	小川正人・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子・吉川佳見・大谷洋一・佐々木利和・奥田統己（アイヌ文化研究グループ）
研究概要	言語・文学、芸能、民具・生活技術、歴史の分野別・個別の研究、あるいは分野横断的な共同研究を実施し、それぞれの専門分野における諸問題の解明に取り組むことを通じて、広くアイヌ文化・アイヌ史の研究の発展とアイヌ文化の振興にアイヌ民族文化研究センターとして寄与することを目指す。各課題の実施においては、もう一つのプロジェクト（北海道博物館収蔵資料の整理・分析に基づくアイヌ文化資料の利活用と総合的研究）で整備された資料の利活用も積極的に行う。		
2022年度活動概要	言語・文学、芸能、民具・生活技術、歴史の分野について、調査・研究を行い、その成果を『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』8号等に投稿した。		
2023年度活動概要	言語・文学、芸能、民具・生活技術、歴史の分野について、調査・研究を行い、その成果を『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』9号等に投稿した。		

○北海道博物館全体で取り組む海外との共同研究等の研究プロジェクトへの参画と推進

研究プロジェクト名	研究期間	参画メンバー
北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト「北海道とサハリン」	2020年度～2024年度	【暫定】小川正人・大谷洋一・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子
北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト「寒冷地の自然と適応」	2018年度～2022年度	甲地利恵・亀丸由紀子

※各研究プロジェクトの詳細は30～31ページに掲載。

○日本学術振興会科学研究費補助金など外部資金を活用したアイヌ文化関連調査研究の推進

2022年度・2023年度アイヌ民族文化研究センター研究職員による外部資金を活用した調査研究　10件（再掲）

種別	研究課題名	研究期間	研究メンバー
日本学術振興会科学研究費	アイヌ音楽の旋律分析研究、及び北方諸民族の音楽との比較研究に向けた基礎的調査［基盤研究(C)］	2018年度～2022年度（2023年度まで延伸）	甲地利恵（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	考古学的分析手法を導入した博物館収蔵アイヌ民具資料の基礎的研究［若手研究］	2018年度～2021年度（2022年度まで延伸）	大坂拓（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	近代日本におけるアイヌ民族の〈社会への参画〉の歴史に関する基礎的研究［基盤研究(C)］	2020年度～2023年度	小川正人（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	アイヌロ承文学における話型分類の研究［基盤研究(C)］	2020年度～2023年度	遠藤志保（研究代表者）
国土地理協会学術研究助成	「アイヌ語地名資料データベース」の基盤構築―アイヌ語地名研究者・山田秀三による調査資料を軸とした、古地図・現地調査・地理情報のデータベース化	2020年8月～2022年4月	小川正人（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	アイヌ語における存在型アスペクト形式の方言間の異同［研究活動スタート支援］	2021年度～2022年度	吉川佳見（研究代表者）
公益財団法人ポーラ美術振興財団助成	アイヌ民族の交易品服飾資料に関する基礎的研究―北海道内の博物館所蔵資料を題材に―	2021年4月1日～2023年3月31日	亀丸由紀子（研究代表者）

日本学術振興会科学研究費	博物館収蔵アイヌ民具資料の考古学的手法による分析：移入品としての漆器を対象として［基盤研究(C)］	2022年度～2025年度	大坂拓（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	考古学的手法を導入した移入品アイヌ民俗資料の基礎的研究 ―耳飾りと首飾りを題材に［基盤研究(C)］	2023年度～2026年度	亀丸由紀子（研究代表者）
日本学術振興会科学研究費	アイヌ文献目録（2001～2022）[研究成果公開促進費（データベース）]	2023年度	小川正人（研究代表者）

○調査研究の成果を踏まえた事業展開

・アイヌ文化巡回展開催にあわせた開催地および近隣での資料調査とその成果の活用。
・調査研究プロジェクトの成果の展示等への展開（当館蔵出し展、クローズアップ展示や2024年度以降の企画テーマ展など）

○更なる調査研究の展開・充実に向けた外部資金獲得を目指す検討

・「アイヌ語地名資料データベース」（2020年度申請、獲得）など資料・情報の収集・整理の成果をより充実させ対外的に発信するための取り組み

〈資料の収集と整理・公開〉

○資料の収集と整理

・これまでの未整理資料の整理作業を継続、新たに収集した資料について整理を進め、主要なものは研究紀要に資料紹介を掲載
（「2022年度新収蔵資料の紹介　―標茶町虹別で実施された熊送り儀礼の写真ほか―」「久保寺逸彦によるアイヌ語語彙カード」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第8号）
（「2023年度新収蔵資料の紹介　1　加藤シヅエ氏寄贈資料ほか」「2023年度新収蔵資料の紹介　2　大川原徳右衛門の選挙ポスターと三浦政治の書簡」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第9号）

○採録資料等の公開

アイヌ語、口承文芸、伝統的な生活や歴史的な出来事などについて、伝承者や体験者からの聞き取り等によって記録された資料（録音、録画、写真、筆録など）は、アイヌ文化の調査研究や継承にとって、たいへん貴重である。一方で、これらの資料には、著作権やプライバシーなどに対する慎重な配慮が必要である。博物館が収蔵する資料は、公共財として速やかに利用に供することが基本であるものの、採録資料等については、まずその内容確認を行い、プライバシー情報の有無などを点検し、原則としてその資料の関係者（語り手等）と協議し、承諾を得てから公開することとしている。公開する資料については、公開用の複製（公開用資料）を作成し、もとの資料の保存を図るとともに、プライバシー等の事由により非公開とすることとした部分の削除等の処理を行い、関係者の権利が侵害されるおそれがないようにしている。

種別		2022年度までに公開準備を終えた点数	2023年度までに公開準備を終えた点数
音声映像資料	当館（アイヌ民族文化研究センター）採録・複製資料（職員による採録など）	291　(265)	291　(265)
	山田秀三文庫	91　(64)	91　(64)
	久保寺逸彦文庫	77　(112)	77　(112)
	小計	459　(441)	459　(441)
文書資料	山田秀三文庫	102　(－)	102　(－)
	久保寺逸彦文庫	29　(－)	26　(－)
	小計	131　(－)	131　(－)
写真資料	久保寺逸彦文庫	483　(－)	483　(－)
合計		1,073	1,073

・数字は累計点数。
・（　）内は作成した公開用資料の点数。
・文書資料・写真資料は紙焼き（プリントアウト）等で供覧。

2022 年度・2023 年度は、採録資料の新たな公開には至らなかったが、資料の公開手続に基づく関係者との協議の実施のほか、2024 年度以降の公開に向けた準備を進めた。

〈研究成果の発信と普及〉

○『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』（第 8・9 号）の編集計画の策定と投稿の奨励・推進

※再掲。詳細は、108～109ページに掲載。

○館内外における教育普及事業（講座、ワークショップ等）を通した研究成果の発信や理解促進・教育普及の取り組み

2022 年度

①館内実施の教育普及事業　11件

〇蔵出し展「久保寺逸彦文庫」関連講座

・ミュージアムカレッジ「久保寺逸彦文庫を見る/読む/聞く①　久保寺逸彦　人と学問／久保寺逸彦回想談を聞く」（佐々木利和・大谷洋一）
・ミュージアムカレッジ「久保寺逸彦文庫を見る/読む/聞く②　1935年北海道・サハリン調査とその時代」（小川正人）
・ミュージアムカレッジ「久保寺逸彦文庫を見る/読む/聞く③　久保寺逸彦『アイヌ語辞典稿』と『神謡・聖伝の研究』」（遠藤志保）

〇アイヌ語講座

・「アイヌ語講座」①～④（遠藤志保・吉川佳見）

〇子どもワークショップ

・「アイヌ音楽　うたって・おどって・ならして」（スルク＆トノト、甲地利恵）

〇ミュージアムカレッジ

・「じっくり聴こう！アイヌの音楽」（甲地利恵）
・「『民族音楽学』入門」（甲地利恵）
・「インターネットを使ったアイヌ語学習」（吉川佳見）
・「アイヌの英雄叙事詩を聞く－うたと言葉」（奥田統己）
・「ハレの日の装い」（亀丸由紀子・尾曲香織（生活文化研究G））

※詳細は45～46ページに掲載。

②アイヌ文化巡回展関連講座　1件

企画展特別講演会
10月22日（土）14時～、　講師：佐々木利和、　会場：だて歴史文化ミュージアム　ラーニング・スタジオ　定員：50名（事前申込）

③対外派遣

	各種委員等　27件	詳細は97～98ページに掲載。
	非常勤講師　3件	詳細は99ページに掲載。
	招待講演（講座・講演会）等への職員派遣　14件	詳細は100～101ページに掲載。
	学術的な協力（指導助言等）　0件	詳細は104ページに掲載。

④その他館内における対外貢献

	学校団体へのグループレクチャー　30件	「アイヌ文化の世界」のレクチャー。詳細は50ページに掲載。
	外部機関からの協力案件　1件	詳細は105ページに掲載。

2023 年度

①館内実施の教育普及事業　11件

〇アイヌ語講座

・「アイヌ語ブロックでアイヌ語を学ぼう」①～④（吉川佳見）
・アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む」①～⑥（遠藤志保・吉川佳見）

〇子どもワークショップ

・「アイヌ音楽　うたって・おどって・ならして」（スルク＆トノト、甲地利恵）

〇ミュージアムカレッジ

・「じっくり聴こう！アイヌの音楽　『神謡』の旋律」（甲地利恵）
・「じっくり聴こう！アイヌの音楽　合唱のいろいろ」（甲地利恵）
・「『開拓』とアイヌ民族の土地」（大坂拓）
・「アイヌ語アーカイブを使ったアイヌ語学習」（吉川佳見）
・「ハレの日の装い」（亀丸由紀子・尾曲香織（生活文化研究G））

※詳細は46～47ページに掲載。

②アイヌ文化巡回展関連講座　4件

第14回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」関連講座
記念講演会「明治前半期の石狩川中・下流域におけるアイヌのくらし」
8月19日（土）、会場：美唄市郷土史料館
担当：大坂拓、コメンテーター：谷本晃久氏（北海道大学大学院文学研究院 教授）
第17回アイヌ文化巡回展「久保寺逸彦～釧路が育んだアイヌ文学の泰斗～」関連連続講座
「久保寺逸彦　人と学問」11月26日(日)、会場：釧路市立博物館　担当：佐々木利和
「1935年北海道・サハリン調査とその時代」12月16日(土)、会場：釧路市立博物館　担当：小川正人

「久保寺逸彦『アイヌ語・日本語辞典稿』をめぐって」1月21日(日)、会場：釧路市立博物館　担当：遠藤志保		
③対外派遣		
	各種委員等　18件	詳細は98～99ページに掲載。
	非常勤講師　2件	詳細は99～100ページに掲載。
	招待講演（講座・講演会）等への職員派遣　12件	詳細は101～102ページに掲載。
	学術的な協力（指導助言等）　1件	詳細は105ページに掲載。
④その他館内における対外貢献		
	学校団体へのグループレクチャー　26件	「アイヌ文化の世界」のレクチャー。詳細は50ページに掲載。
	外部機関からの協力案件　1件	詳細は105ページに掲載。

○当館における企画展示の立案・実施

2022・2023 年度　1 件

展示会名称	会期	参画メンバー
第3回蔵出し展「久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―」	2022年10月29日（土）～1月15日（日）	小川正人・甲地利恵・遠藤志保・大坂拓・亀丸由紀子・吉川佳見・大谷洋一・佐々木利和・奥田統己

※詳細は、「2　展示」の 28 ページに掲載。

○当館における展示資料の入替及び総合展示内クローズアップ展示の更新

①総合展示室第 2 テーマにおける展示資料の入れ替え

2022 年度［延べ 34 点］

・衣服（1回）の入替え、および入替え計画の作成
・新型コロナ感染症拡大防止対策として、次のとおり実施した。
・総合展示全体でのハンズオン展示の一部休止にともない、第2テーマ「アイヌ文化の世界」ではめくり式展示各種をカウンター解説に切り替えて継続した。
・体験コーナーの「アイヌ語ブロック」については、切り抜いてアイヌ語ブロックを作って遊べるシートを持ち帰り自由の配布で代替した。

2023 年度［延べ 32 点］

・衣服（3回）、文書資料（1回）の入替え、および入替え計画の作成
・新型コロナ感染症拡大防止対策の緩和による総合展示全体でのハンズオン展示の一部再開にともない、第2テーマ「アイヌ文化の世界」では、めくり式展示解説各種、体験コーナーの「アイヌ語ブロック」を再開した。

②クローズアップ展示コーナーの更新［年間 6 回、延べ 8 回］

2022 年度

場所		テーマ	展示期間	主なメンバー
第2テーマ	3	久保寺逸彦のアイヌ語辞典	前年度～4月14日（木）	遠藤志保
		田辺尚雄によるアイヌ音楽の調査記録	4月15日（金）～8月11日（木）	甲地利恵
		受け継がれる手業　二風谷の工芸品	8月12日（金）～12月14日（水）	大坂拓
		萩中美枝さんの仕事	12月17日（土）～次年度4月13日（木）	大谷洋一、小川正人
	4	久保寺逸彦が集めた民具	前年度～4月14日（木）	大坂拓
		【特別展関連】アイヌロ承文芸のなかの虫たち	4月15日（金）～9月29日（木）	遠藤志保、吉川佳見
		アイヌ無形文化伝承保存会　その設立と歩み	9月30日（金）～12月14日（水）	小川正人
		新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	12月17日（土）～次年度4月13日（木）	亀丸由紀子

2023 年度

場所		テーマ	展示期間	主なメンバー
第2テーマ	3	萩中美枝さんの仕事	前年度～4月13日（木）	大谷洋一
		アイヌ語学習教材のいろいろ	4月14日（金）～8月10日（木）	遠藤志保
		小樽アイヌが経験した近代	8月11日（金）～12月13日（水）	大坂拓
		アイヌの子どもの遊び歌 ―年寄りカラスはどうした？―	12月16日（土）～次年度4月11日（木）	大谷洋一
	4	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	前年度～4月13日（木）	亀丸由紀子
		北海道博物館が所蔵するトンコリ（五弦琴）	4月14日（金）～8月10日（木）	甲地利恵
		【特別展関連】　北海道・東北北部のアイヌ語地名―山田秀三の地名研究から―	8月11日（金）～12月13日（水）	小川正人
		モノから見るアイヌ文化－首飾りのいろいろ	12月16日（土）～次年度4月11日（木）	亀丸由紀子

※詳細は、「2　展示」の23～25ページに掲載。

○道内市町村と連携・協力した「アイヌ文化巡回展」の開催

開催地の博物館・自治体等と連携・協力して、地域的なバランスや開催地の要望を踏まえながら、「地名」などを主なテーマとした「アイヌ文化巡回展」を開催するとともに、アイヌ文化を紹介する関連講座等も実施している。

2022 年度のアイヌ文化巡回展（2 件）

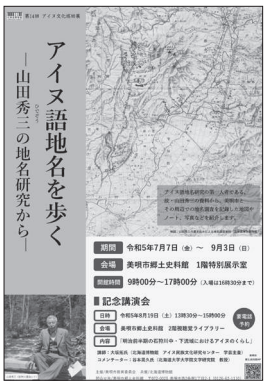
第12回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～　2022釧路町」	
会期（開催日数）	2022年9月3日（土）　（1日間）
会場	釧路町公民館
主催	北海道博物館
観覧者数	130人
協力	公益社団法人北海道アイヌ協会、釧路町教育委員会
観覧料	無料
関連行事	なし
印刷物	―
その他	この巡回展は、公益社団法人北海道アイヌ協会主催による「アイヌ民族文化祭」の開催にあたり、同じ会場で当該巡回展を開催することによってアイヌ文化の理解促進をより深めたいという同協会の希望も踏まえたもの。

第13回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名研究から―　2022伊達」	
会期（開催日数）	2022年9月17日（土）～11月27日（日）　（53日間）
会場	だて歴史文化ミュージアム
主催	北海道博物館・伊達市教育委員会
観覧者数	1,473人
観覧料	無料
関連行事	※詳細は116ページに掲載。
印刷物	ポスター、チラシ
その他	会場である、だて歴史文化ミュージアム特別展としての開催を兼ねて開催した。

2023 年度のアイヌ文化巡回展（4 件）

第14回アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～」

会期（開催日数）	2023年7月7日(金)～9月3日(日)　(51日間)
会場	美唄市郷土史料館
主催	北海道博物館・美唄市教育委員会
観覧者数	481人
観覧料	無料
関連行事	※詳細は116ページに掲載。
その他	会場である、美唄市郷土史料館の企画展を兼ねて開催した。



第15回アイヌ文化巡回展　2023 in 札幌市「札幌の地名と歴史を尋ねて」

会期（開催日数）	2023年8月26日（土）　(1日間)
会場	北海道立道民活動振興センター（かでる2・7）1階ホール前ホワイエ
主催	北海道博物館
協力	公益社団法人北海道アイヌ協会
観覧者数	160人
観覧料	無料
関連行事	なし
その他	公益社団法人北海道アイヌ協会主催による「アイヌ民族文化祭」の開催にあたり、同じ会場で当該巡回展を開催することによってアイヌ文化の理解促進をより深めたいという同協会の希望も踏まえたもの。

第16回アイヌ文化巡回展 in 奥尻町

会期（開催日数）	2023年10月1日（日）～10月22日（日）　(18日間)
会場	奥尻町海洋研修センター　1階　多目的ホール
主催	北海道博物館・奥尻町教育委員会
観覧者数	161人
観覧料	無料
関連行事	なし
その他	同じ会場で、北海道博物館　総合研究プロジェクト「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」成果報告展とあわせて開催した。

第17回アイヌ文化巡回展「久保寺逸彦～釧路が育んだアイヌ文学の泰斗～」

会期（開催日数）	2023年11月18日(土)～2024年2月4日(日)　(59日間)
会場	釧路市立博物館（特別展示室・マンモスホール）
主催	北海道博物館・釧路市立博物館
協力	北海道釧路湖陵高等学校・釧路湖陵同窓会・釧路市中央図書館・網走市・雄武町立雄武小学校・雄武町教育委員会・池田町教育委員会・山梨県立甲府第一高等学校・山梨県立図書館・釧路市立博物館友の会
観覧者数	3,338人
観覧料	無料（釧路市立博物館の入館料のみ）
関連行事	※詳細は116～117ページに掲載。
その他	会場である、釧路市立博物館の企画展を兼ねて開催した。

○アイヌ文化紹介小冊子『ポン　カンピソシ』（全1～9巻）の増刷・配布

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、アイヌ文化に関する専門的な内容をわかりやすく親しみやすいかたちで紹介した小冊子（アイヌ文化紹介小冊子『ポン　カンピソシ』）を、毎年1冊ずつ発行した。北海道博物館においても、引き続き『ポン　カンピソシ』の活用・配布に努めている。北海道博物館ウェブサイトには、各巻の最新版のPDFファイルをアップロードしている。

アイヌ文化紹介小冊子『ポン　カンピソシ』発行一覧

巻	タイトル（テーマ）	発行年月日	判型等	当初発行部数	2022年度・2023年度の増刷	
1	はなす（アイヌ語）	1996（平成8）年3月	A5判、32ページ	10,000部	7刷：2023（令和5）年3月	(1,000部)
2	着る（衣服）	1997（平成9）年3月	A5判、32ページ	10,000部	―	―
3	食べる（食事）	1998（平成10）年3月	A5判、32ページ	10,000部	5刷：2023（令和5）年3月	(1,000部)
4	住まい	1999（平成11）年3月	A5判、32ページ	10,000部	―	―
5	祈る（信仰）	1999（平成11）年11月	A5判、32ページ	10,000部	4刷：2023（令和5）年3月	(1,000部)
6	口頭文芸	2000（平成12）年10月	A5判、32ページ	10,000部	4刷：2023（令和5）年3月	(1,000部)
7	芸能	2001（平成13）年9月	A5判、32ページ	10,000部	4刷：2023（令和5）年3月	(1,000部)
8	民具	2002（平成14）年9月	A5判、32ページ	10,000部	3刷：2023（令和5）年3月	(1,000部)
9	地名	2004（平成16）年2月	A5判、32ページ	6,000部	―	―

・2022年度には、アイヌ文化紹介小冊子の利用促進を図るリーフレットを作成し、道内の学校図書室に送付した。
・そのほか、配布は都度実施。

○当館広報誌『森のちゃれんがニュース』の「アイヌ民族文化研究センターだより」などを通じたアイヌ民族文化研究センターの活動に係る情報の発信

号	記事件数	内容
第28号（2022年夏）	2件	・研究活動紹介「自ら学校をつくる－近代日本を生きたアイヌ民族の歩みをたどる」 ・アイヌ民族文化研究センターだより「『見て 聞いて アイヌ文化の世界』操作方法が変わりました！」
第29号（2022年秋）	2件	・第３回蔵出し展　開催予告「久保寺逸彦文庫 －アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－」 ・アイヌ民族文化研究センターだより「アイヌ文化巡回展　釧路町で開催しました（9月）／伊達市で開催中（9月～11月）」
第30号（2022年冬）	3件	・収蔵資料紹介「久保寺逸彦　最初の調査の記録」 ・総合展示の資料紹介・第2テーマ「アイヌの物語を聴く」 ・アイヌ民族文化研究センターだより「録音・録画・筆録資料の公開に向けて」
第31号（2023年春）	1件	・アイヌ民族文化研究センターだより「アイヌ文化紹介小冊子『ポン カンピソシ』のご案内」

号	記事件数	内容
第32号（2023年夏）	1件	・アイヌ民族文化研究センターだより「アイヌ文化巡回展　美唄市で開催します」
第33号（2023年秋）	2件	・研究活動紹介「わたくしの研究活動は？」 ・アイヌ民族文化研究センターだより「『第16回アイヌ文化巡回展 in 奥尻町』など」
第34号（2023年冬）	1件	・アイヌ民族文化研究センターだより「北海道博物館第17回アイヌ文化巡回展・釧路市立博物館企画展『久保寺逸彦～釧路が育んだアイヌ文学研究の泰斗～』の開催」
第35号（2024年春）	3件	・収蔵資料紹介「宝箱から飛び出した小さなお宝― 『ボラドーレス』の笛と太鼓」 ・総合展示紹介（第2テーマ）「『ある家族の物語』のものがたり」 ・アイヌ民族文化研究センターだより「Zoomを使った講座を開催しました ～アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む」（全６回）～」

※詳細は「8　広報」の64～66ページを参照のこと。

⑶ アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究支援

〇アイヌ文化に関する学術情報（収蔵資料データ、調査データ、文献情報等）の集約

・収蔵資料データの新規登録、文献資料の集約等を実施。

〇「アイヌ語アーカイブ」など当館ウェブサイトにおける情報発信

旧北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、2001 年度からウェブサイトを開設し、事業のあらましや研究センターの出版物、公開している資料などを紹介するほか、アイヌ文化に関する連載記事などを通した情報提供を行ってきた。北海道博物館の開館後は、館のウェブサイトの中にこれらのページを移行して運用している。

・北海道博物館ウェブサイト内に「アイヌ文化を学ぶために」のページを設け、アイヌ文化紹介小冊子のPDFファイル版搭載等を実施。
・旧道立アイヌ民族文化研究センターホームページの情報も残しつつ、2022年度末に実施したシステム改修により、北海道教育委員会が発行したアイヌ文化に関係する報告書の目次を掲載するなど、順次整理・拡充を進めている。
・「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」については、音声資料の一部について外観の写真を見られるようにしたほか、表記やレイアウトの一部修正、検索の不具合の修正などを行った。

〈対外支援・社会貢献、博物館等のネットワーク〉

〇市町村やアイヌ文化伝承活動団体等からの、アイヌ文化の学習や伝承活動、展示等の事業に関する依頼・照会に対する、専門的見地からの助言・支援・協力等

市町村などの関係機関やアイヌ文化伝承活動団体などから寄せられる、学習や伝承活動に対する専門的な知見からの助言や支援の依頼に応じている。また、アイヌ文化に関する情報や当館資料についての問合せは、レファレンスの一環として電話等により日常的に対応している。

・「アイヌ施策推進法」（2019（令和元）年）の施行に伴い、市町村等からの事業企画・実施に当たっての照会、協力要請や研修・視察の依頼が増えつつあり、適宜対応を進めている。
・レファレンス等においても、総件数はやや減少しているものの、内容において、副読本・教材作成や雑誌の特集記事等にかかる照会や情報提供依頼が増えており、適宜対応している（レファレンス件数等は93ページを参照のこと）

〇国立アイヌ民族博物館によるネットワーク事業への参画

・国立アイヌ民族博物館ネットワークの会議にアイヌ民族文化研究センター職員が参加。

16　4つのビジョン（重点目標）

① 北海道開拓記念館開館50年（令和3年）、野幌森林公園自然ふれあい交流館開館20年（令和3年）、北海道開拓の村開村40年（令和5年）、北海道立アイヌ民族文化研究センター開所30年（令和6年）を機会に、それぞれの活動と成果の蓄積を特に未来を担う若い世代、子どもたちへと継承する事業を展開します。（北海道博物館基本的運営方針II－4に依拠）

② 道民参加型の活動の推進により、博物館に対する認知と愛着の醸成に努めます。（北海道博物館基本的運営方針II－2に依拠）

③ ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携を含め、北海道内博物館の活性化に貢献します。（北海道博物館基本的運営方針II－3に依拠）

④ 樺太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」を推進し、樺太研究の拠点化を目指します。（北海道博物館基本的運営方針II－1に依拠）

活動実績（2022年度・2023年度）

年度計画（2022年度）

重点	【中期目標・計画／重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討（→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進） →総務部が所管し、学芸部、研究部と連携して取り組む 【中期目標・計画／重点②】道民参加型の活動の推進 →企画G（道民参加の推進）が所管し、博物館基盤G、道民サービスG、研究戦略Gと連携して取り組む。 【中期目標・計画／重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携 →アイヌ民族文化研究センターが所管し、企画G（博物館ネットワーク）などと連携して取り組む 【中期目標・計画／重点④】樺太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進 →研究戦略Gが所管し、博物館基盤G、各研究Gなどと連携して取り組む。

年度計画（2023年度）

重点	【中期目標・計画／重点①】「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の具体的検討（→文化観光推進法に基づく北海道立総合博物館を拠点とした拠点計画の策定・国への認定申請等による「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」の実現に向けた取組を推進） →総務部が所管し、学芸部、研究部と連携して取り組む 【中期目標・計画／重点②】道民参加型の活動の推進 →企画G（道民参加の推進）が所管し、博物館基盤G、道民サービスG、研究戦略Gと連携して取り組む。 【中期目標・計画／重点③】ウポポイ（民族共生象徴空間）とりわけ国立アイヌ民族博物館との連携 →アイヌ民族文化研究センターが所管し、企画G（博物館ネットワーク）などと連携して取り組む 【中期目標・計画／重点④】樺太（サハリン）に関わる資料の収蔵・保管、調査研究、展示活動を推進する「樺太記憶継承事業」の推進 →研究戦略Gが所管し、博物館基盤G、各研究Gなどと連携して取り組む。

(1)「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」（北海道環境生活部策定）

道立自然公園野幌森林公園は、昭和40年代の北海道百年記念事業の一環として公園指定され、公園内に所在する北海道博物館、北海道開拓の村、北海道百年記念塔は、北海道が積み重ねてきた歴史・文化や先人の遺業、そして自然に触れることができる場として、多くの方々に親しまれ、利用されてきました。

しかし、開設から約50年が経過したこともあり、施設の老朽化や利用者数の減少など様々な課題が生じていることから、北海道環境生活部では、50年後を見据えて、道民の財産であるこれらの施設を、歴史・文化・自然を体感し交流できる空間として再生し、次世代に伝えていくための基本構想として「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」を2018（平成30）年12月に策定しました。

構想の概要（基本方針・主な施設の方向性）

施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を対象に、歴史、文化、自然を五感で「体感」し、国内外から訪れる多くの人々と交流できる賑わいのある空間として再生を目指します。

(1) 北海道博物館

・本道の中核的博物館、道民参画型博物館として、さらなる魅力向上に努める。
・2020年に開設される国立アイヌ民族博物館等との役割分担を考慮に入れながら幅広い連携を図る。

(2) 北海道開拓の村

・博物館としての役割を基本としながら、国内外からの旅行者をターゲットにした観光拠点や、古民家再生等人材の育成拠点としての活用を図る。

⑶ 百年記念塔・塔前広場
・長く道民の皆さんに親しまれてきたが、老朽化に伴う利用者への安全確保や将来世代への負担軽減の観点から、解体もやむを得ないと判断し、耐久性や維持コストにも配慮した新たなモニュメントを配置した交流空間とする（発展的継承）。
⑷ 野幌森林公園・近隣施設との連携
・良好な自然環境を保全するとともに、安心して利用できる環境づくりを進める。
・周辺の文化・スポーツ施設等と連携を図ることにより、より魅力的な交流空間として再生する。

【2022 年度の主な取り組み】

「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」を実現していくため、2022年度は「野幌森林公園エリア活性化事業」として、総合展示室内を、北海道博物館の魅力を伝える事業として、次の各業務を行った。

①建物の魅力紹介映像ダイジェスト版制作業務

建物の魅力を多くの人々に紹介し、さらに後世に伝えるため、当館ホームページやＳＮＳを活用して効果的な発信を行えるように、令和 3（2021）年度に制作した北海道博物館の建物の魅力を紹介する約 15 分間の映像の素材を用いて、5 分間のダイジェスト版の映像を制作した。

②壁画「開拓」解説コンテンツ等制作業務

北海道博物館総合展示室２階に展示している壁画「開拓」について、その展示内容の充実を図るため、高精細デジタル画像を用いた解説機能付き映像コンテンツを製作し、これを総合展示室内に設置した。

③北海道博物館展示案内の刊行

北海道博物館の総合展示を紹介するガイドブックとして、日本生命財団博物館展示案内出版助成により『北東アジアの十字路　北海道博物館展示案内』を刊行し、北海道内の小・中・高等学校に寄贈した。

印刷物名称	発行日	判型等	発行部数
北東アジアの十字路　北海道博物館展示案内	2023年3月1日	B5判	5,300部

「北海道博物館展示案内」刊行と同書贈呈式					
日　　時	2023年3月13日　13:30～13:45	場　　所	北海道庁　本庁舎3階　知事会議室	報道機関	1名
対 応 者	小玉俊宏（北海道副知事）、石森秀三（北海道博物館館長）、林武史氏（日本生命財団理事長）、加藤雅敏（日本生命保険相互会社札幌支社長）、企画グループ				
概　　要	日本生命財団理事長の林武史氏より「北海道博物館展示案内」を贈呈いただき、質疑応答、個別インタビュー対応をした。				

⑵ 道民参加型活動の推進

※詳細は 82～84 ページの「10　道民参加の推進」に掲載。

⑶ 国立アイヌ民族博物館との連携

※詳細は 121 ページの「15　アイヌ民族文化研究センターの事業」に掲載。

⑷ 「樺太記憶継承事業」の推進

2021 年度に引き続き、社団法人全国樺太連盟より受け入れた樺太関係資料を基盤として、「樺太記憶継承事業」を推進している。

※「樺太記憶継承事業」については、「3　調査研究」の 30～31 ページに掲載。

【2023 年度の主な取り組み】

「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」を実現していくため、2023 年度は、文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）「北海道立総合博物館を中核とした野幌森林公園エリアの文化観光推進拠点計画」を作成・申請し、認定された。そのなかで、北海道立総合博物館（北海道博物館・北海道開拓の村・野幌森林公園自然ふれあい交流館）の魅力を伝える事業として、次の各業務を行った。

デジタル化による利活用を通した収蔵資料の魅力発信事業【博物館】【北海道立総合博物館全体】

・博物館の所蔵資料を撮影、高精細デジタル画像を作成（78 点）。
・博物館が所蔵する記録資料（写真フィルム及びを映像フィルム）の一部をデジタル化。
・収蔵品管理システムに、博物館資料の高精細画像を登録（3,900 点）。
・野幌森林公園エリアの自然及び各施設（北海道博物館・北海道開拓の村・自然ふれあい交流館）の魅力をインターネット上で分かりやすく発信することを目的として、北海道博物館のウェブサイト内にエリア全体の情報を集約するページを新規開設した。
ウェブサイトの詳細は、
https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/hokkaido-museum-complex/

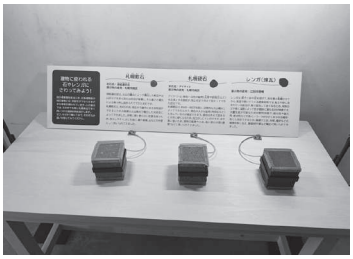
北海道立総合博物館ウェブサイト

北海道の自然・歴史・文化の魅力を伝える、博物館展示の磨き上げ事業【博物館】

・総合展示室内のプロローグに地質・古生物等をテーマとする「クローズアップ 0」を新設した。
・総合展示室第 5 テーマ「生き物たちの北海道」の一部改修を行った。

建物の魅力向上【開拓の村】

・旧小樽新聞社の内部展示を、北海道の活字文化や新聞が伝えた北海道の社会の様相などをわかりやすく伝えるように改修・整備した。


旧小樽新聞社の内部展示の一部

旧小樽新聞社内の新規解説パネル

博物館と村の魅力を深めるための、歴史・文化を物語る素材収集事業【博物館】【村】

・村の建物や博物館の特色のある文化資源について、理解が深まる標本、化石など、建物や文化資源の魅力を深め、理解の促進に繋げる素材を収集した。

北海道立総合博物館における公衆無線 wi-fi 環境整備【北海道立総合博物館全体】

・野幌森林公園エリアの各施設（野幌森林公園自然ふれあい交流館、北海道博物館）の利用者の利便性の向上を図るため、Wi-Fi 環境を整備した。

予算

2022（令和4）年度当初予算

事　業　名	文化振興事業費（北海道博物館管理運営費）
事業の概要	北海道博物館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の管理・運営を行います。

項　目	内　容	予算額（千円）
管理運営費（指定管理負担金）	指定管理者：一般財団法人北海道歴史文化財団 指定管理期間：H31.4～R5.3	342,546
計		342,546

予算額及び財源内訳		本年度	前年度	
予算額（千円）		342,546	346,643	
内訳	一般財源	341,172	345,166	
	特定財源	1,374	1,477	行政財産使用料、地方創生臨時交付金
摘要				

事　業　名	文化振興事業費（北海道博物館費（事業費、試験研究費））
事業の概要	北海道博物館において、北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を総合的に収集、保管、展示、調査研究等を行うとともに、道内博物館等の活性化を支援し、本道全体の地域文化の魅力向上を図ります。

項　目	内　容	予算額（千円）
事業費 試験研究費	展示、交流連携、情報システム整備、教育普及イベント開催等 調査研究	9,200 12,687
計		21,887

予算額及び財源内訳		本年度	前年度	
予算額（千円）		21,887	24,815	
内訳	一般財源	15,617	18,162	
	特定財源	6,270	6,653	科研費間接経費
摘要				

事　業　名	文化振興事業費（野幌森林公園管理費・施設整備費）
事業の概要	野幌森林公園内に所在する施設の老朽化が進んでいるため、利用者の安全確保の視点から緊急度の高い施設の改修等を行います。

項　目	内　容	予算額（千円）
野幌森林公園施設改修工事 維持費 標準経費	橋梁・歩道等整備 公園管理等	9,000 3,618 183
計		12,801

予算額及び財源内訳		本年度	前年度	
予算額（千円）		12,801	13,169	
内訳	一般財源	12,801	13,169	
摘要				

事　業　名	文化振興事業費（野幌森林公園エリア活性化・拠点化事業（文化観光拠点施設機能強化等事業））　重点
事業の概要	平成30年12月に策定した「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に基づき、野幌森林公園エリア全体の活性化を図ります。

項　目	内　容	予算額（千円）
博物館	展示改修・情報発信	12,012
	三密解消のための動線改良等	352
	道民参加型コーナー用パネル整備	667
開拓の村	開拓の村内建物の展示改修	4,927
公園	博物館正面アプローチバリアフリー化	500
百年記念塔等（文化振興課事業）	新モニュメント基本計画作成に係る検討会、開拓の村利活用方針の策定に係る検討委員会開催	4,756
計		23,214

予算額及び財源内訳			本年度	前年度	
予算額（千円）			23,214	26,435	
内訳	一般財源		7,139	26,435	
	特定財源		16,075	0	
摘要	特定財源は、文化庁による文化観光拠点施設機能強化事業補助金（2/3）を前提とした計数				

事　業　名	文化振興事業費（樺太記憶継承事業費）
事業の概要	一般社団法人全国樺太連盟から委譲された資料の保管、調査・研究及び展示等に活用し、文化振興を図ります。

項　目	内　容	予算額（千円）
事業費	資料の保管、調査研究、展示公開	6,576
計		6,576

予算額及び財源内訳		本年度	前年度	
予算額（千円）		6,576	6,305	
内訳	特定財源	6,576	6,305	基金繰入金、財産運用収入
摘要				

事　業　名	文化振興事業費（北海道博物館特別展）	重点

事業の概要

子どもたちに人気がある「昆虫」を通して、雄大な自然の特性や魅力、地球規模で急速に進行している気候変動の実例等を紹介することにより、将来を担う世代の環境保全に関する意識の向上や行動を促す機会を提供します。

項　目	内　容	予算額（千円）
北海道博物館特別展の開催	北海道博物館特別展 ・来場者が虫の視点を体感できる巨大昆虫の森、北海道固有種から世界の昆虫までを含めた多数の標本、昆虫食やバイオミメティクスなど人と昆虫の関わりの紹介 ・道民を対象とした記念フォーラムの開催など	10,000
計		10,000

予算額及び財源内訳

		本年度	前年度	
予算額（千円）		10,000	0	
内訳	一般財源	0	0	
	特定財源	10,000	0	
摘　要				

事　業　名	地方創生対策推進費（アイヌ文化情報発信強化事業）	重点

事業の概要

道民等が「アイヌ文化」に関する知識を深める機会を創出し、アイヌ文化への理解促進を図るとともに、ウポポイ（民族共生象徴空間）への誘客を促します。

項　目	内　容	予算額（千円）
北海道博物館関連事業	各種媒体やイベントを活用したウポポイやアイヌ文化の魅力発信、新たな関心層の発掘、開設効果の地域波及	11,680
文化発信（文化振興課事業）	アニメーション等を通じたアイヌ文化情報の発信	8,848
計		20,528

予算額及び財源内訳

		本年度	前年度	
予算額（千円）		20,528	21,458	
内訳	一般財源	10,625	11,029	
	特定財源	9,903	10,429	
摘　要	特定財源は国庫補助金(地方創生推進交付金(1/2))による			

2023（令和5）年度当初予算

事　業　名	文化振興事業費（北海道博物館管理運営費）

事業の概要

北海道博物館、北海道開拓の村、自然ふれあい交流館の管理・運営を行います。

項　目	内　容	予算額（千円）
管理運営費（指定管理負担金）	指定管理者：一般財団法人北海道歴史文化財団 指定管理期間：R6.4～R10.3	406,487
計		406,487

予算額及び財源内訳

		本年度	前年度	
予算額（千円）		406,487	341,557	
内訳	一般財源	406,102	341,172	
	特定財源	385	385	行政財産使用料
摘　要				

事　業　名	文化振興事業費（北海道博物館費（事業費、試験研究費））				
事業の概要	北海道博物館において、北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を総合的に収集、保管、展示、調査研究等を行うとともに、道内博物館等の活性化を支援し、本道全体の地域文化の魅力向上を図ります。				
予算額及び財源内訳	予算額（千円）		本年度	前年度	
			21,683	21,887	
	内訳	一般財源	15,346	15,617	
		特定財源	6,337	6,270	科研費間接経費
	摘要				

項　目	内　容	予算額（千円）
事業費 試験研究費	展示、交流連携、情報システム整備、教育普及イベント開催等 調査研究	8,113 13,570
計		21,683

事　業　名	文化振興事業費（野幌森林公園管理費・施設整備費）				
事業の概要	野幌森林公園内に所在する施設の老朽化が進んでいるため、利用者の安全確保の視点から緊急度の高い施設の改修等を行います。				
予算額及び財源内訳	予算額（千円）		本年度	前年度	
			12,421	12,801	
	内訳	一般財源	12,421	12,801	
	摘要				

項　目	内　容	予算額（千円）
野幌森林公園施設改修工事 維持費 標準経費	外構等補修・危険木等処理・木柵等改修 公園管理等	9,000 3,256 165
計		12,421

事　業　名	文化振興事業費（野幌森林公園エリア活性化・拠点化事業（文化観光拠点施設機能強化等事業））　重点				
事業の概要	平成30年12月に策定した「ほっかいどう歴史・文化・自然『体感』交流空間構想」に基づき、野幌森林公園エリア全体の活性化を図ります。				
予算額及び財源内訳	予算額（千円）		本年度	前年度	
			19,523	23,214	
	内訳	一般財源	6,508	7,139	
		特定財源	13,015	16,075	
	摘要	特定財源は、文化庁による文化観光拠点施設機能強化事業補助金（2/3）を前提とした計数			

項　目	内　容	予算額（千円）
博物館	展示改修・情報発信・展示解説多言語化等	77,91
開拓の村	開拓の村内建物の展示改修	5,932
公園	利便性向上（デジタルマップ等の作成・サイン改修等）	800
その他	バリアフリー化、地域協働イベント等	5,000
計		19,523

事　業　名	文化振興事業費（樺太記憶継承事業費）
事業の概要	一般社団法人全国樺太連盟から委譲された資料の保管、調査・研究及び展示等に活用し、文化振興を図ります。

項　目	内　容	予算額（千円）
事業費	資料の保管、調査研究、展示公開	6,682
計		6,682

予算額及び財源内訳			本年度	前年度	
	予算額（千円）		6,682	6,576	
	内　訳	特定財源	6,682	6,576	基金繰入金、財産運用収入
	摘　要				

事　業　名	文化振興事業費（北海道博物館特別展開催事業）　重点
事業の概要	北海道博物館において「縄文」をテーマとした特別展を開催し、縄文遺跡の価値・魅力を全道に広め、縄文遺跡への来訪を促進します。

項　目	内　容	予算額（千円）
北海道博物館特別展の開催	北海道博物館特別展	10,000
計		10,000

予算額及び財源内訳			本年度	前年度	
	予算額（千円）		10,000	10,000	
	内　訳	一般財源	10,000	10,000	
		特定財源			
	摘　要				

事　業　名	地方創生対策推進費（アイヌ文化情報発信強化事業）　重点
事業の概要	道内各地におけるアイヌ文化振興と継承者育成等の課題に対し、道立博物館の蓄積を活かした支援を行い、地域に即した理解促進や関心の高まりに繋げ、文化継承の人材育成及びウポポイへの誘客を促します。

項　目	内　容	予算額（千円）
北海道博物館関連事業	道内市町村と連携したアイヌ文化の情報発信	9,831
計		9,831

予算額及び財源内訳			本年度	前年度	
	予算額（千円）		9,831	11,680	
	内　訳	一般財源	9,831	5,840	
		特定財源	0	5,840	
	摘　要				

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に係る対応の状況（2022・2023 年度）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止し、来館者及び職員の「安心・安全」を保証するため、2020（令和 2）年 5 月に策定した「北海道博物館　再開に向けた館運営のガイドライン」（詳細は『北海道博物館要覧』第 6 号（2020）の 119～122 ページ）の改訂版（2021 年 7 月一部改正）に則り、対応策を講じながら運営した。また 2023 年 5 月から感染症法上の位置づけが「2 類相当」から「5 類感染症」に移行したことに伴い、引き続き、来館者及び職員の「安心・安全」を最優先としつつ、下記のとおり対応を緩和した。

各種活動の対応状況

1　資料の利用

2022 年度は、来館をともなう資料利用に際しては、事前予約の徹底のほか、人数制限（1 日 1 組 2 名以下）や作業場所の消毒等、感染リスクの低減措置を行ったうえでサービスを行った。その他の資料の収集・保存管理等の活動は、通常どおり実施した。

2023 年度は、来館をともなう資料利用に際しての人数制限を緩和して、通常どおりに実施した。

2　展示

・総合展示室内における入場人数の上限の設定（1 階、2 階各 150 名）。
・十分な距離（2 メートル程度）を保つための足型表示やマーキングの設置。（2023 年 5 月まで）
・総合展示室内の「さわれる展示」を休止していたが、段階的に再開した。
・第 8 回特別展「世界の昆虫」および第 9 回特別展「北の縄文世界と国宝」における総合展示室との一体型動線の実施。
・特別展示室における入場人数については、事業ごとに会場面積及び導線等に基づいて上限を定めた。

3　調査研究

ロシア・サハリン州、カナダ・アルバータ州の博物館との海外交流は、前年度に引き続き休止した（※詳細は34ページ）。その他の館内共同研究プロジェクト、科学研究費等による調査研究については、感染防止対策を講じたうえで実施した。

4　教育普及

(1) 普及行事と特別イベント

参加者のディスタンスを保持するため、主な会場となる講堂における定員を最大 80 名（会場における 2/3 の定員数）に制限した。また、ワークショップについては道具を他の参加者と共有しない人数に制限した。2023 年 5 月以降は、定員制限を解除し、講堂における定員を最大 120 名に戻した。

(2) 展示室における展示解説

・休止していた音声解説機器の貸出は、2023 年 2 月から再開した。
・2023 年 3 月以降、総合展示室内のラミネート式解説、タッチパネル型解説機器の運用、「さわれる展示」の一部などを段階的に再開した。
・総合展示室内における展示解説活動（ハイライトツアー）及びイベント（ハンズオン、ミュージアムトーク等）は 2022 年度と 2023 年度ともに休止した。
・企画展に関連して実施する、特別展示室内での解説イベント（ミュージアムトーク）は休止していたが、2024 年 2 月から再開した。

(3) はっけん広場

2022 年度は前年度に引き続き、入室及び利用を休止し、はっけん広場で行う団体向けの「はっけんプログラム」及び一般向けの「はっけんイベント」を休止していたが、2023 年 2 月より、事前予約制で人数を制限しての「はっけんイベント」を再開した。

2023 年度は、2023 年 5 月以降に「はっけんキット」の利用再開とともに「はっけんイベント」等における人数制限を解除したものの、団体等の「はっけん広場」の利用は引き続き休止した。

(4) 学校団体の受入

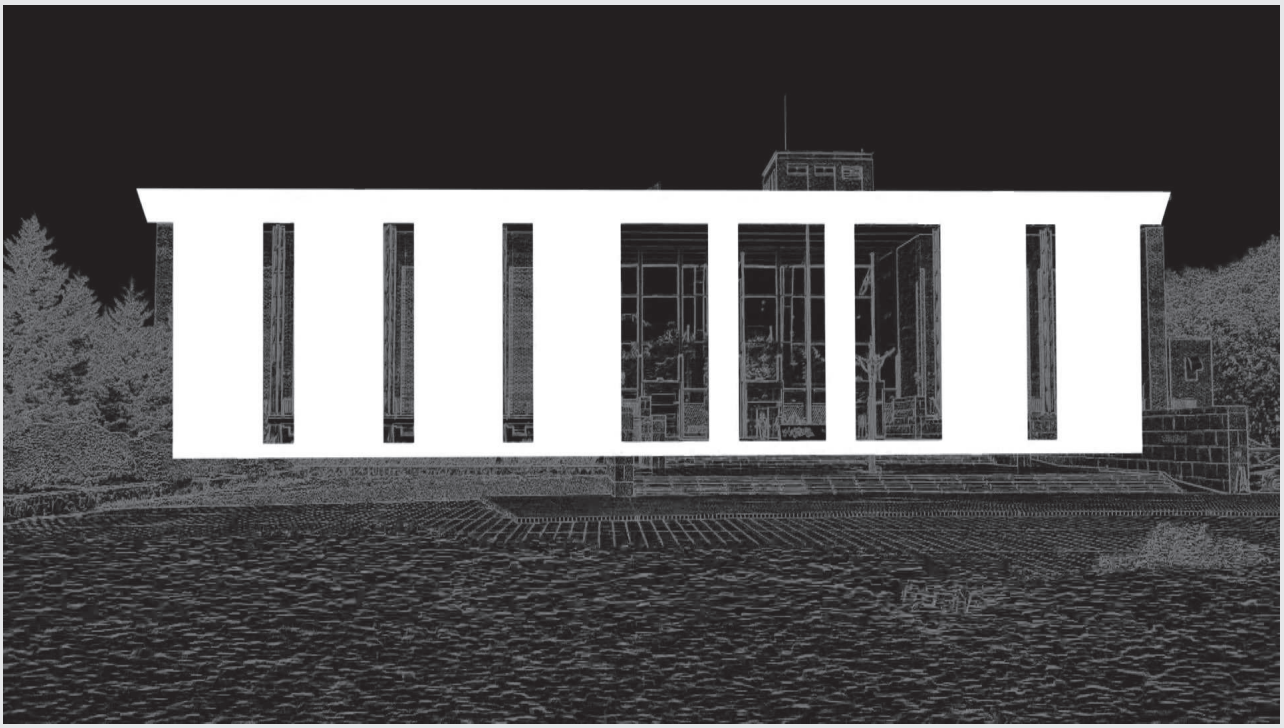
・2022 年度・2023 年度ともに、総合展示室内における入場人数の上限の設定（1・2 階合計 300 名）に従い、予約時に人数を制限した。また、ウェブサイト及び入口で団体予約が入っている日時を「混雑予想」として提示したうえで、個人の来館者とは出入口を別にして入退館を誘導した。
・2022 年度には、入館時に手指消毒を実施した。
・2022 年度・2023 年度ともに、学校向けプログラムである、はっけん広場における「はっけんプログラム」は中止した。
・講堂における「グループレクチャー」は、2022 年度には所要時間 15 分（＋消毒・入替時間 15 分）・定員 80 名（会場における 2/3 の定員数）として実施したが、2023 年度には定員を 120 名に引き上げた。

5　その他

2022 年度は、博物館実習生を 15 名上限として募集し、ディスタンスを確保できるように実習の主となる会場を講堂として受け入れた。2023 年度は、実習生の上限を 20 名まで引き上げ、実習の会場も会議室とした。

※詳細は95～96ページに掲載。

III　資料



1　館長の紹介

石　森　秀　三　　ISHIMORI Shuzo

職　　名	館長
称　　号	国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授
専　　門	文化人類学、博物館学、観光文明学

受　　賞	1986年、大平正芳記念賞
職　　歴	京都大学人文科学研究所研究員（1971） 国立民族学博物館第四研究部助手（1975） 国立民族学博物館第四研究部助教授（1985） 国立民族学博物館第四研究部教授（1996） 国立民族学博物館先端民族学研究部教授（1998） 国立民族学博物館民族社会研究部長（2002） 国立民族学博物館博物館民族学研究部長（2003） 国立民族学博物館文化資源研究センター長（2004） 北海道大学観光学高等研究センター長（2006） 北海道開拓記念館長（2013） 北海道博物館長（2015）
社会活動	観光立国懇談会委員（内閣官房） アイヌ政策推進会議委員（内閣官房） 文化審議会文化財分科会専門委員（文化庁） 文化審議会企画調査会会長（文化庁） 国土審議会北海道開発分科会専門委員（国土交通省） 地域資源活用促進事業委員会委員長（経済産業省）等
主な研究業績	2017；『観光創造学へのチャレンジ』北海道大学観光学高等研究センター（共編著） 2011；『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社（共編著） 2008；『大交流時代における観光創造』北海道大学（編著） 2000；『博物館経営・情報論』放送大学教育振興会（編著） 2000；『博物館資料論』放送大学教育振興会（編著） 1999；『博物館概論：ミュージアムの多様な世界』放送大学教育振興会 1996；『観光の20世紀』ドメス出版（編著） 1985；『危機のコスモロジー：ミクロネシアの神々と人間』福武書店

2　学芸職員の博物館活動

当館の研究職員は、北海道博物館の資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及をはじめとするあらゆる学芸的な博物館活動に携わっています。研究職員のなかで、学芸員資格を有する職員は、「学芸員」として発令され職務にあたっていますが、当館に所属する学芸員・研究職員は、職名に関係なく博物館の学芸的な各種活動を行い、道民や当館を訪れる利用者などへの成果普及に努めています。その意味で、当館の学芸員・研究職員を学芸職員と呼んでいます。

学芸職員は、研究部またはアイヌ民族文化研究センターに属する 5 つの研究グループのうちの一つに所属し、北海道博物館の所蔵資料、及び博物館・アイヌ民族文化に関する調査研究活動（通常研究）を基軸として行うとともに、当館に配当された研究費（道費）による研究プロジェクト（館内共同研究）や外部資金を獲得した研究課題を抱えています。それらの成果は、資料紹介・博物館活動

報告、研究成果報告、展示制作、普及行事開催などの形で、道民・利用者への成果普及を行っています。また、学会誌・研究会誌への寄稿・投稿や学会発表などにより、学術的な研究成果の発信にも努めています。

凡例

1　2024（令和6）年4月現在在籍の学芸職員の情報を記載していますが、「2022・2023年度の主な博物館活動の実績」及び「対外研究成果発信」欄は、2023年度をもって退職した職員も含め、2022年度及び2023年度の実績を記載しています。

2　「資料紹介活動紹介」欄は、『森のちゃれんがニュース』や『研究紀要』の「資料紹介」「博物館活動報告」などへの概報・短報の掲載により、当館所蔵資料や博物館活動の道民・利用者への紹介に努めたものです。

3　「調査研究」欄は、『研究紀要』の「論文」「研究ノート」「調査報告」、特別展図録などへの論考掲載により、通常研究・館内共同研究・外部資金を獲得した研究に係る専門的な研究成果の道民・利用者への紹介に努めたものです。

4　「対外研究成果発信」欄は、学術雑誌・学術図書への寄稿・投稿や学会・研究会での発表などにより、学問の発展に寄与する活動に努めたものです。

5　紙幅の都合上、省略したり、略号を用いて表記しています。各学芸職員のより詳細な研究情報については、当館ウェブサイト内の「スタッフ」の各ページ、または国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営するResearchmapをあわせてご参照ください。

略号　「ニュース」：『森のちゃれんがニュース』
「紀要」：『北海道博物館研究紀要』または『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』

学芸部長

三　浦　泰　之　　MIURA Yasuyuki

職　　名	学芸部長
学　　位	学士、1996年（京都大学文学部日本史学科）
担当分野	歴史

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；北海道博物館所蔵の林梅家資料（三）―ヨイチ場所の書上　その2―（紀要、共著） 2022年度；研究活動紹介　昭和期のホームムービー―菱昌七関係記録資料より（ニュース）
	調査研究	2023年度；場所請負人の経営帳簿に見る漆器（浅倉有子編『漆器から見るアイヌの社会と文化』所収） 2023年度；京都の学塾山本読書室と“古物蒐集家”松浦武四郎（内川隆志編『人文資料形成史における博物館学的研究III―根岸友山・武香旧蔵資料の研究と公開―』所収）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；新しく仲間入りした歴史資料たち（クローズアップ展示2）ほか 2022年度；新しく仲間入りした歴史資料たち（クローズアップ展示2）ほか
	普及行事	2023年度；はじめての古文書講座（全8回）（古文書講座、うち4回担当） 2023年度；ちゃれんが古文書クラブ（全12回）（道民参加型行事、うち6回担当） 2022年度；映画上映会　あるカメラ愛好家が撮影した戦前・戦後の札幌（ミュージアムカレッジ） 2022年度；はじめての古文書講座（全8回）（古文書講座、うち4回担当） 2022年度；ちゃれんが古文書クラブ（全12回）（道民参加型行事、うち6回担当）
対外研究成果発信		2023年度；近世・近代のニシン漁（公益財団法人似鳥文化財団連続講座「後志を考える」） 2022年度；武四郎研究の今―武四郎の蝦夷地踏査を中心に（松浦武四郎記念館 武四郎講座）

研究部 自然研究グループ

水　島　未　記　　MIZUSHIMA Miki

職　　名	学芸部研究戦略グループ学芸主幹 研究部自然研究グループ学芸主幹（兼）
学　　位	修士、1993年（北海道大学大学院農学研究科）
担当分野	生物

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；北海道内博物館合同展示「推し花の押し花〜牧野富太郎と植物標本」の報告（紀要）
	調査研究	2022年度；野幌森林公園地域のシダ植物相（紀要、筆頭）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；推し花の押し花〜牧野富太郎と植物標本（北海道内博物館合同展示） 2023年度；野幌森林公園の植物を調べる（クローズアップ展示7） 2022年度；もっと！あっちこっち湿地〜自然と歴史をめぐる旅〜（第20回企画テーマ展） 2022年度；世界の昆虫 ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー（第8回特別展） 2022年度；リンゴはなぜ赤い？　木の実・草の実の不思議な世界（クローズアップ展示7）
	普及行事	2023年度；野幌森林公園クマゲラ一斉調査2024（特別イベント） 2023年度；動物の足あとを探そう（自然観察会） 2023年度；博物館で新年祈願!?　日本の画材で絵馬づくり（ちゃれんがワークショップ） 2023年度；エゾアカガエルのラブコールを聴こう（自然観察会） 2023年度；野幌森林公園クマゲラ一斉調査2023（特別イベント） 2022年度；動物の痕跡をさがそう（自然観察会） 2022年度；博物館で新年祈願!?　日本の画材で絵馬づくり（ちゃれんがワークショップ） 2022年度；木の実・草の実の不思議をさがそう（自然観察会） 2022年度；初夏の森で花をさがそう（自然観察会） 2022年度；アンモナイト折り紙で学ぶ　生物の「かたち」の不思議（ちゃれんがワークショップ） 2022年度；エゾアカガエルのラブコールを聴こう（自然観察会）
対外研究成果発信		2022年度；北海道内博物館合同展示「推し花の押し花〜牧野富太郎と植物標本」開催報告（発表、連名） 2022年度；野幌森林公園と博物館の役割（執筆・発表） 2022年度；第1篇 地勢・自然　第4章 動植物　第3節 植物『新 恵庭市史　通史篇』（執筆） 2022年度；チョウザメ（ミカドチョウザメ、Sakhalin sturgeon）*Acipenser mikadoi* はサハリンで繁殖していたか？（発表）

表　　渓　太　　OMOTE Keita

職　　名	学芸部道民サービスグループ学芸主査（普及事業） 研究部自然研究グループ学芸主査（兼）
学　　位	博士（理学）、2016年（北海道大学大学院理学院）
担当分野	生物

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；第20回企画テーマ展　「あっちこっち湿地」リメイク展示開催！（ニュース） 2022年度；博物館活動紹介　「あなたの好きor嫌いな昆虫は？」結果発表！（ニュース） 2022年度；総合展示紹介・第5テーマ　動物たちの「落とし物」（ニュース）
	調査研究	2022年度；野幌森林公園地域のシダ植物相（紀要、共著） 2023年度；「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；もっと！あっちこっち湿地〜自然と歴史をめぐる旅〜（第20回企画テーマ展、チーフ） 2022年度；世界の昆虫 ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー（第8回特別展）
	普及行事	2022年度；巨大すごろくでスリル満点！わたり鳥の旅（子どもワークショップ） 2022年度；動物の痕跡を探そう（自然観察会） 2022年度；親子で探検！森のコレクションをつくろう（子どもワークショップ） 2022年度；木の実・草の実の不思議をさがそう（自然観察会） 2022年度；草原の主・トノサマバッタをさがそう（子どもワークショップ） 2022年度；初夏の森で花をさがそう（北海道フラワーソン連携企画）（自然観察会） 2022年度；エゾアカガエルのラブコールを聴こう（自然観察会）
対外研究成果発信		2022年度；「鳥類剥製標本におけるDNA半減期について」（発表・筆頭）

圓谷昂史　EN'YA Takafumi

職　名	学芸部道民サービスグループ学芸主査（利用促進） 研究部自然研究グループ学芸主査（兼）
学　位	修士、2014年（北海道教育大学大学院教育学研究科理科教育専修）
担当分野	地学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；北海道博物館所蔵の地学資料ー新生代の貝類化石ー（紀要、筆頭） 2022年度；北海道博物館第19回企画テーマ展・北海道化石会発足50周年記念展「アンモナイトと生きるー50年の歩みとこれからー」の報告（紀要、筆頭） 2022年度；北海道博物館所蔵の地学資料ー白亜紀アンモナイト化石ー（紀要、共著）
	調査研究	2023年度；海岸漂着物の教材化にむけた実践 ー札幌市立の中学校第2学年の宿泊学習を例にー（紀要、筆頭） 2023年度；「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；北広島市で新たに発見されたクジラ化石（クローズアップ展示0） 2022年度：地質の日関連展示「日本を代表するアンモナイト　ニッポニテス・ミラビリス」（総合展示室）
	普及行事	2023 年度；ちゃれんが地学講座（第 3 回）（地学講座） 2023年度；石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！（特別イベント） 2022年度；北広島市でみつかった貝の化石で標本をつくろう！（子どもワークショップ） 2022年度；石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！（特別イベント） 2022年度；アンモナイト折り紙で学ぶ 生物の「かたち」の不思議（ちゃれんがワークショップ） 2022年度；学芸員が語る！第19回企画テーマ展の見どころ（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		2023年度；北海道日本海側南部における福徳岡ノ場2021年噴火に伴う軽石の漂着（執筆・筆頭） 2023年度；2022年秋季の北海道余市湾沿岸におけるアオイガイの漂着（執筆・筆頭） 2023年度；北海道奥尻島における*Macropsychanthus hexander*種子の漂着（執筆・筆頭） 2023年度；北海道十勝郡浦幌町に分布する根室層群の白亜紀/古第三紀（K/Pg）境界の剥ぎ取り標本の作製記録（執筆・共著） 2023年度；北海道の中部更新統馬追層におけるホタテガイとトウキョウホタテガイの殻成長特性（発表・共同） 2023年度；北海道の更新統馬追層産トウキョウホタテガイの季節的殻成長（発表・共同） 2023年度；北海道奥尻島における暖流系漂着物（発表・筆頭） 2023年度；海岸漂着物を題材とした環境教育に関する実践的研究（発表・筆頭） 2023年度；Bored volcanic cobbles produced by the rock-boring clam *Penitella kamakurensis* in Hokkaido - Focusing on rhyolite cobbles washed ashore on the Hamanaka Beach of Yoichi Town -（発表・共同） 2023年度；Paleovegetation and chronological significance of Early Pleistocene flora from Honbetsu Town, eastern Hokkaido, Japan（発表・共同） 2022年度；2021年秋季の北海道余市湾沿岸へのアオイガイの漂着（執筆・筆頭） 2022年度；北海道余市町浜中海岸の流紋岩礫へ穿孔したカモメガイとその穿孔痕（執筆・共著） 2022年度；中学校の宿泊学習における打ち上げ貝類の調査実践に関する一考察（発表・筆頭） 2022年度；更新統馬追層産絶滅種二枚貝*Mizuhopecten tokyoensis*(Tokunaga)の季節的殻成長と生息環境（発表・共同）

成田敦史　NARITA Atsufumi

職　名	総務部企画グループ学芸主査（中核的博物館） 研究部自然研究グループ学芸主査（兼）
学　位	博士（理学）、2021年（中央大学大学院理工学研究科）
担当分野	地学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；北海道博物館の総合展示における来場者調査から得られた観覧動向と諸課題（紀要・筆頭） 2023年度；北海道博物館所蔵の地学資料ー新生代の貝類化石ー（紀要、共著） 2023年度；植物化石や地学の楽しさを伝えていきます！（ニュース） 2023年度；博物館・ジオパークで地球を学ぼう！(25)北海道博物館（日本地質学会NEWS） 2022年度；グランドホールに約2億5千万年以上前のフズリナ化石！（ニュース）
	調査研究	2023 年度；北海道の新第三系から産出した植物化石リストおよび各分類群の層位的分布（紀要）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023 年度；北海道博物館 2023 年度「化石の日（10 月 15 日）」関連展示「北海道の“恐竜時代”の化石～パラリテリジノサウルスとアローカリア～」
	普及行事	2023 年度；ちゃれんが地学講座（第１・４回）（地学講座） 2023 年度；化石を研究してみよう！（子どもワークショップ） 2023 年度；恐竜やアンモナイトがいた頃の岩石を使って、地質図をつくってみよう（ちゃれんがワークショップ） 2023 年度；翼竜カイトを飛ばそう（子どもワークショップ） 2022 年度；北広島市でみつかった貝の化石で標本をつくろう！（子どもワークショップ）
対外研究成果発信		2023年度；北海道中央東部糠平湖周辺地域の貫入岩体のK–Ar年代（執筆・筆頭） 2023年度；北海道十勝郡浦幌町に分布する根室層群の白亜紀/古第三紀（K/Pg）境界の剥ぎ取り標本の作製記録(執筆・共著) 2023年度；北海道内の植物化石研究の最前線（発表） 2023年度；Paleovegetation and chronological significance of Early Pleistocene flora from Honbetsu Town, eastern Hokkaido, Japan（発表・筆頭） 2023年度；北海道中央東部糠平湖周辺の後期新生代の古植生と古環境：後期中新世十勝幌加植物群と前期更新世タウシュベツ植物群（執筆、筆頭） 2023年度；古生物学の百科事典（項目：葉化石）（分担執筆） 2022年度；オープンエンドクエスチョンで生徒の思考を深化させる～「地学基礎」の例～（発表） 2022年度；ハンズオン地質教材の開発と実践（発表）

久保見　幸　KUBOMI Koh

職　名	総務部企画グループ学芸員 研究部自然研究グループ学芸員（兼）
学　位	修士、2021年（富山大学大学院理工学教育部地球科学専攻）
担当分野	地学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；北海道博物館所蔵の地学資料ー新生代の貝類化石ー（紀要、共著） 2023年度；総合展示資料紹介・第1テーマ　第四紀の北海道のようすを表す「古地理図」（ニュース） 2022年度；研究活動紹介　北海道の白亜紀の地質調査と年代測定（ニュース） 2022年度；北海道博物館所蔵の地学資料ー白亜紀アンモナイト化石ー（紀要、筆頭） 2022年度；北海道博物館第19回企画テーマ展・北海道化石会発足50周年記念展「アンモナイトと生きるー50年の歩みとこれからー」の報告（紀要、共著）
	調査研究	2023年度；北海道大夕張地域に分布する蝦夷層群函淵層の凝灰岩の産状記載（紀要、筆頭）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；地質の日関連展示「ベンジャミン・スミス・ライマンたちの業績」（総合展示室） 2022年度；化石の日関連展示「日本を代表するアンモナイト　ニッポニテス・ミラビリス」（総合展示室）
	普及行事	2023年度；恐竜やアンモナイトがいた頃の岩石を使って、地質図をつくってみよう！（ちゃれんがワークショップ） 2023年度；ちゃれんが地学講座　第2回（地学講座） 2022年度；アンモナイト折り紙で学ぶ 生物の「かたち」の不思議（ちゃれんがワークショップ） 2022年度；石の中からホンモノの化石を掘りだしてみよう！（特別イベント） 2022年度；学芸員が語る！第19回企画テーマ展の見どころ（ミュージアムカレッジ） 2022年度；北広島市でみつかった貝の化石で標本をつくろう！（子どもワークショップ） 2022年度；親子で探検！森のコレクションをつくろう（子どもワークショップ）
対外研究成果発信		2023年度；北海道十勝郡浦幌町に分布する根室層群の白亜紀/古第三紀（K/Pg）境界の剥ぎ取り標本の作製記録（執筆・筆頭） 2023年度；北海道中央東部糠平湖周辺地域の貫入岩体のK–Ar年代（執筆・共著） 2023年度；Discovery of Early Paleocene (Danian) tuff from the Yezo Group in the Yubari area, Hokkaido, Northeast Japan（執筆・筆頭） 2023年度；Bored volcanic cobbles produced by the rock-boring clam *Penitella kamakurensis* in Hokkaido - Focusing on rhyolite cobbles washed ashore on the Hamanaka Beach of Yoichi Town -（発表・共同） 2023年度；Paleovegetation and chronological significance of Early Pleistocene flora from Honbetsu Town, eastern Hokkaido, Japan（発表・共同） 2022年度；北海道余市町浜中海岸の流紋岩礫へ穿孔したカモメガイとその穿孔痕（執筆・共著）

堀　繁久　HORI Shigehisa

職　名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 研究部自然研究グループ学芸員（兼）
学　位	学士、1985年（琉球大学理学部生物学科）
担当分野	生物

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；北海道博物館第8回特別展 「世界の昆虫 ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー」（ニュース）
	調査研究	2022年度；野幌森林公園のカミキリムシ相（紀要） 2022年度；野幌森林公園地域のシダ植物相（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～（第20回企画テーマ展） 2022年度；世界の昆虫 ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー（第8回特別展、チーフ） 2022年度；【特別展関連】〈歩く宝石〉北海道のオサムシ（クローズアップ展示7）
	普及行事	2023年度；動物の足あとを探そう（自然観察会） 2022年度；動物の痕跡を探そう（自然観察会） 2022年度；草原の主・トノサマバッタをさがそう（子どもワークショップ） 2022年度；羊毛フェルトの昆虫ストラップ（子どもワークショップ） 2022年度；子ども昆虫相談室（特別イベント） 2022年度；初夏の森で花をさがそう（北海道フラワーソン連携企画）（自然観察会） 2022年度；エゾアカガエルのラブコールを聴こう（自然観察会）
対外研究成果発信		2023年度；ほっかいどう はじめての虫さがし（北海道新聞社）（執筆） 2022年度；学研の図鑑LIVE昆虫（ゴミムシ類）（分担執筆） 2022年度；第1篇 地勢・自然　第4章 動植物　第3節 動物『新 恵庭市史　通史篇』（執筆）

研究部 歴史研究グループ

鈴 木 琢 也　SUZUKI Takuya

職　名	学芸部博物館基盤グループ学芸主幹 研究部歴史研究グループ学芸主幹（兼）
学　位	修士、2001年（福島大学大学院地域政策科学研究科）
担当分野	考古

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；ユネスコ世界遺産登録記念　北の縄文世界と国宝（ニュース）
	調査研究	2023年度；ポータブル複合X線分析による須恵器の胎土分析―北海道および秋田県出土資料の比較検討―（『法政史学』101号） 2023年度；交流から探るオホーツク文化・擦文文化とアイヌの文化（『REKIHAKU』011） 2023年度；本州との交流（季刊考古学・別冊42『北海道考古学の最前線』）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」（第9回特別展）
	普及行事	2023年度；「北の縄文世界と国宝」展ができるまで（ミュージアムカレッジ） 2023年度；「北の縄文世界」を知る（特別イベント） 2023年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント） 2022年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント）
対外研究成果発信		2022年度；古代の北方世界における交易と交流ーフランス・アルザス欧州日本学研究所国際シンポジウム（発表） 2022年度；古代の北方交流と擦文文化ー地域の文化財普及啓発フォーラム（札幌）　北海道の古代集落遺跡III（発表） 2022年度；古代の北方交流と擦文文化ー地域の文化財普及啓発フォーラム（釧路）　北海道の古代集落遺跡III（発表） 2022年度；北海道へ渡った須恵器と秋田ー第11回・令和4年度後三年合戦沼柵公開講座（講演） 2022年度；擦文文化に搬入された本州産製品からみた交流の様相ー国立歴史民俗博物館基幹研究・研究会（発表） 2022年度；『アイヌ文化史辞典』（執筆、「江別古墳群」「柏木東遺跡」の2項目）

東　俊 佑　AZUMA Shunsuke

職　名	学芸部研究戦略グループ学芸主査（調査研究） 研究部歴史研究グループ学芸主査（兼）
学　位	修士、2002年（東北学院大学大学院文学研究科）
担当分野	歴史

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；北海道博物館所蔵の林梅家資料（三）―ヨイチ場所の書上　その2―（紀要、筆頭） 2022年度；北海道博物館所蔵の林梅家資料（二）―ヨイチ場所の書上―（紀要、筆頭） 2022年度；総合展示室の資料紹介・第1テーマ　オムシャのジオラマ（ニュース）
	調査研究	2023年度；北海道立図書館所蔵の『アイヌ画譜』について（紀要） 2023年度；『蝦夷島奇観』写本の研究（一）（紀要）
	展示制作	2023年度；仙台石巻漂流民が見たロシア極東：『環海異聞』をもとに（クローズアップ展示1） 2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；江戸時代終わりごろのイシカリ：村山家の文書と地図から（クローズアップ展示1） 2023年度；地図に描かれた幕末のカラフト島とエトロフ島（クローズアップ展示1） 2023年度；『蝦夷島奇観』をさぐる：当館所蔵の模写から（クローズアップ展示1） 2023年度；描かれたアイヌ民族のサケ漁：小玉貞晨筆『蝦夷国魚場風俗図巻』（クローズアップ展示1） 2022年度；近世蝦夷地の古文書（クローズアップ展示1） 2022年度；《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（クローズアップ展示1）
	普及行事	2023年度；はじめての古文書講座（全8回）（古文書講座、うち4回担当） 2023年度；カラフトナヨロ文書とアイヌ乙名の両属をめぐって（ミュージアムカレッジ） 2023年度；ちゃれんが古文書クラブ（全12回）（道民参加型行事、うち6回担当） 2022年度；北方四島と東北諸藩・松前藩の蝦夷地警備（公開講座） 2022年度；はじめての古文書講座（全8回）（古文書講座、うち4回担当） 2022年度；ちゃれんが古文書クラブ（全12回）（道民参加型行事、うち6回担当）
対外研究成果発信		2023年度；ヨイチ運上家の年中行事と仕事暦：文政13年（1830）の暦を例として（執筆） 2022年度；『アイヌ文化史辞典』（執筆、「ヤエンクルアイノ」「樺太のアイヌ」「給料勘定」など18項目）

田　中　祐　未　　TANAKA Yumi

職　　名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 研究部歴史研究グループ学芸員（兼）
学　　位	修士、2023年（北海道大学大学院文学院）
担当分野	美術史

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；木戸竹石の《捕馬図屏風》（クローズアップ展示2） 2022年度；木戸竹石の《鮭漁図屏風》（クローズアップ展示2） 2022年度；生誕200年 絵師・平沢屏山（クローズアップ展示2）
	普及行事	2023年度；博物館で新年祈願!?　日本の画材で絵馬づくり（ちゃれんがワークショップ） 2022年度；博物館で新年祈願!?　日本の画材で絵馬づくり（ちゃれんがワークショップ）
対外研究成果発信		2023年度；吉田初三郎と印刷所本 『旭川』「旭川市を中心とせる名所交通鳥瞰図」（執筆） 2023年度；洋画家・櫻井豊松の足跡（執筆）

石　子　智　康　　ISHIKO Tomoyasu

職　　名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 研究部歴史研究グループ学芸員（兼）
学　　位	修士、2021年（早稲田大学大学院文学研究科）
担当分野	歴史

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	※2023年4月より北海道博物館研究部歴史研究グループに配属。 2023年度；身近な歴史から大きな歴史に（ニュース）
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展）
	普及行事	
対外研究成果発信		2023年度；　樺太庁警察部の成立と展開（発表）

右　代　啓　視　　USHIRO Hiroshi

職　　名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部歴史研究グループ学芸員（兼）
学　　位	博士（歴史学）、2011年（駒澤大学大学院）
担当分野	考古

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；資料紹介　貝製平玉－貝取澗2洞窟遺跡―（ニュース）
	調査研究	2023年度；キタオットセイ遺存体のDNA分析および炭素・窒素・酸素安定同位体分析―北海道博物館所蔵の北見市常呂栄浦第一・稚内市大岬１遺跡出土資料―（紀要、共著） 2022年度；北方四島と千島列島における人類活動史の考古学的研究（科研成果報告、編著）
	展示制作	
	普及行事	2023年度；北海道博物館公開講座 「未来につなぐ北方四島の歴史・文化」
対外研究成果発信		2023年度；サハリン・北海道・千島列島の防御的集落－要害遺跡としての研究－（科研） 2023年度；北方領土ストーリーテリング・アーカイブ構築のための調査（内閣府） 2023年度；北方四島歴史文化研究交流座談会「後世につなぐ歴史・文化を語る」（科研） 2023 年度；北方四島歴史文化研究交流フォーラム「未来につなぐ北方四島の歴史・文化」（科研） 2022 年度；北方四島の歴史文化をつなぐ史跡・遺跡の評価（科研）

研究部 生活文化研究グループ

池田貴夫　IKEDA Takao

職名	学芸部長（2023年度まで。2024年3月退職）
学位	博士（学術）、2007年（名古屋大学）
担当分野	民俗

2022・2023年度の主な博物館活動の実績		
	資料紹介 活動紹介	2023年度；収蔵資料紹介　ある日、豊平川河川敷に舞い降りた落下傘（ニュース）
	調査研究	2023年度；「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；あっちこっちマッチ　～マッチのデザインをめぐる旅～（クローズアップ展示6）
	普及行事	2023年度；稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！（子どもワークショップ） 2022年度；博物館のなかで宝さがし（子どもワークショップ） 2022年度；稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！（ちゃれんがワークショップ）
対外研究成果発信		

会田理人　AIDA Masato

職名	総務部企画グループ学芸主幹 研究部生活文化研究グループ学芸主幹（兼）
学位	修士、2002年（北海道大学大学院文学研究科）
担当分野	産業史

2022・2023年度の主な博物館活動の実績		
	資料紹介 活動紹介	2022年度；研究活動紹介　利尻島の海女（ニュース）
	調査研究	2023年度；「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；【特別展関連】　高度経済成長期の発掘調査（クローズアップ展示6） 2022年度；職人の道具と技術　馬そり（クローズアップ展示5） 2022年度；【特別展関連】虫と戦い、虫と親しむ（クローズアップ展示6）
	普及行事	2023年度；ヒツジの毛にふれてみよう①　初めての草木染め 2023年度；ヒツジの毛にふれてみよう②　フェルトの雪だるまストラップ 2022年度；羊毛フェルトの昆虫ストラップ（子どもワークショップ） 2022年度；やってみよう、ステンシル！（子どもワークショップ） 2022年度；糸電話・風船電話で、もしもし　コンニチハ（子どもワークショップ）
対外研究成果発信		

山際秀紀　YAMAGIWA Hideki

職名	総務部企画グループ学芸主査（社会貢献） 研究部生活文化研究グループ学芸主査（兼）
学位	修士、1994年（大谷大学大学院文学研究科）
担当分野	産業史

2022・2023年度の主な博物館活動の実績		
	資料紹介 活動紹介	2023年度；総合展示資料紹介・第3テーマ　うまい米No.1への歴史「舟形網」の秘密（ニュース）
	調査研究	2023年度；「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告（紀要、共著） 2023年度；北海道博物館の総合展示における来場者調査から得られた観覧動向と諸課題（紀要・共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；職人の道具と技術　―鍛冶職人―（クローズアップ展示5） 2022年度；もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～（第20回企画テーマ展）
	普及行事	2023年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント）
対外研究成果発信		2022年度；北海道の博物館施設等に保存されている上田式採種器について（執筆）

尾　曲　香　織　　OMAGARI Kaori

職　　名	学芸部博物館基盤グループ学芸主査（展示） 研究部生活文化研究グループ学芸主査（兼）
学　　位	修士、2013年（筑波大学大学院人文社会科学研究科）
担当分野	民俗

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；かつてのくらしを伝える写真たち（ニュース） 2022年度；北海道博物館第19回企画テーマ展・北海道化石会発足50周年記念展 「アンモナイトと生きる－50年の歩みとこれから－」の報告（紀要、共著）
	調査研究	2023年度；「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告（紀要、筆頭） 2023年度；「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告（紀要、共著） 2022年度；女夫龍神の祭祀 ―家族による信仰の伝承と祭祀に関わる社殿の現況調査について―（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；ユネスコ世界遺産登録記念「北の縄文世界と国宝」（第9回特別展） 2022年度；もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅（第20回企画テーマ展）
	普及行事	2023年度；稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！（子どもワークショップ） 2023年度；「北の縄文世界と国宝」展ができるまで（ミュージアムカレッジ） 2022年度；巨大すごろくでスリル満点！わたり鳥の旅（子どもワークショップ） 2022・2023年度；ハレの日の装い（ミュージアムカレッジ） 2022年度；小さな野球盤づくり（子どもワークショップ） 2022年度；学芸員が語る！第19回企画テーマ展の見どころ（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		2023年度；企画テーマ展「アンモナイトと生きる―50年の歩みとこれから―」を開催して（執筆） 2022年度；食生活の変化を捉える動き―特集 日本民俗学の研究動向(2)（執筆） 2022年度；物の処分における「捨てるのにしのびない」という感情に関する考察 ―博物館への寄贈から―（発表）

舟　山　直　治　　FUNAYAMA Naoji

職　　名	学芸部研究戦略グループ学芸員 研究部生活文化研究グループ学芸員（兼） （2023年度まで。2024年3月退職）
学　　位	学士、1982年（酪農学園大学酪農学部農業経済学科）
担当分野	民俗

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；研究活動紹介　これまでの調査研究活動について（ニュース）
	調査研究	2023年度；「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告（紀要、共著） 2022年度；女夫龍神の祭祀 ―家族による信仰の伝承と祭祀に関わる社殿の現況調査について―（紀要、筆頭）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；岩手県から北海道へ渡った神楽（クローズアップ展示5）
	普及行事	2023年度；稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！（子どもワークショップ） 2022年度；博物館のなかで宝さがし（子どもワークショップ） 2022年度；稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！（ちゃれんがワークショップ） 2022年度；小さな野球盤づくり（子どもワークショップ）
対外研究成果発信		2022年度；北海道に伝承している民俗芸能の新たな視点とその特徴について（執筆）

谷　口　生貴斗　　TANIGUCHI Ikito

職　　名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部生活文化研究グループ学芸員（兼）
学　　位	学士、2024年（筑波大学人文・文化学群人文学類）
担当分野	民俗

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	※2024年4月より北海道博物館研究部生活文化研究グループに配属。
	調査研究	
	展示制作	
	普及行事	
これまでの研究成果発信		2023年度；農耕儀礼の伝承にみる個人の主体性と心意（発表） 2021年度；小地名「ホノケ」の研究：福岡県糸島市王丸集落（執筆） 2021年度；荒神と年中行事―福岡県西部におけるウシサマを中心として―（発表）

研究部 博物館研究グループ

青　柳　かつら　　AOYAGI Katsura

職　　名	学芸部道民サービスグループ学芸主幹 研究部博物館研究グループ学芸主幹（兼）
学　　位	博士（環境学）、2011年（筑波大学大学院生命環境科学研究科）
担当分野	産業史、博物館学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；収蔵資料紹介　窓鋸：目立ての動画記録とスケッチ体験（ニュース）
	調査研究	2023年度；「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；いろいろなわら細工（総合展示室クローズアップ展示） 2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；探してみよう！　地域のお宝（2022年度道北巡回展）
	普及行事	2023年度；冬山造材を支えた技術：馬追いの道具から（第21回企画テーマ展ミュージアムトーク） 2022年度；比べる視点で　地域映像を愉しむサロン（道北巡回展関連講座） 2022・2023年度；北海道の林業と建築の道具ースケッチをしてみよう！ー（ちゃれんがワークショップ）
対外研究成果発信		2022年度；『JSPS科研費18K01108報告書2. 高齢者のウェルビーイングを創成する地域学習コンテンツの開発』 2022年度；『JSPS科研費18K01108報告書1. 探してみよう！ 地域のお宝 高齢者と協働する地域学習プログラム集』

櫻　井　万里子　　SAKURAI Mariko

職　　名	学芸部博物館基盤グループ主査（図書・情報発信） 研究部博物館研究グループ主査（兼）
学　　位	学士、1997年（藤女子大学文学部国文学科）
担当分野	図書館情報学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；図書室のバックヤードから（ニュース）
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2023年度；クローズアップ展示関連図書コーナー（6回入替） 2023年度；図書室開架図書の入替と特別展・企画テーマ展関連図書の展示（2回入替） 2022年度；クローズアップ展示関連図書コーナー（6回入替） 2022年度；図書室開架図書の入替と特別展・企画テーマ展関連図書及びオススメ本の展示（大幅入替2回）
	普及行事	2023年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント） 2023年度；親子で探検！　森のコレクションをつくろう（子どもワークショップ） 2022年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント） 2022年度；親子で探検！　森のコレクションをつくろう（子どもワークショップ）
対外研究成果発信		2023年度；収蔵資料情報の登録～公開フローの整理を行ってみた―総合博物館での一例として―」（第61回北海道博物館大会ポスター発表） 2023年度；「博物館の情報資源と博物館図書室の活動」（第63回北海道図書館大会分科会における発表）

鈴　木　あすみ　　SUZUKI Asumi

職　　名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部博物館研究グループ学芸員（兼）
学　　位	修士（農学）、2018年（帯広畜産大学大学院畜産学研究科）
担当分野	博物館資料学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；博物館活動紹介　資料情報の公開を進めています！（ニュース）
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～（第20回企画テーマ展） 2022年度；アライグマの骨、全部見せます（クローズアップ展示7）
	普及行事	2022年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント） 2022年度；親子で探検！森のコレクションをつくろう（子どもワークショップ）
対外研究成果発信		

鈴　木　明　世　　SUZUKI Akiyo

職　　名	総務部企画グループ研究職員 研究部博物館研究グループ研究職員（兼）
学　　位	修士（建築学）、2018年（早稲田大学大学院創造理工学研究科）
担当分野	建築学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；北海道博物館の総合展示における来場者調査から得られた観覧動向と諸課題（紀要、共著） 2022年度；北海道博物館の「建物」の魅力発信「森のちゃれんが50周年」記念事業（ニュース）
	調査研究	2023年度；「北海道における戦中・戦後のくらしの変化に関する聞き書き調査」中間報告（紀要、共著） 2023年度；「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告（紀要、共著） 2022年度；養蚕業の建築からみる本州以南とのつながりと北海道らしさ（ニュース） 2022年度；女夫龍神の祭祀 ―家族による信仰の伝承と祭祀に関わる社殿の現況調査について―（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；レンガー日本の近代化を支えた建築材料ー（クローズアップ展示6）
	普及行事	2023年度；「すまい」を彩るタイル（ミュージアムトーク） 2022年度；北海道博物館の「建物」の魅力 （ミュージアムカレッジ） 2022年度；北海道の林業と建築の道具ースケッチをしてみよう！（ちゃれんがワークショップ） 2022年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント） 2022年度；北海道における養蚕業とそれにまつわる建築のかたち （ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		2023年度；三笠市炭鉱遺構群の調査研究（2） 旧北炭幌内炭鉱の選炭機の現況と復原的考察（発表、共同） 2023年度；開拓使による洋風建築技術の受容と発展（発表） 2022年度；三笠市炭鉱遺構群の調査研究 旧北炭幌内炭鉱の選炭機の現況と復原的考察（発表、共同）

渋　谷　美　月　　SHIBUYA Mizuki

職　　名	学芸部道民サービスグループ学芸員 研究部博物館研究グループ学芸員（兼）
学　　位	修士、2023年（北海道大学大学院環境科学院環境起学専攻）
担当分野	博物館展示・博物館教育

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～（第20回企画テーマ展） 2022年度；世界の昆虫 ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー（第8回特別展）
	普及行事	
対外研究成果発信		2022年度；ミュージアムがつながりを発信する―おうちミュージアムの仕組みと参加館の取り組み（発表） 2022年度；棚橋賞受賞に寄せて／おうちミュージアムをふりかえる（執筆） 2022年度；おうちミュージアムでミュージアムの新しい使い方を探しませんか（執筆）

高　橋　佳　久　　TAKAHASHI Yoshihisa

職　　名	学芸部博物館基盤グループ学芸員 研究部博物館研究グループ学芸員（兼）
学　　位	修士、2020年（東京学芸大学大学院教育学研究科）
担当分野	文化財保存科学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；博物館における温湿度管理（ニュース）
	調査研究	2023年度；ニュウハクシミに対する簡便な物理的防除方法の開発（紀要、筆頭） 2022年度；女夫龍神の祭祀 ―家族による信仰の伝承と祭祀に関わる社殿の現況調査について―（紀要、共著） 2022年度；北海道博物館の外部要因による災害リスク（紀要）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展）
	普及行事	2023年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント） 2022年度；博物館のウラ側を見てみよう（特別イベント）
対外研究成果発信		2022年度；光明寺所蔵羅漢図に使用された彩色材料（執筆、共著） 2022年度；高輪築堤から採取された目地資料の分析調査（執筆、共著）

アイヌ民族文化研究センター　アイヌ文化研究グループ

小　川　正　人　　OGAWA Masahito

職　　名	学芸副館長 アイヌ民族文化研究センター長（兼）・研究部長（兼）
学　　位	博士（教育学）、1995年（北海道大学）
担当分野	アイヌ史

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；2023年度新収蔵資料の紹介　1　加藤シヅエ氏寄贈資料ほか（紀要、共著） 2023年度；2023年度新収蔵資料の紹介　2　大川原徳右衛門の選挙ポスターと三浦政治の書簡（紀要） 2023年度；総合展示紹介　第2テーマ「ある家族の物語」のものがたり（ニュース） 2023年度；アイヌ民族文化研究センターだより　アイヌ文化紹介小冊子『ポン　カンピソシ』のご案内（ニュース） 2023年度；アイヌ民族文化研究センターだより　録音・録画・筆録資料の公開に向けて（ニュース） 2022年度；第3回蔵出し展開催予告　久保寺逸彦文庫 －アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－（ニュース） 2022年度；研究活動紹介　自ら学校をつくる－近代日本を生きたアイヌ民族の歩みをたどる（ニュース）
	調査研究	2022年度；中村一枝書誌（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展、チーフ） 2022年度；アイヌ無形文化伝承保存会　その設立と歩み（クローズアップ展示4） 2022年度；萩中美枝さんの仕事：没後一年を迎え（クローズアップ展示3）
	普及行事	2022年度；久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く②（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		2023年度；［シンポジウム基調報告］アイヌ教育史研究の有効性を問う（発表） 2023年度；アイヌ民族の近代史を考える―教育をめぐる問題を中心に（発表、執筆） 2022年度；萩中美枝さんとアイヌ文化研究 (共編著) 2022年度；［図書紹介］リチャード・シドル著『アイヌ通史　「蝦夷」から先住民族へ』（執筆）

遠　藤　志　保　　ENDO Shiho

職　　名	総務部企画グループ研究主査（企画調整） アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究主査（兼）
学　　位	修士、2007年（千葉大学大学院文学研究科）
担当分野	アイヌ文学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；久保寺逸彦によるアイヌ語語彙カード（紀要） 2022年度；収蔵資料紹介　久保寺逸彦　最初の調査の記録（ニュース） 2022年度；アイヌ民族文化研究センターだより　アイヌ文化巡回展　釧路町で開催しました（9月）／伊達市で開催中です（9月～11月）（ニュース）
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展） 2022年度；【特別展関連】アイヌ口承文芸のなかの虫たち（クローズアップ展示4）
	普及行事	2022年度；アイヌ語講座（全4回） 2022年度；久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く③（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		

大　坂　　拓　　OSAKA Taku

職　　名	学芸部博物館基盤グループ学芸主査（資料管理） アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ学芸主査（兼）
学　　位	修士、2008年（明治大学）
担当分野	アイヌ文化

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；2022年度新収蔵資料の紹介―標茶町虹別で実施された熊送り儀礼の写真ほか―（紀要、共著）
	調査研究	2022年度；千島アイヌのゴザに関する基礎的検討―市立函館博物館所蔵資料の位置づけについて―（紀要） 2022年度；市立函館博物館が所蔵する噴火湾アイヌの木幣について―資料情報を復元・再検討する試み―（紀要、共著）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展） 2022年度；受け継がれる手業　二風谷の工芸品（クローズアップ3）
	普及行事	2023年度；「開拓」とアイヌ民族の土地（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		2023年度；近代北海道における〈アイヌ〉の境界 ― 松前地西在相沼内村に生まれたサモテの事例を中心として ―（執筆） 2023年度；アイヌに対する「認知」の空白と博物館・美術館展示（執筆） 2023年度；博物館展示におけるアイヌの歴史・文化――その現状と課題（発表） 2023年度；アイヌの歴史と文化（発表） 2023年度；明治前半期の石狩川中・下流域におけるアイヌのくらし（発表） 2022年度；博物館展示を通して考える「アイヌ文化」（発表） 2022年度；北海道地券発行条例によるアイヌ民族「住居ノ地所」の官有地第三種編入について―札幌県作成「官有地調」の検討を中心として―（執筆） 2022年度；札幌博物場所蔵アイヌ民具資料（死体包装用縄・背負縄）の資料情報の復元（執筆、共著） 2022年度；千島アイヌの編組製品とその技術的系譜（発表） 2022年度；琴似又一郎の写真について―北海道大学附属図書館所蔵資料の再検討―（執筆） 2022年度；アイヌ民族の塩利用（執筆） 2022年度；アイヌ文化史辞典（分担執筆）

亀　丸　由紀子　　KAMEMARU Yukiko

職　　名	学芸部道民サービスグループ学芸員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ学芸員（兼）
学　　位	修士、2019年（北海道大学大学院文学研究科）
担当分野	アイヌ文化

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；2023年度新収蔵資料の紹介　1―加藤シヅエ氏寄贈資料ほか―（紀要、筆頭） 2023年度；「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」実施報告（紀要、共著） 2022年度；2022年度新収蔵資料の紹介―標茶町虹別で実施された熊送り儀礼の写真ほか―（紀要、共著） 2022年度；アイヌ民族文化研究センターだより　「見て 聞いて アイヌ文化の世界」操作方法が変わりました！（ニュース、共著）
	調査研究	
	展示制作	2023年度；モノから見るアイヌ文化ー首飾りのいろいろ（クローズアップ展示4） 2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち（クローズアップ展示4） 2022年度；久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展）
	普及行事	2023年度；ハレの日の装い（ミュージアムカレッジ） 2022年度；ハレの日の装い（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		2023年度；アイヌの耳飾り・首飾り（発表） 2022年度；アイヌの装身具（執筆）

吉 川 佳 見　YOSHIKAWA Yoshimi

職　名	学芸部道民サービスグループ研究職員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究職員（兼）
学　位	博士（文学）、2021年（千葉大学大学院人文社会科学研究科）
担当分野	アイヌ語

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2022年度；アイヌ民族文化研究センターだより　「見て 聞いて アイヌ文化の世界」操作方法が変わりました！（ニュース、共著）
	調査研究	2022年度；アイヌ語静内方言の存在型アスペクト―沙流、千歳方言との比較から―（紀要）
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展） 2022年度；【特別展関連】アイヌロ承文芸のなかの虫たち（クローズアップ展示4）
	普及行事	2023年度；アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む」（全6回） 2023年度；アイヌ語アーカイブを使ったアイヌ語学習（ミュージアムカレッジ） 2023年度；アイヌ語講座（全4回） 2022年度；インターネットを使ったアイヌ語学習（ミュージアムカレッジ） 2022年度；アイヌ語講座（全4回）
対外研究成果発信		2023年度；アイヌ語沙流方言における他動性（執筆） 2023年度；AA研所蔵アイヌ語フィールドノートの沙流方言資料の公開に向けて：公開方法の再考（発表） 2023年度；AA研所蔵アイヌ語フィールドノートの沙流方言資料の公開に向けて：アイヌ語アーカイブ利用者に対するアンケート結果からの考察（発表） 2022年度；アイヌ語沙流方言のアスペクト（執筆） 2022年度；Existential aspectual forms in the Saru and Chitose dialects of Ainu（執筆） 2022年度；アイヌ語―時間の表現をさぐる（執筆）

大 谷 洋 一　OOTANI Yoh'ichi

職　名	学芸部博物館基盤グループ研究職員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究職員（兼）
学　位	
担当分野	アイヌ文学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展） 2022年度；萩中美枝さんの仕事：没後一年を迎え（クローズアップ展示3） 2022年度：アイヌの子どもの遊び歌―年寄りカラスはどうした？―（クローズアップ展示3）
	普及行事	2022年度；久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く①（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		

甲 地 利 恵　KÔCHI Rie

職　名	学芸部研究戦略グループ研究職員 アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ研究職員（兼）
学　位	修士、1988年（東京学芸大学大学院教育学研究科）
担当分野	アイヌ文化（音楽）

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；収蔵資料紹介　宝箱から飛び出した小さなお宝 2022年度；アイヌ民族文化研究センターだより　「見て 聞いて アイヌ文化の世界」操作方法が変わりました！（ニュース、共著）
	調査研究	2023年度；（編）アイヌ音楽研究に関する文献リスト（2023年まで） 2022年度；アイヌの歌の伝統的な技巧の、ジャンルによる使い分けについてのノート（紀要）
	展示制作	2023年度；北海道博物館が所蔵するトンコリ（五弦琴）（クローズアップ展示4） 2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；田辺尚雄によるアイヌ音楽の調査記録（クローズアップ展示3）
	普及行事	2022・2023年度；じっくり聴こう！アイヌの音楽（ミュージアムカレッジ）※内容と副題を変えて2023年度にも2回実施してます 2022・2023年度；アイヌ音楽　うたって・おどって・ならして（子どもワークショップ） 2022年度；「民族音楽学」入門（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		

佐々木　利　和　　SASAKI Toshikazu		
	職　　名	アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ非常勤研究職員 ※北海道大学アイヌ・先住民研究センター招聘教員 ※東京国立博物館名誉館員
	学　　位	博士（文学）、2000年（早稲田大学）
	担当分野	アイヌ民族史・日本近世史

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展）
	普及行事	2022年度；久保寺逸彦文庫を見る・読む・聞く①（ミュージアムカレッジ） 2022年度；企画展特別講演会（アイヌ文化巡回展関連講演会）
対外研究成果発信		

奥　田　統　己　　OKUDA Osami		
	職　　名	アイヌ民族文化研究センターアイヌ文化研究グループ非常勤研究職員 ※札幌学院大学人文学部人間科学科教授
	学　　位	修士、1989年（千葉大学）
	担当分野	アイヌ語・アイヌ文学

2022・2023年度の主な博物館活動の実績	資料紹介 活動紹介	2023年度；総合展示の資料紹介・第2テーマ　アイヌの物語を聴く（ニュース）
	調査研究	
	展示制作	2023年度；森のちゃれんが宝箱（第21回企画テーマ展） 2022年度；久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展）
	普及行事	2022年度；アイヌの英雄叙事詩を聞く―うたと言葉（ミュージアムカレッジ）
対外研究成果発信		

3　利用者数

2022 年度月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合展示室	3,909	6,981	8,262	15,015	34,103	31,397	7,213	4,349	2,128	2,765	3,156	5,113	124,391
うち外国人	26	60	76	121	132	102	124	174	414	343	668	352	2,592
特別展示室	4,245	5,548	0	9,450	29,064	21,040	427	3,403	1,818	1,190	684	5,516	82,385
はっけん広場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	55	102
イベント（普及行事・特別イベント）	55	55	650	170	78	55	76	149	145	223	147	191	1,994
ウェブサイト	26,050	32,851	39,016	57,078	74,208	58,134	27,680	25,927	16,712	21,907	20,275	28,021	427,859
レファレンス	20	18	17	16	23	26	23	15	16	13	16	12	215

2023 年度月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合展示室	3,852	7,112	7,172	9,060	19,247	33,588	7,935	3,981	2,157	2,202	2,848	4,782	103,936
うち外国人	459	434	445	560	579	337	469	410	461	375	630	347	5,506
特別展示室	4,329	6,011	0	3,626	13,920	24,582	1,345	0	0	0	2,253	4,516	60,582
はっけん広場	140	93	346	625	1,172	984	542	523	383	332	408	760	6,308
イベント（普及行事・特別イベント）	79	266	463	145	312	223	120	110	92	173	149	66	2,198
ウェブサイト	29,385	33,770	35,401	49,032	60,558	63,308	30,819	24,732	18,094	19,359	21,655	26,992	413,105
レファレンス	18	15	14	33	16	18	22	11	8	14	12	20	201

第 2 期中期目標・計画期（2020～2024 年度）利用者数・目標値・達成率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計	目標値	達成率
総合展示室	43,664	36,121	124,391	103,936	-	308,112	400,000	77.0%
うち外国人	499	384	2,592	5,506	-	8,981	34,000	26.4%
特別展示室	12,563	26,260	82,385	60,582	-	181,790	260,000	69.9%
はっけん広場	0	0	102	6,308	-	6,410	10,000	64.1%
イベント（普及行事・特別イベント）	783	1,386	1,994	2,198	-	6,361	80,000	8.0%
ウェブサイト	333,276	279,677	427,859	413,105	-	1,453,917	1,300,000	111.8%
レファレンス	221	157	215	201	-	794	2,800	28.4%

北海道博物館利用状況集計表【総合展示室】（2022 年度）

月	開館日数	有料				無料・免除								計（人）	
		一般	大学生	高校生	小計	小学生	中学生	高校生	視察者	65歳以上	心障者	その他	小計		うち外国人
4月	26	1,785	148	11	1,944	341	73	499	18	444	116	474	1,965	3,909	26
5月	26	3,187	213	13	3,413	717	1,170	63	9	655	191	763	3,568	6,981	60
6月	26	2,004	184	7	2,195	1,280	2,082	1,170	19	692	162	662	6,067	8,262	76
7月	27	6,659	320	12	6,991	2,711	574	167	93	645	457	3,377	8,024	15,015	121
8月	26	17,293	340	27	17,660	7,772	641	39	2	529	844	6,616	16,443	34,103	132
9月	27	13,485	379	31	13,895	9,795	238	439	27	674	703	5,626	17,502	31,397	102
10月	26	2,239	225	13	2,477	2,002	472	670	45	780	153	614	4,736	7,213	124
11月	26	2,168	292	7	2,467	456	39	163	11	558	239	416	1,882	4,349	174
12月	22	1,160	223	7	1,390	188	27	6	11	258	63	185	738	2,128	414
1月	24	1,357	153	14	1,524	283	36	257	8	219	142	296	1,241	2,765	343
2月	24	1,765	405	21	2,191	139	31	119	28	295	86	267	965	3,156	668
3月	27	2,527	393	54	2,974	438	85	44	7	589	231	745	2,139	5,113	352
合計	307	55,629	3,275	217	59,121	26,122	5,468	3,636	278	6,338	3,387	20,041	65,270	124,391	2,592

北海道博物館利用状況集計表【総合展示室】（2023 年度）

月	開館日数	有料				無料・免除								計（人）	
		一般	大学生	高校生	小計	小学生	中学生	高校生	視察者	65歳以上	心障者	その他	小計		うち外国人
4月	26	2,156	141	22	2,319	299	73	16	24	566	162	393	1,533	3,852	459
5月	26	3,196	252	14	3,462	563	1,141	373	9	872	160	532	3,650	7,112	434
6月	26	2,006	387	21	2,414	1,099	1,801	331	14	793	141	579	4,758	7,172	445
7月	27	4,884	474	6	5,364	758	549	44	103	715	284	1,243	3,696	9,060	560
8月	27	12,721	318	56	13,095	2,649	535	30	68	526	761	1,583	6,152	19,247	579
9月	26	21,938	209	10	22,157	6,364	280	502	30	587	1,293	2,375	11,431	33,588	337
10月	26	3,089	263	10	3,362	2,203	230	503	64	698	227	648	4,573	7,935	469
11月	26	1,790	234	6	2,030	451	56	337	47	395	177	488	1,951	3,981	410
12月	22	1,094	233	6	1,333	143	72	23	22	188	134	242	824	2,157	461
1月	24	1,157	130	8	1,295	230	24	8	6	178	166	295	907	2,202	375
2月	24	1,681	310	10	2,001	162	27	21	17	289	95	236	847	2,848	630
3月	27	2,182	372	31	2,585	334	101	436	13	461	293	559	2,197	4,782	347
合計	307	57,894	3,323	200	61,417	15,255	4,889	2,624	417	6,268	3,893	9,173	42,519	103,936	5,506

北海道博物館利用状況集計表【特別展示室】（2022 年度）

月	開室日数	有料				無料・免除								企画テーマ展 蔵出し展	計（人）
		一般	大学生	高校生	小計	小学生	中学生	高校生	視察者	65歳以上	心障者	その他	小計		
4月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,245	4,245
5月	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5,548	5,548
6月	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
7月	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9,450	9,450	-	9,450
8月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29,064	29,064	-	29,064
9月	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21,040	21,040	-	21,040
10月	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	427	427
11月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,403	3,403
12月	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,818	1,818
1月	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,190	1,190
2月	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	684	684
3月	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5,516	5,516
合計	195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59,554	59,554	22,831	82,385

北海道博物館利用状況集計表【特別展示室】（2023 年度）

月	開室日数	有料				無料・免除								企画テーマ展	計（人）
		一般	大学生	高校生	小計	小学生	中学生	高校生	視察者	65歳以上	心障者	その他	小計		
4月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,329	4,329
5月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6,011	6,011
6月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
7月	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,626	3,626	-	3,626
8月	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,920	13,920	-	13,920
9月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24,582	24,582	-	24,582
10月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,345	1,345	-	1,345
11月	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
12月	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
1月	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
2月	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,253	2,253
3月	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,516	4,516
合計	307	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43,473	43,473	17,109	60,582

4　企画展開催一覧

特別展等開催一覧

名　称		期　間	日数	入場者数
第1回特別展	夷酋列像―蝦夷地イメージをめぐる人・物・情報―	2015年9月5日～11月8日	56日	51,046人
第2回特別展	ジオパークへ行こう～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～	2016 年7 月9 日～9 月25 日	68日	59,243人
第3回特別展	プレイボール！―北海道と野球をめぐる物語―	2017 年7 月8 日～9 月24 日	68日	19,565人
第4回特別展	幕末維新を生きた旅の巨人　松浦武四郎―見る、集める、伝える―	2018年6月30日～8月26日	50日	44,477人
第5回特別展	アイヌ語地名と北海道	2019年7月6日～9月23日	69日	26,947人
第6回特別展	恐竜展2020　※新型コロナウイルス感染症拡大により開催中止		―	―
特別企画展	北海道の恐竜	2021年2月12日～3月14日	27日	10,690人
第7回特別展	あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅	2021年7月10日～9月20日	8日	1,411人
	※新型コロナウイルス感染症拡大にともなう臨時休館により7月10日～12日、7月22日～9月20日は開催中止			
第8回特別展	世界の昆虫 －昆虫を通して、生き物の多様性を知る－	2022年7月23日～9月25日	56日	59,554人
第9回特別展	北の縄文世界と国宝	2023年7月22日～10月1日	62日	43,473人

企画テーマ展等開催一覧

名　称		期　間	日数	入場者数
第1回企画テーマ展	学芸員 おすすめの1点 ようこそ北海道博物館へ	2015年4月18日～6月7日	44日	23,889人
第2回企画テーマ展	鶴	2015年6月27日～8月16日	44日	15,091人
第3回企画テーマ展	北海道のアンモナイトとその魅力	2015年11月28日～2016年1月17日	36日	6,071人
第4回企画テーマ展	神様おねがい!―地域と人をむすぶ祈りのかたち―	2016年2月27日～4月10日	38日	5,324人
第5回企画テーマ展	アイヌ民族資料を守り伝える力	2016 年4 月28 日～6 月5 日	34日	9,419人
第6回企画テーマ展	きれい？不思議？楽しい！？漂着物―北の海辺でお宝みつけ！―	2016 年10 月14 日～11 月27 日	34日	6,139人
第1回蔵出し展	アイヌ民族の造形美―北海道博物館所蔵の木盆―	2016年12 月22 日～2017 年1 月15 日	18日	1,632人
第7回企画テーマ展	あったかい住まい―北海道・住まいの道のり―	2017 年2 月3 日～3 月31 日	49日	5,445人
第8 回企画テーマ展	夜の森―ようこそ！動物たちの世界へ―	2017 年4 月28 日～6 月4 日	33日	10,484人
第9回企画テーマ展	弥永コレクション	2017 年10 月20 日～12 月24 日	54日	8,354人
第10回企画テーマ展	カムイとアイヌの　ものがたり	2018 年2 月2 日～4 月8 日	57日	7,247人
第11回企画テーマ展	野幌森林公園いきもの図鑑	2018年4月27日～6月3日	33日	12,060人
第12回企画テーマ展	りんご農家の道具	2018年9月21日～11月25日	57日	10,085人
第13回企画テーマ展	アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ―博物館のはたす役割―	2019年2月8日～4月7日	51日	8,345人
第14回企画テーマ展	北の手仕事2019	2019年4月27日～6月9日	39日	10,865人
第15回企画テーマ展	エゾシカ	2019年10月12日～12月15日	56日	9,839人
第16回企画テーマ展	北海道神宮　※2月29日～3月31日臨時休館	2020年2月8日～4月5日	23日	3,826人
第2回蔵出し展	模型でみる札幌建築物語	2020年2月8日～4月5日	23日	3,148人
第17回企画テーマ展	楽器　見る・知る・考える―北海道博物館資料＋枡谷隆男氏コレクション	2020年4月25日～5月24日 ※中止／オンライン開催	―	―
第18回企画テーマ展	アイヌのくらし―時代・地域・さまざまな姿	2021年10月16日～12月12日	50日	19,288人
第19回企画テーマ展	アンモナイトと生きる―50年の歩みとこれから	2022年2月19日～5月22日	80日	15,354人
第3回蔵出し展	久保寺逸彦文庫－アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる－	2022年10月29日～2023年1月15日	61日	6,483人
第20回企画テーマ展	もっと！　あっちこっち湿地	2023年2月25日～5月28日	35日	6,200人
第21回企画テーマ展	森のちゃれんが宝箱－スタッフ一押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?－	2024年2月10日～4月7日	50日	7,633人

その他の展示会開催一覧

名　称	期　間	日数	入場者数
Across Borders:石川直樹写真展（北海道・アルバータ州姉妹提携 35 周年記念事業）	2015年11月28日～2016年1月17日	36日	4,390人
2020 東京オリンピック・パラリンピックがやってくる（秩父宮記念スポーツ博物館北海道巡回展）	2017 年2 月3 日～3 月17 日	37日	4,267人
中島宏章写真展　あなたの街のコウモリの森	2017 年4 月28 日～6 月4 日	33日	10,484人
生命のれきし―君につながるものがたり―（国立科学博物館　巡回ミュージアム）	2018年12月8日～2019年1月20日	31日	13,101人
TUKU IHO 受け継がれるレガシー（ニュージーランドマオリ工芸学校日本巡回展）	2019年4月27日～5月14日	16日	7,738人

アイヌ文化巡回展開催一覧

名　称		会　場	期　間	日数	入場者数
第1回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2016枝幸	オホーツクミュージアムえさし	2016 年7 月5 日～9 月4 日		2,705人
第2回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2016美幌	美幌博物館	2016 年10 月8 日～11 月27 日		1,014人
第3回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2017羅臼	羅臼町郷土資料館	2017年7月22日～10月18日		952人
第4回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2018層雲峡	大雪山国立公園層雲峡ビジターセンター	2018年8月21日～9月30日		8,792人
第5回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2018標津	標津町生涯学習センター「あすぱる」	2018年10月6日～10月21日		2,164人
第6回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2019白老	白老町中央公民館・白老コミュニティセンター	2019年9月17日～9月26日		802人
第7回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2019新ひだか	新ひだか町公民館・コミュニティセンター	2019年9月22日～9月23日		250人
第8回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～ 2020白老	仙台藩白老元陣屋資料館	2020年1月4日～1月19日		201人
第9回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名と木田金次郎	木田金次郎美術館	2020年7月3日～11月3日	106日	2,935人
第10回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～2021幕別 アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～2022幕別	①幕別町忠類ナウマン象記念館 ②幕別町百年記念ホール	①2021年4月29日～5月17日 ②2022年2月2日～3月7日	①18日 ②31日	①1,395人 ②7,204人
第11回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から ～2021長万部	長万部町学習文化センター	2021年10月23日～30日	7日	206人
第12回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から ～2022釧路町	釧路町公民館	2022年9月3日	1日	
第13回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩く～山田秀三の地名研究から～2022伊達	だて歴史文化ミュージアム	2022年9月17日～11月27日	53日	1,473人
第14回 アイヌ文化巡回展	アイヌ語地名を歩くー山田秀三のアイヌ語地名研究からー	美唄市郷土史料館	2023年7月7日～9月3日	43日	481人
第15回 アイヌ文化巡回展	札幌の地名と歴史を尋ねて	北海道立道民活動振興センター（かでる２・７）	2023年8月26日	1日	160人
第16回 アイヌ文化巡回展	第16回アイヌ文化巡回展 in 奥尻町	奥尻町海洋研修センター	2023年10月1日～10月22日	21日	161人
第17回 アイヌ文化巡回展	久保寺 逸彦～釧路が育んだアイヌ文学の泰斗～	釧路市立博物館	2023年11月18日～2024年2月4日	60日	3,338人

クローズアップ展示０開催一覧

番号	年度	名　称	期　間
1	2023年度1	北広島市で新たに発見されたクジラ化石	2024年2月16日～4月11日

クローズアップ展示１開催一覧

番号	年度	名　称	期　間
1	2015年度1	松前・江差湊のにぎわい―『松前江差屏風』を読む―	2015年4月18日～6月28日
2	2015年度2	江差・桧山の人びと―『江差桧山屏風』を読む―	2015年6月30日～9月27日
3	2015年度3	アイヌ民族の一年―『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む―	2015年9月29日～2016年1月8日
4	2015年度4	北のシルクロード―サンタン交易をさぐる―	2016年1月9日～4月22日
5	2016年度1	描かれたアイヌ民族のサケ漁―小玉貞晨筆『蝦夷国魚場風俗図巻』の世界―	2016年4月23日～6月3日
6	2016年度2	豪商村山家と松前・蝦夷地	2016年6月4日～7月29日
7	2016年度3	アイヌ民族の一年―『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む―その1	2016年7月30日～9月30日
8	2016年度4	19世紀のアイヌの衣文化―『蝦夷島奇観』と北海道神宮資料から―	2016年10月1日～12月14日
9	2016年度5	アイヌ民族の一年―『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む―その2	2016年12月17日～2017年2月3日
10	2016年度6	梁川時代の松前藩―『近藤家資料』から―	2017年2月4日～4月7日
11	2017年度1	《松前屏風》を読む	2017年4月8日～6月2日
12	2017年度2	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（右隻：1～6 月）	2017年6 月3 日～8 月4 日
13	2017年度3	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（左隻：7～12 月）	2017年8 月5 日～10 月6 日
14	2017年度4	豪商村山家の古文書	2017年10月7日～12月13日
15	2017年度5	松前藩家臣近藤家の古文書	2017年12月16日～2018年2月2日
16	2017年度6	ヨイチ場所請負人林家の古文書	2018年2月3日～4月6日
17	2018年度1	巻物を読む　蝦夷国魚場風俗図巻／蝦夷風俗絵巻	2018年4月7日～7月13日
18	2018年度2	古文書を読む　新着資料　フラーシェム家の古文書	2018年7月14日～12月12日
19	2018年度3	屏風を読む　《江差屏風》　／　《桧山屏風》	2018年12月15日～2019年4月12日
20	2019年度1	『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む（1）	2019年4月13日～6月7日
21	2019年度2	古地図・絵図からさぐるアイヌ語地名	2019年6月8日～10月11日
22	2019年度3	『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む（2）	2019年10月12日～12月18日
23	2019年度4	北のシルクロード：サンタン交易と蝦夷錦	2019年12月21日～2020年4月10日
24	2020年度1	近世文書を読む①　フラーシェム・コレクション	2020年4月11日～6月11日
25	2020年度2	近世文書を読む②　林家文書	2020年6月12日～8月13日
26	2020年度3	近世文書を読む③　工藤家文書	2020年8月14日～10月15日
27	2020年度4	近世文書を読む④　村山家文書	2020年10月16日～12月16日
28	2020年度5	近世文書を読む⑤　岩野家文書	2020年12月19日～2021年2月18日
29	2020年度6	近世文書を読む⑥　近藤家文書	2021年2月19日～4月15日
30	2021年度1	描かれたアイヌ民族のサケ漁―小玉貞晨筆『蝦夷国魚場風俗図巻』	2021年4月16日～6月17日
31	2021年度2	近世蝦夷地の古文書	2021年6月18日～12月15日
32	2021年度3	松前・江差湊のにぎわい―『松前江差屏風』を読む	2021年12月18日～2022年4月14日
33	2022年度1	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（右隻：1～6月）	2022年4月15日～6月16日
34	2022年度2	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（左隻：7～12月）	2022年6月17日～8月11日
35	2022年度3	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（右隻：1～6月）	2022年8月12日～10月13日
36	2022年度4	《蝦夷風俗十二ヶ月屏風》を読む（左隻：7～12月）	2022年10月14日～12月14日
37	2022年度5	近世蝦夷地の古文書	2022年12月17日～2023年4月13日
38	2023年度1	描かれたアイヌ民族のサケ漁―小玉貞晨筆『蝦夷国魚場風俗図巻』―	2023年4月14日～6月15日
39	2023年度2	『蝦夷島奇観』をさぐる―当館所蔵の模写から―	2023年6月16日～10月12日
40	2023年度3	地図に描かれた幕末のカラフト島とエトロフ島	2023年10月13日～12月13日
41	2023年度4	江戸時代終わりごろのイシカリ―村山家の文書と地図から―	2023年12月16日～2024年2月15日
42	2023年度5	仙台石巻漂流民が見たロシア極東―『環海異聞』をもとに―	2024年2月16日～4月11日

クローズアップ展示２開催一覧

番号	年度	名　称	期　間
1	2015年度1	新撰組の元幹部隊士―永倉新八ゆかりの資料―	2015年4月18日～5月31日
2	2015年度2	所蔵資料でふりかえる「札幌まつり」	2015年6月2日～6月28日
3	2015年度3	北海道の双六あれこれ	2015年6月30日～8月30日
4	2015年度4	アイヌを描いた絵師／早坂文嶺	2015年9月1日～11月1日
5	2015年度5	北海道の雑誌あれこれ	2015年11月3日～11月29日
6	2015年度6	北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ	2015年12月1日～2016年1月29日
7	2015年度7	北海道へ移住した武士が伝えた古文書	2016年1月30日～4月3日
8	2016年度1	新撰組の元幹部隊士　永倉新八	2016年4月5日～6月3日
9	2016年度2	80年前の画家たちが見た北海道	2016年6月4日～7月29日
10	2016年度3	新選組永倉新八の養父 松前藩医杉村介庵	2016年7 月30 日～9 月30 日
11	2016年度4	明治時代の日本画家・木戸竹石が描いたアイヌ ①	2016年10 月1 日～11 月3 日
12	2016年度5	明治時代の日本画家・木戸竹石が描いたアイヌ ②	2016年11 月4 日～12 月14 日
13	2016年度6	開拓を支えた交通・通信施設　駅逓	2016年12月17日～2017年2月3日
14	2016年度7	江戸時代・明治時代の「熊送り図」	2017年2月4日～4月7日
15	2017年度1	新選組の元幹部隊士 永倉新八	2017年4月8日～6月2日
16	2017年度2	開道の旅―《北海道巡教錦絵》―	2017年6 月3 日～8 月4 日
17	2017年度3	北海道の双六あれこれ	2017年8 月5 日～10 月6 日
18	2017年度4	アイヌ民族を描く―早坂文嶺と《蝦夷島奇観》―	2017年10月7日～12月13日
19	2017年度5	馬の肖像画家・畠中露山	2017年12月16日～2018年2月2日
20	2017年度6	生誕200年　旅の巨人・松浦武四郎	2018年2月3日～4月6日
21	2018年度1	新選組の元幹部隊士　永倉新八	2018年4月7日～5月25日
22	2018年度2	新選組永倉新八の養父　松前藩医杉村介庵	2018年5月26日～7月13日
23	2018年度3	「北海道の名づけ親」松浦武四郎の語られ方	2018年7月14日～9月14日
24	2018年度4	北海道の双六あれこれ	2018年9月15日～12月12日
25	2018年度5	北海道の引札あれこれ	2018年12月15日～2019年2月8日
26	2018年度6	開拓使のお雇い外国人B.S.ライマンの弟子　山際永吾	2019年2月9日～4月12日
27	2019年度1	松浦武四郎の蝦夷日誌を読む	2019年4月13日～6月7日
28	2019年度2	松浦武四郎の地図からさぐるアイヌ語地名	2019年6月8日～10月11日
29	2019年度3	新撰組の元幹部隊士　永倉新八	2019年10月12日～12月18日
30	2019年度4	新しく仲間入りした歴史資料たち	2019年12月21日～2020年4月10日
31	2020年度1	新選組の元幹部隊士　永倉新八	2020年4月11日～6月11日
32	2020年度2	新選組永倉新八の養父　松前藩医杉村介庵	2020年6月12日～8月13日
33	2020年度3	船絵馬	2020年8月14日～10月15日
34	2020年度4	旧松前藩士　南條家資料	2020年10月16日～12月16日
35	2020年度5	北海道のお酒とジュースのラベルあれこれ	2020年12月19日～2021年2月18日
36	2020年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2021年2月19日～4月15日
37	2021年度1	新選組の元幹部隊士　永倉新八	2021年4月16日～6月17日
38	2021年度2	新選組永倉新八の養父　松前藩医杉村介庵	2021年6月18日～8月12日
39	2021年度3	幕末の志士・松浦武四郎が見た、蝦夷地の湿地	2021年8月13日～10月14日
40	2021年度4	アイヌを描いた絵師　早坂文嶺	2021年10月15日～12月15日
41	2021年度5	北海道へ「移住した」古文書たち	2021年12月18日～2022年2月17日
42	2021年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2022年2月18日～4月14日
43	2022年度1	新選組永倉新八の養父　松前藩医杉村介庵	2022年4月15日～6月16日
44	2022年度2	生誕200年　絵師・平沢屏山	2022年6月17日～8月11日
45	2022年度3	北海道開拓にゆかりの歴史資料たち	2022年8月12日～10月13日
46	2022年度4	木戸竹石の《鮭漁図屏風》	2022年10月14日～12月14日

番号	年度	名　称	期　間
47	2022年度5	北海道の引札あれこれ	2022年12月17日～2023年2月16日
48	2022年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2023年2月17日～4月13日
49	2023年度1	新選組の元幹部隊士　永倉新八	2023年4月14日～6月15日
50	2023年度2	新選組永倉新八の養父　松前藩医杉村介庵	2023年6月16日～8月10日
51	2023年度3	関東大震災から100年　災害を伝えた絵葉書	2023年8月11日～10月12日
52	2023年度4	北海道の双六あれこれ	2023年10月13日～12月13日
53	2023年度5	木戸竹石の《捕馬図屏風》	2023年12月16日～2024年2月15日
54	2023年度6	新しく仲間入りした歴史資料たち	2024年2月16日～4月11日

クローズアップ展示３開催一覧

番号	年度	名　称	期　間
1	2015年度1	アイヌ文化 イナウ	2015年4月18日～10月18日
2	2015年度2	サハリン(樺太)の衣文化	2015年10月20日～2016年4月17日
3	2016年度1	伝承者が生きた近現代 鍋澤元蔵さん	2016年4月19日～7月15日
4	2016年度2	昔の記録にみる子どもの遊び	2016年7月16日～12月14日
5	2016年度3	祈りの造形―イクパスイ―	2016年12月17日～2017年4月7日
6	2017年度1	山田秀三とアイヌ語地名を歩く―登別―	2017年4 月8 日～8 月4 日
7	2017年度2	先祖供養を行うときの屋内	2017年8月5日～12月13日
8	2017年度3	祈りの造形―死者を悼む―	2017年12月16日～2018年4月6日
9	2018年度1	山田秀三とアイヌ語地名を歩く―旭川―	2018年4月7日～7月13日
10	2018年度2	人と歴史と―川村カ子トと旭川―	2018年7月14日～12月12日
11	2018年度3	伝承者が生きた近現代　四宅ヤエさん	2018年12月15日～2019年4月12日
12	2019年度1	祈りの造形―死者を悼む（2）死者用の靴	2019年4月13日～8月16日
13	2019年度2	アイヌ語地名研究者・山田秀三の葉書から	2019年8月17日～12月18日
14	2019年度3	関東におけるアイヌ文化の活動	2019年12月21日～2020年4月10日
15	2020年度1	伝承者が生きた近現代　平賀さだもさん	2020年4月11日～8月13日
16	2020年度2	祈りの造形―狐神の舟	2020年8月14日～12月16日
17	2020年度3	キーステン・レフシン氏寄贈のアイヌ語資料	2020年12月19日～2021年4月15日
18	2021年度1	祈りの造形 ―音吉さんのイナウ	2021年4月16日～ 8月12日
19	2021年度2	「水」や「湿地」のアイヌ語地名―山田秀三の地名調査資料から―	2021年8月13日～12月15日
20	2021年度3	久保寺逸彦のアイヌ語辞典	2021年12月18日～2022年4月14日
21	2022年度1	田辺尚雄によるアイヌ音楽の調査記録	2022年4月15日～8月11日
22	2022年度2	受け継がれる手業　二風谷の工芸品	2022年8月12日～12月14日
23	2022年度3	萩中美枝さんの仕事	2022年12月17日～2023年4月13日
24	2023年度1	アイヌ語学習教材のいろいろ	2023年4月14日～8月10日
25	2023年度2	小樽アイヌが経験した近代	2023年8月11日～12月13日
26	2023年度3	アイヌの子どもの遊び歌ー年寄りカラスはどうした？ー	2023年12月16日～2024年4月11日

クローズアップ展示４開催一覧

番号	年度	名　称	期　間
1	2015年度1	アイヌ史 1920~30年代の札幌	2015年4月18日～2016年1月31日
2	2015年度2	サハリン(樺太)アイヌの近現代史	2016年2月2日～7月15日
3	2016年度1	千島アイヌの近現代史	2016年7月16日～12月14日
4	2016年度2	北海道南部・渡島半島の近現代史	2016年12月17日～2017年4月7日
5	2017年度1	文字に記されたアイヌ語 ―18～19世紀頃の資料から―	2017年4 月8 日～8 月4 日
6	2017年度2	首都圏、近畿地方の近現代史	2017年8月5日～12月13日
7	2017年度3	文字に記されたアイヌ語―1890 年ごろの北海道庁の試み―	2017年12月16日～2018年4月6日

番号	年度	名　称	期　間
8	2018年度1	文書や絵画に見るアイヌの芸能	2018年4月7日～7月13日
9	2018年度2	仕事とくらしのうつりかわり1　毒矢の禁止、そこからの歩み	2018年7月14日～12月12日
10	2018年度3	1870～1920年ごろの札幌	2018年12月15日～2019年4月12日
11	2019年度1	サハリン（樺太）アイヌの近現代史	2019年4月13日～8月16日
12	2019年度2	アイヌ語地名研究者・山田秀三の、アイヌ文化の記録や保存への関わり	2019年8月17日～12月18日
13	2019年度3	モノから見るアイヌ文化―耳飾りのいろいろ	2019年12月21日～2020年4月10日
14	2020年度1	灰場武雄さんがつくったトンコリ（五弦琴）	2020年4月11日～8月13日
15	2020年度2	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	2020年8月14日～12月16日
16	2020年度3	渋沢栄一・渋沢敬三とアイヌ史・アイヌ文化	2020年12月19日～2021年4月15日
17	2021年度1	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	2021年4月16日～ 12月15日
18	2021年度2	久保寺逸彦が集めた民具	2021年12月18日～2022年4月14日
19	2022年度1	【特別展関連】アイヌ口承文芸のなかの虫たち	2022年4月15日～9月29日
20	2022年度2	アイヌ無形文化伝承保存会　その設立と歩み	2022年9月30日～12月14日
21	2022年度3	新しく仲間入りしたアイヌ民族に関する資料たち	2022年12月17日～2023年4月13日
22	2023年度1	北海道博物館が所蔵するトンコリ（五弦琴）	2023年4月14日～8月10日
23	2023年度2	アイヌ北海道・東北北部のアイヌ語地名―山田秀三の地名研究から―	2023年8月11日～12月13日
24	2023年度3	モノから見るアイヌ文化ー首飾りのいろいろ	2023年12月16日～2024年4月11日

クローズアップ展示５開催一覧

番号	年度	名　称	期　間
1	2015年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2015年4月18日～2016年3月13日
2	2015年度2	北海道の〈やきもの〉①　小森忍の試み	2016年3月15日～7月15日
3	2016年度1	北海道の〈やきもの〉②　古代文字と名付けられた模様	2016年4月22 日～6 月2 日
4	2016年度2	北海道の〈やきもの〉③　北海道らしさの創造	2016年6 月3 日～7 月29 日
5	2016年度3	模型でめぐる北海道の建物①　道南地域の建物	2016年7 月30 日～9 月16 日
6	2016年度4	模型でめぐる北海道の建物②　道央地域の建物	2016年9 月17 日～10 月28 日
7	2016年度5	模型でめぐる北海道の建物③　札幌農学校の建物	2016年10 月29 日～12 月14 日
8	2016年度6	土産品店の店さき	2016年12月17日～2017年4月7日
9	2017年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2017年4 月8 日～8 月4 日
10	2017年度2	いろいろな鋸	2017年8月5日～12月13日
11	2017年度3	職人の道具と技術―馬具・蹄鉄―	2017年12月16日～2018年4月6日
12	2018年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2018年4月7日～7月13日
13	2018年度2	集治監と囚人労働	2018年7月14日～12月12日
14	2018年度3	北海道の繊維産業	2018年12月15日～2019年4月12日
15	2019年度1	道産子のブラジル移住100周年	2019年4月13日～8月16日
16	2019年度2	岩手県から北海道へ渡った神楽	2019年8月17日～12月18日
17	2019年度3	看板あれこれ	2019年12月21日～2020年4月10日
18	2020年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2020年4月11日～8月13日
19	2020年度2	馬追いの道具	2020年8月14日～12月16日
20	2020年度3	吉田初三郎と北海道	2020年12月19日～2021年4月15日
21	2021年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2021年4月16日～ 8月12日
22	2021年度2	木村捷司の壁画「開拓」制作関連資料	2021年8月13日～12月15日
23	2021年度3	木造建築をたてる技術と道具	2021年12月18日～2022年4月14日
24	2022年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2022年4月15日～8月11日
25	2022年度2	新しく仲間入りした生活・産業資料たち	2022年8月12日～12月14日
26	2022年度3	職人の道具と技術	2022年12月17日～2023年4月13日
27	2023年度1	岩手県から北海道へ渡った神楽	2023年4月14日～2023年8月10日

番号	年度	名　称	期　間
28	2023年度2	色々なわら細工	2023年8月11日～12月13日
29	2023年度3	職人の道具と技術―鍛冶職人―	2023年12月16日～2024年4月11日

クローズアップ展示６開催一覧

番号	年度	名　称	期　間
1	2015年度1	札幌オリンピック	2015年4月18日～7月26日
2	2015年度2	たくぎん(北海道拓殖銀行)のいろいろ	2015年7月28日～11月29日
3	2015年度3	懐かしのおもちゃ	2015年12月1日～2016年3月27日
4	2016年度1	北海道百年	2016年3月29日～7月29日
5	2016年度2	たくぎん（北海道拓殖銀行）	2016年7月30日～12月14日
6	2016年度3	懐かしの家庭用品	2016年12月17日～2017年4月7日
7	2017年度1	札幌オリンピック	2017年4 月8 日～8 月4 日
8	2017年度2	たくぎん（北海道拓殖銀行）	2017年8月5日～12月13日
9	2017年度3	札幌の百貨店	2017年12月16日～2018年4月6日
10	2018年度1	懐かしのレコード	2018年4月7日～7月13日
11	2018年度2	「北海道百年」	2018年7月14日～12月12日
12	2018年度3	たくぎん（北海道拓殖銀行）	2018年12月15日～2019年4月12日
13	2019年度1	おままごとの世界	2019年4月13日～8月16日
14	2019年度2	たくぎん（北海道拓殖銀行）	2019年8月17日～12月18日
15	2019年度3	「すまい」を彩るタイル	2019年12月21日～2020年4月10日
16	2020年度1	みんなが夢中になった子ども雑誌	2020年4月11日～8月13日
17	2020年度2	北海道とオリンピック	2020年8月14日～12月16日
18	2020年度3	たくぎん（北海道拓殖銀行）	2020年12月19日～2021年4月15日
19	2021年度1	おふろに行こう！	2021年4月16日～ 8月12日
20	2021年度2	たくぎん（北海道拓殖銀行）	2021年8月13日～12月15日
21	2021年度3	北海道百年	2021年12月18日～2022年4月14日
22	2022年度1	【特別展関連】虫と戦い、虫と親しむ	2022年4月15日～9月29日
23	2022年度2	たくぎん（北海道拓殖銀行）	2022年9月30日～12月14日
24	2022年度3	あっちこっちマッチ　～マッチのデザインをめぐる旅～	2022年12月17日～2023年4月13日
25	2023年度1	たくぎん（北海道拓殖銀行）	2023年4月14日～2023年8月10日
26	2023年度2	高度経済成長期の発掘調査	2023年8月11日～12月13日
27	2023年度3	レンガ　―日本の近代化を支えた建築材料―	2023年12月16日～2024年4月11日

クローズアップ展示７開催一覧

番号	年度	名　称	期　間
1	2015年度1	北海道の生物多様性	2015年4月18日～10月18日
2	2015年度2	海からの〈おくりもの〉	2015年10月20日～2016年4月24日
3	2016年度1	動物の頭骨と歯のかたち	2016年4月26日～7月29日
4	2016年度2	歩く宝石“北海道のオサムシ”	2016年7月30日～12月14日
5	2016年度3	果実と種子の不思議	2016年12月17日～2017年4月7日
6	2017年度1	北海道のカタツムリのいろいろ	2017年4 月8 日～8 月4 日
7	2017年度2	リンゴはなぜ赤い？ 果実と種子のヒミツにせまる	2017年8月5日～12月13日
8	2017年度3	どこのウマの骨でしょう？	2017年12月16日～2018年4月6日
9	2018年度1	「歩く宝石」オサムシ	2018年4月7日～7月13日
10	2018年度2	「生き物たちの北海道」の150年	2018年7月14日～12月12日
11	2018年度3	空飛ぶ鳥の「願いの骨」	2018年12月15日～2019年4月12日
12	2019年度1	昆虫から見る生物多様性	2019年4月13日～8月16日

番号	年度	名　称	期　間
13	2019年度2	北海道の地名にちなむ植物	2019年8月17日～12月18日
14	2019年度3	北海道にいるのいないの? モグラの仲間	2019年12月21日～2020年4月10日
15	2020年度1	北海道のいろいろなカタツムリ	2020年4月11日～8月13日
16	2020年度2	恐竜と鳥をつなぐ骨	2020年8月14日～12月16日
17	2020年度3	リンゴはなぜ赤い？　木の実・草の実の不思議な世界	2020年12月19日～2021年4月15日
18	2021年度1	〈歩く宝石〉北海道のオサムシ	2021年4月16日～ 8月12日
19	2021年度2	アライグマのひみつ	2021年8月13日～12月15日
20	2021年度3	ロッペン鳥ってどんな鳥？	2021年12月18日～2022年4月14日
21	2022年度1	【特別展関連】〈歩く宝石〉北海道のオサムシ	2022年4月15日～9月29日
22	2022年度2	リンゴはなぜ赤い？　草や木の実の不思議な世界	2022年9月30日～12月14日
23	2022年度3	アライグマの骨、全部見せます	2022年12月17日～2023年4月13日
24	2023年度1	野幌森林公園の植物を調べる	2023年4月14日～2023年8月10日
25	2023年度2	北海道のひれあし類	2023年8月11日～12月13日
26	2023年度3	標本はDNAのタイムカプセル	2023年12月16日～2024年4月11日

5　刊行物一覧

これまでに出版した刊行物

名称	刊行年月日	判型	頁数
北海道博物館ガイドブック	2015年4月1日	A5判	64頁
ビジュアル北海道博物館	2016年3月31日	A4判	120頁
北東アジアの十字路　北海道博物館展示案内	2023年3月1日	B5判	64頁
研究紀要			
北海道博物館研究紀要　第1号	2016年3月	A4判	166頁
北海道博物館研究紀要　第2号	2017年3月	A4判	156頁
北海道博物館研究紀要　第3号	2018年3月	A4判	272頁
北海道博物館研究紀要　第4号	2019年3月	A4判	204頁
北海道博物館研究紀要　第5号	2020年3月	A4判	288頁
北海道博物館研究紀要　第6号	2021年3月	A4判	206頁
北海道博物館研究紀要　第7号	2022年3月	A4判	194頁
北海道博物館研究紀要　第8号	2023年3月	A4判	230頁
北海道博物館研究紀要　第9号	2024年3月	A4判	262頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第1号	2016年3月	A4判	234頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第2号	2017年3月	A4判	160頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第3号	2018年3月	A4判	172頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第4号	2019年3月	A4判	150頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第5号	2020年3月	A4判	288頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第6号	2021年3月	A4判	166頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第7号	2022年3月	A4判	128頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第8号	2023年3月	A4判	134頁
北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要　第9号	2024年3月	A4判	55頁
資料目録			
北海道博物館資料目録　第1号（弥永コレクション）	2017年10月20日	A4判	128頁
北海道博物館資料目録　第2号（フラーシェム・コレクション）	2020年3月	A4判	74頁
北海道博物館資料目録　第3号（全国樺太連盟資料1）	2024年3月27日	A4判	160頁
要覧			
北海道博物館要覧　第1号（要覧2015）	2017年3月31日	A4判	180頁
北海道博物館要覧　第2・3号（要覧2016・2017）	2018年11月30日	A4判	176頁
北海道博物館要覧　第4号（要覧2018）	2019年7月31日	A4判	146頁
北海道博物館要覧　第5号（要覧2019）	2020年7月31日	A4判	142頁
北海道博物館要覧　第6号（要覧2020）	2021年11月20日	A4判	164頁
北海道博物館要覧　第7号（要覧2021）	2022年7月29日	A4判	176頁
広報誌			
森のちゃれんがニュース　創刊号（2015秋）	2015年9月1日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第2号（2015冬）	2015年12月1日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第3号（2016春）	2016年3月1日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第4号（2016夏）	2016年7月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第5号（2016秋）	2016年9月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第6号（2016冬）	2016年12月22日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第7号（2017春）	2017年3月31日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第8号（2017夏）	2017年6月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第9号（2017秋）	2017年10月17日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第10号（2017冬）	2017年12月28日	A4判	8頁

名称	刊行年月日	判型	頁数
森のちゃれんがニュース　第11号（2018春）	2018年3月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第12号（2018夏）	2018年7月27日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第13号（2018秋）	2018年10月19日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第14号（2018冬）	2018年12月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第15号（2019春）	2019年3月26日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第16号（2019夏）	2019年6月25日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第17号（2019秋）	2019年9月25日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第18号（2019冬）	2019年12月31日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第19号（2020春）	2020年3月26日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第20号（2020夏）	2020年6月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第21号（2020秋）	2020年9月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第22号（2020冬）	2020年12月31日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第23号（2021春）	2021年3月25日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第24号（2021夏）	2021年6月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第25号（2021秋）	2021年9月29日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第26号（2021冬）	2022年1月5日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第27号（2022春）	2022年3月24日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第28号（2022夏）	2022年6月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第29号（2022秋）	2022年9月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第30号（2022冬）	2023年1月5日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第31号（2023春）	2023年3月28日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第32号（2023夏）	2023年6月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第32号（2023秋）	2023年9月30日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第32号（2023冬）	2024年1月10日	A4判	8頁
森のちゃれんがニュース　第32号（2024春）	2024年3月29日	A4判	8頁
特別展等図録			
夷酋列像―蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界（開館記念特別展図録） ※編集は北海道博物館、発行は「夷酋列像」展実行委員会・北海道新聞社	2015年9月5日	A4判	196頁
ジオパークへ行こう～恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探す旅～（第2回特別展図録）	2016年7月9日	A5判	128頁
プレイボール！―北海道と野球をめぐる物語―（第3回特別展図録）	2017年7月8日	A4判	104頁
幕末維新を生きた旅の巨人　松浦武四郎―見る、集める、伝える―（第4回特別展図録） ※編集は北海道博物館、三重県総合博物館、北海道立帯広美術館、松浦武四郎記念館。発行は株式会社勝毎光風社。	2018年6月30日	A4判	160頁
アイヌ語地名と北海道（第5回特別展図録）	2019年7月4日	A4判	144頁
あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～　（第7回特別展図録）	2021年7月10日	A4判	136頁
アイヌのくらし―時代・地域・さまざまな姿（第18回企画テーマ展図録） ※編集は北海道博物館、群馬県立歴史博物館、公益財団法人アイヌ民族文化財団。発行は公益財団法人アイヌ民族文化財団。	2021年10月16日	A4判	300頁
世界の昆虫　ー昆虫を通して、生き物の多様性を知るー（第8回特別展図録）	2022年7月23日	A4判	128頁
北の縄文世界と国宝（第9回特別展図録）	2023年7月22日	A4判	127頁
企画テーマ展パンフレット			
鶴（第2回企画テーマ展パンフレット）	2015年6月27日	A4判	4頁
北海道のアンモナイトとその魅力（第3回企画テーマ展パンフレット）	2015年11月28日	A4判	4頁
神様おねがい!―地域と人をむすぶ祈りのかたち―（第4回企画テーマ展パンフレット）	2016年2月27日	A4判	4頁
アイヌ民族資料を守り伝える力（第5回企画テーマ展パンフレット）	2016年4月28日	A4判	4頁
きれい？不思議？楽しい！？漂着物―北の海辺でお宝みっけ！―（第6回企画テーマ展パンフレット）	2016年10月14日	A4判	4頁
あったかい住まい―北海道・住まいの道のり―（第7回企画テーマ展パンフレット）	2017年2月3日	A4判	4頁
夜の森―ようこそ！動物たちの世界へ―（第8回企画テーマ展パンフレット）	2017年4月28日	A4判	4頁
弥永コレクション（第9回企画テーマ展パンフレット）	2017年10月20日	A4判	4頁

名称	刊行年月日	判型	頁数
カムイとアイヌの　ものがたり（第10回企画テーマ展パンフレット）	2018年2月2日	A4判	4頁
野幌森林公園いきもの図鑑（第11回企画テーマ展パンフレット）	2018年4月27日	A4判	4頁
りんご農家の道具（第12回企画テーマ展パンフレット）	2018年9月21日	A4判	4頁
アイヌ民族の文化財を未来へつなぐ―博物館のはたす役割―（第13回企画テーマ展パンフレット）	2019年2月8日	A4判	4頁
北の手仕事2019（第14回企画テーマ展パンフレット）	2019年4月27日	A4判	4頁
エゾシカ（第15回企画テーマ展パンフレット）	2019年10月12日	A4判	4頁
北海道神宮（第16回企画テーマ展パンフレット）	2020年2月8日	A4判	4頁
楽器　見る・知る・考える―北海道博物館資料＋桝谷隆男氏コレクション（第17回企画テーマ展パンフレット）	2020年4月25日	A4判	4頁
アンモナイトと生きる―50年のあゆみとこれから―（第19回企画テーマ展パンフレット）	2022年2月19日	A4判	4頁
久保寺逸彦文庫―アイヌ文学研究者による調査と資料をとおして、時代をさぐる―（第3回蔵出し展パンフレット）	2022年10月29日	A4判	4頁
もっと！あっちこっち湿地～自然と歴史をめぐる旅～（第20回企画テーマ展パンフレット）	2023年2月25日	A4判	4頁
森のちゃれんが宝箱－スタッフ一押しの収蔵資料や博物館活動を紹介する展覧会、いや、展乱会!?－（第21回企画テーマ展パンフレット）	2024年2月10日	A4判	4頁
その他			
『北海道博物館第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」連続講座・特別フォーラム　講演記録』	2021年8月	A4判	186頁
北海道開拓の村建造物紹介①　北海道のニシン漁と青山家―旧青山家漁家住宅の魅力	2022年3月25日	A5判	103頁

6　条例、規則など

1　北海道立総合博物館条例

平成26年10月14日条例第91号

改正　平成28年3月31日条例第37号〔第1次改正〕

平成31年3月15日条例第17号〔第2次改正〕

令和2年3月31日条例第23号〔第3次改正〕

第１章　設置及び管理

（設置）

第１条　北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を総合的に収集し、保管し、展示し、並びにこれらに関する調査研究及びその成果の普及を行うことにより、道民の教養の向上及び文化の発展に寄与するため、北海道立総合博物館（以下「総合博物館」という。）を設置する。

（名称及び位置）

第２条　総合博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
北海道立総合博物館	札幌市及び江別市

（総合博物館に置く施設）

第３条　総合博物館に、次に掲げる施設を置く。

（１）　北海道博物館（以下「本館」という。）

（２）　北海道開拓の村（以下「開拓の村」という。）

（３）　野幌森林公園自然ふれあい交流館（以下「ふれあい交流館」という。）

（事業）

第４条　総合博物館は、次の表の左欄に掲げる施設の区分に応じ、同表の当該右欄に定める事業を行う。

１　本館	ア　北海道の歴史、文化、自然等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。 イ　本館が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「本館資料」という。）に関する専門的な調査研究を行うこと。 ウ　本館資料の保管及び展示等に関する技術的な研究を行うこと。 エ　アイヌ民族文化に関する調査研究及びその成果の普及、情報の収集及び提供並びに研究の支援を行うこと。 オ　北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。 カ　特別展示室及びその附属設備を北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しの利用に供すること。 キ　本館資料に関し、案内書、解説書、目録、研究紀要等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。 ク　他の博物館等と連携し、及びこれらの研究活動等に協力すること。
２　開拓の村	ア　北海道の開拓の歴史を示す建造物等を保管し、及び展示すること。 イ　北海道の開拓過程における生活様式、年中行事等に係る催しを開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。 ウ　開拓の村の展示物に関し、案内書、解説書等の作成及び配布並びに必要な説明、助言等を行うこと。
３　ふれあい交流館	ア　道立自然公園野幌森林公園の自然に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。 イ　ふれあい交流館が収集し、保管し、又は展示する資料（以下「交流館資料」という。）に関する調査研究を行うこと。 ウ　交流館資料に関し、必要な説明、助言等を行うこと。 エ　自然に関する情報提供を行うこと。 オ　自然に関する講演会、講習会、研究会等を開催し、及び他のものが行うこれらの催しに協力すること。

２　総合博物館は、前項の事業のほか、その設置の目的を達成するために必要な事業を行う。

（指定管理者による管理）

第５条　総合博物館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第３項の規定による指定を受けた法人その他の団体（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務の範囲）

第６条　指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

（１）　第４条第１項の表１の事項カ、２の事項及び３の事項に定める事業に関すること。

（２）　第８条第１項、第12条第１項、第13条第２項及び第16条第２項の承認に関すること。

（３）　施設及び設備（以下「施設等」という。）の維持管理に関すること。

（４）　その他知事が定める業務

（利用日及び利用時間）

第７条　総合博物館の利用日及び利用時間は、別表第１のとおりとする。

２　前項の規定にかかわらず、指定管理者は、総合博物館の管理運営上必要があるときその他特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、臨時に総合博物館の利用日又は利用時間を変更することができる。

（利用の承認）

第８条　本館若しくは開拓の村の施設等又は次に掲げる設備の利用（別表第２に掲げる場合に限る。）をしようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

(１)　北海道百年記念塔前駐車場

(２)　北海道開拓の村前駐車場

２　指定管理者は、前項の承認をする場合において、総合博物館の管理運営上必要があると認めるときは、同項の承認に条件を付することができる。

（利用の承認の基準）

第９条　指定管理者は、前条第１項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。

(１)　利用の目的が総合博物館の設置の目的に反するとき。

(２)　総合博物館の秩序を乱すおそれがあると認められるとき。

(３)　施設等を損傷するおそれがあるとき。

(４)　その他総合博物館の管理運営上支障があると認められるとき。

（利用の承認の取消し等）

第10条　指定管理者は、第８条第１項の承認を受けた者（以下「利用者」という。）が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認を取り消し、又はその利用を制限し、若しくは停止することができる。

(１)　この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらの規定に基づく処分に違反したとき。

(２)　虚偽の申請その他不正な手段により第８条第１項の承認を受けたとき。

(３)　第８条第２項の規定により付された条件に違反したとき。

２　指定管理者は、施設等の維持管理上その他公益上やむを得ない事態が発生したときは、第８条第１項の承認を取り消し、又はその条件を変更することができる。

（利用料金）

第11条　利用者は、その利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

２　前項の規定により指定管理者に納められた利用料金は、指定管理者の収入とする。

３　利用料金の額は、別表第２に定める額の範囲内において、指定管理者が知事の承認を受けて定める。これを変更しようとするときも、同様とする。

４　知事は、前項の承認をしたときは、その承認をした利用料金の額を告示しなければならない。

５　指定管理者は、既に収受した利用料金を還付しないものとする。ただし、指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金の全部又は一部を還付することができる。

６　指定管理者は、規則で定める基準に従い、利用料金を減免することができる。

（開拓の村建物等の使用の承認等）

第12条　開拓の村建物等（開拓の村の建物（管理棟のホール、ビジターセンター、体験学習室及び食堂棟に限る。）及び当該建物の附属設備、展示されている建造物等（以下「展示建造物等」という。）並びに入口広場をいう。）を使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

２　指定管理者は、前項の承認をする場合において、総合博物館の管理運営上必要があると認めるときは、同項の承認に条件を付することができる。

３　第９条及び第10条の規定は、第１項の承認について準用する。この場合において、同条第１項第３号中「第８条第２項」とあるのは、「第12条第２項」と読み替えるものとする。

（特別観覧等の承認）

第13条　本館資料の閲覧、模写、模造、撮影及び複写（以下「特別観覧」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

２　開拓の村の展示建造物等及び管理棟の模写、模造及び撮影並びに交流館資料の模写、模造、撮影及び複写（以下これらを「特別利用」という。）を業として又は学術研究のために行おうとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

（特別観覧等の方法等）

第14条　特別観覧は、職員の指示に従って行わなければならない。

２　知事は、特別観覧の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

３　特別利用は、指定管理者の指示に従って行わなければならない。

４　指定管理者は、特別利用の承認を受けた者が前項の規定に違反したときは、その承認を取り消すことができる。

（模写品等の刊行等の承認）

第15条　本館資料、開拓の村の展示建造物等若しくは管理棟又は交流館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したものを刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

（資料の貸出しの承認）

第16条　本館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、規則で定めるところにより、知事の承認を受けなければならない。

２　交流館資料の貸出しを受けようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。

３　指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の承認をしてはならない。

(１)　交流館資料の使用の目的が総合博物館の設置の目的

に反するとき。

(2) 交流館資料を損傷するおそれがあるとき。

（指定管理者の指示等）

第17条　指定管理者は、総合博物館の秩序の維持及び施設等の管理運営上必要があると認めるときは、利用者、第12条第１項の承認を受けた者及びふれあい交流館を利用する者に対しその利用若しくは使用に関し指示をし、又は利用中若しくは使用中の場所に従業員を立ち入らせ、利用若しくは使用の状況を調査させることができる。

（知事による管理）

第18条　第５条の規定にかかわらず、知事は、やむを得ない事情があると認めるときは、総合博物館の管理に係る業務を行うことができる。

２　前項の規定により知事が総合博物館の管理に係る業務を行う場合においては、第７条第２項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「ときは、知事の承認を得て」とあるのは「ときは」と、第８条から第10条まで（第９条及び第10条の規定を第12条第３項において準用する場合を含む。）、第12条第１項及び第２項、第13条第２項、第14条第３項及び第４項並びに第16条第２項及び第３項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第11条第１項中「その利用に係る料金（以下「利用料金」という。）」とあるのは「別表第２に定める額の範囲内において知事が定める額の使用料」と、「指定管理者」とあるのは「知事」と、同条第５項及び第６項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、前条中「指定管理者」とあるのは「知事」と、「従業員」とあるのは「職員」とし、第11条第２項から第４項までの規定は、適用しない。

（規則への委任）

第19条　この章に定めるもののほか、総合博物館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

第２章　北海道立総合博物館協議会

（設置）

第20条　総合博物館の事業を円滑かつ適正に行うため、知事の附属機関として、北海道立総合博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（所掌事項）

第21条　協議会は、知事の諮問に応じ、総合博物館の事業に関する重要事項を調査審議する。

２　協議会は、前項に規定する事項に関し、知事に意見を述べることができる。

（組織）

第22条　協議会は、委員７人以内で組織する。

２　協議会に、特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、特別委員を置くことができる。

（委員及び特別委員）

第23条　委員及び特別委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 博物館に関する知見を有する者

(3) アイヌ民族文化に関する知見を有する者

２　委員の任期は、２年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

３　委員は、再任されることができる。

４　特別委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

（会長及び副会長）

第24条　協議会に会長及び副会長を置く。

２　会長及び副会長は、委員が互選する。

３　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第25条　協議会の会議は、会長が招集する。

２　協議会は、委員の２分の１以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（専門部会）

第26条　協議会は、必要に応じ、専門部会を置くことができる。

２　専門部会は、協議会から付託された事項について調査審議するものとする。

３　専門部会に部会長を置き、会長が指名する委員がこれに当たる。

４　専門部会に属すべき委員及び特別委員は、会長が指名する。

（会長への委任）

第27条　この章に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、平成27年４月１日から施行する。

（北海道立アイヌ民族文化研究センター条例等の廃止）

２　次に掲げる条例は、廃止する。

(1) 北海道立アイヌ民族文化研究センター条例（平成６年北海道条例第４号）

(2) 北海道立開拓記念館条例（昭和46年北海道条例第４号）

（北海道立開拓記念館条例の廃止に伴う経過措置）

３　この条例の施行前に前項（第２号に係る部分に限る。）の規定による廃止前の北海道立開拓記念館条例（以下「旧条例」という。）第11条、第14条第２項又は第17条第２項の規定により指定管理者がした承認は、それぞれ、第12条第１項、第13条第２項又は第16条第２項の規定により指定管理者がした承認とみなす。

4　この条例の施行前に旧条例第14条第１項、第16条又は第17条第１項の規定により知事がした承認は、それぞれ、第13条第１項、第15条又は第16条第１項の規定により知事がした承認とみなす。

5　前２項に定めるもののほか、この条例の施行の日前に旧条例の規定により知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請で、この条例の施行の際承認をするか否かの決定がなされていないものは、同日以後においては、この条例の相当規定に基づき知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請とみなす。

（北海道個人情報保護条例及び北海道情報公開条例の一部改正）

6　次に掲げる条例の規定中「北海道立開拓記念館」を「北海道立総合博物館」に改める。

(1)　北海道個人情報保護条例（平成６年北海道条例第２号）第44条第２項

(2)　北海道情報公開条例（平成10年北海道条例第28号）第23条

附　則（平成28年３月31日条例第37号）

〔北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則〕

この条例は、平成28年４月１日から施行する。

附　則（平成31年３月15日条例第17号）

〔北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則〕

この条例は、平成31年10月１日から施行する。

附　則（令和２年３月31日条例第23号）

〔北海道立総合博物館条例の一部を改正する条例の附則〕

この条例は、令和２年４月１日から施行する。

別表第１（第７条関係）

区分	利用日	利用時間
本館、開拓の村及びふれあい交流館	１月４日から12月28日まで（月曜日（当該日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、休日に該当しない当該日の直後の日）を除く。）	午前９時30分から午後４時30分まで
北海道百年記念塔前駐車場及び北海道開拓の村前駐車場	４月１日から10月31日まで	午前９時から午後５時まで

別表第２（第８条、第11条関係）

1　本館に展示する資料を観覧する場合

(1)　常設展示を観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1　高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	370円	１人につき　280円
2　１以外の者（学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。）	1,010円	１人につき　860円

(2)　特別展示（本館が開催する特別展示に限る。(3)において同じ。）を観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1　小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	180円	１人につき　130円
2　高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	370円	１人につき　280円
3　１及び２以外の者（学齢に達しない者を除く。）	1,010円	１人につき　860円

(3)　常設展示及び特別展示を併せて観覧する場合

区分	利用料金の上限額	
	個人	10人以上の団体
1　小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者	180円	１人につき　130円
2　高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	700円	１人につき　510円
3　１及び２以外の者（学齢に達しない者を除く。）	1,830円	１人につき　1,440円

2　本館において携帯用展示解説器を利用する場合

１回につき　380円

3　本館の特別展示室を利用する場合

１日につき　72,210円

4　開拓の村に入場する場合

区分		利用料金の上限額	
		個人	10人以上の団体
1　高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者	夏期	1,170円	１人につき　1,060円
	冬期	1,060円	１人につき　990円
2　１以外の者（学齢に達しない者、小学校の児童、中学校の生徒及びこれらに準ずる者を除く。）	夏期	1,600円	１人につき　1,310円
	冬期	1,310円	１人につき　1,060円

5　開拓の村の馬車鉄道又は馬そりを利用する場合

区分	利用料金の上限額
1　３歳以上15歳未満の者	１人１回につき　250円

2　15歳以上の者	1人1回につき　550円

6　北海道百年記念塔前駐車場又は北海道開拓の村前駐車場を利用する場合

区分	利用料金の上限額
バス	1回1日につき　250円
乗用車	1回1日につき　100円
自動二輪車（原動機付自転車を含む。）	1回1日につき　50円

備考

1　4の表において、夏期とは4月1日から11月30日までとし、冬期とは12月1日から翌年3月31日までとする。

2　6の表において、貨物自動車の利用料金については、車体の大きさによって、バス又は乗用車の区分によるものとする。

一部改正〔平成28年条例37号・31年17号・令和2年23号〕

2　北海道立総合博物館管理規則

平成26年10月14日規則第72号

（改正　平成28年3月31日規則第40号）

（改正　令和3年3月31日規則第34号抄）

（改正　令和5年3月31日規則第39号）

（趣旨）

第1条　この規則は、北海道立総合博物館条例（平成26年北海道条例第91号。以下「条例」という。）第19条の規定に基づき、北海道立総合博物館（以下「総合博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（入館の制限）

第2条　条例第5条に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、総合博物館の秩序を乱すおそれがあると認められる者に対しては、入館を拒み、又は退館させることができる。

（入館者の遵守事項等）

第3条　入館者は、条例、この規則及び指定管理者の指示に従うほか、特に次の事項を遵守しなければならない。

(1)　建物、附属設備又は条例第4条第1項の表に規定する本館資料（以下「本館資料」という。）、同表に規定する交流館資料（以下「交流館資料」という。）若しくは条例第12条第1項に規定する展示建造物等（以下「展示建造物等」という。）を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。

(2)　他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為をしないこと。

(3)　指定の場所以外で飲食し、又は喫煙しないこと。

2　指定管理者は、入館者が前項の規定に違反したことにより総合博物館の管理運営上支障があると認めたときは、当該入館者に対しては、総合博物館の利用を制限し、又は退館させることができる。

（利用料金の額の承認）

第4条　指定管理者は、条例第11条第3項の規定により利用料金の額について知事の承認を受けようとするときは、別記第1号様式の利用料金承認申請書を知事に提出しなければならない。

2　前項の規定による提出は、あらかじめ指定された電子メールアドレスに電子メールを送信する方法により行うことができる。

（利用料金の還付の基準）

第5条　条例第11条第5項ただし書の規則で定める基準は、次に掲げる場合について、同条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）の全部又は一部を還付することができることとする。

(1)　条例第8条第1項の承認を受けた者（以下「利用者」という。）の責めに帰することのできない事由によって利用が不可能になったと指定管理者が認めたとき。

(2)　利用の開始日の前15日までに利用を中止する旨の申出があって、指定管理者がこれについて相当の理由があると認めたとき。

(3)　条例第10条第2項の規定により利用の承認を取り消したとき。

(4)　その他知事が特別の理由があると認めるとき。

（利用料金の減免の基準）

第6条　条例第11条第6項の規則で定める基準は、次のとおりとする。

(1)　次に掲げる者については、利用料金（条例別表第2の1の事項及び4の事項に係るものに限る。）を免除することができることとする。

ア　小学校若しくは義務教育学校の前期課程の児童又は中学校、義務教育学校の後期課程若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員

イ　土曜日又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定するこどもの日若しくは文化の日に利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者

ウ　学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる者（10人以上で利用する場合に限る。）

エ　特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者

オ　児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者

カ　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第４項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその引率者

キ　生活保護法（昭和25年法律第144号）による保護を受けている者

ク　児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された者及びその引率者

ケ　精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者（知的障害者を除く。）と判定された者及びその引率者

コ　老人福祉法（昭和38年法律第133号）第５条の３に規定する老人福祉施設に入所している者及びその引率者

サ　65歳以上の者

シ　その他知事がアからサまでに掲げる者に準ずると認める者

(２)　次のいずれかに該当する場合は、特別展示室の利用料金を免除することができることとする。

ア　総合博物館と共同して開催する北海道の歴史、文化、自然等に関する講演会、展示会等の催しのために利用するとき。

イ　その他知事が必要と認めるとき。

(３)　前２号に掲げるもののほか、知事が特別な理由があると認める場合は、利用料金を減免することができることとする。

（施設設備等の変更の禁止）

第７条　利用者又は条例第12条第１項の承認を受けた者は、本館の特別展示室及びその附属設備又は同項に規定する開拓の村建物等（以下「施設設備等」という。）の利用又は使用に際し、施設設備等に特別の設備をし、又は変更を加えてはならない。ただし、あらかじめ指定管理者の承認を受けたときは、この限りでない。

（原状回復の義務等）

第８条　利用者又は条例第12条第１項の承認を受けた者は、施設設備等の利用又は使用を終了したときは、施設設備等を原状に回復しなければならない。条例第10条（条例第12条第３項において準用する場合を含む。）の規定により利用若しくは使用の承認を取り消され、又は利用若しくは使用を制限され、若しくは停止されたときも、同様とする。

２　利用者又は条例第12条第１項の承認を受けた者が前項の義務を履行しないときは、指定管理者が代わって行い、その費用を当該利用者又は条例第12条第１項の承認を受けた者から徴収するものとする。

（特別観覧の承認）

第９条　条例第13条第１項に規定する特別観覧（以下「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、別記第２号様式の特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。

２　前項の規定による提出は、あらかじめ指定された電子メールアドレスに電子メールを送信する方法により行うことができる。

３　知事は、特別観覧を承認したときは、別記第３号様式の特別観覧承認書を交付するものとする。

（特別観覧等の時間）

第10条　特別観覧及び特別利用（条例第13条第２項に規定する特別利用をいう。以下同じ。）を行うことができる時間は、午前10時から午後４時までとする。

２　前項の規定にかかわらず、知事は、必要があると認めたときは、特別観覧の時間を変更することができる。

３　第１項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めたときは、特別利用の時間を変更することができる。

（模写品等の刊行等の承認）

第11条　条例第15条の承認を受けようとする者は、別記第４号様式の模写品等刊行等承認申請書を知事に提出しなければならない。

２　前項の規定による提出は、あらかじめ指定された電子メールアドレスに電子メールを送信する方法により行うことができる。

３　知事は、条例第15条の承認をしたときは、別記第５号様式の模写品等刊行等承認書を交付するものとする。

（本館資料の貸出しの承認）

第12条　条例第16条第１項の承認を受けようとする者は、別記第６号様式の資料貸出承認申請書を知事に提出しなければならない。

２　前項の規定による提出は、あらかじめ指定された電子メールアドレスに電子メールを送信する方法により行うことができる。

３　知事は、第１項の規定による申請があったときは、当該申請者が次のいずれかに該当する場合に限り、承認することができる。

(１)　独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第２条第１項に規定する独立行政法人が設置する博物館及び美術館、博物館法（昭和26年法律第285号）第２条第１項に規定する博物館並びに同法第31条第２項に規定する指定施設の長

(２)　社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館の長

(３)　国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第２条第１項に規定する図書館の長

(４)　学校教育法（昭和22年法律第26号）第１条に規定する学校の長

(５)　その他知事が適当と認める者

４　知事は、条例第16条第１項の承認をしたときは、別記第７号様式の資料貸出承認書を交付するものとする。

（本館資料等の貸出期間）

第13条　本館資料及び交流館資料の貸出しをすることができ

る期間（以下「貸出期間」という。）は、60日以内とする。
2　前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めたときは、本館資料の貸出期間を延長することができる。
3　第１項の規定にかかわらず、指定管理者は、特に必要があると認めたときは、交流館資料の貸出期間を延長することができる。
4　知事は、必要があると認めたときは、貸出期間中であっても、本館資料の返還を求めることができる。
5　指定管理者は、必要があると認めたときは、貸出期間中であっても、交流館資料の返還を求めることができる。
（本館資料等の滅失等の届出等）
第14条　本館資料の貸出しを受けた者は、当該本館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を知事に届け出なければならない。
2　交流館資料の貸出しを受けた者は、当該交流館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出なければならない。
3　指定管理者は、前項の規定による届出があったときは、速やかにその旨を知事に報告しなければならない。
（利用に供しない本館資料）
第15条　知事は、個人若しくは法人その他の団体（国及び地方公共団体を除く。以下「法人等」という。）の秘密保持のため又は公益上の理由により、一定の期間利用に供することが不適当な情報（以下「個人の秘密等の情報」という。）が記録されている本館資料及び寄贈又は寄託に係る本館資料であって一定の期間利用に供しない旨の条件が付されているもの（以下「条件付き寄贈資料」という。）については、特別観覧その他の利用（以下「特別観覧等」という。）に供しないものとする。
2　知事は、本館資料又は条件付き寄贈資料に個人の秘密等の情報とそれ以外の情報が記録されている場合において、当該個人の秘密等の情報とそれ以外の情報とを容易に、かつ、特別観覧等の趣旨が損なわれない程度に分離することができるときは、前項の規定にかかわらず、当該個人の秘密等の情報が記録されている部分を除いて、当該本館資料及び条件付き寄贈資料を特別観覧等に供することができる。この場合において、条件付き寄贈資料については、あらかじめその寄贈者又は寄託者の承諾を得るものとする。
3　知事は、公益上の必要その他相当の理由があり、かつ、個人又は法人等の権利利益を不当に侵害するおそれがないと認めるときは、第１項の規定にかかわらず、個人の秘密等の情報が記録されている本館資料又は条件付き寄贈資料を特別観覧等に供することができる。この場合において、条件付き寄贈資料については、あらかじめその寄贈者又は寄託者の承諾を得るものとする。
（本館資料の利用の制限）
第16条　知事は、本館資料の保存上支障が生ずると認められるときは、その利用を制限することができる。
（知事による管理）
第17条　条例第18条第１項の規定により知事が総合博物館の管理に係る業務を行う場合においては、第２条中「条例第５条に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）」とあるのは「知事」と、第３条第１項中「指定管理者」とあるのは「職員」と、同条第２項中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第５条中「同条第１項」とあるのは「条例第18条第２項の規定により読み替えられた条例第11条第１項」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、同条第１号及び第２号中「指定管理者」とあるのは「知事」と、第６条各号中「利用料金」とあるのは「使用料」と、第７条ただし書、第８条第２項、第10条第３項、第13条第３項及び第５項並びに第14条第２項中「指定管理者」とあるのは「知事」とし、同条第３項の規定は、適用しない。

附　則

（施行期日）
1　この規則は、平成27年４月１日から施行する。
（北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則等の廃止）
2　次に掲げる規則は、廃止する。
(1)　北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則（平成６年北海道規則第66号）
(2)　北海道立開拓記念館管理規則（昭和46年北海道規則第27号）
（経過措置）
3　この規則の施行前に前項（第１号に係る部分に限る。）の規定による廃止前の北海道立アイヌ民族文化研究センター条例施行規則（附則第５項において「旧施行規則」という。）第10条、第11条又は第12条ただし書の規定により北海道立アイヌ民族文化研究センターの所長（附則第５項において「所長」という。）がした承認又は許可は、条例の相当規定に基づき知事がした承認とみなす。
4　この規則の施行前に附則第２項（第２号に係る部分に限る。）の規定による廃止前の北海道立開拓記念館管理規則（以下「旧管理規則」という。）第６条ただし書の規定により指定管理者がした承認は、第７条ただし書の規定により指定管理者がした承認とみなす。
5　前２項に定めるもののほか、この規則の施行の日前に旧施行規則又は旧管理規則の規定により所長又は知事若しくは指定管理者に対してなされた承認又は許可の申請で、この規則の施行の際承認又は許可をするか否かの決定がなされていないものは、同日以後においては、この規則の相当規定に基づき知事又は指定管理者に対してなされた承認の申請とみなす。

附　則（平成28年３月31日規則第40号）

この規則は、平成28年４月１日から施行する。

附　則（令和３年３月31日規則第34号抄）

（施行期日）
1　この規則は、令和３年４月１日から施行する。
（経過措置）

２　この規則の施行の際現にこの規則による改正前のそれぞれの規則の規定に基づいて作成されている用紙がある場合においては、この規則による改正後のそれぞれの規則の規定にかかわらず、当分の間、必要な調整をして使用することを妨げない。

附　則（令和５年３月31日規則第39号）

この規則は、令和５年４月１日から施行する。

別記第１号様式（第４条関係）

年　月　日

北海道知事　様

主たる事務所の所在地
指定管理者の名称
代表者の氏名

利用料金承認申請書

北海道立総合博物館の利用料金の額を次のとおり定めることについて承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第11条第３項の規定により、申請します。

区　分	利用料金の額（円）	備　考

（日本産業規格Ａ４）

別記第２号様式（第９条関係）

年　月　日

北海道知事　様

申請者　住　所
職　業
氏　名
電話番号

特別観覧承認申請書

次のとおり北海道博物館資料の特別観覧の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第13条第１項の規定により、申請します。

資料品名	点　数	備　考

観覧日	年　月　日
観覧方法	閲覧　模写　模造　撮影　複写
観覧目的	

（日本産業規格Ａ４）

別記第３号様式（第９条関係）

年　月　日

（申請者）　様

北海道知事　㊞

特別観覧承認書

年　月　日申請の北海道博物館資料の特別観覧を次のとおり承認します。

資料品名	点　数	備　考

観覧日	年　月　日
観覧方法	閲覧　模写　模造　撮影　複写
観覧目的	

注意

１　北海道立総合博物館条例及び北海道立総合博物館管理規則の規定を遵守すること。

２　北海道博物館資料、施設、設備その他物件を損傷し、又は滅失したときは、これを原形に復し、又はその損害を賠償しなければならないこと。

（日本産業規格Ａ４）

別記第４号様式（第11条関係）

その１

年　月　日

北海道知事　様

申請者　住　所
職　業
氏　名
電話番号

模写品等刊行等承認申請書

次のとおり（北海道博物館資料　野幌森林公園自然ふれあい交流館資料）の（模写　模造　撮影　複写）品の（刊行　複製　使用）の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第15条の規定により、申請します。

使用目的	
資料名	
作品名	
製作数	
価額	有料　円　無料
製作予定年月日	年　月　日

（日本産業規格Ａ４）

その２

年　月　日

北海道知事　様

申請者　住　所
職　業
氏　名
電話番号

模写品等刊行等承認申請書

次のとおり（北海道開拓の村の展示建造物等　北海道開拓の村の管理棟）の（模写　模造　撮影　複写）品の（刊行　複製　使用）の承認を受けたいので、北海道立総合博物館条例第15条の規定により、申請します。

使用目的	
建物等の名称	
作品名	
製作数	
価額	有料　円　無料
製作予定年月日	年　月　日

（日本産業規格Ａ４）

別記第５号様式（第11条関係）

年　月　日

（申請者）　様

北海道知事　　㊞

模写品等刊行等承認書

年　月　日申請の模写品等の（刊行　複製　使用）を次のとおり承認します。

使用目的	
資料名又は建物等の名称	
作品名	
製作数	
価額	有料　円　無料
製作予定年月日	年　月　日

注意

1　上記の使用目的以外に使用しないこと。

2　使用に際しては、北海道立総合博物館所有の旨を明記すること。

3　刊行物、複製品、発表作品等２点を北海道に寄贈すること。

（日本産業規格Ａ４）

別記第６号様式（第12条関係）

年　月　日

北海道知事　様

申請者　機関名

所在地

代表者名

資料貸出承認申請書

次のとおり北海道博物館資料の貸出しを受けたいので、北海道立総合博物館条例第16条第１項の規定により、申請します。

使用目的	
使用場所	
貸出期間	年　月　日から 年　月　日まで
資料品目及び数量	

（日本産業規格Ａ４）

別記第７号様式（第12条関係）

年　月　日

（申請者）　様

北海道知事　　㊞

資料貸出承認書

年　月　日申請の北海道博物館資料の貸出しについて、次のとおり承認します。

使用目的	
使用場所	
貸出期間	年　月　日から 年　月　日まで
資料品目及び数量	

注意　貸出しを受けた資料を上記の使用目的以外の目的に供し、又は上記の使用場所以外の場所で利用してはならないこと。

（日本産業規格Ａ４）

7　利用案内

1　見学案内

〔開館時間〕

5～9 月：9:30～17:00

10～4 月：9:30～16:30

※閉館時間の 30 分前までにお入りください。

〔休館日〕

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は直後の平日）、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）

※このほか臨時休館する場合もあります。詳しくは、ウェブサイトなどでご確認ください。

〔観覧料〕

(1) 総合展示室の観覧料

区　分	大学生・高校生	一　般
個　人	300 円	800 円
10 名以上の団体料金	200 円	600 円

※中学生以下、65 歳以上の方は無料です。入館の際に年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください。

※障害のある方は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。

※高校生は、土曜日・5 月 5 日（こどもの日）・11 月 3 日（文化の日）に利用する場合、並びに学校教育又は社会教育を目的として利用する 10 名以上の団体の場合は無料になります。

※その他、北海道博物館と北海道開拓の村の共通チケットや年間パスポートなど、お得なチケットもあります。

(2) 特別展示室の観覧料

・特別展では、別途定める観覧料が必要となります。

・その他、無料で見学できる企画テーマ展なども開催します。

〔観覧料の免除〕

(1) 次に掲げる事項に該当する方は、それらを証明するものをご提示いただくと、観覧料が免除されます。事前申請が必要な場合がありますので、あらかじめウェブサイトで確認するか、電話でお問い合わせください。

・小学校の児童又は中学校若しくは中等教育学校の前期課程の生徒の引率者である教職員

・土曜日又はこどもの日若しくは文化の日に利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる方

・学校教育又は社会教育により利用する高等学校の生徒及びこれに準ずる方（10 人以上で利用する場合に限る。）

・特別支援学校の児童及び生徒並びにこれらの引率者

・児童福祉法に規定する児童福祉施設に入所し、又は通園している少年及びその引率者

・身体障害者福祉法の規定による身体障害者手帳の交付を受けている方及びその引率者

・生活保護法による保護を受けている方

・児童相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター若しくは障害者職業センターの長又は精神保健指定医により知的障害者と判定された方及びその引率者

・精神保健福祉センターの長、精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師により精神障害者（知的障害者を除く。） と判定された方及びその引率者

・老人福祉法に規定する老人福祉施設に入所している方及びその引率者

・65 歳以上の方

・その他知事が上記に掲げる方に準ずると認める方

(2) (1) 以外の人で、知事が特別な理由があると認める場合は、観覧料が免除されます。事前申請が必要な場合がありますので、あらかじめウェブサイトで確認するか、電話でお問い合わせください。

〔お客さまへの注意事項〕

お客さまにおいては、係員の指示に従うほか、特に次のような秩序を乱す行為は禁じられています。

・建物、附属施設又は展示資料を汚し、若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為

・他人に迷惑を及ぼし、又はそのおそれのある行為

・指定の場所以外で飲食し、又は喫煙すること

〔おすすめ見学コースおよび所要時間〕

どこからでも自由に見学できますが、所要時間の目安としては、次のおすすめ見学コースが参考になります。

①とりあえずコース（1時間）…… 総合展示室1F（30分） → 総合展示室2F（30分）

②おすすめコース（2時間）…… 総合展示室1F（45分） → 総合展示室2F（45分） → はっけん広場（30分）

③フルコース（3時間）…… 総合展示室1F（60分） → 総合展示室2F（60分） → 屋上スカイビュー（15分） →

記念ホール（5分） → はっけん広場（40分）

※特別展示室も見学すると、さらに30～60分かかります。

※「屋上スカイビュー」は4月～9月の祝日のみ10:00～16:00に実施。雨天や強風などの場合は開放を中止します。

2　図書室の利用

図書室をご利用されるお客さまは、総合展示の観覧なしで利用いただけます。

〔利用の手続き〕

①　1階総合案内で「図書室利用者証」と「図書室利用票」をお受け取りください。

②「図書室利用者証」を着用し、1階総合展示室入口からお入りください。

（利用者証を着用しないと総合展示室の観覧料がかかりますので、ご注意ください。）

③　図書室に着いたら、備え付けの電話でスタッフをお呼びください。そして、スタッフに「図書室利用票」をご提示のうえ、ご利用ください。

〔お帰りの際〕

①　図書室担当のスタッフに「図書室利用票」をお渡しください。

②　総合展示室内を通って1階展示室入口から出て、1階総合案内で「図書室利用者証」をご返却ください。

〔利用時間〕

開館時間と同じです。

3　収蔵資料のご利用

〔資料の特別観覧〕

資料の閲覧、模写、模造、撮影又は複写を行いたい場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「特別観覧承認申請書」を提出してください。特別観覧の時間は午前10時から午後4時までです。

〔模写品等のご利用〕

資料を模写・模造・撮影し、又は複写したもの（模写品等と総称）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表などに使用する場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「模写品等刊行等承認申請書」を提出してください。

〔資料の貸出〕

資料の貸出を受ける場合は、事前に電話にてお問い合わせ・ご相談のうえ、「資料貸出承認申請書」を提出してください。貸出期間は60日間以内ですが、知事が特に必要と認めたときは、延長することができます。

※資料貸出を受けることができる方は、次のとおりです。

博物館法及び独立行政法人通則法に規定する博物館及び博物館相当施設の長、社会教育法に規定する公民館の長、国立の図書館及び図書館法に規定する図書館の長、学校教育法に規定する学校の長、その他知事が適当と認める場合。

4　学校教育用補助教材のご案内

授業などで活用できる補助教材の無料貸出を、北海道内の学校・公民館などを対象として行っています（貸出期間：原則2週間以内）。

ご希望の方は、事前にお電話で「北海道博物館　道民サービスグループ　教材貸出担当」（TEL：011-898-0456）まで、予約状況等の確認・相談をしてください。

〔申し込みから返却までの流れ〕

①電話で予約状況を確認し、仮予約をしてください。

②申請書を郵便にて送付してください。（申請書等の書式は、北海道博物館ウェブサイトからダウンロードできます）

③借用書を用意し、当館にお越しください。

④利用後、活用報告書をお持ちのうえ、教材をご返却ください。

5　交通案内

〔バスをご利用の場合〕

(1) 新札幌駅から　バスターミナル・のりば⑩（北レーン）

・ジェイ・アール北海道バス　新22「開拓の村」行きに乗車し、「北海道博物館」で下車。

(2) 森林公園駅から　東口バス停

・新札幌駅からの上記のバスが森林公園駅に寄ります。

(3) 大麻・江別方面から

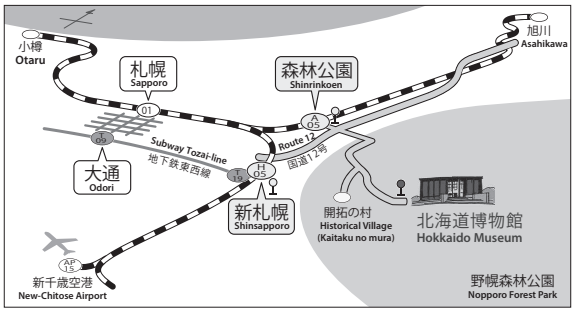
・ジェイ・アール北海道バス・夕鉄バス新札幌方面行きに乗車し、「厚別東小学校前」で下車（バス停から徒歩15分）。

〔タクシーをご利用の場合〕

新札幌駅から　約10分

〔徒歩の場合〕

森林公園駅から　約20～25分



【北海道博物館ウェブサイト】

https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp

【X（旧Twitter）】

https://twitter.com/Hokkaido_Museum

【各種の問い合わせ・申し込みは下記まで】

①ご利用に関する問い合わせ、学校以外の団体でのご利用、図書室のご利用に関することは

電話：011-898-0466（総合案内）

FAX：011-897-1865

②学校団体の予約、イベントの申し込みは

電話：011-898-0500（学校団体受付・行事申込み専用ダイヤル）

FAX：011-898-0590

③北海道博物館が刊行した冊子の入手に関すること

・特別展の図録、総合展示ガイドブック（『ビジュアル北海道博物館』）は

電話：011-898-0466（総合案内）

・研究紀要、資料目録は

電話：011-204-5222（北海道庁「行政情報センター」刊行物関係）

④その他に関することは

電話：011-898-0456（総務部）

FAX：011-898-2657

『北海道博物館要覧』は、当館の年度の活動その他の基本情報について、道民に広く公表するものです。

本要覧は、北海道開拓記念館が1971（昭和46）年以来刊行してきた『北海道開拓記念館要覧』ならびに北海道立アイヌ民族文化研究センターが2003（平成16）年以来刊行してきた『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報』の後継刊行物です。

北海道博物館要覧　第8号（要覧2022・2023年度）
－第2期中期目標・計画　実績報告書3－

発行
2024（令和6）年9月20日

編集・発行者
北海道博物館
004-0006　札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
011-898-0456
www.hm.pref.hokkaido.lg.jp

印刷所
中西印刷株式会社
007-0823　札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
011-781-7501

ISSN 2436-7486